Pa-Auk 大長老著

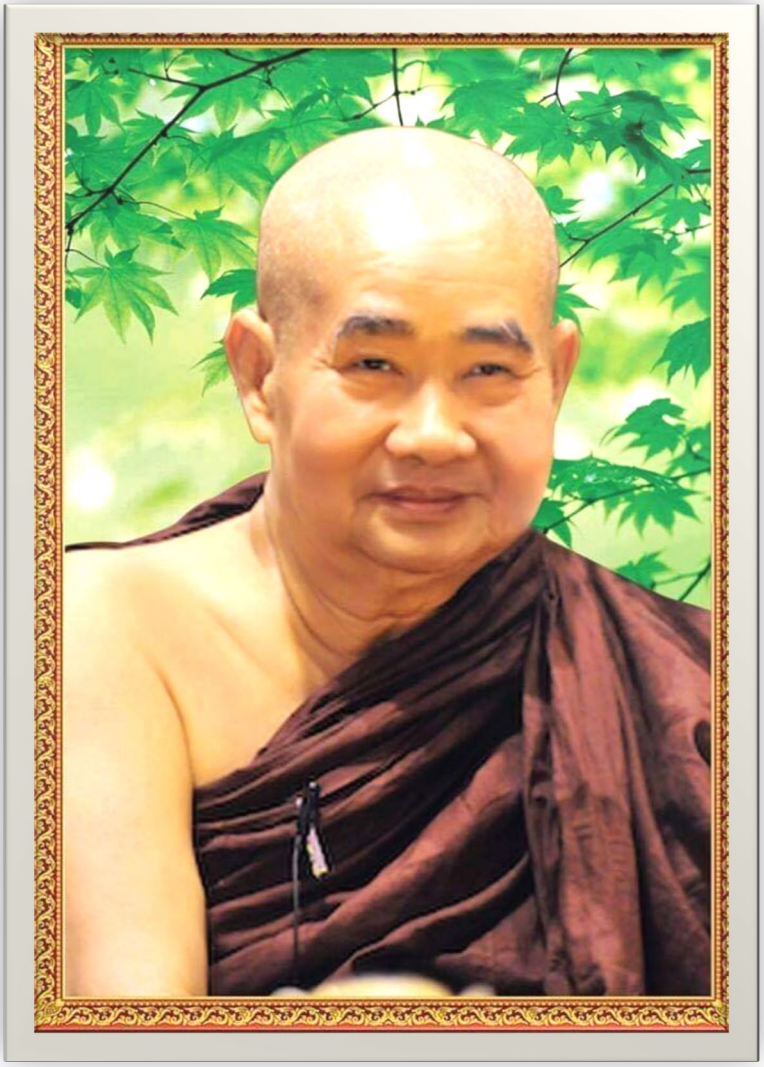
NIBBĀNA GĀMINĪ PAṬIPADĀ

涅槃へと導く道

修行者実践のための
ダイジェスト版の解説

III　Paṭiccasamuppāda 縁起の瞑想

Pa-Auk Tawya Meditation Center Pyin Oo Lwin(Maymyo)
パオ森林僧院ピンウールイン（メイミョウ支部）
Bhante Thumana（スマナ比丘）



The Most Venerable Pa-Auk Tawya Sayadaw Bhaddanta Acinna

最も尊いパオ大尊師アーチンナ

Pa-Auk Tawya Meditation Center

Pyin Oo Lwin Myanmar

目次

Ⅰ　修習の前に知っておくべきこと

1．なぜ Paṭiccasamuppāda（縁起）の修習をするのか……1
2．Sotāpanna（預流者）とは ……3
3．Pariññā paññā（遍知智）について ……..5
4．Paṭisaṇbhidāmagga pāḷi（無碍解道）における説明 ……7
5．Abhidhamma　Aṭṭhakathā（アビダンマ注釈書）、Visuddhimagga（清浄道論）
　における説明　……8
6．Abhidhamma vibhaṇgapāḷi（アビダンマ分別論）における説明 ……9
7．Aṇguttaranikāya titthāyatanāsutta Mm.1-178（増支部経三法集）における説明 ……..9
8．Saṅkhāra と Kamma bhava（業有）についての Abhidhamma Aṭṭhakathā の説明 ……10
9．Kamma（業）の力について ……...11
10．Anumāna（推論）と Paccakkha（現見）について ……12
11．Paccaya parigaha ñāṇa（縁摂受智）を得るとは何か ……15
12．過去を観る方法 2 種類 ……..15

II　実践修習に繋がる経典などの説明と実践修習

1．Visuddhimagga と Abhidhamma における修習法 4 種類と Patisaṇbhidāmagga
　pāḷi における修習法 1 種類 ……...17
2．Kilesa vaṭṭa（煩悩輪転）と Kamma vaṭṭa（業輪転）について ……...20
3．過去世の Maraṇāsanna（臨終）を観る ……..24
4．Kamma の対象を調べる ……...25
5．Pa-Auk 大長老が選んだ Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma をよく理解
　するための経典 2 話 ……26
6．どのように功徳をすると願いが叶うか ……..27
7．実践修習している Yogī（修行者）の例2つ ……..27
8．Kilesa vaṭṭa（煩悩輪転）と Kamma vaṭṭa（業輪転）についての補足説明 ……...30
9．Nimitta は変えることができる例え ……...34
10．原因と結果の繋がりを理解する……35
11．Vipāka vaṭṭa について ……35
12．Vīthi citta を観る時の注意点 ……36
13．Paṭiccasamuppāda（縁起）の修習のための 4 つの大事な法則 ……37

III　Pañcakkhandha（五蘊）の実践法（第五法）

1．五蘊の実践の前に注意しておくこと ……43
2．五蘊の作り方 ……44
3．Paṭisandhi（受胎）の五蘊の作り方と実践 ……45
4．Bhavaṅga（有分）の五蘊の作り方と実践 ……53
5．Rūpārammaṇa line Pañcadvārāvajjana（五門引転心）に現れた識の五蘊の作り方と実践 ……55
6．Rūpārammaṇa line Cakkhuviññāṇa（色所縁眼識）の五蘊の作り方と実践 ……58
7．Rūpārammaṇa line Sampaṭicchana（色所縁受領心）の五蘊の作り方と実践 ……61
8．Rūpārammaṇa line Santīraṇa（色所縁推度心）の五蘊の作り方と実践 ……62
9．Rūpārammaṇa voṭṭhapana（色所縁確定心）の五蘊の作り方と実践 ……64
10．Javana paṭipādaka-manasikāra（速行提供作意）について ……65
11．Rūpārammaṇa line Mahākusala paṭhama javana（色所縁大善第一速行心）の五蘊の作り方と実践 ……66
12．Mahākusala dutiya javana（大善第二速行心）の五蘊の作り方と実践 ……68
13．Mahāvipāka tadārammaṇa（大異熟被所縁）の五蘊の作り方と実践 ……69
14．Rūpārammaṇa line Manodvārāvajjana（色所縁意門引転心）の五蘊の作り方と実践 ……71
15．Cakkhusamphassa（眼触）と Manosamphassa（意触）について ……72
16．Rūpārammaṇa line Lobha diṭṭhi group（色所縁貪欲見）の Javana（速行心）の五蘊の作り方と実践 ……73
17．諸々の注意点と実践のための例 ……75
18．Saddārammaṇa line（声所縁）の修習 ……76
19．Gandhārammaṇa line（香所縁）の修習 ……78
20．Rasārammaṇa line（味所縁）の修習 ……79
21．Phoṭṭhabbārammaṇa line（触所縁）の修習 ……80
22．Dhammārammaṇa line（法所縁）の修習 ……82
23．Dhammārammaṇa line ānāpāna patibhāga nimitta（法所縁出入息似相）を対象とした Paṭhamajhāna samāpatti vīthi（第一禅入定路）の修習 ……83
24．Dhammārammaṇa line の時の Rūpa dhamma の対象について ……84
25．更なる修習の注意点 ……84
26．Caraṇa（行為）の種と Vijjā（明）の種を調べる ……85
27．Bhavaṅga citta（有分心）の Anantara（無間）の原因について ……85
28．Ñāta pariññā（知遍知）を得る ……86
29．Iriyāpatha sampajañña（威儀正知）の修習 ……87
Ⅳ Suttantabhājanīyaṃ 経分別 修習の前に覚えておくアビダンマ ….88
Ⅴ Paṭiccasamuppāda 縁起とは何でしょうか。
1．Paṭiccasamuppāda dhamma 縁起の法とは何でしょうか ……101

2. Majjhima paṭipadā（中道）とは ……102
3.　Paṭiccasamuppāda の詳細な説明 ……103
4. Paṭiccasamuppāda を正確に修習することの利益 ……105
5. 更なる Majjhima paṭipadā についての説明 ……108

VI　Anuloma paṭiccasamuppāda 随順縁起（第一方法）について

1. 縁起の輪転の表についての説明 ……113
2. 修習の前に知っておくべきこと ……115
3. 人それぞれ ……117

VII　Anuloma Paṭiccasamuppāda（随順縁起）（第一法）実践修習

1. Avijjāpaccayā saṅkhāra ……118
2. Saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ ……119
3. Viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ ……122
4. Nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ ……127
5. Saḷāyatanapaccyā phasso ……136
6. Phassapaccayā vedanā ……141
7. Vedanāpaccayā taṇhā ……143
8. Taṇhāpaccayā upādānaṃ ……145
9. Upādānapaccayā bhavo ……148
10. Bhavapaccayā jāti ……150
11. Jātipaccayā jarāmaraṇaṃ sokaparidevadukkhadomanassupāyasa ……151

VIII　Paṭiccasamuppāda 第二法、第三法、第四法の修習方法

1. 第二法 Anuloma paṭiccasamuppāda 随順の縁起 ……153
2. 第三法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起（Paṭiloma 第一法） ……155
3. 第四法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起（Paṭiloma 第二法）途中から最初
まで Āhāra 4 種類で観る ……155

IX Paṭiccasamuppāda 縁起の修習 総括

1. なぜお釈迦様は Paṭiccasamuppāda を 4 つの方法で説明されたのでしょうか ……161
2. 4 種類の方法の省略した解説 ……161
3. Pa-Auk 大長老からの大事な伝言 ……163

Namo Tassa Bhagavato Arahato Sammāsambuddhassa.

阿羅漢であり正自覚者であるかの世尊に礼拝します。

I　修習の前に知っておくべきこと

１．なぜ **Paṭiccasamuppāda**（縁起）の修習をするのか

なぜ、Paṭiccasamuppāda（縁起）の修習をしなければならないのか、Pa-Auk 大長老は色々な経典を挙げて説明されています。その中の一つに Dīghanikāya Mahānidānasutta Mm.2-47（長部経典大因縁経）と Dīghanikāya Aṭṭhakathā Mm.2-85（長部経典注釈書）があります。

その教典の内容は、お釈迦様がクルという国のカンマーサダンマという町に滞在されていた時の説法になります。その町に Ānanda 大長老もご一緒に滞在されていました。ある日の昼食の後に Ānanda 大長老は Sotāpatti samāpattika（預流果定）に入られその後 Paṭiccasamuppāda（縁起）の修習をされました。その方法は以下の4種類でした。

1） Anuloma Paṭiccasamuppāda 随順の縁起: Avijjā から Jarāmaraṇaṃ まで。
2） Paṭiloma Paṭiccasamuppāda 逆の縁起: Jarāmaraṇaṃ から Avijjā まで。
3） Anuloma-Paṭiloma Paṭiccasamuppāda 随順と逆の縁起: 両端から途中まで。
（最初から途中と最後から途中まで。）
4） Anuloma-Paṭiloma Paṭiccasamuppāda 随順と逆の縁起: 途中から両端まで。
（途中から最初までと途中から最後まで。）

このように 4 種類の方法で Ānanda 大長老は縁起の修習の一つ一つを 3 回ずつされました。そして縁起に含まれている 12 個の Aṅga(支)をすべてご自身の智慧の中ではっきりと理解されました。さらにそれらの原因と結果がはっきりと現れてきたことを理解されました。そこで、Ānanda 大長老は「Paṭiccasamuppāda は深い意味があり修習は難しいとされているのに私の智慧の中では簡単にすべてをはっきりと観通せることが出来た。それをお釈迦様に告げたらお釈迦様からいいお話しが聞けるのではないか。」と思いました。お昼の修習が終わった後の午後にお釈迦様のところに行き、お釈迦様に伝えました。「尊者よ、とても深くて難しいとされる縁起の修習ですが、私の智慧の中では容易くすべてを観通すことが出来ました。」と。それをお聞きになりお釈迦様が Ānanda 大長老に縁起についての説法をされたのがこの Mahānidāna sutta （大因縁経）になります。お釈迦様は Ānanda 大長老に次のようにお答えになりました。

“Mā hevaṃ, Ānanda, avaca, mā hevaṃ, Ānanda, avaca. Gambhīro cāyaṃ, Ānanda,Paṭiccasamuppādadado gambhīrāvabhāso ca. Etassa, Ānanda, Dhammassa ananubodhā appaṭivedhā evamayaṃ pajā tantāulakajātā kulagaṇṭhikajātā muñjapabbajabhūtā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ samsāraṃ nātivaṭṭati.
「アーナンダよ、そのように言ってはいけません。そのように言ってはいけません。縁起は深遠であり、深遠に見えるものです。修行者は深遠なこの法を **Ananubodha**（不了悟）、**Appaṭivedha**（不通達）により自分の智慧で理解して洞察しないので道果を得ることができないのです。生きとし生けるものはもつれた糸玉のように、ぐじゃぐじゃになった鳥巣のように、絡んだ萱草やイグサのように自分たちの命がどこから始まりどこで終わるのか解らず、悪趣、苦処、地獄の輪廻の苦しみから逃れることができないのです。」

Ananubodha（不了悟）とは、Ñāta pariññā（知遍知）により自分の智慧で理解することができないことです。Appaṭivedha（不通達）とは Tīraṇa pariññā （度遍知）により自分の智慧で区別できないことと Pahāna pariññā（断遍知）により自分の智慧で捨離することができないことです。つまりお釈迦様のおっしゃる Ananubodha と Appaṭivedha とは Ñāta pariññā、Tīraṇa pariññā 、Pahāna pariññā の３つのすべてを知る智慧を得ていないことである、と注釈書では説明されています。

また Abhidhamma Aṭṭhakathā Mm.2-189,Visuddhimagga 2-21 には次のように書かれています。

Samādhi という砥石で智慧という包丁を研ぐことによりその包丁で縁起という原因と結果の繋がりを切り離せない修行者は夢の中でも輪廻から逃れて涅槃に到達することはできません。つまり、涅槃を悟りたいと願うならば原因と結果という Paṭiccasamuppāda の Aṅga （支） を Ñāta pariññā（知遍知）で理解して Tīraṇa pariññā （度遍知）で区別して Pahāna pariññā（断遍知）で捨離するという3つの Pariññā（遍智）ではっきりと自分の智慧で知らなければならない、ということです。

Anubodha ñāṇa（了悟智）で理解することができなければ、Paṭivedha ñāṇa（通達智）で Magga phala まで知ることができなければ Saṁsāra（輪廻）を乗り越えることはできません。この2つの智慧 Anubodha ñāṇa（了悟智）と Paṭivedha ñāṇa（通達智）を得られるように努力して修習しなければなりません。

なぜ縁起の修習をしなければならないのか、このようにお釈迦様や注釈書を書かれた Sayadaw（先生）たちは説明されました。

Anubodha ñāṇa や Paṭivedha ñāṇa とは単に想像して知ることや先生から教えられて知ることではありません。自分自身で実践修習をして得なければならない智慧です。

2. Sotāpanna（預流者）とは

Ānanda 大長老は当時 Sotāpanna（預流者）になっていました。Sotāpanna になると Paṭiccasamuppāda の原因と結果をよく理解することができます。Paṭiccasamuppāda は深くて非常に難しい法ですが Ānanda 大長老はなぜ容易に修習できたのか Dīghanikāya Aṭṭhakathā Mm.2-78 には次のように説明されています。 Ānanda 大長老は以下の4つの条件を備えていました。

1） Pubbūpanissaya sampatti（過去親依成得）: 過去世で縁起の原因と結果を観る修習をしっかりとしてきた波羅蜜に満たされている。
2） Titthavāsa（港）: 良い港に頼っている。つまりお釈迦様の教えを涅槃に向かうための良い港としてお釈迦様の教えに頼っている。
3） Sotāpanna（預流者）になっている。
4） Bahussuta bhāva（博識性）: 一般知識、Dhamma の知識に満たされている。

Ānanda 大長老は Sotāpanna（預流者）であることのこれらの4つの条件を備えていたので深くて難しい Paṭiccasamuppāda を容易に観ることができたのです。

上記の4つの条件をもう少し詳しく説明します。

1） Pubbūpanissaya sampatti: Ānanda 大長老は今の地球からみて10万劫前の地球の時に現れていた Padumuttara Buddha（パドムッタラ仏）の時代から Gautama Buddha（ゴータマ仏）の時代まで Paṭiccasamuppāda の修習を何度も繰り返して行い波羅蜜を積み続けて Ānanda 大長老としての特別な地位を得られました。

2） Titthavāsa 港に頼る、とは仏陀をはじめ Aggasāvaka（第一弟子）の Sāriputta 大長老や Mahāmoggallāna 大長老、Mahāsāvaka（大弟子）の Mahākassapa 大長老など善き師を涅槃に向かう為の良い港として良く頼っていることです。 Ānanda 大長老は仏陀、Sāriputta 大長老、Mahāmoggallāna 大長老、Mahākassapa 大長老、Koṭṭhika 大長老、Mahāpuṇṇa 大長老などから教えていただき次の 4 種類の勉強をしていました。

（1） Uggahaṇa 学得: Pāḷi（三蔵経典）の勉強をしっかりとして Pāḷi の意味をよよく理解する。
（2） Savana 聴聞: Pāḷi や Aṭṭhakathā の意味をよく理解するように聞く。
（3） Paripucchana 質問: 難しい意味を先生に質問し勉強する。
（4） Dhāraṇa 憶持: Pāḷi を暗記する。

Ānanda 大長老は上記のように Pāḷi、Aṭṭhakathā を学び暗記し実践していらっしゃったので深遠な縁起を自分の智慧の中で容易に観ることができました。

３） Sotāpanna（預流者）であること。Dīghanikāya Aṭṭhakathā2-83, Dīghanikāya Ṭīkā2-84 では Sotāpanna であることとは次のように説明されています。

Sotāpanna であれば Sotāpanna puggala の智慧の中で Paccayakāra（縁行為）という原因と結果が繋がる Paṭiccasamuppāda Dhamma をよく自分の智慧ではっきりと知ることができます。なぜならば Samudaya Sacca という原因と結果の繋がる Paṭiccasamuppāda Dhamma を解らないように隠している Moha を Sotāpattimagga Ñāṇa で完璧に滅しているからです。Samudaya Sacca Dhamma すべてを Niroda Sacca Dhamma として自分の智慧でしっかりと知っています。Ānanda 大長老は Sotāpanna でしたから自分の智慧の中で原因と結果の繋がりの Paṭiccasamuppāda をはっきりと観ることができ、解っていらっしゃったのです。

ここで、Pa-Auk 大長老は皆さんに問いかけました。

「もし自分のことを Sotāpanna だと思うなら縁起について Sammādiṭṭhi ñāṇa（正見智）によりよく理解しているかどうか自分自身に聞いてみてください。」と。

過去世で作った Avijjā（無明）、Taṇhā（渇愛）、Upādāna（執着）、Saṅkhāra（形成力）、Kamma（業）という原因で Viññāṇa（識）、Nāmarūpa（精神性物質性）、 Saḷāyatana（六つの感覚）、Phassa（接触）、Vedanā（感受）という結果が現れます。

現在作り始めた Avijjā（無明）、Taṇhā（渇愛）、Upādāna（執着）、Saṅkhāra（形成力）、Kamma（業）という原因で将来 Viññāṇa（識）、Nāmarūpa（精神性物質性）、Saḷāyatana（六つの感覚）、Phassa（接触）、Vedanā（感受）という結果が現れます。これらのことを Sammādiṭṭhi ñāṇa（正見智）により自分の智慧ではっきりと理解していないならば Sotāpanna ではありません。誰かから教えてもらった知識だけではなく Paṭiccasamuppāda の修習をして自分の智慧で理解しなければなりません。

４） Bahussuta bhāva 一般知識や Dhamma の知識が豊富であること。

小さな部屋の中でろうそくの灯など明かりを灯したら、その光が強くなってきた時にその部屋の中にあるもの、例えばベッドなどの家具などがはっきりと見えるようになります。そのことと同じように Bahussuta という博識に満たされた人は Nāmarūpa を区別する智慧 Nāmarūpa pariccheda ñāṇa（名色限定智）と原因と結果を知る Paccaya pariggaha ñāṇa（縁摂受智）によりはっきりと観ることができます。

Ānanda 大長老は Bahussuta に満たされていたのでこのような特別な上位の比丘になりました。

［１）と２）Dīghanikāya Aṭṭhakathā2-83、３）と４）は Dīghanikāya Aṭṭhakathā2-83, Dīghanikāya Ṭīkā2-84 記載］

さらに Bahussuta ついて Aṅguttaranikāya（増支部経）Mm.2.399, Aṅguttara-

nikāya AṭṭhakathāMm.2-364, Aṅguttaranikāya Ṭīkā2-362 に以下のように説明されています。

聞くこと、観ることは Bahussuta といいます。Bahussuta があるということは、

〇Sīla（戒律）についてよく理解して修習している。

〇Samādhi（定）についてよく修習している。

〇Paññā（慧）という Vipassanā の智慧でよく修習している。

この Sīla（戒律）、Samādhi（定）、Paññā（慧）の最初、真中、最後という三学について知識に満たされてすべてを修習していることをいいます。Sīla、Samādhi、Paññā という Sāsana brahmacariya（教梵行）、Ariya Magga という Magga brahmacariya（道梵行）、この 2 種類の Brahmacariyā（梵行）という Dhamma desanā（法説示）をよく聞き、暗記し、よく実践することにより Paramattha dhamma （第一義法） の要素を Sammādiṭṭhi ñāṇa（正見智）によりはっきりと理解していることを Sutauccā（高博聞）といいます。

Bahussuta は 2 種類あります。1つは Āgama suta（伝承所聞）といい、教えてもらい学んで理解すること。もう1つは Adhigama suta（到達所聞）といい、実践することにより自分の智慧で解ることです。この2つの Bahussuta により Nāmarūpa pariccheda ñāṇa（名色限定智）と Paccaya pariggaha ñāṇa（縁摂受智）の2つの智慧を得ることができます。

この2つの智慧を得ることにより Dukkha Sacca（苦諦）つまり Pañcupādana-kkhandha（五取蘊）の Rūpa dhamma と Nāma dhamma の Paramattha dhamma を Sammādiṭṭhi ñāṇa（正見智）により理解することができます。さらに Samudaya Sacca（因諦）の原因と結果を Sammādiṭṭhi ñāṇa（正見智）で理解することができます。

Sotāpanna という聖者になるためには Saṁsāra（輪廻）から逃れるよう Paṭicca-samuppāda（縁起）つまり原因と結果の Dhamma を Sammādiṭṭhi ñāṇa により修習しなければなりません。それは Pariññā paññā（遍知智）の3種類の智慧を得てはっきりと解るように努力をしなければならないということです。

3. Pariññā paññā（遍知智） について

Sammādiṭṭhi ñāṇa とは Pariññā paññā（遍知智）の3種類を指します。Pariññā paññā には Lokiya pariññā（世間遍知）3種類と Lokuttara pariññā（出世間遍知）3種類の6種類があります。

1） Lokiya pariññā 3種類

（1）Ñāta pariññā（知遍知）

Avijjā（無明） Saṅkhāra（形成力）、Viññāṇa（識）、Nāmarūpa（名色）、 Salāyatana（六つの感覚器官）、Phassa（触）、Vedanā（感受）、Taṇhā （渇愛）、Upādān（執着）、Bhava（存在）、Jāti（誕生）、jarāmaraṇa（老死）という Paṭiccasamuppāda の Aṅga（支分）の Lakkhaṇa（特相）、Rasa（作用）、 Paccupaṭṭhāna（現起）、Padaṭhāna（直接因）などを自分の智慧でよく知ること。その智慧を Nāmarūpa pariccheda ñāṇa（名色限定智）と言います。

Avijjā の原因により Saṅkhāra が現れ、Saṅkhāra の原因で Viññāṇa が現れ・・・・。このように原因と結果の繋がりの要素を自分の智慧で知る智慧を Paccaya pariggaha ñāṇa（縁摂受智）といいます。この Nāmarūpa pariccheda ñāṇa と Paccaya pariggaha ñāṇa の 2 種類の Ñāṇa（智慧）を Ñāta pariññā といいます。

Vipassanā の智慧の対象である知るべき Saṅkhāra dhamma を区別してはっきりと自分の智慧で知ることを Ñāta pariññā といいます。

（２） Tīraṇa pariññā（度遍知）

Avijjā、Saṅkhāra・・・という Paṭiccasamuppāda の Aṅga12種類を Anicca（無常）として、Dukkha（苦）として、Anatta（無我）として自分の智慧ではっきりと観る智慧のことです。「これは Anicca、Anicca」、「これは Dukkha、Dukkha」、「これは Anatta、Anatta」と決定できる智慧です。それらの Sammasana ñāṇa（思唯智）と Udayabbaya ñāṇa（生滅智）の2種類の智慧を Tīraṇa pariññā といいます。

（３） Pahāna pariññā（断遍知）

Paṭiccasamuppāda の Aṅga の滅していることのみを観る Bhaṅga ñāṇa（壊滅智）という Vipassanā の上位の智慧により Kilesa（煩悩）を瞬間的に切り離すことができます。このように Paṭiccasamuppāda の Aṅga を Anicca、Dukkha、Anatta とはっきりと知る智慧を Pahāna pariññā といいます。

2） Lokuttara pariññā 3種類

（１） Pahāna pariaññā（断遍知）

Lokiya pariññā paññā という Vipassanā の智慧の最終の Nibbāna（涅槃）を対象として Ariyamagga dhamma（聖道法） が現れてきます。その Ariyamagga dhamma は現れた Kilesa を Samuccheda（断絶） で完璧に切り離して知るべき Asaṅkhata dhātu（無為の涅槃界） つまり Nibbāna（涅槃） をはっきりと知ります。この Ariyamagga dhamma を Pahāna pariññā といいます。

（２） Ñāta pariññā（知遍知）

Ariyamagga dhamma は対象をはっきりと知っています。それを Ārammaṇa paṭivedha（対象理解）といいます。Asaṅkhata dhatu（無為の涅槃界）という涅槃を

対象としていることを知っています。そのように知る Ariyamagga dhamma が四聖諦を解らないように隠している Moha を完璧に滅しています。Moha dhamma を完全に滅しているために四聖諦を知ることができます。このように Kicca siddhi（所作成就）により Ariya Sacca を知ることを Asammoha paṭivedha（無癡理解）といいます。

Ariyamagga dhamma は Ārammaṇa paṭivedha（Asammoha paṭivedha）により Niroda Sacca を知ります。Dukkha Sacca、Samudaya Sacca、Magga Sacca などを Asammoha paṭivedha の方法で知ります。ですからこの Ariya magga Dhamma は Dukkha Sacca、Samudaya Sacca、Magga Sacca という Paṭiccasamuppāda を知ることを終えます。別の言い方で Ñāta pariññā といいます。

（3）Tīraṇa pariññā（度遍知）

Ariyamagga Dhamma は Dukkha Sacca、Samudaya Sacca などの Dhamma を Anicca、Dukkha、Anatta と解らないように隠している Moha を完璧に切り離しています。Dukkha Sacca、Samudaya Sacca という Rūpa と Nāma と Paṭiccasamuppāda の原因と結果を Anicca、Dukkha、Anatta とはっきりと確認して確定する Kicca を終えました。Ariyamagga dhamma で原因を切り離すことを別の言い方で Tīraṇa pariññā といいます。

以上が Lokuttara pariññā です。

Paṭiccasamuppāda の Aṅga（支）を Anubodha（了悟）と Paṭivedha（理解）という智慧ではっきりと理解することにより Saṁsāra（輪廻）を乗り越えることができます。そのように Mahānidāna sutta（大因縁経）においてお釈迦様は説示されました。

4. Patisaṇbhidāmagga Pāḷi（無碍解道）における説明

1）過去世の Kamma bhava（業有)の時に…...

（1） 無知である Moha は Avijjā（無明）です。

（2） Kamma（業）を作る時の努力は Saṅkhāra（形成力）です。

（3） Bhava（有）を欲することは Taṇhā（渇愛）です。

（4） Taṇhā に執着していることは Upādāna（執着）です。

（5） Bhava になるように促すことは Cetanā（思）です。Cetanā が Bhava になります。

以上の 5 種類の過去世の原因が Paccuppanna bhava（現在有ること）の始まりの Paṭisandhi（結生）の Dhamma です。

2）現世の Paccuppanna bhava の時に……

（1）一つの Bhava ともう一つの Bhava が繋がること、一つの Khandha（蘊）ともう一つの

Khandha が繋がることは Paṭisandhi です。この Paṭisandhi を Viññāṇa（識）といいます。
（2）母体の中に入ってきた感覚は Nāmarūpa（精神性物質性あるいは名色）です。
（3）Mahābhūta（大種）の透明な要素は Āyatana（処）です。
（4）接触する感覚は Phassa（摂触）です。
（5）Phassa を味わうことは Vedanā（感受）です。
Paccuppanna bhava（現在有）つまり Vipāka（異熟）は過去世の五種類の Kamma の原因で現れています。
3） Paccuppanna bhava に Āyatana が現れた時に…….
（1）無知である Moha は Avijjā（無明）です。
（2）Kamma（業）を作る時の努力は Saṅkhāra（形成力）です。
（3）Bhava（存在）を欲することは Taṇhā（渇愛）です。
（4）Taṇhā に執着していることは Upādāna（執着）です。
（5）Bhava になるように促すことは Cetanā（思）です。
現在の Kamma bhava の原因 5 つは未来の Paṭisandhi の原因になります。
4）来世の Anāgata bhava 時に……..
（1）Paṭisandhi は Viññāṇa（識）です。
（2）母体の中に入ってきた感覚は Nāmarūpa（精神性物質性あるいは名色）です。
（3）Mahābhūta（大種）の透明な要素は Āyatana（処）です。
（4）接触する感覚は Phassa（接触）です。
（5）Phassa を味わうことは Vedanā（感受）です。
つまり未来の Upapatti bhava（起有）という5つの結果は現在の Paccuppanna bhava の Kamma の原因で作られています。［Patisaṇbhidāmagga Pāḷi（無碍解道）50-51］

5．Abhidhamma Aṭṭhakathā（アビダンマ注釈書）、Visuddhimagga（清浄道論）における説明

1） 過去世で作られた Avijjā（無明）、Taṇhā（渇愛）、Upādāna（執着）、Saṅkhāra（形成力）、Kamma（業）という５つの原因で現世の Viññāṇa（識）、Nāmarūpa（名色）、Saḷāyatana（六処）、Phassa（接触）、Vedanā（感受）という 5 つの結果の Dhamma が現れます。
2） 現世に作られた Avijjā（無明）、Taṇhā（渇愛）、Upādāna（執着）、Saṅkhāra（形成力）、Kamma（業）という5つの原因は来世に Viññāṇa（識）、Nāmarūpa（名色）、Saḷāyatana（六処）、Phassa（接触）、Vedanā（感受）という 5 つの Anāgata（未来）の結果として現れます。
Yogī は過去の 5 つの原因で現在の 5 つの結果が現れていること、現在の5つの原因

で未来の 5 つの結果が現れることを Sammādiṭṭi ñāṇa（正見智）という智慧によりはっきりと観えるように努力して修習しなければなりません。努力して修習することにより Saṃsara（輪廻）の苦しみから逃れることができます。
［Abhidhamma Aṭṭhakathā Mm.2-182, Visuddhimagga Mm.2-214］

6. Abhidhamma vibhaṅgapāḷi（アビダンマ分別論）における説明

1） Taṇhā を Samudaya Sacca（因諦）と言います。
2） Taṇhā とすべての Kilesa（煩悩）を Samudaya Sacca と言います。
3） すべての Akusala dhamma を Samudaya Sacca と言います。
4） すべての Akusala dhamma と Āsava dhamma（煩悩法）などの対象となり Saṃsara を廻す Alobha（無貪）、Adosa（無瞋）、Amoha（無痴）という Kusala dhamma3種類を Samudaya Sacca と言います。
5） すべての Akusala kamma と Saṃsara を回す Āsava dhamma などの対象になるすべての Kusala kamma を Samudaya Sacca と言います。

上記のお釈迦様の説明について Abhidhamma Aṭṭhakathā Mm.2-185 では次のように補足説明されています。

Kusala kamma と Akusala kamma のすべての Sampayutta dhamma（相応法）はすべて Samudaya Sacca と言います。

7. Aṇguttaranikāya Titthāyatanā sutta Mm.1-178（増支部経三法集）における説明

Katamaṅca, bhikkhave, dukkhasamudayaṃ ariyasaccaṃ?
比丘たちよ、何が苦因聖諦でしょうか。
Avijjāpaccayā Saṅkhāra,
無明を原因として形成作用が生起し、
Saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ,
形成作用を原因として意識が生起し、
viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ,
意識を原因として精神性，物質性が生起し、
nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ,
精神性、物質性を原因として六つの感覚器官が生起し、
saḷāyatanapaccayā phasso,
六つの感覚器官を原因として接触が生起し、
phassapaccayā vedanā,

接触を原因として感受が生起し、
vedanāpaccayā taṇhā,
感受を原因として渇愛が生起し、
taṇhāpaccayā upādānaṃ,
渇愛を原因として執着が生起し、
upādānapaccayā bhavo,
執着を原因として存在が生起し、
bhavapaccayā jāti,
存在を原因として誕生が生起し、
jāti paccayā jarāmaraṇaṃ sokaparidevadukkhadomanassupāyāsā sambhavanti.
誕生を原因として老死、悲しみ，嘆き、苦痛、悲嘆、絶望が生起します。
Evametassa kevalassa dukkhakkhandhassa samudayo hoti.
このように一切の苦蘊の生起があります。
Idhaṃ vuccati, bhikkhave,dukkha samudayaṃ ariyasaccaṃ.
比丘たちよ、これらが苦因聖諦と言われるものです。

このように苦しみの原因のすべてが現れます。比丘は Dukkha Sacca（苦諦）の原因となる Samudaya Sacca（因諦）をよく観なければなりません。

お釈迦様は Taṇhā が Samudaya Sacca（因諦）になるので Taṇhā を Samudaya Sacca であると説明されています。現在の身体を作った過去の Taṇhā がいつ作られたのか知らなければなりません。

Rūpanāma という Pañcakkhandha（五蘊）は Dukkha Sacca（苦諦）です。現在有る身体は Dukkha Sacca です。

Abhidhamma Aṭṭhakathā Mm.2-68,69 に於いて現在の身体が現われている Samudaya Sacca は過去世にあります、その Samudaya Sacca は Taṇhā です、と説明されています。

Yogī は現在の身体である Pañcakkhandha は Dukkha Sacca でありそれを現す原因の Samudaya Sacca は過去の Taṇhā により作られた、ということを自分の智慧で理解しなければなりません。

8．Saṅkhāra と Kamma bhava（業有）についての Abhidhamma Aṭṭhakathā の説明

1） Dāna kusala kamma（布施善業）を例えとします。その Dāna を差し上げる前に現れた Pubba cetanā（前思）などは Saṅkhāra（形成力）です。Dāna を受ける人の手の中に差し上げたときに現れた Patiṭṭhāpaka cetanā（令確立思）別名 Muñca cetanā（放出思）は

Kamma bhava です。

2） Kammaを一つ作る時に現れたManodvārikajavana vīthi cittaのプロセスのJavana7回の中で1番目から6番目までのJavanaにあるCetanāはĀyūhana Saṅkhāra（遂行の形成力）です。努力をするDhammaです。7番目のSattama javanaにあるCetanāはKamma bhavaです。

3） Kamma 一つを作る時の Javana cittuppādā（速行心起）にある Cetanā は Kamma bhava です。その Cetanā と一緒に現れた Sampayutta Dhamma は Āyūhana Saṅkhāra です。[Abhidhamma Aṭṭhakathā2-182,183]

9. Kamma（業）の力について

Paṭṭhānapāḷi1-7（アビダンマ発趣論）、Abhidhamma Aṭṭhakathā3-374 における Kamma についての説明をします。

Yogīは Paccuppanna bhava khandha（現世蘊）の5つの原因にあるKammaをPadhāna（主）として考えてみてください。そのKammaはAvijjā、Taṅhā、Upādānaなどを含んでいることに注意してください。それをお釈迦様は Kamma paccaya（業縁）の関係として話されています。Kusala kamma、Akusala kammaはVipāka khandhaやKammaの原因で現れたKammaja Rūpaなどを Kamma paccaya satti（業縁効力）で支えています。

この Kamma paccaya sati は今の地球の時代だけではなく遠い過去の地球で作ったKammaであっても熟してきたら結果を現す力を持っています。Nānakkhaṇika kamma（異刹那業）は Nānakkhaṇika kamma paccaya satti で支えることです。その Nānakkhaṇika kamma とは原因という Kamma と結果という Vipāka が現れる時期に違いがあることをいいます。Kamma を作った時にすぐに Vipāka が現れるわけではありません。Kusala kammaを作ったとしてもAkusala kammaを作ったとしても作った時にすぐに結果が現れる訳ではないということです。もしも結果がすぐに出るのであれば、例えばある人が天界に生まれ変わりたいと望んでよい功徳を行った場合にすぐに天界に生まれ変わることができるはずですが実際にはそのようにはなりません。

Diṭṭha dhamma vedaniya kamma（所見法所受業）であればPaccuppanna bhava（現世）で結果を現します。しかしその Kamma でもすぐに結果は現れません。通常は熟すまで時間がかかります。Diṭṭha dhamma vedaniya kammaはまれにしか起きません。

Upapajja vedaniya kamma（近所受業）であれば一番近い来世で結果を現します。

Aparāpariya vedaniya kamma（後々の所受の業）は Tatiya bhava（現世から3番目の生）からそれぞれのBhavaの時に結果を現す力を持っています。

Kusala kammaが結果を出すためには次の4つの要因が必要です。この4つが揃うとKusala kammaは結果を出します。

1）Gatisampatti 成功する行方
2）Upadhisampatti 成功する生の素質
3）Kāla Sampatti 成功する時間
4）Payoga Sampatti 成功する適用
これらの4つの要因が揃わないと Kusala kamma は結果を出すことはできません。
Akusala kamma が結果を出すためには次の4つの要因が必要です。この4つが揃うと Akusala kamma は結果を出します。
1）Gativipaṭti 不幸な行方
2）Upadhivipatti 不幸な生の素質
3）Kālavipatti 不幸な時間
4）Payogavipatti 不幸な適用
これらの4つの要因が揃わないと Akusala kamma は結果を出すことはできません。
Kusala kamma と Akusala kamma はこのようにそれぞれの要因により結果を出します。

以前に学んだ知識は後に学んだ知識を支えることがあります。そのことと同じように Kamma という Cetanā はその Kamma を作った時に結果を現すことはできませんが後に支えることにより結果を現します。
Kamma という Cetanā はその Kamma を作った Khaṇa（時）にすぐに結果を現すことはできません。後々の Khaṇa に結果を現します。Nānakkhaṇika kamma は結果を出す Khaṇa より前の Khaṇa に作った Cetanā ということです。
たくさんの地球の過去世に作られた Kamma は現在結果を現している時には Uppāda（生）、Ṭhiti（住）、Bhaṅga（滅）をしていません。つまり今現在は Kamma の生住滅は存在していません。Vipāka（異熟）として現れています。このように結果を現す力を Kamma satti（業効力）といいます。
Kamma について Pa-Auk 大長老はたくさんの例を挙げていますが、ここでは一つの例えを挙げておきます。
ある人が病気になり、16 歳や 20 歳の健康な体に戻りたいと願って Kusala な行いをしたとしてもその人が 16 歳や 20 歳に戻ることはありません。Kamma を作ってすぐに結果が現れて望みが叶うのであれば、人は死ぬこともなく病気になることも無くなります。Kamma とはそのようにすぐに結果を出すものではないということです。

10. Anumāna（推論）と Paccakkha（現見）について

Anumāna とは推測して見ることをいい、Paccakkha とは実践的なことを言います。
今現在は過去で作った Kamma は消えていますし未来に作る Kamma もありません。私

たちは今現在の目の前にあることだけが見えています。過去は作って無くなり、未来も来ていないので過去や未来についての実践修習はする必要はなく Anumāna というただ推測することができたら実践修習して知る必要はない、と言うのであれば、Sāriputta 大長老や Ānanda 大長老や大長老たちが原因と結果という Paṭiccasamuppāda あるいは Samudaya Sacca が原因で Dukkha Sacca が現れるということを実践して自分の智慧で理解したのではなく Anumāna という推測して悟りを開くことができたのだと、言っていることになります。しかし、実際にはそのようなことではありませんでした。

お釈迦様は Majjhimanikāya Mm.1-82（中部経典）において次のように説明されています。

Idaṃ dukkha'nti yathābhūtaṃ pajānāti, 'ayaṃ dukkhasamudayo'ti yathābhūtaṃ pajānāti, 'ayaṃ dukkhanirodho'ti yathābhūtaṃ pajānāti, 'ayaṃ dukkhanirodha-gāminī paṭipadā'ti yathābhūtaṃ pajānāti.

比丘たちよ、修行者は「これは **Dukkha Sacca**（苦諦）であると自分の智慧ではっきりと正しく理解してください。」「これは **Dukkha Samudaya Sacca**（苦因諦）であると自分の智慧ではっきりと正しく理解してください。」「これは **Dukkha Nirodha Sacca**（苦滅諦）であると自分の智慧ではっきりと正しく理解してください。」「これは **Dukkha Nirodha Gāminī Paṭipadā Sacca**（苦滅道諦）であると自分の智慧ではっきりと正しく理解してください。」

お釈迦様は涅槃を悟るための説示をこのように比丘たちにされました。このことから解ることは Sāriputta 大長老や Ānanda 大長老などの聖者たちは四聖諦をご自身の Sammādiṭṭhi ñāṇa（正見智）によりはっきりと見通すことにより涅槃を悟られたということです。Anumāna という推論で四聖諦を知り悟られたのではありません。

さらに Majjhimanikāya Aṭṭhakathā Mm.2-165 では次のような説明があります。

Yogī がこれは Lokiya magga sacca dhamma（世間道諦法）として Lokuttara magga Sacca dhamma（出世間道諦法）として八正道に満ちている Magga ariya sacca dhamma を正しく Sammādiṭṭhi ñāṇa で知らずに Vipassanā したとしても Lokuttara magga sacca dhamma を現すことはできません。

つまり Dukkha Sacca と Samudaya Sacca を Sammādiṭṭhi ñāṇa で理解しない限り、Dukkha Sacca と Samudaya Sacca を無常、苦、無我の三相で Vipassanā して洞察しない限り涅槃を証悟することはあり得ません。

さらに上記のことを証明するお釈迦様の説法があります。

Saṃyuttanikāya Kūṭāgāra Sutta Mm.3-394（相応部経諦相応二階家経）では次のように説明されています。

Yo ca kho bhikkhave, evaṃ vadeyya
‘ahaṃ dukkhaṃ ariyasaccaṃ yathābhūtaṃ anabhisamecca.
Dkhasamudaya ariyasaccaṃ yathābhūtaṃ anabhisamecca.
Dukkha nirodhaṃ ariyasaccaṃ yathābhūtaṃ anabhisamecca.
Dukkhanirodhagāminiṃ ariya saccaṃ yathābhūtaṃ anabhisamecca.
karissāmī‘ti netaṃ ṭhānaṃ vijjati.
比丘たちよ、ある人が
『「私は苦聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知りません。」
「私は苦因聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知りません。」
「私は苦滅聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知りません。」
「私は苦滅道聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知りません。」
このように四聖諦を自分の智慧で如実にはっきりと解らなくても輪廻の苦しみから逃れることができます。』
このように言ったとしてもそれは絶対にありえません。
また、次のように説法されました。

Yo ca kho bhikkhave, evaṃ vadeyya
‘ahaṃ dukkhaṃ ariyasaccaṃ yathābhūtaṃ abhisamecca.
Dkhasamudaya ariyasaccaṃ yathābhūtaṃ abhisamecca.
Dukkha nirodhaṃ ariyasaccaṃ yathābhūtaṃ abhisamecca.
Dukkhanirodhagāminiṃ ariya saccaṃ yathābhūtaṃ abhisamecca.
karissāmī‘ti ṭhānametaṃ vijjati.
比丘たちよ、ある人が
『「私は苦聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知ります。」
「私は苦因聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知ります。」
「私は苦滅聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知ります。」
「私は苦滅道聖諦を **Sammādiṭṭi ñāṇa** という自分の智慧で如実にはっきりと知ります。」
このように四聖諦を如実にはっきりと理解したなら輪廻の苦しみから逃れることができます。』
このように言ったとしたらそれはその通りになります。

修行者は輪廻の苦しみから逃れるためには Sammādiṭṭhi ñāṇa で四聖諦をはっきりと解るように努力をしなければなりません。

11. Paccaya pariggaha ñāṇa（縁摂受智）を得るとは何か

Paṭiccasamuppāda の修習とは Paccaya pariggaha ñāṇa を得るための修習です。Paccaya pariggaha ñāṇa を得るとはどういうことか Visuddhimagga Mm.2-237,Mahā Ṭīkā2-380 では次のように説明されています。

Vipassanā Kammaṭṭhāna を修習する Yogī を Vipassakapuggala（観察者）と言います。Vipassakapuggala は Kamma の力の有無をしっかりと知らなければなりません。また Kamma の Vipāka の優劣も知らなければなりません。普通の弟子であれば原因と結果のすべてを知ることはできません。すべてを知ることができるのは仏陀の智慧のみです。原因と結果の一部のみでもはっきりと自分の智慧で知ることができたら Paccaya pariggaha ñāṇa を得たことになります。結果の一部を知ることができなければ Paccaya pariggaha ñāṇa を得ることはできません。Yogī は原因と結果をしっかりと自分の智慧で知る必要があります。Paccaya pariggaha ñāṇa とは Samudaya Sacca（因諦）の原因で Dukkha Sacca（苦諦）が生まれることを知る Ñāṇa（智慧）のことを言います。

悪い Kamma の結果が現れた例としては、お釈迦様ご自身が過去世の悪い Kamma の原因で現世において主なものとして 12 種類の悪い Vipāka を受けています。これらのお話は経典に書かれています。例えばお釈迦様には頭痛がありました。それは一つの悪い Kamma により現れた Vipāka です。腰痛もありました。それも別の Kamma の Vipāka です。腹痛もありました。それも別の過去世の Kamma の Vipāka です。すべての Vipāka はそれぞれ別々の Kamma があります。

通常の人の Iṭṭhārammaṇa（良い対象）は過去の良い Kamma で現れます。Aniṭṭhā-rammaṇa（悪い対象）は過去の悪い Kamma により現れます。現在は過去の良い Kamma と悪い Kamma の Vipāka を受けているのです。

12. 過去を観る方法 2 種類

過去を観る方法は 2 種類あります。

1）Abhiññā（神通力）で観る方法

Pubbenivāsānussati abhiññā（宿住随念神通力）により過去を観る Abhiññā。

Dibbacakkhu abhiññā（天眼神通力）に含まれている Anāgata saññāṇa（未来を観る標識）で観る abhiññā。

2）Vipassanā の智慧で観る方法

Abhiññā で過去、未来を観る方法は色々な経典に書かれているので一般に認められていますが Vipassanā で観る方法はなかなか認めない人々もいます。そこで Pa-Auk 大

長老は Saṃyuttanikāya2-71Khajjanīya sutta 相応部経典蘊篇応噉食と Aṭṭhakathā2-266 を引用されました。

Ye hi bhikkhave, samaṇā vā brāhmaṇa vā anekavihitaṃ pubbenivāsaṃ anussaramānā anussaranti sabbete pañcupādānakkhandhe anussaranti etesaṃ vā aññataraṃ。

比丘たちよ、Samaṇā brāhmaṇa（修行者）は 1 つ 2 つあるいは多量の過去世を自分の智慧で観ることができます。自分の智慧で過去世を観ることのできる修行者は Pañcupādānakkhandha（五取蘊）あるいはその中の1つの Khandha（蘊）だけでも自分の智慧で見通すことができます。

お釈迦様は Pubbenivāsaṃ（宿住）とはすべての過去世を見通すことができるということではなく、修行者は Pañcupādānakkhandha（五取蘊）あるいはその中の一つの Khandha を観ることができる、とこの経典で説明されています。

お釈迦様は Abhiññā（神通力）では次の4つのことを観ることができると述べられました。

1） Lokuttara Dhamma（出世間法）に含まれるすべての Pañcupādānakkhandha。
2） Lokuttara Dhamma ではない Upādānakkhandha に含まれていること。
3） Khandha と繋がって、どのような種族か、どのような家系か、どのような容姿か、幸か不幸か、Dukkha か Sukha か、など。
4） どのような氏であるのか。

Pubbenivāsānussati abhiññā（宿住随念神通力）で観ることのできる Yogī はこれらのことがすべて見通すことができます。しかし、この経典では Upādānakkhandha あるいはその中の一つの Khandha を観ることができる、と説明されています。それは Pubbenivāsaṃ とは Abhiññā で観るのではなく Vipassanā で観ることを意味している、と Pa-Auk 大長老は指摘されています。

また、涅槃証悟された長老方には禅定を得て Vipassanā 修習をした Samatha yānika と純粋な Vipassanā だけを修習した Suddha vipassanā yānika がいらっしゃいます。このことは色々な経典から解っています。Suddha vipassanā yānika には禅定の力は無く Abhiññā はありません。ですから Suddha vipassanā yānika は Vipassanā で過去世を見通したということになります。聖者には Paccaya pariggaha ñāṇa を得ていない限りなれません。Paccaya pariggaha ñāṇa を得るためには過去、現在、未来の Dukkha Sacca と Samudaya Sacca を観なければなりません。Suddha vipassanā yānika の長老たちは Vipassanā 修習をして Paccaya pariggaha ñāṇa を得て涅槃に向かいました。上記の理由により Abhiññā ではなく Vipassanā 修習をして過去世を見通すこともできる、そのことを上記経典を根拠として Pa-Auk 大長老は指摘されているのです。

Yogī はこのように経典に書かれたお釈迦様の教えを正しく解釈してお釈迦様の教えから外れないように修習しなければなりません。

II 実践修習に繋がる経典などの説明と実践修習

原因とは結果を現す力を持っています。その力があるので原因の結果を現すことができます。結果は原因の留まる場所とも言えます。原因をよく知る智慧を Dhammaṭṭhiti ñāṇa（法住智）と言います。

Paccaya pariggaha ñāṇa（縁摂受智）を得るために Yogī は原因という Dhamma を自分の智慧で理解するように修習しなければなりません。

原因から現れた結果を自分の智慧で解るように原因と結果を区別して知る修習もしなければなりません。区別して知るには Nāmarūpa vavatthāna ñāṇa（名色確定智）を得なければなりません。［Pariggaha Saṃyutta Aṭṭhakathā1-18］

過去の 5 つの原因により現在の 5 つの結果があります。現在の5つの原因により未来の 5 つの結果が現れます。過去、現在、未来、それぞれの原因と結果の Paramattha dhamma（勝義法-究極の真実）を知るために Paṭiccasamuppāda の修習法があります。

1. Visuddhimagga と Abhidhamma Aṭṭhakathā に書かれている修習法 4 種類と Patisaṇbhidāmagga Pāḷi における修習法 1 種類

Visuddhimagga Aṭṭhakathā2-154,155, Paṭiccasamuppāda vibhaṇga, Abhidhamma Aṭṭhakathā 2-124,125 に Paṭiccasamuppāda の 4 つの修習法が次のように説明されています。

1）Anuloma Paṭiccasamuppāda 随順の縁起: Avijjāpaccayā saṅkhāra から Jāti paccayā jarāmaraṇaṃ まで。
2）Anuloma paṭiccasamuppāda 随順の縁起: 途中の Vedanā から最後の Jāti まで。
3）Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起: Jāti paccayā jarāmaraṇaṃ から Avijjāpaccayā saṅkhāra まで。
4）Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起: Taṇhā の原因で Āhāra 4 種類が現れ、Vedanā の原因で Taṇhā が現れ Avijjā の原因で Saṅkhāra が現れる。

さらに Patisaṇbhidāmagga Pāḷi（無碍解道）にはもう一種類の方法が書かれています。

5） Patisaṇbhidāmagga Pāḷi の方法

これは過去の 5 つの原因により現在の 5 つの結果が現れる。現在の 5 つの原因により未来の 5 つの結果が現れる。それらを観る修習法です。

Pa-Auk 大長老はこの Patisaṇbhidāmagga Pāḷi の方法を第 5 の方法として教えています。この本でもこの方法を主として教えています。なぜならばこの方法での修習は Abhidhamma の知識が少なくても解りやすく修習し易いからです。

過去の 5 つの原因で現在の 5 つの結果が現れます。現在の結果、つまり五蘊をよく理解してから過去に戻り観ていく方法です。Paccuppanna（現在）の五蘊つまり Rūpa と Nāma を自分の智慧で区別して解るまで修習してから過去の五蘊を観ていきます。

この修習法についての注意点が Abhidhamma Aṭṭhakathā2-140,Visuddimagga2-174 に次のように書かれています。

1）一つの原因により一つの結果が現れることはありません。
2）一つの原因により多量の結果が現れることはありません。
3）多量の原因により一つの結果が現れることはありません。
4）多量の原因により多量の結果が現れます。

これらの注意点はとても大事なポイントです。これらの意味することは、Avijjā paccayā Saṅkhāra とは Avijjā 一つから Saṅkhāra 一つが現れたということではない、ということです。Avijjā 一つが現れているのではなく同時に Sampayutta dhamma も現れています。理解し易いように Avijjā を主として取り上げているのであり、Avijjā と同時に現れた Sampayutta dhamma も観なければならないのです。

Yogī はこのことをよく理解して修習を始めてください。

●実践修習●　　----過去に自分の智慧を延ばしてみてください---

自分の好きな Samādhi を作ります。Samādhi の力が満たされたら Ajjhatta（内）と Bahiddhā（外）に含まれている Rūpa と Nāma を観ます。Ajjhatta（内）一回と Bahiddhā（外）一回を交互に何度も何度も繰り返し観て修習します。Nāma 瞑想の修習で説明をした 6 Line（Rūpārammaṇa、Saddhārammaṇa、Ghandhāramma、Rasārammaṇa、Phoṭṭhabbārammaṇa、Dhammārammaṇa line）の特に Dhammārammaṇa line を主として観てください。Kusala group の心と心所を観てください。なぜなら Kusala group を修習することにより Samādhi の力と光はより強くなります。強くなった光により Ajjhatta と Bahiddhā の Rūpa と Nāma を一回ずつ何度も何度も交互に修習していると Samādhi と光の力も強くなり智慧の力がより強くついてきます。このことは Mahāsatipaṭṭhāna sutta（大念処経）でもお釈迦様が説かれています。この修習をするためには、Rūpa と Nāma の修習を完璧に終えていなければなりません。特に Bahiddhā（外）にある Rūpa と Nāma を観ることができなければ Paṭiccasamuppāda の修習はできません。過去世の Rūpa と Nāma は Bahiddhā と同じだからです。

このように Ajjhatta と Bahiddhā の Rūpa と Nāma を一回ずつ何度も何度も交互に修習していると自分の智慧の中で Cakkhupasāda（眼浄）、Sotapasāda（耳浄）、Ghānapasāda（鼻浄）、Jivhāpasāda（舌浄）、Kāyapasāda（身浄）、Bhavaṅgamanapasāda（有分意浄）という 6 種類の Pasāda dhātu（浄要素）がより鮮明に解るようになってきます。何度も何度も

交互に Ajjhatta と Bahiddhā の Rūpa と Nāma を修習することにより光の強さが強くなった時に、「自分の Rūpa と Nāma はどのような原因で現れたのか観たい。」と Adhiṭṭhāna （決意）をします。

このように強い光で自分の智慧を過去に伸ばしていきます。つまり Citta を過去に集中して強い光を射して観ます。強い光により自分の周りも光り、心が集中している過去もよく光って観えるようになります。自分の過去を光で集中して観ているとある Yogī には Saṅkhāra など過去の原因が現れることがあります。

以上の方法は Abhidhamma Aṭṭhakathā2-241,Majjhimanikāya Aṭṭhakathā1-281 に書かれた方法です。

この方法により過去をうまく観ることができない Yogī にはもう一つの方法があります。それは Visuddhimaga Aṭṭhakathā の Pubbenivāsānussati abhiññā に書かれている方法です。

この修習方法は現在の Bahiddhā の Rūpa と Nāma を観ながら少しずつ現在から近い過去を観ていく方法です。近い過去から少しずつ過去に戻って観ていきます。この方法で修習していくとほとんどの Yogī は成功する確率が高くなります。

この方法でもうまく出来なかった場合はもう一つの方法があります。

Paṭiccasamuppāda の 4 つの修習法の中の 4 番目の修習法です。 Paṭiccasamuppāda の真ん中の Kamma vaṭṭa（業輪転）という Āhāra4 種類から Avijjā までの原因と結果を観る方法です。しかし、この方法で修習する場合は Paṭiccasamuppāda desanā（縁起の教説）をよく理解していなければなりません。

●実践修習●ほとんどの Yogī が上手く観ることができるようになる Pubbenivāsānussati abhiññā に書かれている方法

Yogī は実践する直前に仏陀にろうそくなどの明かり、水、花、食事などの供養をしてから自分が将来なりたいものを願います。願いは人それぞれですから自分の好きなことを願います。この本にある例えでは、来世は比丘になりたい、きれいな女性になりたい、男性になりたい、などです。そして願ったことをよく覚えておいてください。それは輪廻を回す Kusala Kamma を作らなければこの方法で過去を観ることができないからです。それを Vaṭṭa nissita kusala（輪転依所善）と言います。その Kusala が Samudaya Sacca のことです。その Samudaya Sacca の原因で Dukkha Sacca が現れることを観ます。直前に仏陀供養をして Vaṭṭa nissita kusala を一つ作るのはこのためです。

第四禅定の Samādhi を作ります。Samādhi が強くなったら Ajjhatta と Bahiddhā の Rūpa と Nāma をよく観てください。特に Dhammārammaṇa line に含まれている Kusalajavana vīthi citta をよく観て修習してください。もし Samatha yānika であれば Jhānajavana vīthi に含まれている Jhāna dhamma をよく観てください。そのように修習して

いると Samādhi の力と光が強くなってきます。強くなった光で瞑想する直前に行った仏陀を供養している Kusala なことをしている身体の Rūpa とその時の願いの Nāma を集中して観てください。Rūpa は Hadayavatthu（心基）を観て 63 種類の Rūpa dhamma を四界分別でよく観てください。Rūpa の修習ができたら Hadayavatthu を頼って現れている Bhavaṅga citta をよく観てそこに含まれている Nāma dhamma の心と心所を観てください。さらにこの Bhavaṅgamanapasāda dhātu という Citta と Citta の間に現れている Vīthi citta のプロセスもよく観てください。この Vīthi citta に含まれている心と心所もよく観てください。その後、その Citta が修習の直前の仏陀供養の時の願いの Citta と同じかどうか確認します。確認できたらそれは自分の一番近い過去を観ることに成功したことになります。このように少しずつ後ろに下がり修習していきます。

Samatha 瞑想に成功している Yogī であれば来世は梵天界に生まれ変わることができます。Samatha yānika は自分の生まれ変わりたい界に行ける禅定に入ります。梵天界に生まれ変わりたいのであれば梵天界に生まれ変わりたいと願ってから第四禅定に入定します。その時の願っている心は 3 つの Kilesa vaṭṭa（煩悩輪転）を作っていることになります。Jhāna に入っていることは Saṅkhāra と Kamma という Kamma vaṭṭa を作っています。Kilesa vaṭṭa という Nāma dhamma と Kamma vaṭṭa という Nāma dhamma その両方が頼っている Hadayavatthu をよく観なければなりません。第四禅定に入る前に願ったことと調べた Citta が一致していれば一番近い過去を観ることに成功したことになります。

このように過去の Rūpa と Nāma を観る修習をする時は Hadayavatthu にある Rūpa と Bhavaṅgamanapasāda を中心に観ることが大切です。

2. Kilesa vaṭṭa（煩悩輪転）と Kamma vaṭṭa（業輪転）について

Saṁsāra（輪廻）に巻き込まれる Saṁsāra vaṭṭa（輪廻輪転）があります。それらは Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma です。

Avijjā、Taṇhā、Upādāna を Kilesa vaṭṭa dhamma と言います。

Saṅkhāra と Kamma は Kamma vaṭṭa dhamma と言います。

Avijjā は Avijjā 一つだけが力を持ち現れる訳ではありません。Taṇhā、Upādāna もそれぞれ一つだけが力を持って現れる訳ではありません。それらは同時に現れた Dhamma です。そのように理解した上で、「～～になりたい。」と願ったことは Taṇhā により現れ、それは Upādāna でもあるのです。

Majjhimanikāya1-67,68 には Avijjā（無明）の原因で Āsava dhamma（流漏法）が現れます、Āsava dhamma（流漏法）の原因で Avijjā（無明）が現れます、と書かれています。

要するに Avijjā と Āsava dhamma はお互いに支えあい現れているのです。ですから、Āsava dhamma とは Avijjā、Taṇhā、Upādāna を含み、それを Kilesa vaṭṭa とも言います。

この Kilesa vaṭṭa dhamma は一つの Cittakkhaṇa に共に現れることもあれば別々の Cittakkhaṇa に分かれて現れることもあります。Paṭiccasamuppāda の場合「～～が欲しい。」という欲の Lobha diṭṭhi group で現れる場合が多いです。時には Lobha māna group で現れます。時には Sasaṅkharika（有行）で現れることもあれば Asaṅkharika（無行）で現れることもあります。Somanassa sahagataṃ diṭṭhigata sampayuttaṃ asaṅkharikaṃ lobha mūla citta で現れた心と心所は 20 個です。Kamma vaṭṭa dhamma も Saṅkhāra が一つだけの力で現れるのではなく、また Kamma が一つだけの力で現れるのではなく両方同時に現れます。Somanassa sahagataṃ ñāṇa sampayuttaṃ asaṅkhārarikaṃ mahā kusala citta は 34 個です。

このように Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa をよく観てください。Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa は一人ひとりそれぞれの願いにより現れ方に違いがあります。

前述の実践の前に仏陀へ供養して願ったことを例として Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa の説明をします。

〇Kilesa vaṭṭa 3 種類　仏陀へ供養した時の願いにより現れます。

1）Avijjā:　Lobha diṭṭhi group の心と心所 20 個が含まれています。
来世は比丘になりたい、きれいな女性になりたいなど間違って知ること。

2）Taṇhā:　Lobha diṭṭhi group の心と心所 20 個が含まれています。
来世は比丘になりたい、きれいな女性になりたい、などと欲していること。

3）Upādāna:　Lobha diṭṭhi group の心と心所 20 個が含まれています。
来世は比丘になりたい、きれいな女性になりたい、などと何度も何度も執着していること。

この Kilesa vaṭṭa を作ったことにより Javana には Lobha diṭṭhi group の 20 個の心と心所が含まれるのです。Nāma 瞑想修習で説明したように Pīti の有無、Sasaṅkharika か Asaṅkharika により時には 19 個、21 個、22個の心と心所になります。一人ひとり現れる数はこのように違ってきますからしっかりと確認をしてください。

〇Kamma vaṭṭa2種類　仏陀へ供養したことにより現れます。

1）Saṅkhāra:　Kusala group の心と心所34個が含まれています。
仏陀へ花などの供養をした Kusala cetanā により Somanassa sahagataṃ ñāṇa sampayuttaṃ aSaṅkhārarikaṃ mahā kusala citta の34個になります。

2）Kamma:　Kusala group の心と心所34個が含まれています。
Saṅkhāra を作っている Kamma の力 Kamma satti です。

Kilesa vaṭṭa という Avijjā、Taṇhā、Upādāna はおおよそ Manodvārāvajjana 1 回、Javana7回として現れます。自分の願いに対象している Rūpārammaṇa をしっかりと対象出来たら Tadārammaṇa に落ちる場合もあります。それぞれ Javana に Lobha diṭṭhi group の 20 個（19、21, 22 個）の心と心所があります。

Kamma vaṭṭa という Saṅkhāra と Kamma は Mahākusala manodvārikajavana vīthi citta のプロセスです。Pīti と Ñāṇa が含まれていれば 34 個になります。Somanassa sahagataṃ ñāṇa sampayuttaṃ asaṅkhārarikaṃ mahākusalajavana citta をよく調べてください。

Kamma を作った時の自分の身体の Rūpa と Nāma にどのような心と心所が現れるかよく観てください。それぞれの Yogī により Kusala javana は Somanassa の場合もあれば Upekkhā の場合もあります。智慧が含まれている Ñāṇa sampayuttaṃ の場合もあれば智慧が含まれていない Ñāṇa vippayuttaṃ の場合もあります。Sasaṅkhārarika citta の場合もあれば Asaṅkhārarika citta の場合もあります。

これらのことをよく修習できたら Kusalajavana cetanā あるいは Saṅkhāra Dhamma は生まれては消えていく Anicca であることを観ます。この Citta は Uppāda（生）、Ṭhiti（住）、Bhaṅga（滅）を繰り返し一瞬で現れ一瞬で消えていきます。このように一瞬で消えて行きますが、しかし、この Kamma の力が完璧になり熟した時に願ったことが現れてきます。Kamma は自分の中に Kamma の力として埋め込まれ Kamma の力が熟した時に結果を現します。その Kamma の力を Kamma satti と言います。それを Nānākkhanika kamma satti（異刹那業効力）と言います。

禅定を得て梵天界を願う Yogī も同じプロセスを観ます。

〇Kilesa vaṭṭa3種類

1）Avijjā:　Akusala group の心と心所20個が含まれます。
梵天として間違って知ること。

2）Taṇhā:　Akusala group の心と心所20個が含まれます。
梵天に生まれ変わりたいと欲すること。

3）Upādāna:　Akusala group の心と心所20個が含まれます。
梵天に生まれ変わりたいと何度も願い執着すること。

〇Kamma vaṭṭa 2種類

1）Saṅkhāra:　Kusala group の心と心所31個が含まれています。
梵天になりたいと願い第四禅定に入っている Kusala です。

2）Kamma:　Kusala group の心と心所31個が含まれています。
Saṅkhāra を作ったことにより現れた Kamma satti です。

Yogī は自分の願った時の対象の Nāma と Rūpa の Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa をよく区別して自分の智慧で観てください。Nāma と Rūpa の Ghana を完璧に見破り Paramattha Dhamma になるまで修習して自分の智慧でよく解るようにしてください。

自分の智慧で理解できたなら一番近い過去を観る修習に成功したことになります。できるならば、一世だけではなく自分の智慧で延ばせる範囲まで延ばして何世もの過去世を観る修習をしてください。

●実践修習●

Yogī が Ajjhatta と Bahiddhā を交互に Nāma と Rūpa を Nāmarūpa paricceda ñāṇa で修習していると強い光が現れてきます。この強い光を射して瞑想する前に願ったことをもう一度見たときその願っている姿が現れてきます。その現れた姿を四界分別瞑想します。Rūpa kalāpa が現れてきます。この願っている姿の Nāma と Rūpa を観ることは Bahiddha の Nāma と Rūpa を修習することと同じです。この Nāma と Rūpa も Paramattha dhamma で観えるまで修習します。これは Ajjhatta と Bahiddhā の Nāma と Rūpa を交互に修習している Yogī にとってはさほど難しいことではありません。六門四十二身分にあるすべての Rūpa kalāpa dhamma を観てよく修習してください。特に Hadayavatthu にある 63 種類の Rūpa dhamma を優先に観てください。Hadayavatthu を頼って現れている Bhavaṅgamanapassāda dhātu つまり Manodvāra を観てください。Bhavaṅgamanapassāda dhātu の間々に Hadayavatthu を頼って現れた Nāma と Rūpa をよく観てください。その現れた Nāma dhamma と瞑想前の願った姿や昨日の自分の姿の Rūpa と Nāma を観て修習します。さらに一昨日、先週、先月、昨年、自分の届く範囲の過去世、最低でも過去 5 世まで下がって、現れた自分の姿の Rūpa と Nāma を四界分別で分析して観ます。Paramattha dhamma が観えるまで修習します。なるべく自分の姿の一つ一つを綿密に細かく観てください。そのように観ているとそれぞれの時の色々な姿がきます。時には Akusala を作り、時には Kusala を作り、時には納得している姿、時には納得していない姿、時には喜んでいる姿、時には悲しんでいる姿が現れます。そのように現れた姿をすべて四界分別で分析して Rūpa と Nāma を観ます。年齢を下げて観ていきます。さらに誕生から母胎に入った時の Kalala（精子と卵子の結合時の泡のような状態）いう最初の一日の物質を観ます。なるべく綿密に下がって観てください。実践している Yogī たちの話ではその時自分自身が若くなって来たような感覚になると言われています。姿を観ることが大事なのではなくその姿に含まれている Paramattha dhamma をよく観ることが大事です。姿形が観えずに Paramattha の Rūpa と Nāma のみが観えるとより良いです。Kalala の Rūpa と Nāma をよく観てください。

3. 過去世の Maraṇāsanna（臨終）を観る

次に過去世を観ます。人間の場合、母胎に入った Paṭisandhi kalala の時になると 3 つの Rūpa kalāpa が現れます。それらは下記の 3 種類です。

〇Hadaya dasaka kalāpa……..10 種類の Rūpa が含まれています。

〇Kāya dasaka kalāpa.....10 種類の Rūpa が含まれています。

〇Bhāva dasaka kalāpa.....10 種類の Rūpa が含まれています。

このように Kalāpa として 3 種類、Rūpa として 30 種類が含まれています。これらはそれぞれの人の過去世の Kamma により数に違いがあります。

Somanassa vedanā で Paṭisandhi に入った Tihetuka puggala（三因者）であれば、その Citta は Somanassa sahagataṃ ñāṇa sampayuttaṃ mahāvipāka citta で 34 個の心と心所が含まれています。このように母胎に入った時の Rūpa と Nāma の Paramattha dhamma がよく観えるまでしっかりと修習してください。

Abhidhamma Aṭṭhakathā2-241,242 には次のような説明があります。

Yogī は自分の智慧で Rūpa と Nāma を区別して確認してください。Rūpa と Nāma を直接支えている Hetuka（原因）、別の言い方では Janaka dhamma（令生法）という原因が無くて、あるいは Upaṭṭhambhaka（支持）という原因が無くて現れているのではありません。支える原因があり現れてきます。その原因という Paccaya Dhamma つまり Upaṭṭhambhaka Dhamma（支持法）があります。Hetuka Dhamma あるいは Janaka Dhamma とは何かをよく知りたいという気持ちで過去世に自分の智慧を延ばして確認して観ます。Maraṇāsanna の時に現れた Rūpa と Nāma をよく観ると Maraṇāsanna javana が対象としている Kamma あるいは Kamma nimitta あるいは Gati nimitta の3種類の中のいずれかの 1 種類が現れてきます。それをよく調べてください。

ここに書かれているように Maraṇāsanna の時の Rūpa と Nāma を修習できればその Maraṇāsanna javana が対象としている Kamma、Kamma nimitta、Gati nimitta の中のいずれか 1 つが現れます。その Maraṇāsanna javana の Nimitta は結果を現す Kamma satti によって現れた Nimitta です。Nimitta が見つかれば現世の Paṭisandhi の五蘊とそれぞれの Vipāka khandha の原因である Saṅkhāra と Kamma が確実に見つかります。Saṅkhāra と Kamma を見つけたらそれらと一緒に現れている Avijjā、Taṇhā、Upādāna も見つかります。その Avijjā、Taṇhā、Upādāna もよく観てください。もし Yogī が過去の原因を智慧で確認する時に Maraṇāsanna rūpanāma を見つけられずに死の直前の姿が観えた場合は死体を四界分別してください。Rūpa kalāpa を見つけたらそれを自分の智慧でよく区別してください。そこには Utuja ojaṭṭhamaka paramattha rūpa kalāpa（第一義時節

生食素八法聚）が含まれています。それをよく観てください。死体には Utuja ojaṭṭhamaka rūpa kalāpa しかありません。透明な Rūpa kalāpa が観える Yogī もいます。それは死体に生きているウジや虫などが付いていると Kāya pasāda のような物質が観えることもあるからです。しかし死体は Utuja ojaṭṭhamaka rūpa kalāpa なので通常は不透明な kalāpa しか観えません。死体の Rūpa を観て分析してさらに近い過去を集中して観ると死の直前の姿が現れます。Maraṇāsanna（臨終）の時の Javana が現れます。それをよく観ます。もし観えなかったら死直前の Hadayavatthu をよく観ます。Hadayavatthu を頼って現れた Bhavaṅgamana pasāda をよく観ます。Bhavaṅgamana pasāda を前や後に動かして何度も何度も観てください。そのように観ていると死の直前に現れる Kamma、Kamma nimitta、Gati nimitta の中のいずれかが Maraṇāsanna javana に現れたことが観えます。

Pa-Auk 大長老が大勢の修行者を調査したところ、大半の Yogī は Kamma、Kamma nimitta、Gati nimitta の三種類の中の Kamma か Kamma nimitta が対象に観えることが多く、Gati nimitta が対象に観える Yogī は少ないことがわかりました。ほとんどの人は Kamma か Kamma nimitta が対象として現れるということです。この Maraṇāsanna に現れる Nimitta については Abhidhammattasaṅgaha の Vīthimutta saṅgaha vibhāga（摂離路分別）Mm.90 に書かれています。

死の直前に現れた Kamma か Kamma nimitta が対象として現れた時は過去にその Kamma を作った時と同じ形が現れてきます。死の直前に過去に作った Kamma を再現している感覚です。その対象として現れた Kamma あるいは Kamma nimitta をよく観てそこにある Rūpa と Nāma を智慧で区別してよく観ます。

4. Kamma の対象を調べる

Kamma を対象とした場合の調べ方は、過去世の功徳をしている姿を四界分別で良く観ます。Rūpa kalāpa を見つけたらその Rūpa の Paramattha dhamma が観えるまで修習します。特に功徳をしている時の Hadayavatthu にある 63 種類の Rūpa を優先して観てください。さらにその Hadayavatthu を頼って現れた Bhavaṅgamana pasāda dhātu をよく観てください。Bhavaṅgamana pasāda dhātu の間々に現れた功徳をしたときの Nāma dhamma を観ます。この功徳を作る前の Nāma dhamma、作っている最中の Nāma dhamma、作り終わった時に現れた Nāma dhamma をよく細かく観ます。Mahākusala manodvārika javana vīthi citta のプロセスが現れていることが観えます。どの目的で Kusala を作ったのかという Avijjā、Taṇhā、Upādāna のグループをよく観ます。Saṅkhāra と Kamma が現れたことも観えます。つまり別の言い方をすると Avijjā、Taṇhā、Upādāna

という Sampayutta dhamma と共に Kusala Saṅkhāra と Kamma を作ったことによる Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa を調べるということです。
［人間として生まれ変わる Saṅkhāra と Kamma は Kusala Saṅkhāra と Kusara Kamma です。ですから今は Kusala Saṅkhāra と Kusara Kamma についてのことを説明しています。そのことをよく注意してください。］

5. Pa-Auk 大長老が選んだ Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma をよく理解するための経典 2 話

一話目は Sumana 王女のお話です。
Sumana 王女は Kosala 国王の娘です。Sumana 王女は過去世で Vipassī Buddha の時に Vipassī Buddha と Sangha に Sumana という花（タイワンソケイ別名ジャスミン）と食事のお布施をしました。そのお布施の後で次のような願い事をしました。「仏陀よ、生まれ変わるたびに良い暮らしができますように。Sumana の花のように大勢の人々から愛されますように。Sumana という名前の王女に生まれますように。」［Sumana 王女がこのように願ったということは Aṅguttaranikāya Aṭṭhakathā3-13,14 に記載。］
この Sumana 王女の過去世の女性がお布施をして願ったことは Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa の両方が含まれていることになります。
Kilesa vaṭṭa の Avijjā は Sumana 王女になりますようにと間違って知ること 。
Taṇhā はそのような自分が願った女性になりたいと欲しがること。
Upādāna はそのような女性になりたいと何度も執着していること。
Kamma vaṭṭa の Saṅkhāra は Vipassī Buddha と Sangha にお布施をした Kusala Cetanā。
Kamma は Kusala cetanā のグループにある Kamma satti。
このように Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa が揃い 5 つの原因で Kosala 国王の娘として生まれ変わりました。Sumana 王女という Vipāka khandha を得られたわけです。
［Aṅguttaranikāya Aṭṭhakathā3-13,14 に記載。］

もう一話は Anojadevī 王妃のお話です。
Anojadevī 王妃は Mahākappina 王の王妃です。Anojadevī 王妃は過去世ではある村で生地を織る仕事をしている女性でした。それは Kassapa Buddha の時代でした。その時その女性は村人と共に Kassapa Buddha に大きな Kuti をお布施しました。Anoja という花と自分で織った生地で作った袈裟もお布施しました。その後、その女性は次のような願いをしました。「仏陀よ、生まれ変わるたびに Anoja の花のように美しくなりますように。Anoja という名前の女性に生まれ変われますように。」

このことにより Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa が生まれました。

Kilesa vaṭṭa の Avijjā は Anoja の花のような女性になりたい、Anoja という名前の女性になりたい、と間違って知ること。

Taṇhā はそのような自分の願った女性になりたいと欲しがること。

Upādāna はそのような女性になりたいと何度も執着すること。

Kamma vaṭṭa の Saṅkhāra は Kassapa Buddha と Sangha に大きな Kuti をお布施して自分たちが織った生地で作った袈裟をお布施した Kusala cetanā です。

Kamma は Kusala cetanā group にある Kamma satti です。

Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa が揃い 5 つの原因で Mahākappina 王のお后様、Anojadevevī 王妃になることができました。お釈迦様の時代に Mahākappina 王様と Anojadevī 王妃は阿羅漢となり悟りを開きました。阿羅漢になった時 Anojadevī 王妃は Anojadevī Therī（長老尼）と変わり自分の過去世の話をされました。［Dhammapada Aṭṭhakathā1-353 に記載］

6. どのように功徳をすると願いが叶うのか？

Dāna の功徳をして願いが叶うためには次の 5 つの条件が揃わなければなりません。

1） Dāna をする人がしっかりと戒律を護っていること。受戒を護ること。
2） Dhammiyaladdha というきれいなお布施であること。
3） 心が清らかなこと。
4） カルマとカルマの結果を信じる Sadha（信）を強く持つこと。
5） Dāna を受ける方の人が戒律を護ってきれいなこと。

この 5 つが揃うとこの Dāna をしたことによる大きな利益を得ることができます。

以上のことは Dakkhiṇavibhaṅga sutta に書かれています。また Aṅguttaranikāya 3.71 には次のようにこの5つの条件が揃った Dāna をすることにより大きな利益を得られることが書かれています。

Ijjhati bhikkhave sīlavato cetopaṇidhi visuddhattā.

戒律を護っている人の願うことは成功します。

7. 実践修習している Yogī（修行者）の例 2 つ

ある Yogī が過去世の Maraṇāsanna の Rūpa と Nāma をよく観て Bhavaṅgamana pasāda に現れた Vīthi のプロセスを観る修習をしました。その時 Kamma の対象が現れてきました。それは一人の比丘に対して果物のお布施をしている、というものでした。

実践している Yogī には、以前に行ったことが今行っていることのように観えるのです。過去世の自分が比丘に果物のお布施をしている姿が観えたのです。その Yogī は過去世で貧しい村人で貧しさに苦しんでいました。その姿を四界分別で分析してみるとその時に願っていたことが観えました。それは生まれ変わったなら「学識がある都会の女性に生まれ変わりますように。」という願いでした。その願いの Vīthi citta プロセスの Kusala cetanā group にある Citta をよく調べました。Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa で観ました。

Kilesa vaṭṭa として Manodvārika javana vīthi に含まれている Lobha diṭṭhi group の心と心所 20 個が見つかりました。それらは、

Avijja は生まれ変わったら学識がある都会の女性に生まれ変わりますように、と願う間違って知ること。

Taṇhā はそのような自分の願った女性になりたいと欲すること。

Upādāna はそのような女性になりたいと何度も執着していること。

Kamma vaṭṭa として Manodvārika kusala javana vīthi に含まれている Sadha paññā group の心と心所の 34 個が見つかりました。それらは、

Saṅkhāra は比丘と比丘サンガに対して果物のお布施をしている Kusala cetanā。

Kamma は Kusala cetanā にある Kamma satti。

これらの 5 つの原因を観ることができました。

この Yogī は今生で、その時の願い通り都会の学識のある女性として生まれ変わりました。そしてその女性は瞑想して Paṭiccasamuppāda の修習をして Sammādiṭṭhi の智慧により Paṭisandhi の Vipāka khandha と過去の原因を観ることができました。このように原因と結果の繋がりをよく知る智慧は Paccaya pariggaha ñāṇa です。

もう一人別の Yogī の話です。この Yogī は過去世の Maraṇāsanna javana を観た時に Maraṇāsanna javana になる前と後ろに動かして何度も何度も調べてみました。この Yogī の場合は Maraṇāsanna javana になる直前に 4 つの Kamma が現れました。その4つの Kamma とは以下の 4 つです。

1）Pariyatti（聖典の勉強）を教えている。
2）瞑想を指導している。
3）自分自身が瞑想をしている。
4）説法をしている。

おそらくこの Yogī の過去世は比丘だと思いますが、このように 4 つの Kamma が同時に現れました。この Yogī は Maraṇāsanna javana の時を中心として何度も何度も前に戻って観たり後ろに下がって観たりしてその姿を四界分別して調べました。このように調べて現在の人間としての身体に生まれ変わった原因が解りました。Maraṇāsanna の時

に瞑想している Kamma が見つかりました。その Kamma をさらに詳しく調べてみると Vipassanā 瞑想の修習をしていたことがわかりました。なぜ Vipassanā 瞑想している Kamma が現在の原因になったのか調べると瞑想修習の前と後に次のような3つの願いをしたことがわかりました。

1） 私は人間として生まれ変われますように。
2） 比丘として生まれ変われますように。
3） 法を教えることができますように。

このようにこの Yogī は瞑想修習の度にその前と後にこの 3 つの願い事をしていました。この Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa は次のようなものです。

Kilesa vaṭṭa　心と心所 20 個

Avijjā は生まれ変わったら人間として比丘として法を教えられますように、と間違って知ること。

Taṇhā は人間になりたい、比丘になりたい、教えたい、という欲があること。

Upādāna は人間として比丘としての生に何度も執着していること。

Kamma vaṭṭa　心と心所 34 個

Saṅkhāra は Vipassanā 瞑想をしている Kusala Saṅkhāra group です。

Kamma は Saṅkhāra　34 個の Kamma satti です。

このように Vipassanā 瞑想をしていた時、5つの原因が揃い、この Yogī は現在人間として生まれ変わっていることがわかりました。

Vipassanā kamma はどのように Paṭisandhi を現すことができるのかについて書かれている経典があります。Saṃyuttanikāya 1-295 Cetanā sutta には次のように書かれています。

輪廻を回す Kusala cetanā、Akusala cetanā は無かったとしても、人間になりたい、天になりたいという Taṇhā diṭṭhi で願うことが無かったとしても、Anusaya dhātu という煩悩を Ariyamagga Dhamma（聖道法）によりそれらを切り離すことができず、Anusaya dhātu があるということは来世に結果を現す Kammaviññāṇa になる原因です。〔Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-66 に記載〕

これらの経典が示すように Vaipassanā を修習したとしても Anusaya dhātu がある限り新しい生を生む力があるのです。比丘になりたいと過去世で願った Yogī の例のように Vipassanā 修習ができたとしても人間になりたいという Taṇhā diṭṭhi があり、その Anusaya dhātu がある限り人間として生まれ変わります。

8. Kilesa vaṭṭa（煩悩輪転）と Kamma vaṭṭa（業輪転）についての補足説明

Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa の心と心所は 5 つだけで現れるのではなく他の Sampayutta Dhamma と一緒に現れます。その Sampayutta Dhamma が現れる時は Citta niyāma という決まった順番の Vīthi citta プロセスで現れます。Vīthi のプロセスは適当に現れる訳ではなく必ず決まった順番に現れます。Paṭisandhi という結果を現す力を持っている Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa は Manodvārika javana vīthi のプロセスのことになります。これとは別の Pañcadvārika javana vīthi は Pavatti（転起）という結果を現すことができますが Paṭisandhi の結果を現すことはできません。Paṭisandhi の結果を現すことができるのは Manodvārika javana vīthi のみとなります。Manodvārika javana vīthi は Paṭisandhi と Pavatti の両方の結果を現す力を持っています。つまり、人間や天界に生まれ変わることは Paṭisandhi の結果です。人間や天界で生きている時に現れている結果を Pavatti と言います。その Pavatti を支えている原因として Manodvārika javana と Pañcadvārika javana があるということです。

Kilesa vaṭṭa と Kamma vaṭṭa を理解するためにある Yogī の修習の例です。

ある Yogī が過去世の Maraṇāsanna javana を観たときに仏像に食事の供養をしている Kamma の映像が現れました。その姿の Javana vīthi をよく調べてそこに含まれている Avijjā、Taṇhā、Upādāna という Manodvārika javana vīthi のプロセスを観ます。もしも、観ることができなければ仏像に供養している姿を四界分別して分析して Rūpa paramattha Dhamma と Nāma paramattha Dhamma がよく観えるまで修習します。特に Hadayavatthu と Hadayavatthu を頼って現れる Bhavaṅgamana pasāda dhātu という Manodvāra を優先して観ます。供養する前、供養している最中、供養した後の Bhavaṅgamana pasāda dhātu を細かくよく観ます。すると Bhavaṅgamana pasāda dhātu の一つ一つの間々に供養している時の Manodvārika javana vīthi のプロセスを見つけることができます。そこに含まれる心と心所と願っている時の Avijjā、Taṇhā、Upādāna という Kilesa vaṭṭa と Saṅkhāra、Kamma という Kamma vaṭṭa をよく調べます。その Yogī が供養した時、涅槃を得られる比丘になりますように、あるいは女性になりますように、男性になりますようにと願った場合は次のようになります。

Kilesa vaṭṭa の Avijjā は涅槃を得られる比丘になりますようにと間違って知る。

Taṇhā は比丘になりたいなどと生を欲すること。

Upādāna は比丘になりたいなどという生に執着していること。

この Kilesa vaṭṭa はそれだけで現れる訳ではなく同時に Phassa、Vedanā、Saññā、Cetanā、Viññāṇa などの Saṃpayutta dhamma もすべての Cittakkhaṇa に現れます。これらは Lobha

diṭṭhi group の心と心所でおおよそ 20 個です。Pīti が無ければ 19 個になります。Sasaṅkhārarika の場合もあれば Asaṅkhārarika の場合もあります。Somanassa の場合もあれば Upekkhā の場合もあります。それぞれに心と心所の数は変わります。時には Lobha māna group の場合もあります。Diṭṭhi と Māna の両方が無く Lobha group のみの場合もあります。その時に現れた Vīthi citta のプロセスを観ると Manodvārāvajjana 1 回、Javana 7 回、時には Tadārammaṇa に落ちる場合もあれば落ちない場合もあります。比丘になりたい、女性になりたいなどと願っている姿に含まれている Rūpa と Nāma に執着があれば Tadārammaṇa に落ちる場合もあります。Manodvārāvajjana1 回には 12 個の心と心所が含まれています。Javana7 回は Lobha diṭṭhi group であれば 20 個が含まれています。Tadārammaṇa2 回に落ちた場合は 34 個が含まれています。Pīti の有無、somanassa か Upekkhā により 33 個、32 個になります。Ahetuka Tadārammaṇa の場合は 11 個あるいは 12 個になります。そこに含まれているすべての Vedanā は Vedanākkhandha です。すべての Saññā は Saññākkhandha です。そのほかの Cetasika は Saṅkhārakkhandha です。Citta は Viññāṇakkhandha です。このように Nāmakkhandha4 種類を調べることができます。この Nāmakkhandha4 種類は Hadayavatthu を頼って現れています。その Hadayavatthu をよく調べると 63 種類の Rūpa dhamma が含まれていることが解ります。63 種類の Rūpa dhamma は Rūpakkhandha です。Hadayavatthu の Rūpa dhamma には時には偽物の Rūpa が含まれていることもあります。

これらを合わせると Hadayavatthu という Rūpakkhandha1 種類と Manodvārāvajjana 1 回、Javana 7 回、Tadārammaṇa 2 回に含まれる心と心所の Vedanākkhandha、Saññākkhandha、Saṅkhārakkhandha、Viññāṇakkhandha の Nāmakkhandha4 種類の 5 種類になります。それを Pañcakkhandha（五蘊）と言います。

Manodvārāvajjana 1 回にも五蘊、Javana 7 回にも五蘊、Tadārammaṇa 2 回にも五蘊が含まれているということです。

Tadārammaṇa には Mahāvipāka tadārammaṇa もあれば Ahetuka kusala vipāka tadārammaṇa あるいは Ahetuka akusala vipāka tadārammaṇa の時もあります。ですから Tadārammaṇa の心と心所は 34 個の時もあれば、33 個、32 個あるいは 12 個、11 個の時もあります。Yogī は自分の智慧でこのように心と心所の数を調べなければなりません。

Yogī は過去世で作った Kilesa vaṭṭa の Avijjā、Taṇhā、Upādāna と Kamma vaṭṭa の Saṅkhāra と Kamma に含まれる Nāma ghana と Rūpa ghana のすべてつまり五蘊を一つ一つ区別して Paramattha dhamma を自分の智慧で観えるまで修習しなければなりません。これらの修習をすることにより Nāmarūpa pariccheda ñāṇa（名色限定智）と Nāmarūpa vavatthāna ñāṇa（名色確定智）という Vipassanā の智慧を得ることができます。

Kamma vaṭṭa についての説明をもう少しします。

仏像に供養しているときの Kusala cetanā は Saṅkhāra です。Saṅkhāra の Kamma satti は Kamma です。それらはその時により下記のように現れます。

1）供養している仏像を対象に Kusala javana vīthi が現れる場合。
2）供養しているお布施の品に対して Kusala javana vīthi が現れる場合。
3）供養している前後最中の Kusala cetahā により Kusala javana vīthi が現れる場合。

ですからどのような時に Kusala javana vīthi が現れているのかよく観てください。その Kusala javana が Somanassa vedanā と一緒に Ñāṇa sampayuttaṃ javna であれば 34 個の心と心所が含まれています。それを Saddhā paññā group と言います。

Vīthi のプロセスでみると Manodvārāvajjana1 回に心と心所は 12 個、Javana7 回には 34 個、Tadārammaṇa2 回に落ちた場合は 34 個、33 個、33 個、32 個、時には 12 個、11 個、11 個のすべての Nāmakkhandha4 種類が含まれています。その Nāmakkhandha が頼っている Hadayavatthu は Rūpakkhandha です。

Manodvārāvajjana の時に五蘊。

Javana7 回の時にも五蘊。

Tadārammaṇa2 回に落ちた場合も五蘊。

このように Vīthi プロセスには五蘊が含まれていることを確認します。すべての五蘊を区別して修習している Yogī は Nāmarūpa pariccheda ñāṇa と Nāmarūpa vavatthāna ñāṇa を得ることができます。

Kilesa vaṭṭa という五蘊、Kamma vaṭṭa という五蘊、それらは現在の人間になりたい、比丘になりたいという Paṭisandhi、Bhavaṅga、cuti という Vipākakkhandha（異熟蘊）という五蘊を現わす原因です。

その五蘊の Kusala javana にある Nāma dhamma 34 個などは Yogī が望んだ比丘としての五蘊つまり Rūpa と Nāma を現すように作る Dhamma なので Saṅkhāra といいます。Saṅkhāra は一つの生を現す原因になります。そのすべての Saṅkhāra Dhamma は Anicca です。つまり Saṅkhāra dhamma は作った後で消えて行きます。しかし、この消えて行く Saṅkhāra dhamma は Vipāka khandha、Kiriya khandha、Abyākata khandha のように力を無くして消えて行ったわけではありません。作った時の Kamma satti を Rūpa と Nāma に残して消えて行きました。その Kamma satti により人間としてあるいは比丘として生まれることになります。このように Saṅkhāra dhamma はただ消えて行ったのではなく Kamma satti を埋めて消えて行きました。

過去世で作った Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma の原因を調べて Kamma satti という Kamma と Paṭisandhi kalala の時に現れた Kammajarūpa30 種類（kalāpa として 3 種類）が一致しているか調べてみます。

過去に作ったKammaの原因でKammajarūpaが現れたならKammajarūpaの一つ一つは原因と結果として繋がっています。その繋がりがあるのかを調べなければなりません。Rūpa瞑想修習の時にCittaの原因でCittajarūpaが現れたことを観ました。同じようにKammaの原因でKammajarūpaが現れたことを調べます。過去世のKammaにより現在のKammajarūpaが現れたことを一つ一つ繋げて観て修習します。Kammaの原因によりKammajarūpaが連なって現れていることを実践しているYogīはSammādiṭṭhiの智慧でよく観えるように修習してください。

もしも調べたKammaとPaṭisandhi Kammajarūpaが原因と結果として繋がっていなければそのKammaの原因でKammajarūpaが生まれたのではないので、別のKammaを調べなければなりません。Maraṇāsannaの時のBhavaṅgamana pasāda dhātuに現れた対象は多量にあります。その時にBhavaṅgamana pasādaを前に伸ばしてみたり後ろに下げてみたり前後ろと細かく調べます。そのようにBhavaṅgamana pasādaを細かく丁寧に観ていると必ず現世を現す原因が見つかります。時には2，3個のKammaが現れる場合もあります。それらを細かく丁寧に調べてください。

Pa-Auk大長老はKammaについて次のような例えの話をされています。
Kammaというのは牧場のなかの牛のようなものです。牧場の柵の中にいる放し飼いの牛たちに餌を与えた時にその柵の中にいるたくさんの牛の中で力のある強い牛は餌の近くにいる弱い牛たちを押しのけて前にでて餌に近づくことができます。Kammaというのはその牛たちと同じようなものです。死の直前にたくさんの Kammaが現れてきますが一番力の強いKammaが弱いKammaを押しのけて出てくるのです。一番強いKammaが現世を現す原因としてあります。その Kammaを調べるためにはMaraṇāsanna javanaの時をよく調べると対象は一番強い Kamma であると観えるのです。その対象は Kamma、Kamma nimitta、Gati nimittaの3種類の中の一つになります。

Maraṇāsanna javanaの対象をよく調べた後、それと同じような Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kammaをさらに調べます。

Maraṇāsannaの時に多量のKammaが現れますが直接Paṭisandhiの結果を出すKammaはJanaka kamma（令生業）です。他のKammaはJanaka kammaを支えています。その支えているKammaはUpaṭṭhambhaka kamma（支持業）です。

Bhavaṅgamana pasādaにMaraṇāsannaの対象が現れたときにBhavaṅgamana pasādaを前に伸ばしたり後ろに下げたり前後をよく調べることが必要です。先にJanaka kammaではなくUpaṭṭhambhaka kammaが観える場合もあります。Upaṭṭhambhaka KammaはPaṭisandhi kammajarūpaを現すことはできません。Paṭisandhi kammajarūpaと対象して一致していない場合はUpaṭṭhambhaka kammaです。Janaka kammaのみPaṭisandhi

Kammajarūpa を現す力を持っています。Kamma が Janaka kamma なのか Upaṭṭhambhaka kamma なのかをよく調べなければなりません。それぞれの Kamma を Paṭsandhi kammajarūpa と一致しているか対象してみます。一致していればそれは Janaka kamma です。このように調べる智慧を Paccaya pariggaha ñāṇa と言います。
現在の自分を現した Kamma はどれなのかを調べなければなりません。Janaka kamma をうまく見つけられずに Upaṭṭhambhaka kamma が先に見つかる場合もあります。その場合は Janaka kamma を見つけるまで探さなければなりません。Maraṇāsanna javana の時に近くに Kamma はたくさん現れますが最終的に対象となるのは一つの Kamma です。その Kamma が Kamma として現れるのか Kamma nimitta として現れるのか Gati nimitta として現れるのか、いずれか一つの Nimitta が Maraṇāsanna javana の対象となるのです。それが現世を現す原因になります。

9. Nimitta は変えることができる例え

Maraṇāsanna javana の時に Kamma、Kamma nimitta あるいは Gati nimitta が現れます。時には Yonisomanasikāra、時には Ayonisomanasikāra の原因により Nimitta を変えることができます。このことについての経典からの引用です。

Soṇa という名前の阿羅漢比丘が Soṇa 山の麓のアチラ森に住んでいました。その比丘の父親は狩人でしたが年を取ってから Soṇa 比丘のところで比丘になりました。父親は在家の時に長い間狩人だったので死の直前に地獄の Nimitta が現れました。死の直前には Gati nimitta が見えました。行先は Niraya（地獄）でした。Soṇa 比丘は阿羅漢でしたから父親の Gati nimitta を観ることができて父親が死後地獄に落ちることが解りました。Soṇa 比丘は父親の Nimitta を変えようと思い、お寺の Cetīya（塔）に花を供えてから父親をそこに運びました。父親のために Cetīya に花の供養をしたので観るように言うと父親は、それを観て喜びました。その喜びで Nimitta が変わりました。地獄の Nimitta から天界の天人の姿や天人の住まいなどの Nimitta に代わったのでした。その Nimitta を観て Soṇa 比丘はこれで父親の来生は安全だろうと安心しました。

この話は Abhidhamma Aṭṭhakathā2-240,241 に書かれています。このように Nimitta が変わり生まれ変わる先が変わった事例もあるのです。

この話のように Maraṇāsanna の時に現れた Nimitta は Yonisomanasikāra であるか Ayonisomanasikāra であるかにより変えることができるのです。このように Nimitta が変わることがありますから Pa-Auk 大長老も皆さんにそのことに注意しておいてください、とおっしゃっています。

10. 原因と結果の繋がりを理解する

Maraṇāsanna の時の Nimitta を基本として過去の原因を調べます。

前述の比丘の例のように仏陀にお布施をしている Nimitta が現れた場合にその姿にある Rūpa と Nāma に含まれている Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma を調べます。さらにその Kamma satti と Kalala（受胎）の時に含まれている Rūpa30 種類と Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma の繋がりを調べます。つまり過去の原因の 5 つである Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma を観たり Kalala の時の Rūpa30 種類を観たり、過去の原因と現在（Kalala の時）の結果を何度も何度も確認してそれらが一致しているか観る訳です。Nāma 瞑想の時に Cittaja rūpa は Citta の原因で現れることを観ました。Kammaja rūpa は過去の Kamma の原因で現れます。過去の Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma の原因で現在の結果が現れることを自分の智慧で解るように修習します。そのように修習していると原因と結果の繋がりを理解してきます。Avijjā20 個が現れたことにより Paṭisandhi kammaja rūpa が現れます。Avijjā20 個が原因で Paṭisandhi rūpa は結果です。自分の智慧で理解するように何度も原因と結果の繋がりを観て確認します。その修習で得た智慧を Paccaya pariggaha ñāṇa（縁摂受智）と言います。原因の Dhamma と結果の Dhamma の繋がりを理解することです。

11. Vipāka vaṭṭa（異熟輪転）について

現在の Vipāka khandha つまり五蘊は過去の Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma という原因により現れます。

Vipāka rūpakkhandha の過去の原因は Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma です。Paccuppanna（現在）の原因の中には Cittaja（心生）、Utuja（時節生）、Āhāraja（食素生）もあります。

Vipāka nāmakkhandha 4 種類も過去の Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma の原因で現れます。現在の Vipāka nāmakkhandha の原因は Vatthu, Ārammaṇa, Phassa です。

Upādāna、Saṅkhāra、Kamma の原因で現在の結果が現れることを自分の智慧で理解します。 以上のことをもう少し詳細に説明します。

◎Rūpakkhandha

1）Rūpakkhandha に含まれる Kammaja rūpa は過去の Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma の原因で現れます。
2）Cittaja rūpa は Hadayavatthu を頼って現れた Citta の原因により現れます。

3）Utuja rūpa はすべての Rūpa kalāpa の生住滅の住の時に含まれている Tejo dhātu（Utu）の支えにより現れます。（例外として最後の Kalāpa には Utu の力は無くなるので最後の Rūpa kalāpa からは生まれません。）

4）Āhāraja rūpa は kammaja ojā、Cittaja ojā、Utuja ojā という Āhāra が原因で現れます。

以上のことは Rūpa 瞑想修習の修習法を参照しながら修習してください。

◎Nāmakkhandha 4 種類

Paṭisandhi、Bhavaṅga、Cuti という Vīthimutta citta に含まれている Vipāka nāma khandha 4 種類と Cakkhuviññāṇa など Pañcaviññāṇa、Sampaṭiccana、Santīraṇa、Tadārammaṇa などの Vīthi citta に含まれている Vipāka nāmakkhandha 4 種類、この Vīthimutta citta と Vīthi citta の両方に含まれる Vipāka nāmakkhandha 4 種類の過去の原因は Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma です。現在の原因は Vatthu（基）、Ārammaṇa（所縁）、Phassa（触）です。それらを説明すると、

○Vatthu:　Citta が現れる場所です。私たち人間は Vatthu という Rūpa が無いと Nāma dhamma が現れることはありません。Vatthu のある人間界や天界を Pañcavokāra bhūmi（五蘊がある生き物の地）といいます。

○Ārammaṇa:　それぞれ対象が Dvāra に現れた時に Nāma dhamma が現れます。例えば眼門に何かを見た時現れる対象のことです。Ārammaṇa が無ければ知るという Nāma dhamma は現れません。

○Phassa:　すべての Sampayutta dhamma あるいはすべての Nāma khandha4 種類はお互いに支えて Nāma dhamma が現れてきます。Paṭṭhāna（発趣論）の中で Sahajāta（倶生）、Aññamaññа（相互）、Nissaya（依止）、Atthi（存在）、Avigata（不離）など Paccaya satti（縁効力）でお互いに支えています。1つの khandha が現れるために他の 3 つの Khandha がお互いに支えていることです。Khandha の中では対象を取る時に Phassa が Padhāna（主）となっています。ですから Phassa を主として観ます。

12. Vīthi citta を観る時の注意点

Pañcaviññāṇa、Sampaṭiccana、Santīraṇa、Tadārammaṇa などの現在の結果としての Pavatti vipāka viññāṇa（転起異熟識）と Paṭisandhi、Bhavaṅga、Cuti という Vīthimutta citta は Janaka kamma が直接支えているので現れます。Pavatti vipāka を現す別の新しい Janaka kamma もあります。 その支えている Kamma は Kusala kamma もあれば Akusala kamma もあります。例えば Kusala kamma の原因で Kusala vipāka の Pañcaviññāṇa、Sampaṭiccana、Santīraṇa、Tadārammaṇa が現れてきます。Akusala

Kamma の原因で Akusala vipāka の Pañcaviññāṇa、Sampaṭiccana、Santīraṇa、Tadārammaṇa が現れます。

Iṭṭhārammaṇa（好ましい対象）であれば Kusala vipāka が現れ、Anīṭṭhārammaṇa（好ましくない対象）であれば Akusala vipāka が現れます。一般的な Yogī は Kamma の結果をすべて見通すことはできず一部しか観えません。過去を調べる時は過去の五蘊に現在の結果を現すのはどのような原因なのかをよく調べなければなりません。

Pañcadvāra vīthi に含まれている Pañcadvārāvajjana と Voṭṭhapana、Manodvāra vīthi に含まれている Manodvārāvajjana の 3 種類の Citta は Kiriyā citta（唯作心）です。対象が現れた時にただ確認するのみなのでその Citta は Kiriyā citta です。その Citta は過去の原因で現れた Citta ではありません。Dvāra と Ārammaṇa が接触した時に現れた Citta です。Vatthu、Ārammaṇa、Phassa などの Paccuppanna の原因で現れた Nāma dhamma です。ですからこの 3 種類の Citta の過去を調べてもありません。同じように Kusala javana などは Vatthu、Ārammaṇa、Phassa、Yonisomanasikāra の原因で現れてきます。Akusala javana などは Vatthu、Ārammaṇa、Phassa、Ayonisomanasikāra の原因で現れてきます。原因は過去にありません。この Nāma dhamma は過去の原因で現れた Nāma dhamma ではありません。Kusala javana、Akusala javana の Nāma dhamma には現在の原因のみあります。そのようによく知ってください。

13. Paṭiccasamuppāda（縁起）の修習のための4つの大事な法則

1） Ekatta（同一）の法則
2） Nānatta（種々）の法則
3） Avyāpāra（不作為）の法則
4） Evaṃdhammatta（如是法性）の法則

1）Ekatta（同一）の法則

（1）過去に原因を作った Atīta（過去）の Rūpa と Nāma。
（2）Paccuppana paṭisandhi（現世の受胎）から現在まで現れている Rūpa と Nāma。
（3）現世で阿羅漢にならなかった場合には現在から阿羅漢になるまでの Anāgata（未来）の Rūpa と Nāma。

この Atīta、Paccuppana、Anāgata の3つの期間に存在している Rūpa と Nāma のすべてを修習しなければなりません。それらが一本の糸のように繋がっていることを自分の智慧で観ること。それは Nicca の継続ではなく Anicca の繋がりです。それらは常に繋がっているのではなく生まれては滅し，生まれては滅している Anicca です。その要素をよく観ます。私たち人間は過去世で良い Kusala kamma を作ってきたので現世で人間に生まれ

ました。その Kusala kamma を作った時の Bhavaṅgamana pasāda を良く観て修習します。さらに現在ある Rūpa と Nāma と繋がりがあるかよく観ます。つまり過去に作った Kusala kamma の原因と現在現れている Rūpa と Nāma が一本の糸のように繋がっていることを観ます。その Santati（相続）を智慧で観なければなりません。Santati は Anicca として現れています。過去の Bhavaṅgamana pasāda に含まれる Rūpa と Nāma と現在の Bhavaṅgamana pasāda rūpa に含まれる Rūpa と Nāma が一本の糸のように繋がっていることをよく観ます。なぜ Bhavaṅga を重視するのかと言えば私たち人間は Bhavaṅga citta が多いので Bhavaṅga を主として観るのです。

Mūla ṭīkā1-125 には Akusala citta と Cetasika 以外のほとんどの Citta は鮮明です、と書かれています。元々鮮明な Bhavaṅga citta の間にある Vīthi citta も鮮明であるということです。ほとんどすべての Citta は Sabhāva paṅḍara（天然の白）です。Yogī は自分の鮮明な Nāma santati つまり Citta の継続しているプロセスをよく観なければなりません。

縁起の修習をしている Yogī たちは過去の習慣などは現在に繋がっていることが観えると言います。過去世で作った Kusala kamma の Rūpa と Nāma の Santati に含まれている Bhavaṅgamana pasāda をよく確認してそれが現在の自分にあるか調べます。現在の Rūpa と Nāma と過去の Rūpa と Nāma が繋がっているか調べるのです。一致していたらそれは過去の自分であるということです。そのような修習を何度も何度もしていると自分の現在と過去が繋がっていることが容易に解るようになります。Yogī たちには過去世の Bhavaṅgamana pasāda に含まれている Citta の要素は現在の Citta の要素と同じであることが観えるといいます。つまり自分の過去世にあった習慣などは現在の自分の心にも現れているのです。過去世に悪いことを習慣としていれば現在もそのようなことがある訳です。ですから過去の悪い習慣を無くして Vipassanā 瞑想などのよい習慣に入れ替えて修業を続けていかなければなりません。

難しくて難しい、深くて深い、縁起の修習とはどのようなものなのか Pa-Auk 大長老が例を挙げています。その中から2つの例をお話します。過去から現在までの Rūpa と Nāma を修習する場合は過去のすべてを調べます。

ある Yogī は過去を観ると、何も見えずまぶしい光しか見えないこともあります。知識がないとこの光が何であるか解らなくなります。光を見た場合はどうしたらよいのでしょうか。このような光を見た Yogī は天界あるいは梵天界から生まれ変わったのであろうと思われます。それが事実か確認しなければなりません。まず、Ajjhatta（内）と Bahiddhā（外）にあるすべての Rūpa dhamma と Nāma dhamma を確認します。Bahiddhā の Rūpa と Nāma を観る時は特に天界や梵天界を観ます。この Yogī の場合は Rūpa と Nāma の

Bahiddhā の修習の時に大まかな修習をして縁起の修習をしたのではないかと思います。特に Bahiddhā の天界、梵天界の Rūpa と Nāma をよく調べます。人間よりも天人の方が Kamma の力が強く身体も微細で優れているので天人は光って観えます。天人よりも梵天のほうがより微細な物質で光が強くなります。天人や梵天は人間とは違う光を持っています。天人や梵天は物質的にも優れていて大きく、光も強く出ています。このような光を見た Yogī は Bahiddhā の修習をやり直して Ajjhatta と Bahiddhā を交互に何度も何度も修習しなおします。Samādhi の力が足りなければもう一度自分の好きな Samādhi を作り直してから何度も何度も Rūpa とNāma の確認をします。天人には五蘊がありますが梵天には一部の Dvāra はありません。梵天には Ghāna dasaka kalāpa（鼻十法聚）、Jivhā dasaka kalāpa（舌十法聚）、Kāya dasaka kalāpa（身体十法聚）、Bhāva dasaka kalāpa（性十法聚）の 4 種類はありません。それらがあるかないかにより天人か梵天かを確認できます。これらを理解するために Abhidhamma の知識をつけておかなければなりません。天人には Kammaja、Cittaja、Āhāraja の Kalāpa が含まれています。梵天にはすべては含まれていません。Bahiddhā を観る時には天人か梵天かをこのように確認した後でもう一度、先ほど見た光を見て四界分別で分析するとそこに Rūpa kalāpa が現れてきます。それをさらに分析して Paramattha dhamma になるまで修習してどのような Kalāpa が含まれているかよく観ます。それらが先ほど修習して観た天人の Kalāpa と一致するか梵天の Kalāpa と一致するか確認してみると自分がどこから生まれ変わったのか解ります。Rūpa kalāpa を確認した後で Hadayavatthu に含まれている Rūpa と Bhavaṅgamana pasāda dhatu という Manodvāra を頼って現れた Nāma をすべて観ます。つまり Manodvāra vīthi に現れた Avijjā、Tanhā、Upādāna という原因の Kilesa vaṭṭa と Saṅkhāra、Kamma という原因の Kamma vaṭṭa を調べます。過去にあるRūpa と Nāma の Santati と現在の Rūpa と Nāma の Santati が一致しているか調べます。一致していたらそれは自分の過去世であると確認できます。

過去を調べる修習でもう一つ難しいとされていることがあります。私たちは人間として生まれている訳ですから Kamma は Kusala kamma であることは確実です。しかし、時には Kamma を作っている時に 3、4 人の人が見える場合があります。その場合はどの人が自分なのかを調べなければなりません。見えた一人ひとりを四界分別で分析していかなくてはなりません。一人ひとりを Kalāpa にしてそこにある Paramattha dhamma を調べます。その中のいずれかの Rūpa と Nāma の Santati と自分の現在の Rūpa と Nāma の Santati が一致していたらその人が過去の自分であることが解ります。はっきりとしなかった場合は Bhavaṅgamana pasāda dhātu をよく調べるとどの人が自分であるか解るようになります。調べた人が一致していなければその人は自分の過去ではないことも理解できます。よく修習している Yogī は Rūpa と Nāma が生住滅を繰り返し継続して一本の糸のよ

うに続いていることが Sammādiṭṭhi の智慧でよく観えるようになってきます。

これらの方法で観ることを Ekatta の方法と言います。Avijjā から Saṅkhāra、Saṅkhāra から Viññāṇa と原因と結果となり一つの Santati として切れ目なく継続していることを知る方法です。

また、この方法は Uccheda diṭṭhi（断見）と Sassata diṭṭhi（常見）を無くす方法とも言います。Abhidhamma Aṭṭhakathā2-188,Visuddhimagga2-220 には次のような説明があります。

種から芽がでて幹ができて葉っぱもできて大きな木となります。それらは継続して現れてきます。種から大きな木になるまで継続していることを Santāna（継続）と言います。それは切れ目ない一本の糸のように繋がっています。Santāna を Sammādiṭṭhi の智慧で良く観えた Yogī は過去の原因の Dhamma、現在の結果の Dhamma、現在の原因の Dhamma、未来の結果の Dhamma、これらが繋がっていることを知ります。この智慧により死後は何も無いという Uccheda diṭṭhi を無くすことができます。Sassata diṭṭhi というのは原因と結果の繋がりをよく調べずに間違った見方で過去と現在の繋がりを観てしまい Rūpa と Nāma の Santati を同じものと観てそれらは Nicca であり Atta であると観てしまう間違った見方です。原因の Rūpa と Nāma と結果の Rūpa と Nāma を Anicca、Dukkha、Anatta と観えず Nicca と Atta として観てしまいます。Tadeva viññāṇaṃ sandhāvatti saṁsārati.（この識だけが過去世から現世、現世から来世に永遠に続いている。）と観えてそれらは生住滅を繰り返し Anicca であり Dukkha であり Anatta である、と正しく観えないことを言います。過去の Viññāṇa は現在の Viññāṇa と同じものであると観てしまい継続をよく理解できない観方です。過去の Rūpa と Nāma と現在の Rūpa と Nāma の継続は Anicca の継続であるとよく理解して観ないとこのような間違った見方をしてしまいます。ですから Paṭiccasamuppāda の修習は難しいといわれるのです。実践においてはよく細かく観なければなりません。そのためには Sammādiṭṭhi の智慧を付けなければなりません。Sammādiṭṭhi が無いと細部まで綿密に観ることは難しいのです。Samādhi の力があればこれらのことを正しく見通すことができます。Samādhi が無いとなかなか正しく見通すことはできません。

2）Nānatta（種々）の法則

Avijjā、Saṅkhāra、Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Taṇhā、Upādāna、Bhava、Jati、Jarāmaraṇa.

無明、形成力、意識、精神性と物質性（名色）、六感覚器官、接触、感受、渇愛、執着、存在、誕生、老死。

この Paṭiccasamuppāda のそれぞれの Dhamma には Sabhāva lakkhaṇa（自性相）があります。 Ekatta の方法で修習して原因と結果を糸のように繋がって観ることができた Yogī

はその Sabhāva lakkhaṇa をよく知らなければなりません。それらを Nānatta の法則と言います。

Santati ghana（相続密集）、Samūha ghana（合成密集）、Kicca ghana（作用密集）、Ārammaṇa ghana（所縁密集）このように密集して集まっている Rūpa の集まり、Nāma の集まりを自分の智慧でよく区別します。それぞれの Lakkhaṇa（性質）、Rasa（作用）、Paccupaṭṭhāna（現起）、Padaṭṭhāna（直接因）という 4 つの法則で良く理解しなければなりません。過去、現在、未来の Rūpa と Nāma の Santati は継続して一本の糸のように見えますが、実際には Rūpa kalāpa は生まれては滅していることをよく観て Santati ghana をよく区別して観なければなりません。Rūpa kalāpa、Nāma kalāpa として集まって現れることは当然のことです。その一つ一つの Paramattha dhamma を区別します。例えば Rūpa kalāpa の場合は「これは Pathavī である。」「これは Āpo である。」「これは Tejo である。」「これは Vāyo である。」と一つ一つ区別します。Nāma kalāpa の場合は「これは Phassa である。」[これは Vedanā である。」「これは Saññā である。」「これは Viññāṇa である。」などと一つ一つ区別して Samūha ghana を見破ります。Pathavī、Āpo、Tejo、Vāyo などの要素がどのような働きをするかという Kicca ghana も観なければなりません。このように Santati ghana、Samūha ghana、Kicca ghana、Ārammaṇa ghana のすべてを見破らなければなりません。そのうえで Paṭiccasamuppāda に含まれている Aṅga（支）を Lakkhaṇa（性質）、Rasa（作用）、Paccupaṭṭhāna（現起）、Padaṭṭhāna（直接因）の法則で修習することが Nānatta の方法です。

Nānatta の方法で Paramattha dhamma をよく知ること、つまり原因と結果の違う Sabhāva lakkhaṇa を Sammādiṭṭhi ñāṇa でよく知ることにより Sassata diṭṭhi（常見）を避けることができます。Sassata diṭṭhi とは自分の身体は Atta（我）であり永遠にあると間違った見方をすることです。また Uccheda diṭṭhi（断見）も消すことができます。Uccheda diṭṭhi とは過去世で作ったことは現世と関係が無い、死後は何も残らない、という間違った見方です。
［Abhidhamma Aṭṭhakathā1-188,Visuddhimagga2-220 記載］

3）Avyāpāra（不作為）の法則

過去の原因には結果を現そうとする意志や期待はありません。結果の方にもこのような原因であればこのようになる、との思いはありません。それぞれの Dhamma には意思は何もありません。そのような意思などは何もないことを Avyāpāra の法則と言います。例えば Avijjā という Dhamma は Saṅkāra という Dhamma を現したいという期待を持っている訳でもなく、Saṅkhāra は Viññāṇa を現したいという期待を持っているのでもありません。それらの期待などを Vyāpāra（作為）と言います。Vyāpāra が無いことを Avyāpāra といいます。Vyāpāra は無いという Avyāpāra の法則をよく理解しなければなりません。

Avijjā paccaya saṅkhāra などの Paṭiccasamuppāda の Dhamma は Nirīhā というどんな結果を現そうと努力していることもありません。Nijjivā という努力している生き物でもありません。Dhamma mattā（適量法）というある原因が現れたらある結果が現れるという Sabhāva dhamma（自性法）であると理解しなければなりません。このようにそれぞれの Dhamma が現れることは当然のことであるということを見通している人を Sammā passanto（正見者）と言います。

Sammā passanto とは正しく知り、正しく見通せる人という意味です。Avyāpāra の法則により Sammādiṭṭhi の智慧でよく理解している場合は、例えば Parāmaṭṭha（己執）という永遠の神様がいて私たちの命を作っている、と間違った見方をする Atta diṭṭhi を無くすことができます。原因には結果を現そうという Vyāpāra は無いことを自分の Sammādiṭṭhi の智慧で知るからです。Avyāpāra の法則で知らなかった場合は過去に行ったことは現在と関係無く何の結果も現われない、とする Akiriya diṭṭhi（無作見）を持ってしまいます。Avyāpāra の方法でよく修習すると Akiriya diṭṭhi を無くすことができます。

Avijjā という原因があれば Saṅkhāra という結果が現れます。Avijjā という原因が無ければ Saṅkhāra という結果は現れません。Avijjā paccaya Saṅkhāra は Sabhāva niyama（自性決定）です。火が燃える時は上に燃えていきます。風が吹くときは横に吹きます。それらは当然のことです。そのことと同じように Avijja、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma という原因が現れたら Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā という結果が現れます。それを Sabhāvaniyamasiddhahetubhāva（永遠に決まっていて必ず成されること）と言います。Mahāṭīkā2-348 には Sabhāvaniyamasiddhahetubhāva を受け止めないのであれば原因は結果を現すことは無い、という Kamma と Kamma の結果を認めない Akiriya diṭṭhi（無作見）が現れる、と書かれています。

4）Evaṃdhammatta（如是法性）の法則

Evaṃdhammatta とは当たり前のことという意味です。

牛乳からはバターやヨーグルトを作ることができます。それと同じように Avijjā という原因で Saṅkhāra という相応の結果が現れます。相応しない結果は現れません。

Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma という原因で Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā という結果が現れます。原因に相応する結果が現れることを Evaṃdhammatta と言います。Yogī が修習して Sammādiṭṭhi の智慧でよく知ることにより、Ahetuka diṭṭhi（無因見）と Akiriya diṭṭhi（無作見）の2つの diṭṭhi を無くすことができます。

Ahetuka diṭṭhi は原因を認めない Micchā diṭṭhi（邪見）のことです。Evaṃdhammatta の方法で Paṭiccasamuppāda をしっかりと修習しないと、どのような適当な原因でも結果は現

れるので原因は必要ない、などと間違った見方になってしまいます。例えば、砂を絞っても油や牛乳はできるだろう、などという間違った考え方をすることと同じです。

原因を認めないのみならず、間違った Niyata vāda（決定論）を取ってしまいます。Niyata vāda というのは善悪により期間が決まっていて、ここからここまでは人間として、ここからここまでは天人、ここからここまでは動物などと、決められた期間を生きるのであり、原因と結果で生まれ変わるのでは無い、という間違った見方のことです。［Abhidhamma Aṭṭhakathā1-188,189,Visuddhimagga2-220,221 に記載］

この Vāda（論）については Dīganikāya Sāmaññāphala sutta,Makkhaligosālavādo 長部経典沙門果経マッカリゴーサーの説にて説明されています。

以上の 4 つの法則の Paṭiccasamuppāda の原因と結果を自分の Sammādiṭṭhi の智慧で修習することにより、Micchā vāda（邪説）、Micchā dassana（邪見）、Micchā diṭṭhi（邪見）を無くすことができます。縁起の修習はこれらの邪見を滅する良い武器となるのです。

III Pañcakkhandha（五蘊）の実践法（第五法）

1． 五蘊の実践の前に注意しておくこと

1） Atīta bhava（過去世）の Maraṇāsannajavana の対象。
2） Paccuppana bhava（現世）の Paṭisandhi nāma dhamma の対象。
3） Paccuppana bhava（現世）の Bhavaṅgamana pasāda あるいは Bhavaṅga nāma dhamma の対象。
4） Paccuppana bhava（現世）の来る Cuti nāma dhamma の対象。

以上の4つの対象は同じである、ということを理解してください。実践する時は 4 番目の Cuti はまだ来ていないので置いておいてもかまいませんが、1）から 3）までを同じかどうか、何度も何度も確認してください。Paṭisandhi と Bhavaṅga と Cuti に含まれている心と心所の数は同じです。同じである、と何度も何度も注意して確認してください。この段階において Yogī は Bhavaṅgamana pasāda をよく修習できるようになっているのですが、もしうまく確認できないのであれば、Paṭisandhi の Nāma dhamma をよく修習してください。生住滅を繰り返している Paṭisandhi の Nāma dhamma が滅した後 Vīthi citta が現れます。Vīthi citta が現れる前には Bhavaṅga citta が現れます。そこに含まれる心と心所を観てください。 Bhavaṅga citta は生き続けるための Citta です。Vīthi citta が現れる間々に現れます。この Paṭisandhi の後の Bhavaṅga citta にどのような心と心所が含ま

れているかよく調べてください。その後、Vīthi citta の間々に現れる Bhavaṅga citta もよく確認してください。

五蘊の修習の前にこれらのことをよく理解するまで修習してください。

次に五蘊の作り方を説明します。Pañcama（第五）の方法です。

すべての Cittakkhaṇa において五蘊で原因と結果が繋がっていることをよく自分の智慧で理解するように修習しなければなりません。この修習では Vīthimutta citta と Vīthi citta の 2 つに分けて観なければなりません。

Vīthimutta citta とは Paṭisandhi、Bhavaṅga 、Cuti citta です。

Vīthi citta とは Vīthimutta citta 以外の六門から生じた Citta です。

この Vīthimutta citta と Vīthi citta を区別して観てください。

Vīthimutta citta のそれぞれに含まれている五蘊の一蘊ずつの原因と結果をよく観てください。

Vīthi citta の Cittakkhaṇa に含まれている五蘊の一蘊ずつの原因と結果の繋がりをよく観てください。

Pañcakkhandha（五蘊）の Khandha（蘊）とは集まりという意味になります。

2. 五蘊の作り方

◎11 種類の現象にある一つ一つの Cittakkhaṇa に含まれている Rūpa と Nāma を五蘊として数える。

1） Atīta（過去）、Anāgata（未来）、Paccupanna（現在）、Ajjhatta（内）、Bahiddhā（外）、Oḷārika（粗い）、sukhuma（微細）、hīna（劣った）、Paṇīta（優れた）、Dūra（遠い）、Santika（近い）という 11 種類の現象にあるすべての Āsava dhamma（流漏法）の対象を Taṇhā diṭṭhi（渇愛見）により私だ、私のものだ、などと思っている Rūpa の集まりは Rūpupādānakkhandha（色取蘊）です。

2） Atīta（過去）……Santika（近い）という 11 種類の現象にあるすべての Āsava dhamma（流漏法）の対象を Taṇhā diṭṭhi（渇愛見）により私だ、私のものだ、などと間違って取るすべての Vedanā（受）の集まりは Vedanupādānakkhandha（受取蘊）です。

3） Atīta（過去）……Santika（近い）という 11 種類の現象にあるすべての Āsava dhamma（流漏法）の対象を 1）と同じように取るすべての Saññā（想）の集まりを Saññupādānakkhandha（想取蘊）です。

4） Atīta（過去）……Santika（近い）という 11 種類の現象にあるすべての Āsava dhamma（流漏法）の対象を 1）と同じように取る Cetasica の集まりの Saṅkhāra dhamma は Saṅkhārarupādānakkhandha（行取蘊）です。

5） Atīta（過去）……Santika（近い）という 11 種類の現象にあるすべての Āsava dhamma（流漏法）の対象を1）とおなじように取る Viññāṇa（識）は Viññāṇupādānakkhandha（識

取蘊）です。

以上は Saṃyuttanikāya Mm.2-39Khandhasutta 相応部経蘊経に書かれています。

◎一つ一つの Cittakkhaṇa に含まれている五蘊の作り方。

五蘊には一蘊一蘊にそれぞれの原因と結果があります。

1） 頼る Rūpa と対象としている Rūpa の両方の Rūpa を Rūpakkhandha と言います。

2） Cittakkhaṇa に含まれている Vedanā を Vedanākkhandha と言います。

3） Cittakkhaṇa に含まれている Saññā を Saññākkhandha と言います。

4） Cittakkhaṇa に含まれている Cetasika（Vedanā、Saññā、Viññāṇa を除く残りのすべての心所）を Saṅkhārakkhandha 言います。

5） Cittakkhaṇa に含まれている「知る」という Citta は Viññāṇākkhandha と言います。

3. Paṭisandhi（受胎）の五蘊の作り方と実践

1） Paṭisandhi の時の Hadaya dasaka kalāpa、Kāya dasaka kalāpa、Bhāva dasaka kalāpa 3 種類（Rūpa として 30 種類）は Rūpakkhandha です。

2） Paṭisandhi の時の Nāma dhamma 34 個に含まれている Vedanā は Vedanākkhandha です。

3） Paṭisandhi の時の Nāma dhamma 34 個に含まれている Saññā は Saññākkhandha です。

4-1） Paṭisandhi の時の Nāma dhamma 34 個に含まれている Cetanā は Saṅkhāra-kkhandha です。

4-2） Paṭisandhi の時の Nāma dhamma 34 個に含まれている Cetasika（Vedanā、Saññā、Viññāṇa を除く 31 個）は Saṅkhārakkhandha です。

（Saṅkhārakkhandha は 2 種類の方法があります。）

5）Paṭisandhi の時の Nāma dhamma 34 個に含まれている Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。

以上の Paṭisandhikkhandha の作り方は Somanassa vedanā で Paṭisandhi に入った Ti hetuka puggala（三因者）の場合です。Upekkhā vedanā で入った Ti hetuka puggala の場合は Pīti が無いので心と心所は 33 個になります。もし、Dvi hetuka puggala（二因者）の場合 は Ñāṇa も無くなり 33 個と 32 個になります。

Saṅkhārakkhandha を観る時 2 つの方法がありますが、お釈迦様は Khandha vibhaṅgapāḷi（蘊分別論）において Suttaṃta bhājaniya の方法で説明された時 Cetanā を主として説明されました。しかし、他の Cetasika が無いということではありません。Saṃyuttanikāya2-51,52 においてお釈迦様は Paramattha dhamma のすべての心と心所は Saṅkhārakkhandha として作ることができる、と 2 つ目の方法として説明されました。

Yogī は過去の 5 つの原因 Avijjā、Taṇhā、Upādāna という Kilesa vaṭṭa と Saṅkhāra、Kamma という Kamma vaṭṭa をよく観ます。その後、Kamma vaṭṭa の Vipāka vaṭṭa にある Kamma satti（業効力）で Paṭisandhi rūpakkhandha の原因と結果の繋がることをよく観ます。過去の Kamma という原因で Paṭisandhi khammaja rūpa という結果が現れたことをよく理解できるように観なければなりません。

●Paṭisandhi rūpakkhandha を観る実践修習

1） Avijjā 20 個の心と心所が現れたことにより Paṭisandhi kammaja rūpa ができました。
Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi kammaja rūpa が結果です。

2）Taṇhā 20 個の心と心所が現れたことにより Paṭisandhi kammaja rūpa ができました。
Taṇhā 20 個が原因で Paṭisandhi kammaja rūpa が結果です。

3）Upādāna 20 個の心と心所が現れたことにより Paṭisandhi kammaja rūpa ができました。
Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi kammaja rūpa が結果です。

4）Saṅkhāra 34 個の心と心所が現れたことにより Paṭisandhi kammaja rūpa ができました。
Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi kammaja rūpa が結果です。

5）Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が現れて Paṭisandhi kammaja rūpa ができました。
Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭisandhi kammaja rūpa が結果です。

これらの繋がりがよく観えるように修習しなければなりません。

Avijjā、Taṇhā、Upādāna の 20 個は Kilesa vaṭṭa manodvārikajavana vīthi にある Lobhajavana に含まれている Lobha diṭṭhi group の心と心所です。

Saṅkhāra、Kamma の 34 個は Kamma vaṭṭa manodvārikajavana にある Mahākusala-javana に含まれている Saddhā paññā group の心と心所です。Upekkhā vedanā であれば Pīti が無く 33 個になります。

このような縁起の修習ができる Yogī はおおむね Ti hetuka です。Dvi hetuka puggala はあまりいませんが 33 個、32 個の心と心所が観えたならその Yogī は Dvi hetuka である訳です。

Cittaja、Utuja、Āhāraja rūpa は Paṭisandhi の時はまだできていません。Kammaja rūpa1 種類のみになります。ですから今の時点の修習では Kammaja rūpa のことのみ説明しています。

Paṭisandhi に入った時も Rūpa は生住滅を繰り返しています。住の時に Kammaja rūpa に含まれている Tejo dhātu（Utu）からさらに新しい Tejo dhātu が生まれています。さらにそこから新しい Utuja ojaṭṭhamaka rūpa kalāpa が生まれています。Paṭisandhi の後の

Paṭhama Bhavaṅga の時から Cittaja rūpa などが生まれます。母親が摂った栄養素が入ると Āhāraja rūpa も生まれます。Vedanākkhandha という Nāmakkhandha も生まれてきますから、まずは Rūpakkhandha を自分の智慧で理解するように修習してください。

●Paṭisandhi vedanākkhandha を観る実践修習

Paṭisandhi vedanākkhandha は過去と現在の 2 つに分かれます。

過去世の 5 つの原因は以下の通りです。

1） Avijjā 20 個が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

2）Taṇhā 20 個が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Taṇhā 20 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

現世の3つの原因は以下の通りです。

6） Vatthu という Hadayavatthu に含まれている 30 個の Rūpa が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Hadayavatthu の 30 個の Rūpa が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

7） Kamma ārammaṇa（業所縁）が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Kamma ārammaṇa が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha は結果です。

8） Phassa 33 個（Vedanā を除いた数）が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha ができました。
Phassa 33 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

このように自分の智慧で原因と結果をよく観て修習してください。

以上、～が現れたことにより～ができました、～が原因で～が結果です、と説明してきました。以下は省略して原因と結果のみ説明した例です。以降はこのように説明します。

●Paṭisandhi rūpakkhandha Kammaja rūpa30 種類を観る ---省略した説明---

1） Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi rūpakkhandha 30 種類が結果です。

2） Vedanā 20 個が原因で Paṭisandhi rūpakkhandha 30 種類が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi rūpakkhandha 30 種類が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi rūpakkhandha 30 種類が結果です。
5） Kamma Saṅkhāra の Kamma satti が原因で Paṭisandhi rūpakkhandha 30 種類が結果です。

●Paṭisandhi vedanākkhandha を観る ---省略した説明---
過去世の 5 つの原因
1） Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。
2） Tanhā 20 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。
5） Kamma 34 個の Kamma satti が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。
現世の 3 つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu30個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。
7） Kamma ārammaṇa が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。
8） Phassa33 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

◎Vatthu（基）についての説明

Pañcavokāra bhūmi（五蘊がある生き物の地）では頼る Rūpa があれば Nāma khandha（名蘊）ができます。頼る Rūpa が無いと現れません。Paṭisandhi vedanākkhandha を含む Nāma dhamma は Paṭisandhi の時に同時に現れた Hadayavatthu を頼って現れます。つまり五蘊のある生き物の Citta（心）は頼る場所が無いと現れません。Hadayavatthu は 1 つだけで現れる訳ではなく Rūpa kalāpa としてグループで現れます。1 つの Rūpa kalāpa の中に含まれている要素同士 Sahajāta paccaya satti（俱生縁効力）で支えあい現れます。Bhūta rūpa（大種色）と Upādā rūpa（所造色）がお互いに支えあって現れます。Hadaya dasaka kalāpa は Paṭisandhi の時に Kāya dasaka kalāpa、Bhāva dasaka kalāpa と一緒に現れている訳です。

この方法は Majjimanikāya Aṭṭhakathā1-281、Mūla ṭīkā2-157 において次のように説明されています。

Vatthu は Karajakāya（業所生身）のことを言います。Karajakāya とは Paramattha の要素で言えば Bhūta rūpa（大種色）と Upādā rūpa（所造色）のことです。これらの Bhūta rūpa と Upādā rūpa というすべての Rūpa の集まりの Rūpa ghana の ghana を見破り Paramattha が観えるように修習しなければなりません。

Paṭisandhi vedanākkhandha の頼る Vatthu というのは Abhidhamma では Hadayavatthu

であると書かれています。ただし Abhidhamma ではこのように Hadayavatthu 1 つのみが書かれていますが、上記経典に書かれている方法では Hadayavatthu と同時に現れた 30 個すべての Rūpa を観て修習しなければなりません。Sutta（経典）には実際の修習の方法が書かれている訳ですから 30 個の Rūpa の集まり Rūpa ghana を破るためにすべての Rūpa を Paramattha が観えるように修習しなければならないということです。

Hadayavatthu に含まれている 30 個のすべての Rūpa を Vatthu rūpa（基色）と言います。Yogī は Vatthu rūpa を頼ることにより Paṭisandhi vedanākkhandha が現れたことを自分の Sammādiṭṭhi の智慧で良く観えるように修習しなければなりません。

他の修習の時も同じことであるとよく理解してください。Vatthu とは Hadayavatthu の Rūpa 30 個のことです。Hadayavatthu に Rūpa 30 個が現れたことにより Paṭisandhi vedanākkhandha が現れます。つまり Hadayavatthu の Rūpa 30 個が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

◎Ārammaṇa（所縁）についての説明

Paṭisandhi の時の Nāma dhamma の Ārammaṇa は Maraṇāsannajavana の時の対象として現れます。Vedanā は対象を味わっている感覚です。味わう対象が無ければ Vedanā も現れないことを智慧で理解しなければなりません。Maraṇāsannajavana の対象は Yogī 一人ひとり違います。ある Yogī は Dāna の Kamma の結果が現れます。ある Yogī は Sīla の Kamma の結果が現れます。ある Yogī は Bhāvanā の Kamma の結果が現れる場合があります。さらに言えば、Dāna には食事のお布施、袈裟のお布施などがあります。Sīla には五戒を護る、八戒を護る、十戒を護る、などがあります。Bhāvanā の場合は Kasiṇa bhāvanā kamma、Asubha bhāvanā kamma、Ānāpāna bhāvanā kamma、Metta bhāvanā kamma、Vipassanā bhāvanā kamma などがあります。このように色々な Maraṇā-sannajavana の対象があります。この Maraṇāsannajavana の対象は現世の Paṭisandhi、Bhavaṅga 、Cuti の時も同じ対象です。味わう対象があるから Paṭisandhi の時に Vedanā が現れます。Kamma ārammaṇa が原因で Paṭisandhi vedanākkhandha が結果です。

◎Phassa についての説明

Phassa が現れたことにより Vedanā が現れます。

この方法は Phassa を Padhāna（主）として説明しています。Paṭṭhāna（発趣論）1-5 には次のように説明されています。

4 つの Nāma khandha はお互いに Sahajāta paccaya satti（俱生縁効力）、Nissaya paccaya satti（依縁効力）で支えあっています。

つまり Nāma dhamma 同士でお互いを支えあっています。Āhāra 1 つを食べた場合、たくさん噛めばたくさんの Rasa（味）が現れさらにそれを味わうことができます。そのことと同じように、1 つの Cittakkhaṇa の中に一緒に現れた Nāma dhamma や別の Cittakkhaṇa

にある Nāma dhamma などを Phassa が対象を何度も接触すると強い Vedanā になります。このように Phassa の原因で Vedanā が現れてきます。ですからお釈迦様は Phassa を主として説明されているのです。ただし Phassa 1 つだけで現れるのではなく Phassa と共に現れた Sampayutta dhamma の Nāma dhamma もお互いに Sahajāta paccaya satti、Nissaya paccaya satti で支えあい現れていることを理解しなければなりません。

注意点として Cittakkhaṇa 1 つにあるすべての Sampayutta dhamma の中で 1 個の Nāma dhamma は結果であれば残りの他の Nāma dhamma は原因であるということを覚えておいてください。例えば、Phassa という1つの Nāma dhamma が結果であれば他の Nāma dhamma は原因です。同じように Vedanākkhandha、Saññākkhandha、Viññāṇakkhandha が結果であれば他の Nāma dhamma は原因です。1 つの Nāma dhamma は別の 1 つの Nāma dhamma を支えていますし、1 つの Nāma dhamma がたくさんの Nāma dhamma を支えていることも自分の智慧で良く観てください。

Vedanākkhandha と同じように他の Saññākkhandha なども同じであるということを理解してください。このように一つ一つが原因と結果で繋がっていることを自分の智慧で良く観てください。自分の智慧で原因と結果を観た後に Phassa 33 個の心と心所が現れたことにより Vedanākkhandha が現れてきます。Phassa 33 個が原因で Vedanākkhandha は結果です。

●Paṭisandhi saññākkhandha を観る

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

2） Taṇhā 20 個が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Vatthu（Rūpa kalāpa 3 = Rūpa 30）が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

7） Kamma ārammaṇa が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

8） Phassa（34－Saññā = 33）が原因で Paṭisandhi saññākkhandha が結果です。

●Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha を観る

〇第一法 Cetanā を主として観る方法

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Vatthu（Rūpakalāpa3 = Rūpa30）が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
7） Kamma ārammaṇa が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
8） Phassa（34－Cetanā = 33）が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。

〇第二法　すべての心所 31 個をまとめて観る方法

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Vatthu（Rūpa kalāpa 3 = Rūpa 30）が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
7） Kamma ārammaṇa が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。
8） 残りの Nāma khandha 3 個（Vedanākkhandha、Saññākkhandha、Viññāṇakkhandha）が原因で Paṭisandhi Saṅkhārakkhandha が結果です。（Paṭisandhi の時の心と心所 34 個から Vedanā、Saññā、Viññā を除いた 31 個の心所が Saṅkhārakkhandha です。）

*Visuddhimagga2-92 には Sesakhandhattaya padaṭṭhāna（残余蘊三直接因）と書かれています。つまり Saṅkhārakkhandha が現れる Padaṭṭhāna という一番近い原因は Vedanākkhandha、Saññākkhandha、Viññāṇakkhandha です、という意味です。

●Paṭisandhi viññāṇakkhandha を観る

過去の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Paṭisandhi viññāṇakkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Paṭisandhi viññāṇakkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で Paṭisandhi viññāṇakkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi viññāṇakkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭisandhi viññāṇakkhandha が結果です。

現世の 1 つの原因

6） Nāma と Rūpa が原因で Paṭisandhi viññāṇakkhandha が結果です。
Nāma とは 33 個の心所です。Rūpa とは Hadayavatthu に含まれている Rūpa kalāpa 3 種類、Rūpa 30 種類です。

*Viññāṇakkhandha は現世の原因は 1 種類のみとなります。

Nāma とは Viññāṇakkhandha と一緒に現れた 33 個の心所のことです。これは Somanassa vedanā で Paṭisandhi に入った Yogī の場合の数です。Upekkhā vedanā で Paṭisandhi に入った Yogī の場合は Pīti が無く 32 個になります。

Rūpa とは頼る Vatthu を対象としていることです。Paṭisandhi Nāma dhamma の対象の Kamma、Kamma nimitta、Gati nimitta のいずれか 1 つの対象が Rūpārammaṇa であればそれが Rūpa です。Saddārammaṇa であれば音が対象になるということです。

Saṃyuttanikāya2-53 には Nāmarūpa samudaya,viññāṇa samudayo.（Nāmarūpa が現れたことにより Viññāṇa が現れてきます。）と書かれています。さらに Abhidhamma2-142 には Viññāṇa paccaya nāmarūpa（Viññāṇa の原因で Nāmarūpa が現れます。）と書かれています。この両方の教えをみると Viññāṇa から Nāmarūpa が現れ、Nāmarūpa からも Viññāṇa が現れ、とお互いに支えあっていることが解ります。

この Viññāṇakkhandha の原因の Nāmarūpa とは実際に修習する時には Saññā-kkhandha や Saṅkhārakkhandha の現世の原因の Vatthu、Ārammaṇa、Phassa などと同じ Paramattha dhamma が含まれています。実際の修習の時の対象が違うだけで中に含まれている Paramattha dhamma は同じであると理解してください。

Paṭisandhi の後に Bhavaṅga citta が約 15 回から 16 回現れます。その後 Manodvārāvajjana 1 回、Bhavanikantika lobhajavana（欲求有貪速行）7 回の Vīthi のプロセスが現れます。Bhavanikantika lobhajavana とは新しい生を好ましく執着することです。例えば人間に生まれた場合、人間の新しい生に執着する Lobhajavana のことです。このように人間としての Vīthi のプロセスが始まります。第一 Bhavaṅga の時から Cittaja、Utuja rūpa が現れます。Paṭisandhi citta の生住滅の住の時から Utuja rūpa が始まることは Abhidhamma に書かれています。Āhārāja rūpa は胎児が母親の摂った栄養を取り入れた時から始まります。ですから Paṭisandhi の後の Bhavaṅga citta に含ま

れている五蘊も修習しなければなりません。Bhavanikantika lobhajavana の五蘊については Manodvāra vīthi の Lobhajavana の修習の時に説明します。

4. Bhavaṅga（有分）の五蘊の作り方と実践

1） Rūpakkhandha: 現世の Bhavaṅga の頼る Hadayavatthu にある Rūpakalāpa 7 種類（Rūpa 63 種類）は Rūpakkhandha です。Bhavaṅga の対象が Rūpa であればその Rūpa も観てください。

2）Vedanākkhandha: Bhavaṅga nāma dhamma34 個に含まれている Vedanā は Vedanākkhandha です。（Somanassa の場合は 34 個ですが Upekkhā の場合は Pīti が抜けて 33 個になります。）以降も Somanassa で入った場合の数で説明します。

3）Saññākkhandha: Bhavaṅga nāma dhamma 34 個に含まれている Saññā は Saññākkhandha です。

4-1） Saṅkhārakkhandha: Bhavaṅga nāma dhamma34 個に含まれている Cetanā は Saṅkhārakkhandha です。

4-2） Saṅkhārakkhandha: Bhavaṅga nāma dhamma 34 個から Vedanākkhandha、Saññākkhandha、Viññāṇakkhandha を除いた 31 個の心と心所は Saṅkhārakkhandha です。

5） Viññāṇakkhandha: Bhavaṅga nāma dhamma 34 個に含まれている Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。

このように Bhavaṅga を五蘊に作り修習します。

●Bhavaṅga rūpakkhandha を観る

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Bhavaṅga kammaja rūpakkhandha が結果です。

2） Taṇhā 20 個が原因で Bhavaṅga kammaja rūpakkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で Bhavaṅga kammaja rūpakkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で Bhavaṅga kammaja rūpakkhandha が結果です。

5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Bhavaṅga kammaja rūpakkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Citta が原因の Bhavaṅga cittajarūpa という rūpakkhandha が結果です。

7） Utu が原因の Bhavaṅga utujarūpa という rūpakkhandha が結果です。

8） Āhāra が原因の Bhavaṅga āhārajarūpa という rūpakkhandha が結果です。

●Bhavaṅga vedanākkhandha を観る

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

2） Taṇhā 20 個が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Vatthu: （Kalāpa 7 = Rūpa 63）が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

7） Ārammaṇa: Kamma の Ārammaṇa が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

8） Phassa: 前々の Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。後々の Bhavaṅga manosamphassa（34－Vedanā = 33）が原因で Bhavaṅga vedanākkhandha が結果です。

*前々の Bhavaṅga manosamphassa とは実践している時の前々に現れた Bhavaṅga のことで Anantara bhavaṅga（無間有分）と言います。その終わった Bhavaṅga の心も原因として現在を支えているのでこの Bhavaṅga も Phassa の 1 種類として観ます。後々の～とは現在修習している Bhavaṅga に含まれている心所のことを言います。現在は Vedanā を修習しているので Vedanā を除いた 33 個を観る訳です。前々のものは終わっているので現在の原因として Vedanā も含めて 34 個を観るということになります。

●Bhavaṅga saññākkhandha を観る

1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。

8） Phassa: 前々の Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Bhavaṅga saññākkhandha が結果です。後々の Bhavaṅga manosamphassa（34－Saññā = 33）が原因で Bhavaṅga saññākkhandha が結果です。

●Bhavaṅga saṅkhārakkhandha を観る修習

○第一法 Cetanā を主として観る方法

1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。

8）Phassa: 前々の Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Bhavaṅga Saṅkhāra-

kkhandha が結果です。後々の Bhavaṅga manosamphassa（33－Cetanā = 33）が原因で Bhavaṅga saññākkhandha が結果です。

〇第二法 31 個の Nāma dhamma を Saṅkhārakkhandha として観る方法

1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。

8） Phassa: 前々の Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Bhavaṅga Saṅkhārakkhandha が結果です。残りの3つの Nāmakkhandha が原因で Bhavaṅga Saṅkhārakkhandha が結果です。

● Bhavaṅga viññāṇakkhandha を観る

1）～5）は Vedanākkhandha と同じです。

現世の 2 つの原因

6） 前々の Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Bhavaṅga viññāṇakkhandha が結果です。

7） Nāma と Rūpa が原因で Bhavaṅga viññāṇakkhandha が結果です。

Nāma は Viññāṇa を除く 33 個の心所です。Rūpa は Nāma が頼っている Vatthu と対象の Rūpa です。

5. Rūpārammaṇa line Pañcadvārāvajjana（色所縁五門引転心）の五蘊の作り方と実践

1）Pañcadvārāvajjana の頼る Hadayavatthu の Rūpa 63 個と Rūpārammaṇa は Rūpakkhandha です。

2）Pañcadvārāvajjana nāma dhamma 11 個に含まれている Vedanā は Vedanākkhandha です。

3）Pañcadvārāvajjana nāma dhamma 11 個に含まれている Saññā は Saññākkhandha です。

4-1） Pañcadvārāvajjana nāma dhamma 11 個に含まれている Cetanā は Saṅkhārakkhandha です。

4-2） Pañcadvārāvajjana nāma dhamma 11 個から Vedanā、Saññā、Viññāṇa の 3 個を除いた 8 個は Saṅkhārakkhandha です。

5） Pañcadvārāvajjana nāma dhamma 11 個に含まれている Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。

このように Pañcadvāra vīthi citta を五蘊に分けて修習しなければなりません。眼識の Vīthi citta が現れた時は Nāma 瞑想の時に修習したように Pañcadvāvajjana、

Cakkhuviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Voṭṭhapana、Javana、Tadārammaṇa の順番で Citta は継続していきます。まずはその Pañcadvārāvajjana を五蘊に分けて修習する方法の説明です。Cakkhuviññāṇa から Tadārammaṇa までの Vīthi も同じように五蘊に分けて一つ一つすべて修習しなければなりません。

●Pañcadvārāvajjana の Rūpakkhandha を観る

Pañcadvārāvajjana は確認しています。

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で kammaja rūpa 30 個の Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha が結果です。

2） Taṇhā 20 個が原因で kammaja rūpa 30 の個 Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で kammaja rūpa 30 個の Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で kammaja rūpa 30 個の Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha が結果です。

5） Kamma という Saṅkhāra34 個の Kamma satti が原因で kammaja rūpa 30 個の Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Citta が原因の Cittajarūpa という rūpakkhandha が結果です。

7） Utu が原因の Utujarūpa という rūpakkhandha が結果です。

8） Āhāra が原因の Āhārajarūpa という rūpakkhandha が結果です。

●Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha を観る

過去世の原因はありません。

現世の 3 つの原因

1） Vatthu: Hadayavatthu（7=63）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。

2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。

3-1） Phassa: Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。

3-2） Phassa: Pañcadvārāvajjanamanosamphassa（11－vedanā = 10）が原因で

Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。

*一番近い Citta も原因になります。ですから Vīthi citta が現れる前々の Bhavaṅga citta も観なければなりませんし、現在ある Citta の Pañcadvārāvajjana の Citta も観るということです。前々の Citta も現在の Citta も同じように支えあっていることをよく観なければなりません。

●Pañcadvārāvajjana saññākkhandha を観る

過去の原因はありません。

現世の 3 つの原因

1） Vatthu: Hadayavatthu（7=63）が原因で Pañcadvārāvajjana saññākkhandha が結果です。

2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana saññākkhandha が結果です。

3-1） Phassa: Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana saññākkhandha が結果です。

3-2 ） Phassa: Pañcadvārāvajjanamanosamphassa （11－Saññā =10）が原因で Pañcadvārāvajjana saññākkhandha が結果です。

*Vedanākkhandha の時と同じように前々と現世の心と心所の両方をよく観てください。

●Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha を観る修習

過去世の原因はありません。

現世の 3 つの原因

第一法 Cetanā を主として観る

1） Vatthu: Hadayavatthu（7=63）個が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

3-1） Phassa: Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

3-2） Phassa: Pañcadvārāvajjanamanosamphassa（11－Cetanā =10）が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

第二法 Saṅkhārakkhandha（8 個）

1） Vatthu: Hadayavatthu（7=63）個が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

3-1） Phassa: Bhavaṅgamanapasāda 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

3-2） Phassa: 残り 3 つの Nāmakkhandha が原因で Pañcadvārāvajjana saṅkhārakkhandha が結果です。

●Pañcadvārāvajjana viññāṇakkhandha を観る修習

過去世の原因はありません。現世の 2 つの原因があります。

1） Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana viññāṇakkhandha が結果です。

2） Nāma と Rūpa が原因で Pañcadvārāvajjana viññāṇakkhandha が結果です。
Nāma とは Pañcadvāvajjana の心と心所 11 個から Viññāṇa を除いた 10 個の心所です。Rūpa は Hadayavatthu 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa です。

6. Rūpārammaṇa line Cakkhuviññāṇa（色所縁眼識）の五蘊の作り方と実践

1） Cakkhuvatthu（7 = 63）の Rūpa と Rūpārammaṇa が Rūpakkhandha です。

2） Cakkhuviññāṇa nāma dhamma 8 個に含まれている Vedanā は Vedanākkhandha です。

3） Cakkhuviññāṇa nāma dhamma 8 個に含まれている Saññā は Saññākkhandha です。

4-1） Cakkhuviññāṇa nāma dhamma 8 個にある Cetanā は Saṅkhārakkhandha です。

4-2） Cakkhuviññāṇa nāma dhamma 8 個から Vedanā、Saññā、Viññāṇa を除いた5個は Saṅkhārakkhandha です。

5） Cakkhuviññāṇa nāma dhamma 8 個に含まれている Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。

●Cakkhuviññāṇa rūpakkhnadha を観る修習

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Kammajarūpa30 個の Rūpakkhandha が結果です。

2） Taṇhā 20 個が原因で Kammajarūpa30 個の Rūpakkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で Kammajarūpa30 個の Rūpakkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で Kammajarūpa30 個の Rūpakkhandha が結果です。

5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Kammaja rūpa30 個の Rūpakkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Citta が原因の Cittajarūpa という rūpakkhandha が結果です。

7） Utu が原因の Utujarūpa という rūpakkhandha が結果です。

8） Āhāra が原因の Āhārajarūpa という rūpakkhandha が結果です。

●Cakkhuviññāṇa vedanākkhandha を観る修習

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Vedanākkhandha が結果です。

2） Taṇhā 20 個が原因で Vedanākkhandha が結果です。

3） Upādāna 20 個が原因で Vedanākkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で Vedanākkhandha が結果です。

5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Vedanākkhandha が結果です。

現世の 5 つの原因

6） Vatth: Cakkhuvatthu 63 個が原因で Vedanākkhandha が結果です。

7） Ārammaṇṇa: Rūpārammaṇa が原因で Vedanākkhandha が結果です。

8） Phassa: Cakkhusamphassa 7 個が原因で Vedanākkhandha が結果です。

9） Āloka（光）が原因で Vedanākkhandha が結果です。

10） Manasikāra（作意）（確認 =11）の心と心所が原因で Vedanākkhandha が結果です。

*Manasikāra とは Ārammaṇa を心で確認することを言います。Manasikāra が Ārammaṇa という Rūpārammaṇa を心で作意することを Pañcadvārāvajjana といいます。このことについて Aṭṭhakathā を著された Sayadaw たちは Abhidhamma Aṭṭhakathā1-177 には Vīthi paṭipādaka manasikāra（Vīthi citta が現れるように対象を心で確認する manasikāra）という基本の Dhamma であると説明されています。

*Āloka の説明をします。ものを観るためには光が必要です。Aṅguttaranikāya Catukkanipāta（増支部経四法集）Ābhā sutta（光経）において Āloka は以下の 4 種類であると説明されています。

（1） 月の光

（2） 太陽の光

（3） 火の光

（4） 智慧の光

実践しているYogīは外の光ではなく自分の智慧から現れた光でRūpārammaṇaを観ます。Vipassanā 修習をしている場合は Vipassanā の智慧から現れた光で、Samatha の修習をしている時は Samādhi の力の智慧の光で観るということです。この智慧の光でRūpārammaṇa という対象を観る訳です。智慧の光が無いと Rūpa kalāpa や Rūpakalāpa の色や Paramattha rūpa dhammaと Paramattha nāma dhamma などをよく観ることができません。

Saṃyuttanikāya2-49 において Phassa samudaya,vedanā samudayo.（Phassaが現れるので Vedanā が現れます。）と書かれていることにより、Cakkhusamphassa も Paccupanna の原因として修習するようにこの本に書きました。

●Cakkhuviññāṇa saññākkhandhaを観る修習

1）～7）、9）、10）は vedanākkhandhaと同じです。

8） Phasssa: Cakkhusamphassa（8－Saññā = 7）が原因で saññākkhandha が結果です。

●Cakkhuviññāṇa saṅkhārakkhandhaを観る修習

第一法 Cetanāを主として観る

1）～7）、9）、10）は Vedanākkhandhaと同じです。

8） Phassa: Cakkhusamphassa（8－Cetanā =7）が原因で Saṅkhārakkhandha が結果です。

第二法 Saṅkhārakkhandha（5個）

1）～7）、9）、10）は Vedanākkhandhaと同じです。

8） 残り3つの Nāmakkhandha が原因で Saṅkhārakkhandha は結果です。

●Cakkhuviññāṇa viññāṇakkhandhaを観る修

1）～5）は Vedanākkhandhaと同じです。

現世の 3 つの原因

6） Nāmarūpa が原因で Viññāṇakkhandha が結果です。

7） Āloka が原因で Viññāṇakkhandha が果です。

8） Manasikāra 11 個が原因で Viññāṇakkhandha が結果です。

* Nāma は Cakkhuviññāṇa 8 個の心と心所から Viññāṇa を除いた 7 個の心所を観ます。

Rūpa は Cakkhuvatthu に頼っている 63 個の Rūpārammaṇa を観ます。

以上のように Cakkhuviññāṇa に関しても五蘊に分けて修習しなければなりません。

7. Rūpārammaṇa line Sampaṭicchana（色所縁受領心）の五蘊の作り方と実践

1） Sampaṭicchana の頼る Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa が Rūpakkhandha です。
2） Sampaṭiccana nāma dhamma 11 個に含まれている Vedanā が Vedanākkhandha です。
3） Sampaṭicchana nāma dhamma 11 個に含まれている Saññā が Saññākkhandha です。
4） 第一法 Sampaṭicchana nāma dhamma 11 個に含まれている Cetanā が Saṅkhārakkhandha です。
第二法 Sampaṭicchana nāma dhamma 11 個から Vedanā、Saññā、Viññāṇa を除いた 8 個は Saṅkhārakkhandha です。
5） Sampaṭicchana nāma dhamma 11 個に含まれている Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。

●Sampaṭicchana rūpakkhandha を観る修習
Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha の修習と同じです。

●Sampaṭicchana vedanākkhandha を観る修習
過去世の 5 つの原因
1） Avijjā 20 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra34 個の Kamma satti が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
現世の 3 つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu（7 =63）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
8-1）Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
8-2）Phassa: Sampaṭicchanamanosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。

●Sampaṭicchana saññākkhandha を観る修習
1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。
8-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana saññākkhandha が結果です。
8-2）Phassa: Sampaṭicchanamanosamphassa（11－Saññā = 10）が原因で Sampaṭicchana saññākkhandha が結果です。

●Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha を観る修習
第一法　Cetanā を主として観る
1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。
8-1）　Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です。
8-2）Phassa:　Sampaṭicchanamanosamphassa（11－Cetanā＝10）が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です。
第二法　Saṅkhārakkhandha 8個を観る
1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。
8-1）　Phassa:　Cakkhusamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です。
8-2）　Sampaṭicchana の残りの　Nāmakkhandha 3 個（Vedanākkhandha,saññākkhandha、Viññāṇakkhandha）が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です。

●Sampaṭicchana viññāṇakkhandha を観る修習
1）～5）は Vedanākkhandha と同じです。
6）　Phassa: Cakkhuphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
7）　Sampaṭicchana nāmarūpa が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
（Nāma は心所 10 個、Rūpa は Hadayavatthu に含まれる 63 個の Rūpa と Rūpa-ārammaṇa）

8．Rūpārammaṇa line Santīraṇa（推度心）の五蘊の作り方と実践

1）Santīraṇa の頼る Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa が Rūpakkhandha です。
2）　Santīraṇa nāma dhamma 12 個に含まれている Vedanā は Vedanākkhandha です。
3）　Santīraṇa nāma dhamma 12 個に含まれている Saññā は Saññākkhandha です。
4）　第一法　Santīraṇa nāma dhamma 12 個に含まれている Cetanā は Saṅkhārakkhandha です。
第二法　　Santīraṇa nāma dhamma 12 個から Vedanā、Saññā、Viññāṇa を除いた9個は Saṅkhārakkhandha です。
5）　Santīraṇa nāma dhamma 12 個に含まれている Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。
（Somanassa vedanā で現れた場合は Pīti があり１２個、Upekkhā vedanā であれば、Pīti が無く１１個）

●Santīraṇa rūpakkhandha を観る修習
Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha の修習と同じです。

●Santīraṇa vedanākkhandha を観る修習
過去世の5つの原因
1）　Avijjā 20 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。

2） Taṇhā 20 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra34 個の Kamma satti が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
現世の 3 つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です
8-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-2）Phassa: Sampaṭicchanamanosamphassa 11 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-3）Phassa: Satīraṇamanosamphassa（12－Vedanā =11）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。

●Santīraṇa saññākkhandha を観る修習
1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。
8-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Santīraṇa saññākkhandha が結果です。
8-2） Phassa: Sampaṭicchanamanosamphassa 11 個が原因で Santīraṇa saññākkhandha が結果です。
8-3）Phassa: Satīraṇamanosamphassa（12－Saññā =11）が原因で Santīraṇa saññākkhandha が結果です。（Upekkhā の場合は（11－Saññā＝10）が原因。）
●Santīraṇa saṅkhārakkhandha を観る修習
第一法 Cetanā を主として観る
1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。
8-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Santīraṇa saṅkhārakkhandha が結果です。
8-2） Phassa: Sampaṭicchanamanosamphassa 11 個が原因で Santīraṇa saṅkhārakkhandha が結果です。
8-3）Phassa: Satīraṇamanosamphassa（12－Cetanā =11）が原因で Santīraṇa saṅkhārakkhandha が結果です。（Upekkhā の場合は（11－Cetanā＝10）が原因。）
第二法 Saṅkhārakkhandha（9個）
1）～7）は Vedanākkhandha と同じです。
8-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Santīraṇa saṅkhārakkhandha が結果です。
8-2） Phassa: Sampaṭicchanamanosamphassa1 1 個が原因で Santīraṇa saṅkhārakkhandha が結果です。
8-3）残り 3 つの Nāmakkhandha が原因で Santīraṇa saṅkhārakkhandha が結果です。

●Santīraṇa viññāṇakkhandha を観る修習
1）～5）は Vedanākkhandha と同じです。
6-1） Phassa: Cakkhuphassa 8 個が原因で Santīraṇa viññāṇakkhandha が結果です。

6-2） Phassa: Sampaṭicchanamanosamphassa11 個が原因で Santīraṇa viññāṇa-kkhandha が結果です。
7） Santīraṇa nāmarūpa が原因で Santīraṇa viññāṇakkhandha が結果です。
（Nāma は Somanassa vedanā であれば心と心所 11 個、Upekkhā であれば 10 個、Rūpa は Hadayavatthu に含まれる63個の Rūpa と対象している Rūpārammaṇa）

9. Rūpārammaṇa voṭṭhapana（色所縁確定心）の五蘊の作り方と実践

1） Voṭṭhapana の頼っている Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa が Rūpakkhandha です。
2） Voṭṭhapana nāma dhamma12 個に含まれている Vedanā は Vedanākkhandha です。
3） Voṭṭhapana nāma dhamma 12 個に含まれている Saññā は Saññākkhandha です。
4） 第一法 Voṭṭhapana nāma dhamma 12 個に含まれている Cetanā は Saṅkhāra-kkhandha です。
第二法 Voṭṭhapana nāma dhamma 12 個から Vedanā、Saññā、Viññāṇa を除いた9個は Saṅkhārakkhandha です。
5）Voṭṭhapana nāma dhamma 12 個に含まれている Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。
*Voṭṭhapana を観る時の注意点。Voṭṭhapana の働きは Pañcadvārāvajjana と同じでただ決意することです。Kiriya citta（唯作心）と同じです。過去の原因はありません。現在の原因のみあります。

●Voṭṭhapana rūpakkhandha を観る
Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha と同じです。

●Voṭṭhapana vedanākkhandha を観る。
過去世の原因はありません。
現在の3つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Voṭṭhapana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Voṭṭhapana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Voṭṭhapana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Phassa: Satīraṇamanosamphassa 12 個あるいは 11 個が原因で Voṭṭhapana vedanākkhandha が結果です。
3-3） Phassa: Voṭṭhapanamanosamphassa（12－Vedanā = 11）が原因で Voṭṭhapana vedanākkhandha が結果です。

●Voṭṭhapana saññākkhandha を観る
現世の3つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Voṭṭhapana saññākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Voṭṭhapana saññākkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Voṭṭhapana saññākkhandha が結果です。

3-2） Phassa: Satīraṇamanosamphassa 12 個あるいは 11 個が原因で Voṭṭhapana saññākkhandha が結果です。
3-3） Phassa: Voṭṭhapanamanosamphassa（12－Saññā ＝ 11）が原因で Voṭṭhapana saññākkhandha が結果です。

●Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha を観る
現世の3つの原因
第一法 Cetanā を主とした方法
1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-2） Phassa: Santīraṇamanosamphassa 12 個あるいは 11 個が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-3） Phassa: Voṭṭhapanamanosamphassa（12－Cetanā ＝ 11）が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
第二法 Saṅkhārakkhandha 9 個の心所
1） Vatthu: Hadayavatthu 63個が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Voṭṭhapana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-2） Phassa: Santīraṇamanosamphassa 12 個あるいは 11 個が原因で Voṭṭhapana Saṅkhārakkhandha が結果です。
3-3）残り 3 つの Nāmakkhandha が原因で Voṭṭhapana Saṅkhārakkhandha が結果です。

●Voṭṭhapana viññāṇakkhandha を観る
現在の 2 つの原因
1-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Voṭṭhapana viññāṇakkhandha が結果です。
1-2） Phassa: Santīraṇamanosamphassa 12 個あるいは 11 個が原因で Voṭṭhapana viññāṇakkhandha が結果です。
2） Voṭṭhapana nāmarūpa が原因で Voṭṭhapana viññāṇakkhandha が結果です。
Nāma は Voṭṭapana に含まれている 11 個の心所です。Rūpa は Hadayavatthu に含まれている 63 種類の Rūpa と対象している Rūpārammaṇa です。

10. Javana paṭipādaka-manasikāra（速行提供作意）について

Voṭṭhapana が確定する時は Ārammaṇa を確定します。Ārammaṇa を Iṭṭha（好ましいもの）あるいは Aniṭṭha（好ましくないもの）と確定しますが、それらは間違った確定なので Ayonisomanasikāra（非理作意）になります。そのように Ayonisomanasikāra になると Voṭṭhapana の後で Akusala javana が現れてきます。Pañcadvāra vīthi に含まれている

Voṭṭhapana は Ārammaṇa を Iṭṭha、Aniṭṭha、Nicca、Sukha、Atta、subha として確定していることは完璧に確定をしているのではありません。それは、前々の Manodvāra vīthi が対象を Iṭṭha、Aniṭṭha、Nicca、Sukha、Atta、subha として何度も何度も確定した後に Pañcadvāra vīthi に現れた、それらの前々に Manodvāra vīthi が確定したことを Upanissaya paccaya satti（親依縁効力）により支えたからこそ、この Voṭṭhapana は対象を Iṭṭha、Aniṭṭha、Nicca、Sukha、Atta、subha として確定するのです。Nāma 瞑想の時も書きましたが Pañcadvāravīthi に含まれている Voṭṭhapana の確定は実際の確定ではありません。Pañcadvāravīthi の後に来る Manodvāra vīthi が何度も確定したことを確定したということです。Pañcadvāra vīthi に含まれている Voṭṭhapana が対象を Iṭṭha、Aniṭṭha、Nicca、Sukha、Atta、subha として確定して現れたことが Ayonisomanasikāra になります。この Ayonisomanasikāra を原因として Akusala javana が現れます。さらに Voṭṭhapana がこれは Rūpārammaṇa である、と確定した場合は Yonisomanasikāra になります。Yonisomanasikāra になると、その後の Javana は Kusala javana になります。この Yonisomanasikāra も Voṭṭhapana の実際の確定ではなく、前々に Manodvāra vīthi が確定したことを確定しているのです。Ayonisomanasikāra として確定した場合は Akusala javana になります。Yonisomanasikāra として確定した場合は Kusala javana になります。このように Voṭṭhapana が Javana になる基本の原因として作意することを Javana paṭipādaka manasikāra と言います。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā Mm.1-177 に記載〕

11. Rūpārammaṇa line Mahākusala paṭhama javana（色所縁大善第一速行心）の五蘊の作り方と実践

1）Paṭhama javana の頼る Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa が Rūpakkhandha です。
2） Paṭhama javana nāma dhamma 34 個に含まれている Vedanā は Vedanākkhandha です。（Kusala javana の心と心所は 34 個です。）
3） Paṭhama javana nāma dhamma 34 個に含まれている Saññā は Saññākkhandha です。
4） 第一法 Paṭhamajavana nāma dhamma 34 個に含まれている Cetanā は Saṅkhārakkhandha です。
第二法 Paṭhamajavana nāma dhamma（34－Vedanā, Saññā、Viññāṇa=31） が Saṅkhārakkhandha です。
5） Paṭhama javana nāma dhamma 34 個に含まれているは Viññāṇa は Viññāṇakkhandha です。
*Javana nāma dhamma にも過去世の原因はありません。現世の原因のみあります。

●Mahākusala paṭhama javana rūpakkhandha を観る
Pañcadvārāvajjana と同じ修習です。

●Mahākusala paṭhama javana vedanākkhandha を観る
現世の 4 つの原因

1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）個が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Phassa: Paṭhamajavanamanosamphassa（34－Vedanā = 33）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
4） Yonisomanasikāra（Voṭṭhapana =12）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。

●Mahākusala paṭhamajavana saññākkhandha を観る
現世の 4 つの原因
1） Vatthu：Hadayavatthu 63 個が原因で Paṭhama javana saññākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Paṭhama javana saññākkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama javana saññākkhandha が結果です。
3-2） Phassa: Paṭhamajavanamanosamphassa（34－saññā = 33）が原因で Paṭhama javana saññākkhandha が結果です。
4） Yonisomanasikāra（Voṭṭhapana = 12）が原因で Paṭhama javana saññākkhandha が結果です。
●Mahākusala paṭhamajavana saṅkhārakkhandha を観る
第一法 Cetanā を主とする
現世の 4 つの原因
1）Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で paṭhamajavana saṅkhārakkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Paṭhama javana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama javana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-2） Phasssa: Paṭhamajavanamanosamphassa（34－Cetanā = 33）が原因で Paṭhama javana saṅkhārakkhandha が結果です。
4） Yonisomanasikāra（Voṭṭhapana = 12）が原因で Paṭhama javana saṅkhārakkhandha が結果です。
第二法 31 個の心と心所を観る
現世の 4 つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu 63 個が原因で paṭhamajavana saṅkhārakkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Paṭhama javana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-1） Phssa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama javana saṅkhārakkhandha が結果です。
3-2） 残りの Nāma khandha 3 個が原因で Paṭhama javana saṅkhārakkhandha が結果です。

4） Yonisomanasikāra（Voṭṭhapana = 12）が原因で Paṭhama javana Saṅkhārakkhandha が結果です。

●Mahākusala paṭhamajavana viññāṇakkhandha を観る
現世の 3 つの原因
1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhamajavana viññāṇakkhandha が結果です。
2） Nāmarūpa が原因で Paṭhamajavana viññāṇakkhandha が結果です。
Nāma は 33 個の心所です。Rūpa は Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa です。
3） Yonisomanasikāra（Voṭṭhapana =12）が原因で Paṭhamajavana viññāṇakkhandha が結果です。
*Somanassa vedanā の場合 Pīti が含まれているので 34 個ですが、Upekkhā vedanā の場合は Pīti が含まれていないので 33 個になります。Ñāṇa が含まれていない場合も 33 個になります。Ñāṇa も Pīti もなければ 32 個になります。ですから Saṅkhārakkhandha を観る時はそれらに気を付けて残りの数の心と心所を観てください。
*Dutiyajavana を観る場合の注意として Paṭṭhānapāḷi（発趣論）1-3 において以下のように述べられました。
Purimā purimā kusalā dhammā pacchimānaṃ pacchimānaṃ kusalānaṃ dhammānaṃ anantara paccayena paccayo.
これは前々の Javana は後々の Javana になる Anantara（直接の）原因となりえるということです。Anantara とは間が無い、空間が無いという意味になります。このようにすべての前々の心は後々の心の原因となります。さらに次のように述べられています。
Yesaṃ yesaṃ dhammānaṃ anantarā ye ye dhamma uppajjanti citta cetasikā dhamma te te dhamma tesaṃ tesaṃ dhammānaṃ anantara paccayena paccayo.
これは、前々の Citta は後々の Citta の Anantara の原因となるということです。
ですから、Dutiya javana（第二速行心）を観る時は Paṭhama javana という原因がもう 1 つ増えます。Tadārammaṇa までそのことに注意して観てください。
Paṭhama javana の場合は Voṭṭhapana が一番近い原因になります。Voṭṭhapana が Javana paṭipādaka manasikāra となることは先ほど説明したとおりです。

12. Mahākusala dutiya javana（大善第二速行心）の五蘊の作り方と実践

五蘊の作り方と実践は Paṭhama javana と同じです。

●Mahākusala dutiya javana vedanākkhandha を観る
過去世の原因はありません。
現世の4つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu 63 個が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。

3-2） Phassa: Paṭhamajavanamanosamphassa 34 個が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。
3-3） Phassa: Dutiya javanamanosamphassa（34－ Vedanā = 33）が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。
4） Yonisomanasikāra（Voṭṭhapana =12）が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。
*Mahākusala dutiyajavana saññākkhandha、saṅkhārakkhandha、viññāṇakkhandha も同じように修習してください。

（1） Tatiya javana（第三速行心）の Anantara の原因は Dutiya javana です。
（2） Catuttha javana（第四速行心）の Anantara の原因は Tatiya javana です。
（3） Pañcama javana（第五速行心）の Anantara の原因は Catuttha javana です。
（4） Chaṭṭhama javana（第六速行心）の Anantara の原因は Pañcama javana です。
（5） Sattama javana（第七速行心）の Anantara の原因は Chaṭṭhama javana です。
（6） Paṭhama Tadārammaṇa（第一被所縁）の Anantara の原因は Sattama javana です。
（7） Dutiya Tadārammaṇa（第二被所縁）の Anantara の原因は Paṭhama Tadārammaṇa です。

13. Mahāvipāka Tadārammaṇa（大異熟被所縁）の五蘊の作り方と実践

1） Mahāvipāka Tadārammaṇa の頼る Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa が Rūpakkhandha です。
2） Mahāvipāka Tadārammaṇa nāma dhamma 34 個に含まれている Vedanā が Vedanā-kkhandha です。
3） Mahāvipāka Tadārammaṇa nāma dhamma 34 個に含まれている Saññā が Saññākkhandha です。
4） 第一法 Mahāvipāka Tadārammaṇa nāma dhamma 34 個に含まれている Cetanā が Saṅkhārakkhandha です。
第二法 Mahāvipāka Tadārammaṇa nāma dhamma（34－Vedanā、Saññā、Viññāṇa=31）が Saṅkhārakkhandha です。
5） Mahāvipāka Tadārammaṇa nāma dhamma 34 個に含まれている Viññāṇa が Viññāṇakkhandha です。

●Mahāvipāka paṭhama Tadārammaṇa rūpakkhandha を観る
Pañcadvārāvajjana rūpakkhandha と同じ修習です。
●Mahāvipāka paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha を観る
過去世の 5 つの原因
1） Avijjā 20 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。

4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
現世の 3 つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です
8-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
8-2） Phassa: Sattamajavanamanosamphassa 34 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
8-3）Phassa: Paṭhama Tadārammaṇa（34－Vedanā＝33）が原因で Paṭhama Tadārammaṇa vedanākkhandha が結果です。
*Paṭhama Tadārammaṇa saññākkhandha、Saṅkhārakkhandha（第一法、第二法）も Vedanākkhandha と同じように修習してください。

●Mahāvipāka paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha を観る
過去世の 5 つの原因
1） Avijjā 20 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
現世の 2 つの原因
6-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
6-2） Phassa: Sattamajavanamanosamphassa34 個が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
7） PaṭhamaTadārammaṇa nāmarūpa が原因で Paṭhama Tadārammaṇa viññāṇakkhandha が結果です。
Nāma は 33 個の心所です。Rūpa は Hadayavatthu に含まれる Rūpa 63 個と Rūpā-ārammaṇa です。
*Upekkhā vedanā であれば Pīti が無く 33 個です。Ñāṇa が無ければ 33 個です。
Pīti も Ñāṇa も無ければ 32 個です。Saṅkhārakkhandha を観る時の Nāma dhamma の数が変わるので注意して観てください。
Kusalavipāka somanassa santīraṇa Tadārammaṇa であれば Nāma dhamma は 12 個です。
Kusalavipāka upekkhā satīraṇa Tadārammaṇaṇa であれば Pīti が無く 11 個です。
Akusala upekkhā santīraṇa Tadārammaṇaṇa であれば 11 個です。
このように Tadārammaṇaṇa に含まれる Nāma dhamma の数は 34、33、32、12、11、11 と

変わるので注意してください。

ここまで Kusalajavana になる Cakkhudvāra vīthi に含まれている Cittakkhaṇa を五蘊として作りその原因と結果の繋がりを観る説明をしました。残りの Kusalajavana になる Cakkhudvāra vīthi なども同じように修習しなければなりません。さらに Cakkhudvāra vīthi の後に Bhavaṅga citta が入ってきます。後の Bhavaṅga citta の後で同じ Rūpārammaṇa を対象して Manodvāra vīthi citta のプロセスが現れます。後の Bhavaṅga も間々の Bhavaṅga の時の五蘊の作り方で修習してください。

14. Rūpārammaṇa line Manodvārāvajjana の五蘊の作り方と実践

Manodvārāvajjana の五蘊の作り方は Voṭṭhapana の五蘊の作り方と同じです。Javana と Tadārammaṇa の五蘊の作り方も Cakkhudvāra vīthi の Javana と Tadārammaṇa の五蘊の作り方と同じです。
例として Manodvārāvajjana vedanākkhandha を観る実践方法を説明します。

●Manodvārāvajjana vedanākkhandha を観る
現世の 3 つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu（7＝63）が原因で Manodvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Manodvārāvajjana vedanākkhandha が結果です
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Manodvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Phassa: Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Manodvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-3）Phassa: Manodvārāvajjanamanosamphassa（12－Vedanā = 11）が原因で Manodvāravajjana vedanākkhandha が結果です。

●Mahākusala javana vedanākkhandha を観る
現世の 4 つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Paṭhamajavana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Paṭhamajavana vedanākkhandha が結果です
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhamajavana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Phassa: Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Paṭhamajavana vedanākkhandha が結果です。
3-3）Phassa: Paṭhamajavanamanosamphassa（34－Vedanā = 33）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。

4） Yonisomanasikāra（voṭṭhapana =12）が原因で Paṭhamajavana vedanākkhandha が結果です。

例として Vedanākkhandha のみ書きましたが残りの Saññākkhandha、Saṅkhārakkhandha、Viññāṇakkhandha も同じようにすべて修習してください。

●Mahākusala dutiya javana vedanākkhandha を観る

現世の 4 つの原因

1） Vatthu: Hadayavatthu（7＝63）が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。

2） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です

3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。

3-2） Phassa: Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。

3-3） Phassa: Paṭhamajavanamanosamphassa 34 個が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。

3-4） Phassa: Dutiyajavanamanosamphassa（34－Vedanā＝33）が原因で Duitiya javana vedanākkhandha が結果です。

4） Yonisomanasikāra（voṭṭhapana =12）が原因で Dutiyajavana vedanākkhandha が結果です。

ここでも残りの Saññākkhandha、Saṅkhārakkhandha、Viññāṇakkhandha も同じようにすべて修習してください。

Javana の後の Tadārammaṇa も同じように修習してください。

「このぐらい書けば実践している Yogī は理解するでしょう。」と Pa-Auk 大長老は書かれています。

15. Cakkhusamphassa（眼触）と Manosamphassa（意触）について

Saṃyuttanikāya2-248、Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā3-5、Majjimanikāya3-325,346、Saṃyuttanikāya Ṭīkā2-286 などの経典、註釈書、復註などには Cakkhusamphassa と Manosamphassa について次のように書かれています。

Cakkhusamphassa を原因として現れた Cakkhuviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Voṭṭhapana、Javana、Tadārammaṇa の Vedanā は Cakkhusamphassa paccaya vedanā です。

また、Cūḷa Rāhulovāda sutta（小ラーフラ教誡経）には Cakkhusamphassa の原因で Vedanā 1 つだけが現れるのでなく他の Vedanā、Saññā、Saṅkhāra、Viññāṇa という Nāmakkhandha 4 種類すべての Nāmakkhandha が現れる、と書かれています。

以上のことから Cakkhuviññāṇa にある Cakkhusamphassa が Cakkhuviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīrana,Voṭṭhapana、Javana、Tadārammaṇa というそれぞれの Nāmakkhandha 4種類が現れるように支えていると理解してください。

Cakkhusamphassa を原因として現れた Nāma dhamma を支えているのは Samāna vīthi（同じ路）あるいは Cakkhudvāra vīthi であると Aṭṭhakathā には書かれています。さらに Aṭṭhakathā Sayadaw は Paṭṭhāna mūlaṭīkā2-30 において、そのパーリ文を指して

Cakkusamphassa は Samāna vīthi のみならず Nānā vīthi（種々路）という違う Vīthi の Nāma dhamma など、あるいは Rūpārammaṇa を続いて対象としている Manodvāra vīthi Nāma dhamma なども支えていることである、と書かれています。

Pa-Auk 大長老は大勢の Yogī を調べてこの Mūlaṭīkā を書かれた Sayadaw の説明と Yogī が実践して観たことが一致していることが解りました。

Cakkusamphassa は Samāna vīthi と Nānā vīthi の両方を支えていることと同じように、Sotasamphassa に含まれている Sotadvāra vīthi の Saddārammaṇa manodvāra vīthi を支えていることや、他の Ghānasamphassa、Jivhāsamphassa なども同じように支えていることも理解してください。

Manosamphassa とは Manodvārāvajjana を Anantara paccaya satti で支えている一番近い Bhavaṅga の中に含まれている Phassa のことを言います。その Manosamphassa は Manodvārāvajjana、Javana、Tadārammaṇa などが Manodvāra vīthi のプロセスに現れるように直接支えていることになります。もしも Appanā vīthi（安止路）であれば Manodvāra vajjana upacāra samādhi appanājavana（意門引転心近行定安止速行心）が現れるように Manosamphassa が支えていることになります。同じ Rūpārammaṇa をさらに対象としているのであれば Manodvāra vīthi nāma dhamma を Cakkhusamphassa や Manosamphassa あるいは同時に現れた Sampayutta manosamphassa などが支えています。さらに Dutiyajavana などでは Paṭhamajavana にある Anantara manosamphassa が原因で支えています。ですから Yogī は Cakkhudvārika nāma dhamma にある Cakkhusamphassa、Bhavaṅga manosamphassa、Anantara manosamphassa、Sahajtāta sampayuttaṃ manosamphassa それぞれに関係ある Nāma dhamma が支え合っていることや、原因と結果の繋がりを自分の智慧でよく観て修習してください。

これで Rūpārammaṇa を対象として Cakkhudvāra、Manodvāra、Kusala javana vīthi などに含まれているすべての Cittakkhaṇa の五蘊の原因と結果を観る修習は終わりです。これで Kusala javana vīthi の修習の説明は終わります。

Rūpārammaṇa を対象として Cakkhudvāra、Manodvāra、Akuusala javana vīthi などに含まれているすべての Cittakkhaṇa にある五蘊の原因と結果を観る修習を続けます。

これから Akusala line の修習になります。Rūpārammaṇa を対象として現れた Cakkhudvāra、Manodvāra、Akusalajavana vīthi に含まれている Pañcadvārāvajjana、Cakkhuviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Voṭṭhapana、Tadārammaṇa、Bhavaṅga が少し入り、Manodvārāvajjana、Tadārammaṇa などを観ていく修習は Kusala line とほぼ同じです。Javana を観る時に少し違いがあります。この本では Akusala line の修習の場合は Robha diṭṭhi group に含まれる心と心所 20 個を中心に説明していきます。Kusala javana nāma dhamma、Akusala javana nāma dhamma には過去世の原因はありません。現世の原因のみになります。

16. Rūpārammaṇa line, Lobha diṭṭhi group（色所縁貪欲見）の Javana（速行心）の五蘊の作り方と実践

1） Lobha diṭṭhi group javana が頼っている Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa

と Rūpārammaṇa が Rūpakkhandha です。
2） Lobha diṭṭhi group javana nāma dhamma 20 個に含まれている Vedanā が Vedanā-kkhandha です。
3） Lobha diṭṭhi group javana nāma dhamma 20 個に含まれている Saññā が Saññā-kkhandha です。
4） 第一法 Lobha diṭṭhi group javana nāma dhamma 20 個に含まれている Cetanā が Saṅkhārakkhandha です。
第二法 Lobha diṭṭhi group javana nāma dhamma（20－Vedanā、Saññā、Viññāṇa =17）が Saṅkhārakkhandha です。
5） Lobha diṭṭhi group javana nāma dhamma 20 個に含まれている Viññāṇa が Viññāṇa-kkhandha です。

●Javana rūpakkhandha を観る
Pañcadvārāvajjana の Rūpakkhandha と同じです。

●Lobha diṭṭhi group paṭhama javana vedanākkhandha（Cakkhudvāra vīthi）を観る
現世の 4 つの原因
1） Vatth: Cakkhuvatthu（7 = 63）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇṇa: Rūpārammaṇa が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-2）Phassa: Paṭhama javanamanosamphassa（20－Vedanā = 19）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
4） Ayonisomanasikāra（Voṭṭhapana =12）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
以降、違いのある Khandha のみ説明していきます。

●Lobha diṭṭhi group paṭhama javana viññāṇakkhandha（Cakkhudvāra vīthi）を観る
現世の3つの原因
1） Cakkhusamphassa 8 個が原因で Paṭhama javana viññāṇakkhandha が結果です。
2） Nāmarūpa が原因で Paṭhama javana viññāṇakkhandha が結果です。
Nāma は心所 19 個です。Rūpa は Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa です。
3） Ayonisomanasikāra（Voṭṭhapana =12）が原因で Paṭhama javana viññāṇakkhandha が結果です。

●Lobha diṭṭhi group dutiya javana vedanākkhandha（Cakkhudvāra vīthi）を観る
現世の 4 つの原因
1） Vatth: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇṇa: Rūpārammaṇa が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。

3-1） Phassa: Cakkhusamphassa 8 個が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
3-2 ） Phassa: Paṭhama javanamanosamphassa 20 個が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
3-3） Phasssa: Dutiya javanamanosamphassa（20－Vedanā = 19）が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
4） Ayonisomanasikāra （voṭṭhapana =12）が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。

●Lobha diṭṭhi group dutiya javana viññāṇakkhandha（Cakkhudvāra vīthi）を観る
現世の3つの原因
1-1） Cakkhusamphassa 8 個が原因で Dutiya javana viññāṇakkhandha が結果です。
1-2） Paṭhama javanamanosamphassa 20 個が原因で Dutiya javana viññāṇakkhandha が結果です。
2） Nāmarūpa が原因で Dutiya javana viññāṇakkhandha が結果です。
Nāma は心所19個です。Rūpa は Hadayavatthu に含まれている 63 個の Rūpa と Rūpārammaṇa です。
3）Ayonisomanasikāra（voṭṭhapana =12）が原因で Dutiya javana viññāṇakkhandha が結果です。

17. 諸々の注意点と実践のための例

以上のように Rūpārammaṇa line の Cakkhudvāra vīthi、Manodvāra vīthi など Akusala javana vīthi のすべての Cittakkhaṇa を五蘊で原因と結果を観ることが解ると思います。Rūpārammaṇa Line にある Kusala javana vīthi、Akusala javana vīthi のすべての Cittakkhaṇa に五蘊を観る方法でよく原因と結果の繋がりを理解した後 Saddārammaṇa Line（声所縁）、Gandhārammaṇa line（香所縁）、Rasārammaṇa line（味所縁）、Phoṭṭhabbārammaṇa line（触所縁）のそれぞれすべてを修習してください。Cittakkhaṇa に含まれている心所の数は少し変わることもありますがほぼ同じです。
Cittakkhaṇa 一つ一つに含まれている心所の数により Saṅkhārakkhandha、Sahajāta manosamphassa の時の数が違う場合があるので、それをよく注意して観てください。
Abhidhamma の基本の勉強をしていない Yogī は実践の時に先生に付いて修習してください。
他の Line の Rūpārammaṇa line との相違点です。
1） Rūpārammaṇa line の時の Ārammaṇa は Rūpārammaṇa です。
Phassa は Cakkhusamphassa として観ます。
2） Saddārammaṇa line の時の Ārammaṇa は Saddārammaṇa です。
Phassa は Sotasamphassa として観ます。
3） Gandārammaṇa line の時の Ārammaṇa は Gandhārammaṇa です。
Phassa は Ghānasamphassa として観ます。
4） Rasārammaṇa line の時の Ārammaṇa は Rasārammaṇa です。

Phassa は Jivhāsamphassa として観ます。
5） Phoṭṭhabbārammaṇa line の時の Ārammaṇa は Phoṭṭhabbārammaṇa です。
Phassa は Kāyasamphassa として観ます。

18． Saddārammaṇa line（声所縁）の修習

●Saddārammaṇa line Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha を観る
現世の3つの原因
1） Vatth: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇ: Saddārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Manosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
他の残りの Khandha も同じように修習してください。Yogī はすべての Chittakkhaṇa に含まれている五蘊で修習してください。

●Saddārammaṇa line sotaviññāṇa vedanākkhandha を観る
過去の5つの原因
1） Avijjā 20 個が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra34 個の Kamma satti が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
現世の 5 つの原因
6） Vatth: Sotavatthu（7 = 63）が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇṇa: Saddārammaṇa が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
8） Sotasamphassa（8－Vedanā = 7）が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
9） Ākāsa（空間）が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
10） Manasikāra（Pañcadvārāvajjana =11）個が原因で Sotaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
* Ākāsa とは Sotapasāda と Saddārammaṇa の間にある空間のことです。この Ākāsa dhātu が無いと Sotaviññāṇa は現れません。空間が無いと音は通らないので空間も 1 つの原因となります。例えば、耳を塞いでしまうと音は聞こえなくなってしまいます。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā2-322 に記載〕

●Saddārammaṇa line sampaṭicchana saṅkhārakkhandha 第二法を観る
過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です
3） Upādāna 20 個が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です
5） Kamma という Saṅkhāra 34 個の Kamma satti が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です

現世の 3 つの原因

6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です
7） Ārammaṇa: Rūpārammaṇa が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です
8-1） Sotasamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana saṅkhārakkhandha が結果です
8-2）残る 3 つの khandha が原因で Sampaṭicchana Saṅkhārakkhandha が結果です。

●Saddārammaṇa line sampaṭicchana viññāṇakkhandha を観る

過去世の 5 つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra34 個の Kamma satti が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Sotasamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
7） Sampaṭicchana nāmarūpa が原因で Sampaṭicchana viññāṇakkhandha が結果です。
（Nāma は心所 10 個、Rūpa は Hadayavatthu に含まれる 63 個の Rūpa と Saddārammaṇa）

●Saddārammaṇa line Santīraṇa vedanākkhandha を観る

過去の5つの原因

1） Avijjā 20 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
5） Kamma という Saṅkhāra34 個の Kamma satti が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。

現世の 3 つの原因

6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Sadārammaṇa が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です
8-1）Sotasamphassa 8 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-2）Sampaṭicchanamanosamphassa 11 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。

8-3）Santīraṇamanosamphassa（12－Vedanā =11）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。

19. Gandhārammaṇa line（香所縁）の修習

●Gandhārammaṇa line Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha を観る
現世の 3 つの原因
1） Vatth: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Gandhārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha 結果です。
3-2 ） Pañcadvārāvajjanamanosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。

●Gandhārammaṇa line Ghānaviññāṇa vedanākkhandha を観る
過去世の5つの原因
1） Avijjā 20 個が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
2） Taṇhā 20 個が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
3） Upādāna 20 個が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
5）Kamma という Saṅkhāra34 個の Kamma satti が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
現世の 5 つの原因
6） Vatth: Ghānavatthu（7 = 63）が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇṇa: Gandhārammaṇa が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
8） Ghānasamphassa（8－Vedanā = 7）が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
9） Vāyo dhātu（風界）が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
10） Manasikāra（Pañcadvārāvajjana =11）が原因で Ghānaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。

*Vāyo dhātu とは Ghānapasāda が匂いを嗅ぐことができるように香りなどを持ってくるのが風です。風が無いと匂いを嗅ぐことができず Ghānaviññāṇa は現れず Vāyo dhātu が無ければ他の Sampayutta dhamma も現れません。ですから Vāyo dhātu も 1 つの原因と観なければなりません。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā1-322 に記載〕

●Gandhārammaṇa line sampaṭicchana vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は同じです。
現世の 3 つの原因
6） Vatth: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Gandārammaṇa が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
8-1） Ghānasamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
8-2） Sampaṭicchana manosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。

●Gandhārammaṇa line santīraṇa vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は同じです。
現世の 3 つの原因
6） Vatth: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Gandārammaṇa が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-1） Ghānasamphassa 8 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-2） Sampaṭicchana manosamphassa 11 個が原因で santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-3）Santīraṇa manosamphassa（12－Vedanā = 11）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
ここでは Ghānaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa などの Viññāṇakkhandha などの現世の原因の中に含まれている Nāma とは viññāṇakkhandha と Cittakkhaṇa 一つの中に一緒に現れた Sampayutta の心所のことです。Rūpa は頼っている Vatthurūpa と Gandārammaṇa のことです。残りのすべての心と心所も修習してください。

20. Rasārammaṇa line（味所縁）の修習

●Rasārammaṇa line Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha を観る
現世の 3 つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Rasārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Pañcadvārāvajjana manosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。

●Rasārammaṇa line jivhāviññāṇa vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は前と同じです。
現世の5つの原因

6） Vatthu: Jivhāvatthu（7 = 63）が原因で Jivhāviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Rasārammaṇa が原因で Jivhāviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
8） Jivhāsamphassa（8－Vedanā = 7）が原因で Jivhāviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
9） Āpo dhātu（水界）が原因で Jivhāviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
10） Manasikāra（Pañcadvārāvajjana =11）が原因で Jivhāviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
*Āpo dhātu（水界）とは水分のことで、私たちの舌は濡れていないと味は解りません。乾燥している舌に乾燥しているものを載せても味は解りません。水気が無いと味は解らず Jivhāviññāṇa は現れませんから Āpo dhātu を1つの原因として観なければならないのです。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā1-322 に記載〕
この Jivhāviññāṇakkhandha の修習の時の Nāma は Viññāṇakkhandha に含まれている心と心所であると理解してください。Rūpa はそれぞれに関係のある Vatthu rūpa と Rasārammaṇa を取って観てください。

●Rasārammaṇa line sampaṭicchana vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は前と同じです。
現世の3つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Rasārammaṇa が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
8-1） Jivhāsamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
8-2） Sampaṭicchanamanosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。

●Rasārammaṇa line santīraṇa vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は前と同じです。
現世の3つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Rasārammaṇa が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-1） Jivhāsamphassa 8 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-2） Sampaṭicchana manosamphassa 11 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-3） Santīraṇamanosamphassa（12－Vedanā = 11）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
*残りの他の Khandha もすべて修習してください。

21. Phoṭṭhabbārammaṇa line（触所縁）の修習

●Phoṭṭhabbārammaṇa line Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha を観る
現世の3つの原因

1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Phoṭṭhabbārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。
3-2）Pañcadvārāvajjanamanosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Pañcadvārāvajjana vedanākkhandha が結果です。

●Phoṭṭhabbārammaṇa line kāyaviññāṇa vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は同じです。
現世の5つの原因
6） Vatthu: Kāyavaṭṭhu（6 = 53）が原因で kāyaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Phoṭṭhabbārammaṇa が原因で kāyaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
8） Kāyasamphassa（8－Vedanā = 7）が原因で kāyaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
9） Pathavī dhātu（地界）が原因で kāyaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
10） Manasikāra 11 個が原因で kāyaviññāṇa vedanākkhandha が結果です。
* Pathavī dhātu（地界）とは Mahābhūta（四大種）の中で一番重要な主となる原因の Dhamma です。Kāyapasāda という透明な部分が接触する時には Kāyapasāda に頼っている同じ Kalāpa に含まれている他の Mahābhūta（四大種）などにも接触します。
Kāyaviññāṇa というすべての Nāma dhamma が現れるためには Kāyapasāda という Pathavī dhātu を頼って現れてきます。Pathavī dhātu が無ければ接触も起きません。ですから Pathavī dhātu は1つの原因として観なければなりません。
Kāyadvāra には Phoṭṭhabbārammaṇa という Bahiddhā（外）の Mahā bhūta の対象があります。Bahiddhā には Pathavī、Tejyo、Vāyo がありますし、Ajjhatta（内）にも Pathavī、Tejyo、Vāyo があります。その中で主としている Pathavī がぶつかり合うことにより Kāyaviññāṇa という Nāma dhamma が現れるということです。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā1-322 に記載〕
Kāyaviññāṇa の現世の原因の Nāmarūpa の Nāma は心所の7個です。Rūpa は Kāya-vatthu53 個の Rūpa と Pathavī、Tejyo、Vāyo という Phoṭṭhabbārammaṇa です。

●Phoṭṭhabbārammaṇa line sampaṭicchana vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は同じです。
現世の 3 つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Phoṭṭhabbārammaṇa が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。
8-1） Kāyasamphassa 8 個が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。

8-2） Sampaṭicchanamanosamphassa（11－Vedanā = 10）が原因で Sampaṭicchana vedanākkhandha が結果です。

●Phoṭṭhabbārammaṇa line santīraṇa vedanākkhandha を観る
過去世の1）～5）は同じです。
現世の 3 つの原因
6） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
7） Ārammaṇa: Phoṭṭhabbārammaṇa が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-1） Kāyasamphassa 8 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-2） Sampaṭicchanamanosamphassa 11 個が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。
8-3）Santīraṇamanosamhpassa（12－Vedanā = 11）あるいは（11－Vedanā = 10）が原因で Santīraṇa vedanākkhandha が結果です。

22. Dhammārammaṇa line（法所縁）の修習

●Dhammārammaṇa line kusalajavana vīthi（Cakkhupasāda dhātu）、Paṭhama javana vedanākkhandha を観る
現世の 4 つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Cakkhupasāda dhātu が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Paṭhamajavanamanosamphassa（34－Vedanā = 33）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
4） Yonisomanasikāra（Manodvārāvajjana =12）が原因で Paṭhama javana vedanā-kkhandha が結果です。

●Dutiya javana vedanākkhandha を観る
現世の 4 つの原因
1） Vatthu: Hadayavatthu 63 個が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Cakkhupasāda dhātu 対象が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Bhavaṅga manosamphassa 34 個が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Paṭhamajavanamanosamphassa 34 個が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
3-3） Dutiyajavanamanosamphassa（34－Vedanā = 33）が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。

4） Yonisomanasikāra（Manodvārāvajjana =12）が原因で Dutiya javana vedanākkhandha が結果です。
*残りの他の Javana、Tadārammaṇa などもすべて修習してください。

23. Dhammārammaṇa line ānāpāna patibhāga nimitta（法所縁出入息似相）を対象とした paṭhamajhāna samāpatti vīthi（第一禅入定路）の修習

Jhāna smāpatti vīthi なので Javana のみになります。

●Paṭhama javana vedanākkhandha を観る
現世の4つの原因
1）Vatthu: Hadayavatthu（7 = 63）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
2） Ārammaṇa: Ānāpāna patibhāga nimitta 対象が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-1） Bhavaṅamanosamphassa 34 個が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
3-2） Paṭhamajavana manosamphassa 33 個が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
4） Yonisomanasikāra（Manodvārāvajjana =12）が原因で Paṭhama javana vedanākkhandha が結果です。
* Paṭhamajavana の心と心所は 34 個です。Vedanā の場合は Vedanā を除き Paṭhamajavana manosamphassa は 33 個になります。Dutiyajavana の心と心所は Paṭhamajavana が一番近い原因として 1 つ増えます。Jhāna samāpattijavana の Rūpa は Hadayavatthu に頼っている Rūpa 63 個も修習します。Ānāpāna patibhāga nimitta 対象も1つの Rūpa となります。他の Jhāna 例えば骸骨の修習で Jhāna を得た場合は骸骨が Patibhāga nimitta になりその対象が1つの原因となります。Odāta kasiṇa（白遍）で Jhāna を得た場合は白い Patibhāga nimitta が対象になりそれが1つの原因となります。そのように1つの Nimitta を対象に現れた Jhāna nāma dhamma のすべての原因と結果を自分の智慧で良く理解するように修習しなければなりません。このように Ānāpāna ならば Ānāpāna patibhāga nimitta、Odāta kasiṇa の場合は白い patibhāga nimitta などとそれぞれに得られた Jhāna により Patibhāga nimitta が変わることを理解して修習してください。

Paṭhamajhāna nāma dhamma には 34 個の心と心所があります。Dutiyajhāna nāma dhamma には 32 個の心と心所があります。Tatiyajhāna nāma dhamma には 31 個の心と心所があります。Catutthajhāna nāma dhamma には 31 個の心と心所があります。Arūpajhāna4 種類には 31 個の心と心所があります。このように心と心所の数の違いがあることをよく観て原因と結果の繋がりを観てください。

Jhāna samāpatti vīthi の場合 Tadārammaṇa に落ちないので Tadārammaṇa を観る必要はありません。

24. Dhammārammaṇa line の時の Rūpa dhamma の対象について

Dhammārammaṇa line に含まれている Cakkhupasāda、Sotapasāda、Ghānapasāda、Jivhāpasāda、Kāyapasāda という 5 つの Pasādarūpa（浄色）と、16 種類の Sukhuma rūpa（優色）を対象として修習した場合 Yonisomanasikāra であれば Kusala javana になります。Ayonisomanasikāra であれば Akusala javana になることがあります。Rūpa dhamma を Anicca、Dukkha、Anatta、Asubha と観た場合は Yonisomanasikāra になります。Cakkhupasāda dhātu などと観た場合も Yonisomanasikāra になります。Ayoniso manasikāra になることもあります。このことは第二巻 Nāma 瞑想に書かれているのでよく読んで修習してください。Saṃyojana10 種類（十結縛）も Ayonisomanasikāra になりますからその部分もよく読んで修習してください。残りの原因の Dhamma もすべて同じです。このぐらい書いておけば Akusala javana vīthi についてよく理解できると思います。もし Tadārammaṇa に落ちた場合は前に書いた Tadārammaṇa の修習と同じです。

Rūpārammaṇa line、Saddārammaṇa line、Gandhārammaṇa line、Rasārammaṇa line、Phoṭṭhabbārammaṇa line、Dhammārammaṇa line という 6 つの Line の Kusala javana vīthi、Akusala javana vīthi すべての Vīthi の Cittakkhaṇa に含まれている五蘊を作る方法とその五蘊の原因と結果を観る方法をすべて修習してください。

25. 更なる修習の注意点

Visuddhimagga2-237 には次のように書かれています。

Yogī は Kamma の原因と結果の一部をさらによく観なければなりません。Cakkhudvāra vīthi の 6 つの Line にある Vīthi に含まれている Pañcaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīrana、Tadārammaṇa などに含まれるすべての Cittakkhaṇa および Pavatti viññāṇa（転起識）に含まれている Paṭisandhi、Bhavaṅga 、Cuti という Vipāka viññāṇa などを現す Kamma などは一つの Kamma のみではありません。別の違う Kamma で現れていることもあります。例えとして、お釈迦様には大きな Vipāka として 12 種類の Vipāka がありました。それぞれの Vipāka はそれぞれ別々の Kamma の原因でできています。すべての Pavatti vipāka は 1 つの Kamma からできているのではなく別々の Kamma からできています。他の Pavatti vipāka の Kamma の原因でできていることを調べなければなりません。ですから Yogī は過去の五蘊を観る修習をする時は細かく細かく綿密によく観てそこにある Kamma が Akusala なのか Kusala なのかよく観ながらそれらがどのように現世の Pavatti を支えているか、また、Akusala kamma なら悪い結果を、Kusala kamma なら良い結果を現している、ということを自分の智慧で良く観なければなりません。

以上の修習ができた Yogī は Bahiddhā（外）の過去すべてを修習しなければなりません。来世も観なければなりません。Bahiddhā を観る時はすべてをまとめて修習します。過去世の 5 つの原因と現世の 5 つの結果という原因と結果を 6 つの Line すべてで修習しなければなりません。第一過去世を観ることができたら第二、第三、第四、第五、と自分の智慧の届く範囲すべての過去の原因と結果を観てそれを繋げて観る修習をします。そのようにそれぞれの過去世を観た時にある過去世では Paramattha rūpanāma

dhammaを修習していなければその時にはそれらを対象して修習する必要はありません。過去世でJhāna samāpattiを得ていなければ、それらの修習もする必要はありません。過去世で得ていないことの修習はする必要が無いということです。同じように現在から来世を観る時に原因と結果の繋がりを観て修習しなければなりません。来世は自分の生が終わるまで観てください。つまり涅槃を悟る時まで智慧を延ばして原因と結果の繋がりを観る修習をしてください。このようにAtīta（過去）、Paccuppanna（現在）、Anāgata（未来）、この3つのKāla（期間）にあるAjjhatta（内）とBahiddhā（外）の原因と結果をすべて修習しなければなりません。

26. Caraṇa（行為）の種とVijjā（明）の種を調べる

Caraṇa と Vijjā の種について第一巻で説明しましたが、縁起の修習でそれらを調べることは重要なことになります。

それぞれの過去世の原因と結果の繋がりを観る時、どの過去世で涅槃を悟りたいと願いがあったのかを調べなければなりません。

Caraṇaの種

1） Dāna（布施）、Sīla（戒律）、Samatha（寂止）、四界分別の修習をしたこと。
2） Rūpa dhammaをParamattha（第一義）まで修習をしたこと。
3） Nāma dhammaをParamattha（第一義）まで修習をしたこと。
4） Rūpanāma dhammaをParamattha（第一義）まで修習をしたこと。
5） 原因と結果の修習をしたこと。

Vijjāの種

1） RūpaとNāmaの原因と結果というすべての Saṅkhāra dhamma（行法）を Anicca（無常）、Dukkha（苦）、Anatta（無我）の三相で Vipassanāの修習をしたこと。

これらの Caraṇa と Vijjā をどの過去世で修習していたのかを自分の智慧でよく観なければなりません。現世においてこれらの修習が上手く出来ているのは過去世で修習してきた支えの力のUpatthambhaka satti（支持効力）によるものです。あるいは直接支えている Janaka satti（令生効力）の支えによるものです。過去世の修習の時は、このように支える力となるCaraṇaとVijjāの種をよく調べてください。

27. Bhavaṅga citta（有分心）のAnantara（直接）の原因

一つのBhava（生存）の中でCittaのプロセスは継続しています。Cittaの継続が途切れないように、Bhavaが生き続けるように支えている因として現れているCittaをBhavaṅga citta と言います。Bhavaṅga citta は Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma、Vatthu、Ārammaṇa、Phassaというそれぞれの原因で現れたことをすでに説明しました。このBhavaṅga cittaは生存において一番多く現れます。CittaにはVīthi cittaとVithimutta citta（Bhavaṅga Citta）と2種類に分類されますが、一人の生を調べてみるとBhavaṅga cittaが多いのです。その一つの生で一番多く現れるBhavaṅga cittaの原因は多くあります。そのたくさんの Bhavaṅga citta の中で Yogī は現在修習している

Bhavaṅga citta を支えている原因は一番近い Anantara の Bhavaṅga citta のであることをよく観てください。現在の Citta を支えているのは前々の Ciita の Anantara satti（直接効力）であるとよく理解して修習してください。
1） Paṭisandhi（受胎）は Paṭhama Bhavaṅga citta に、
2） Paṭhama Bhavaṅga は Dutiya Bhavaṅga citta に、
3） 前々の Bhavaṅga は後々の Bhavaṅga citta に、
4） Voṭṭhapana の後 Bhavaṅga になった場合 Voṭṭhapana は Bhavaṅga citta に、
5） Javana の後 Bhavaṅga になった場合、最後の Javana は Bhavaṅga citta に、
6） Tadārammaṇa の後 Bhavaṅga になった場合 Duiya Bhavaṅga は Bhavaṅga citta に、
Anantara paccaya satti（直接縁効力）で支えています。
このように前々に現れた Bhavaṅga citta は後々に現れる Bhavaṅga citta を Anantara paccaya satti で支えていることを Yogī はよく理解して修習してください。

28．Ñāta pariññā（知遍知）を得る

以上のように Āyatana dvāra（処門）つまり 6Line の通りに五蘊にある Rūpa dhamma と Nāma dhamma をすべて修習できた Yogī はこの Nāmarūpa を直接現す Hetu（因）という原因は無く、あるいは Janaka（令生）という原因は無く、あるいは支える Upatthambhaka（支持）の原因は無く、あるいは Paccaya（縁）の原因は無く現れていることではない、ということを理解します。Nāmarūpa dhamma を直接現す Hetu、Janaka の原因は必ずあります。あるいは支えている Upatthambhaka、Paccaya の原因は必ずあります。
Nāmarūpa の Hetu は何か。Paccaya の原因は何かを修習した後に Avijjā という原因、Taṇhā という原因、Kamma という原因、あるいは Āhāra という原因で Nāmarūpa が現れたということを修習してよく理解します。Avijjā の原因で Paṭisandhi kammajarūpa という Rūpakkhandha が現れることにより Avijjā が原因で Paṭisandhi kammajarūpa は結果である、と自分の智慧でよく理解したことになります。
1） Atīta（過去世）には原因と結果のみあります。
2） Anāgata（来世）にも原因と結果のみあります。
3） Paccuppanna（現世）にも原因と結果のみあります。
このように原因の Dhamma と結果の Dhamma 以外には何もないことを理解しなければなりません。原因と結果の Dhamma により Rūpa と Nāma が現れたことを理解した Yogī は、永遠の神様いる、誰かが人間、天、梵天を作らせている、永遠の魂がある、などということは無いことを理解します。あるのは原因と結果により現れた Rūpa dhamma と Nāma dhamma の Saṅkhāra dhamma のみであると理解できます。
このように Sammādiṭṭhi（正見）の智慧ではっきりと修習した Yogī は Atīta（過去生）、Paccuppanna（現世）、Anāgata（来世）の3つの Kāla（期間）において Vicikicchā dhamma（疑法）を無くすことができます。Vipassanā の対象となる、1） Rūpa dhamma、2） Nāma dhamma、3） 原因の Dhamma、4） 結果の Dhamma というそれぞれの Saṅkhāra dhamma を理解できるようになります。このようによく区別して理解する智慧を Ñāta pariññā と言います。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā2-241,242 に記載〕
Yogī はこの Ñāta pariññā を得た後でさらに修習しなければならないことがあります。

Rūpa と Nāma の原因と結果のそれぞれの Saṅkhāra dhamma を Lakkhaṇa（性質）、Rasa（作用）、Paccupaṭṭhāna（現起）、Padaṭhāna（直接因）という4つの方法により智慧を鋭くするように修習しなければなりません。このことについては次号 Vipassanā 瞑想にて説明します。

Rūpa dhamma、Nāma dhamma、原因の Dhamma、結果の Dhamma を自分の智慧で区別して修習し Paccaya pariggaha ñāṇa でよく修習した後に Kaṅkhā dhamma という疑いを乗り越えて清浄な智慧になり Kaṅkhā vitaraṇa visuddi（渡疑清浄）になります。このように Kaṅkhā vitaraṇa visuddi になった Yogī は決して Buddha の教えから離れることはありません。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā2-242 に記載〕

Cūḷa sotāpanna（小預流者）になります。そして Buddha の教えから離れなくなった支えにより来世は善い界の Sugati bhava（善趣生）に生まれ変わることができます。さらに Arahatta phala（阿羅漢果）を得たいのであれば、以下の4つが揃えば一気に（一座であっても）悟りを開くことができます。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā2-242 に記載〕

1） Utu sappāya: 善い気候があるところ。
2） Puggala sappāya: Kalyāṇamitta（善友）つまり善い Dhamma を教えてくれる先生や友がいるところ。
3） Bhojana sappāya: 善い栄養のある食事があるところ。
4） Dhamma savana sappāya: 善い法を聞くことができるところ。

29. Iriyāpatha sampajañña（威儀正知）の修習

これまで Samatha kammaṭṭhāna（寂止行処）、Rūpa kammaṭṭhāna（色行処）、Nāma kammaṭṭhāna（名行処）と順番に修習し、Paṭiccasamuppāda kammaṭṭhāna（縁起行処）の修習までの説明が終わりました。それぞれの Kammaṭṭhāna において Iriyāpatha sampajañña の修習をしましたが、Paṭiccasamuppāda でも原因と結果を観て Iriyāpatha sampajañña の修習をします。お釈迦様はさらに Iriyāpaatha sampajañña の修習について次のことを説示されました。〔Majjhimanikāya Mm.1-71,72 中部経典 念処経に記載〕

1） Samudaya dhammānupassī vā kāyasmiṃ viharati.
諸法において生起の法を観続けて住みます。
2） Vayadhammānupassī vā kāyasmiṃ viharati.
諸法において滅尽の法を観続けて住みます。
3） Samudayavayadhammānupassī vā kāyasmiṃ viharati.
諸法において生起滅尽の法を観続けて住みます。

このお釈迦様の Desanā（説示）のように Paṭiccasamuppāda の修習の時も歩いている時、立っている時、座っている時、横になっている時、正知の時においてすべての五蘊に含まれている Rūpa と Nāma の原因と結果をよく観て修習してください。

Ⅳ Suttantabhājanīyaṃ 経分別 修習の前に覚えておくアビダンマ

『Abhidhamma vibhaṅgapāḷi Paṭiccasamuppādavibhaṅgo Suttantabhājanīyaṃ.』
（アビダンマ（論蔵）分別論 縁行相分別 経分別）

Avijjāpaccayā saṅkhārā, saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ, viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ, nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ, saḷāyatanapaccayā phasso, phassapaccayā vedanā, vedanāpaccayā taṇhā, taṇhāpaccayā upādānaṃ, upādānapaccayā bhavo, bhavapaccayā jāti, jāti paccayā Jarāmaraṇaṃ sokaparidevadukkhadomanassupāyāsā sambhavanti. Evametassa kevalassa dukkhakkhandhassa samudayo hoti.

Tattha katamā avijjā? Dukkhe aññāṇaṃ, dukkhasamudaye aññāṇaṃ, dukkhanirodhe aññāṇaṃ, dukkhanirodhagāminiyā paṭipadāya aññāṇaṃ — ayaṃ vuccati "Avijjā".

Tattha katame avijjāpaccayā saṅkhāra? Puññābhisaṅkhāro, apuññābi-saṅkhāro, āneñjābhisaṅkhāro, kāyasaṅkhāro, vacīsaṅkhāro, cittasaṅkhāro.

Tattha katamo puññābhisaṅkhāro? Kusala cetanā kāmāvacarā rūpāvacarā dānamayā sīlamayā bhāvanāmayā — ayaṃ vuccati "puññābhisaṅkhāro".

Tattha katamo apuññābhisaṅkhāro? Akusala cetanā kāmāvacarā — ayaṃ vuccati "apuññābhisaṅkhāro".

Tattha katamo āneñjābhisaṅkhāro? Kusala cetanā arūpāvacarā — ayaṃ vuccati "āneñjābhisaṅkhāro".

Tattha katamo kāyasaṅkhāro? Kāyasañcetanā kāyasaṅkhāro, vacīsañcetanā vacīsaṅkhāro, manosañcetanā cittasaṅkhāro. Ime vuccanti "avijjāpaccayā saṅkhāra".

Tattha katamaṃ saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ? Cakkhuviññāṇaṃ, sotaviññāṇaṃ ghānaviññāṇaṃ, jivhāviññāṇaṃ, kāyaviññāṇaṃ, manoviññāṇaṃ — idaṃ vuccati "saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ".

Tattha katamaṃ viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ? Atthi nāmaṃ, atthi rūpaṃ. Tattha katamaṃ nāmaṃ? Vedanākkhandho, saññākkhandho, saṅkhārakkhandho — idaṃ vuccati "nāmaṃ"
Tattha katamaṃ rūpaṃ? Cattāro mahābhūtā, catunnañca mahābhūtānaṃ upādāya rūpaṃ — idaṃ vuccati "rūpaṃ". Iti idañca nāmaṃ, idañca rūpaṃ. Idaṃ vuccati "viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ".

Tattha katamaṃ nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ? Cakkhāyatanaṃ, sotāyatanaṃ, ghānāyatanaṃ jivhāyatanaṃ, kāyāyatanaṃ, manāyatanaṃ — idaṃ vuccati "nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ".

Tattha katamo saḷāyatanapaccayā phasso? Cakkhusamphasso sotasamphasso ghānasamphasso jivhāsamphasso kāyasamphasso manosamphasso — ayaṃ vuccati "saḷāyatanapaccayā phasso".

Tattha katamā phassapaccayā vedanā? Cakkhusamphassajā vedanā, sotasamphassajā vedanā, ghānasamphassajā vedanā, jivhāsamphassajā vedanā, kāyasamphassajā vedanā, manosamphassajā vedanā — ayaṃ vuccati "phassapaccayā vedanā".

Tattha katamā vedanāpaccayā taṇhā? Rūpataṇhā, Saddataṇhā, gandhataṇhā, rasataṇhā, phoṭṭhabbataṇhā, dhammataṇhā — ayaṃ vuccati vedanāpaccayā taṇhā".

Tattha katamaṃ taṇhāpaccayā upādānaṃ? Kāmupādānaṃ, diṭṭhupādānaṃ, sīlabbatupādānaṃ, attavādupādānaṃ, — idaṃ vuccati "taṇhāpaccayā-upādānaṃ".

Tattha katamo upādānapaccayā bhavo? Bhavo duvidhena — atthi kammabhavo, atthi upapattibhavo. Tattha katamo kammabhavo? Puññābhisaṅkhāro, apuññābhisaṅkhāro, āneñjābhisaṅkhāro — ayaṃ vuccati "kammabhavo". Sabbampi bhavagāmikammaṃ kammabhavo.

Tattha katamo upapattibhavo? Kāmabhavo, rūpabhavo, arūpabhavo, saññābhavo, asaññābhavo, nevasaññānasaññābhavo, ekavokārabhavo, catuvokārabhavo, pañcavokārabhavo — ayaṃ vuccati "upapattibhavo". Iti ayañca kammabhavo,

ayañca upapattibhavo, ayaṃ vuccati "upādānapaccayā bhavo".

Tattha katamā bhavapaccayā jāti? Yā tesaṃ sattānaṃ tamhi tamhi sattanikāye jāti sañjāti okkanti abhinibbatti, khandhānaṃ pātubhāvo, āyatanānaṃ paṭilābho — ayaṃ vuccati "bhavapaccayā jāti".

Tattha Kataṃ jātipaccayā jarāmaraṇaṃ? Atthi jarā, atthi maraṇaṃ. Tattha katamā jarā? Yā tesaṃ sattānaṃ tamhi tamhi sattanikāye jarā jīraṇatā khaṇḍiccaṃ pāliccaṃ valittacatā āyuno saṃhāni indriyānaṃ paripāko — ayaṃ vuccati "jarā".

Tattha Katamaṃ maraṇaṃ? Yā tesaṃ tesaṃ sattānaṃ tamhā tamhā sattanikāyā cuti cavanatā bhedo antaradhānaṃ maccu maraṇaṃ kālakiriyā khandhānaṃ bhedo kaḷevarassa nikkhepo jīvitindriyassupacchedo — idaṃ vuccati "maraṇaṃ". Iti ayañca jarā, idañca maraṇaṃ. Idaṃ vuccati "jātipaccayā jarāmaraṇaṃ".

Tattha katamo soko? Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa, bhogabyasanena vā phuṭṭhassa, rogabyasanena vā phuṭṭhassa, sīlabyasanena vā phuṭṭhassa, diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa, aññataraññatarena byasanena samannāgatassa, aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa soko socanā socitattaṃ antosoko antoparisoko cetaso parijjhāyanā domanassaṃ sokasallaṃ — ayaṃ vuccati "soko".

Tattha katamo paridevo? Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa, bhogabyasanena vā phuṭṭhassa, rogabyasanena vā phuṭṭhassa, sīlabyasanena vā phuṭṭhassa, diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa, aññataraññatarena byasanena samannāgattassa, aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa ādevo paridevo ādevanā paridevanā ādevitattaṃ paridevitattaṃ vācā palāpo vippalāpo lālappo lālappanā lālappitattaṃ — ayaṃ vuccati "paridevo".

Tattha katamaṃ dukkhaṃ? Yaṃ kāyikaṃ asātaṃ kāyikaṃ dukkhaṃ kāyasamphassajaṃ asātaṃ dukkhaṃ vedayitaṃ kāyasamphassajā asātā dukkha vedanā — idaṃ vuccati "dukkhaṃ".

Tattha katamaṃ domanassaṃ? Yaṃ cetasikaṃ asātaṃ, cetasikaṃ dukkhaṃ, cetosamphassajaṃ asātaṃ dukkhaṃ vedayitaṃ, cetosamphassajā asātā dukkha vedanā — idaṃ vuccati "domanassaṃ".

Tattha katamo upāyāso? Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa, bhogavyasanena vā phuṭṭhassa, rogavyasanena vā phuṭṭhassa, sīlabyasanena vā phuṭṭhassa, diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa, aññataraññatarena byasanena samannāgatassa, aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa āyāso upāyāso āyāsitattaṃ upāyāsitattaṃ － ayaṃ vuccat "upāyāso".

Evametassa kevalassa dukkhakkhandhassa samudayo hotīti, evametassa kevalassa
dukkhakkhandassa saṅgati hoti, samāgamo hoti, samodhānaṃ hoti, pātubhāvo hoti, Tena vuccati "evametassa kevalassa dukkhakkhandassa samudayo hotī'ti.

Suttantabhājanīya niṭṭhitaṃ

Pa-Auk 大長老は上記アビダンマの文章を修習の前に暗記をして、できるなら意味も理解しておくように指導しています。できなければ指導者の教示に従ってください。
Nissaya（依止）法での解説

１）**Avijjāpaccayā**＝四聖諦を知らない Avijjā（無明）が発生した原因により、
saṅkhārā＝現世、輪廻で作った Saṅkhāra（形成力）が Sambhavanti（発生）しました。

2） **saṅkhārapaccayā**＝現世、輪廻で作った Saṅkhāra（形成力）が発生した原因により、
viññāṇaṃ＝Kamma viññāṇa（業識）あるいは Vipāka viññāṇa（異熟識）などの Viññāṇa（意識）が Sambhavanti（発生）しました。

3） **viññāṇapaccayā**＝Kamma viññāṇa あるいは Vipāka viññāṇa が発生した原因により、
nāmarūpaṃ＝Vipāka nāma dhamma（異熟名法）、Vipāka rūpa dhamma（異熟色法）、あるいは Kammaja rūpa dhamma（業生色）、Kammaja nāma dhamma（業生名）が、Sambhavanti（発生）しました。

4） **nāmarūpapaccayā**＝Nāmarūpa が発生した原因により、
saḷāyatanaṃ＝6種類の Ajjhatta（内）の Āyatana（処）つまり Cakkhāyatana（眼処）、Sotāyatana（耳処）、Ghānāyatana（鼻処）、Jivhāyatana（舌処）、Kāyāyatana（身処）、Phoṭṭhabbāyatana（触処）が Sambhavanti（発生）しました。

5） **saḷāyatanapaccayā**＝Ajjhatta（内）の Āyatana（処）6 種が発生した原因により、
phasso＝それぞれの門と接触する Passa（触）が Sambhavanti（発生）しました。

6） **phassapaccayā**＝6つの門に接触が発生した原因により、
vedanā＝それを受けて味わう Vedanā（受）が Sambhavanti（発生）しました。

7） **vedanāpaccayā**＝6 種類の Vedanā（受）が発生した原因により、

taṇhā＝6 種類の Taṇhā（渇愛）が Sambhavanti（発生）しました。

8） **taṇhāpaccayā**＝6 種類の Taṇhā（渇愛）が発生した原因により、

upādānaṃ＝さらにさらに執着する4種類の Upādāna（執着）が Sambhavanti（発生）しました。Upādāna 4 種類とは下記の 4 種類です。

①Kammupādāna（業執）： Kamma に執着すること。

②Diṭṭhupādāna（見執）： 邪見に執着すること。

③Sīlabbatupādāna（戒禁執）： 動物の習慣に執着すること。

④Attavādupādāna（我執）： 我論に執着すること。

9） **upādānapaccayā**＝4 種類の執着が発生した原因により、

bhavo＝Bhava（存在）が Sambhavanti（発生）しました。

10）**bhavapaccayā**＝Kamma bhava（業有）、Upapatti bhava（起有）が発生した原因により、

jāti=Paṭisandhi（受胎）という Jāti（誕生）が Sambhavanti（発生）しました。

11） **jāti paccayā**＝Jāti（誕生）つまり Paṭisandhi（受胎）が発生した原因により、

jarāmaraṇaṃ＝Jarāmaraṇa（老死）が Sambhavanti（発生）しました。

sokaparidevadukkhadomanassupāyāsā＝誕生から老死の間には Soka という心配すること、Parideva という Soka よりも苦しみが強く泣くほどの心配、Dukkha という身体の苦しみ、Domanassa という心の苦しみ、Upāyāsā という死ぬほどの苦しみなど徐々に苦しみが増大していきます。なぜならば Jāti（誕生）があることにより必ず Sambhavanti（発生）してくるのです。

Evametassa kevalassa dukkhakkhandhassa samudayo hoti.

このようにしてすべての苦しみの集まりの生起があります。

以上のように最初の段落で縁起の12支を説明しています。

これがあるからこれがある、と苦しみから逃れられない輪廻の苦しみを説明しています。輪廻の苦しみから逃れるためには縁起の修習をしなければなりません。

Tattha katamā avijjā? Dukkhe aññāṇaṃ, dukkhasamudaye aññāṇaṃ, dukkhanirodhe aññāṇaṃ, dukkhanirodhagāminiyā paṭipadāya aññāṇaṃ ー ayaṃ vuccati ”Avijjā”.

この中で、何が無明なのでしょうか。

1） Dukkha 苦において Aññāṇa 無智なこと。

2） Dukkhasamudaya 苦因において Aññāṇa 無智なこと。

3） Dukkhanirodha 苦滅において Aññāṇa 無智なこと。

4） Dukkhanirodhagāminī 苦滅道において Aññāṇa 無智なこと。

これらを無明と言います。

Tattha katame avijjāpaccayā saṅkhāra? Puññābhisaṅkhāro, apuññābi-

saṅkhāro, āneñjābhisaṅkhāro, kāyasaṅkhāro, vacīsaṅkhāro, cittasaṅkhāro.

この中で、何が Avijjāpaccayā saṅkhāra 無明が原因で現れた形成力なのでしょうか。

1） Puññābhisaṅkhāra 福行　　2） Apuññābisaṅkhāra 非福行

3） Āneñjābhisaṅkhāra 不動行　　4） Kāyasaṅkhāra 身行

5） Vacīsaṅkhāra 語行　　6） Cittasaṅkhāra 心行

Tattha katamo puññābhisaṅkhāro? Kusala cetanā kāmāvacarā rūpāvacarā dānamayā sīlamayā bhāvanāmayā — ayaṃ vuccati "puññābhisaṅkhāro".

この中で、何が Puññābhisaṅkhāra 福行なのでしょうか。

Kāmāvacarā 欲界や Rūpāvacarā 色界に入ることのできる Kusala cetanā 善思、Dāna maya 布施でできている、Sīla maya 戒律でできている、Bhāvanā maya 修習でできている Kusala cetanā 善思のことです。

これらを Puññābhisaṅkhāra 福行と言います。

Bhāvanā とは Parikamma bhāvanā 予備修習、Upacāra bhāvanā 近行修習、Vipassanā bhāvanā 観法修習です。この場合の Vipassanā bhāvanā とは Vipssanā kamma 全てではなく、Bhava 有になる Vipassanā bhāvanā のみを指します。

Kusala cetanā とは Mahā kusala8 種類と Rūpāvacarā kusala5 種類の 13 種類です。

Tattha katamo apuññābhisaṅkhāro? Akusala cetanā kāmāvacarā — ayaṃ vuccati "apuññābhisaṅkhāro".

この中で、何が Apuññābisaṅkhāra 非福行なのでしょうか。

Kāmāvacarā 欲界にある Akusala cetanā 不善思です。それを Apuññābhisaṅkhāra 非福行と言います。

Tattha katamo āneñjābhisaṅkhāro? Kusala cetanā arūpāvacarā — ayaṃ vuccati "āneñjābhisaṅkhāro".

この中で、何が Āneñjābhisaṅkhāra 不動行なのでしょうか。

Arūpavacarā 無色界にある Kusala cetanā 善思です。それを Āneñjābhisaṅkhāra 不動行と言います。

Tattha katamo kāyasaṅkhāro? Kāyasañcetanā kāyasaṅkhāro, vacīsañcetanā vacīsaṅkhāro,
manosañcetanā cittasaṅkhāro. Ime vuccanti "avijjāpaccayā saṅkhāra".

この中で、何が Kāyasaṅkhāra 身行なのでしょうか。

Kāyadvāra 身門に現れた Kāmāvacarā kusala cetanā 欲界善思 8 種類と Akusala cetanā 不善思 12 種類の 20 種類を Kāyasaṅkhāra 身行と言います。

Vacīdvāra 語門（口）に現れた Kāmāvacarā kusala cetanā 欲界善思 8 種類と Akusala cetanā 不善思 12 種類の 20 種類を Vacīsaṅkhāra 語行と言います。

Kāya viññatti 身表と Vacī viññatti 語表 2 種類の Viññatti rūpa 表色を現さない Akusala cetanā 不善思 12 種 Mahākusala cetanā 大善思 8 種類、Rūpāvacarā kusala cetanā 色界善思 5 種類、Arūpāvacarā Kusala cetanā 無色界善思 4 種類の 29 種類の Cetanā 思を Cittasaṅkhāra 心行と言います。

これらを”Avijjāpaccayā saṅkhāra.”「無明を原因として形成力があります。」と言います。

Tattha katamaṃ saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ? Cakkhuviññāṇaṃ, sotaviññāṇaṃ ghānaviññāṇaṃ, jivhāviññāṇaṃ, kāyaviññāṇaṃ, manoviññāṇaṃ — idaṃ vuccati “saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ”.

この中で、何が Saṅkhārapaccayā viññāṇa 形成力が原因で現れた識なのでしょうか。

1） Cakkhuviññāṇa 眼識　2） Sotaviññāṇa 耳識　3） Ghānaviññāṇa 鼻識
4） Jivhāviññāṇa 舌識　5） Kāyaviññāṇa 身識　6） Manoviññāṇa 意識

この 6 種類の Viññāṇa 識を”Saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ”「形成力を原因として識があります。」と言います。

Tattha katamaṃ viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ? Atthi nāmaṃ, atthi rūpaṃ. Tattha katamaṃ nāmaṃ? Vedanākkhandho, saññākkhandho, saṅkhārakkhandho — idaṃ vuccati “nāmaṃ”

Tattha katamaṃ rūpaṃ? Cattāro mahābhūtā, catunnañca mahābhūtānaṃ upādāya rūpaṃ — idaṃ vuccati “rūpaṃ”. Iti idañca nāmaṃ, idañca rūpaṃ. Idaṃ vuccati “viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ”.

この中で、何が Viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ 識が原因で現れた名色なのでしょうか？名（精神性）があります。色（物質性）があります。

この中で、何が名（精神性）なのでしょうか。

1） Vedanākkhandha 受蘊　2） Saññākkhandha 想蘊　3） Saṅkhārakkhandha 行蘊

これらを Nāma 名（精神性）と言います。

この中で、何が色（物質性）なのでしょうか。

1） Cattāro mahābhūtā 四大種の 4 種類、
2） Cattāro mahābhūtā 四大種を頼って現れた Upādāya rūpa 所造色の 24 種類、

これらを Rūpa 色（物質性）と言います。

このようにここに名とここに色があります。これを“viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ”.「識を原因として名色があります。」と言います。

Tattha katamaṃ nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ? Cakkhāyatanaṃ, sotāyatanaṃ,

ghānāyatanaṃ jivhāyatanaṃ, kāyāyatanaṃ, manāyatanaṃ — idaṃ vuccati "nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ".

この中で、何が Nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ 名色が原因で現れた六処なのでしょうか。

1） Cakkhāyatana 眼処　2） Sotāyatana 耳処　3） Ghānāyatana 鼻処
4） Jivhāyatana 舌処　5） Kāyayatana 身処　6） Manāyatana 意処

これらを"Nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ"「名色が原因で六処があります。」と言います。

Tattha katamo saḷāyatanapaccayā phasso? Cakkhusamphasso sotasamphasso ghāna- samphasso jivhāsamphasso kāyasamphasso manosamphasso — ayaṃ vuccati "saḷāyatanapaccayā phasso".

この中で、何が Saḷāyatanapaccayā phasso 六処の原因で現れた Phassa 触なのでしょうか。

1） Cakkhusamphassa 眼触　2） Sotasamphassa 耳触　3） Ghānasamphassa 鼻触
4） Jivhāsamphassa 舌触　5） Kāyasamphassa 身触　6） Manosamphassa 意触

これらを"Saḷāyatanapaccayā phasso"「六処の原因で触があります。」と言います。

Tattha katamā phassapaccayā vedanā? Cakkhusamphassajā vedanā, sotasamphassajā vedanā, ghānasamphassajā vedanā, jivhāsamphassajā vedanā, kāyasamphassajā vedanā, manosamphassajā vedanā — ayaṃ vuccati "phassapaccayā vedanā".

この中で何が Phassapaccayā vedanā 触が原因で現れた受なのでしょうか。

1） Cakkhusamphassajā vedanā 眼触の原因で現れた受。
2） Sotasamphassajā vedanā 耳触の原因で現れた受。
3） Ghānasamhassajā vedanā 鼻触の原因で現れた受。
4） Jivhāsamphassajā vedanā 舌触の原因で現れた受。
5） Kāyasamphassajā vedanā 身触の原因で現れた受。
6） Manosamphassajā vedanā 意触の原因で現れた受。

これらを" Phassapaccayā vedanā"「触が原因で受があります。」と言います。

Tattha katamā vedanāpaccayā taṇhā? Rūpataṇhā, Saddataṇhā, gandhataṇhā, rasataṇhā, phoṭṭhabbataṇhā, dhammataṇhā — ayaṃ vuccati vedanāpaccayā taṇhā".

この中で、何が Vedanāpaccayā taṇhā 受が原因で現れた渇愛なのでしょうか。

1） Rūpārammaṇa 色所縁に執着する Rūpataṇhā 色渇愛。
2） Saddārammaṇa 音所縁に執着する Saddataṇhā 音渇愛。

3） Gandhārammaṇa 香所縁に執着する Gandhataṇhā 香渇愛。
4） Rasārammaṇa 味所縁に執着する Rasataṇhā 味渇愛です。
5） Phoṭṭhabbārammaṇa 触所縁に執着する Phoṭṭhabbataṇhā 触渇愛。
6） Dhammārammaṇa 法所縁に執着する Dhammataṇhā 法渇愛。
これらを”Vedanāpaccayā taṇhā”「受が原因の渇愛があります。」と言います。

Tattha katamaṃ taṇhāpaccayā upādānaṃ? Kāmupādānaṃ, diṭṭhupādānaṃ, sīlabbat- upādānaṃ, attavādupādānaṃ, - idaṃ vuccati “taṇhāpaccayāupādānaṃ”.
この中で、何が Taṇhāpaccayā upādāna 渇愛が原因で現れた執着なのでしょうか。
1） 欲に何度も執着する Kāmupādāna 欲取。
2） Micchādiṭṭhi 邪見に何度も執着する Diṭṭhupādāna 見取。
3） 動物の習慣をすればよい修行になると間違った習慣に執着する Sīlabbatupādāna 戒禁取。
4） Attavāda 我論に執着する Attavādupādāna 我語取。
これらを”Taṇhāpaccayā upādāna”「渇愛が原因の執着があります。」と言います。

Tattha katamo upādānapaccayā bhavo? Bhavo duvidhena — atthi kammabhavo, atthi upapattibhavo. Tattha katamo kammabhavo? Puññābhisaṅkhāro, apuññābhisaṅkhāro, āneñjābhisaṅkhāro — ayaṃ vuccati “kammabhavo”. Sabbampi bhavagāmikammaṃ kammabhavo.
Tattha katamo upapattibhavo? Kāmabhavo, rūpabhavo, arūpabhavo, saññābhavo, asaññābhavo, nevasaññānasaññābhavo, ekavokārabhavo, catu-vokārabhavo, pañcavokārabhavo — ayaṃ vuccati “upapattibhavo”. Iti ayañca kammabhavo, ayañca upapattibhavo, ayaṃ vuccati “upādānapaccayā bhavo”.
この中で、何が Upādānapaccayā bhavo 執着が原因で現れた存在なのでしょうか。
存在は 2 種類あります。
1） Kammabhava 業有　2） Upapattibhava 起有
この中で、何が Kammabhava 業有なのでしょうか。
1） Puññābhisaṅkhāra 福行　2） Apuññābisaṅkhāra 非福行
3） Āneñjābhisaṅkhāra 不動行
これを Kamma bhava 業有と言います。すべての Bhavagāmikamma 存在になる業を Kammabhava 業有と言います。
この中で、何が Upapattibhava 起有なのでしょうか。
1） 欲界 11 界にある Kāmabhava 欲有。
2） 色界 16 界にある Rūpabhava 色有。
3） 無色界 4 界にある Arūpabhava 無色。

4） 欲界 11 界、色界 15 界(色界 16－Asaññasatta 無想有情界 1)、無色界 3 界（無色界 4－Nevasaññānāsaññā 非想非非想界1）の 29 界にある Saññābhava 想有。
5） 想の無い無色界3界にある Asaññābhava 無想有。
6） 粗々しい想は無く微細な想がある、想があるでもなく無いでもない界にある Nevasaññānasaññābhava 非想非非想有。
7） Rūpakkhandha 色蘊 1 種類のみある Asaññasatta 無想有情界 1 界にある Ekavokārabhava 一蘊有。
8） Nāmakkhandha 名蘊 4 種類ある無色界 4 界にある Catuvokārabhava 四蘊有。
9） Pañcakkhandha 五蘊のある界 26 界（欲界 11 界＋色界 15 界）にある Pañcavokārabhava 五蘊有。

これを Upapattibhava 起有と言います。
これを業有と言います。これを起有と言います。
これを“Upādānapaccayā bhavo”「執着が原因で存在があります。」と言います。

Tattha katamā bhavapaccayā jāti? Yā tesaṃ sattānaṃ tamhi tamhi sattanikāye jāti sañjāti okkanti abhinibbatti, khandhānaṃ pātubhāvo, āyatanānaṃ paṭilābho － ayaṃ vuccati “bhavapaccayā jāti”.

この中で、何が Bhavapaccayā jāti 存在が原因で現れた誕生なのでしょうか。
それぞれの命ある存在の、それぞれの生き物の、Jāti 誕生（正確には受胎時）すること、Sañjāti 新しく生き物として生まれること、Okkanti 生きものとして現れること、Abhinibbatti 生まれ変わること、Khandhānaṃ 蘊として現れること、Pātubhāvo 明らかに生まれ現れること、Āyatanānaṃ 処として現れること、Paṭilābho 命を得ることがあります。
これらを“Bhavapaccayā jāti”「生存が原因で誕生があります。」と言います。

Tattha Kataṃ jātipaccayā jarāmaraṇaṃ? Atthi jarā, atthi maraṇaṃ. Tattha katamā jarā?
Yā tesaṃ sattānaṃ tamhi tamhi sattanikāye jarā jīraṇatā khaṇḍiccaṃ pāliccaṃ valittacatā āyuno saṃhāni indriyānaṃ paripāko － ayaṃ vuccati “jarā”.

この中で、何が jātipaccayā jarāmaraṇaṃ 誕生が原因で現れた老死なのでしょうか。
それぞれの命ある存在の、それぞれの生き物の、Jarā 老いること、Jīraṇatā 老衰すること、Khaṇdicca 歯が抜けること、Pālicca 白髪になること、Valittacatā 肌にしわが寄ること、Āyuno saṃhāni 残りの寿命が短くなること、Indriyānaṃ paripāko 感覚器官が衰えること、これらを“Jarā”「老いる」と言います。

Tattha Katamaṃ maraṇaṃ? Yā tesaṃ tesaṃ sattānaṃ tamhā tamhā sattanikāyā cuti cavanatā bhedo antaradhānaṃ maccu maraṇaṃ kālakiriyā khandhānaṃ

bhedo kaḷevarassa nikkhepo jīvitindriyassupacchedo － idaṃ vuccati "maraṇaṃ". Iti ayañca jarā, idañca maraṇaṃ. Idaṃ vuccati "jātipaccayā jarāmaraṇaṃ".
この中で、何が Maraṇaṃ 死なのでしょうか。
それぞれの命ある存在の、それぞれの生き物の、Cuti 死没すること、Cavantā 死去すること、Bheda 破壊すること、Antaradhāna 滅没すること、Maccu 死ぬこと、
Maraṇa死に瀕すること、Kālakiriyā 臨終を迎えること、Khandānaṃ bhedo 身体が破壊されること、Kaḷevarassa nikkhepo 亡くなった体を捨てること、Jīvitindriyassupacchedo 命根が無くなること、
これらを"Maraṇaṃ"「死」と言います。このようなものを老いるといいます。死と言います。
これらを"Jātipaccayā jarāmaraṇaṃ."「誕生が原因で老死があります。」と言います。

Tattha katamo soko? Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa, bhogabyasanena vā phuṭṭhassa, rogabyasanena vā phuṭṭhassa, sīlabyasanena vā phuṭṭhassa, diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa, aññataraññatarena byasanena samannāgatassa, aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa soko socanā socitattaṃ antosoko antoparisoko cetaso parijjhāyanā domanassaṃ sokasallaṃ － ayaṃ vuccati "soko".
この中で、何が Soka 愁いとは何でしょうか。
Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa 親族の不幸やそのようなことに会う人、
Bhogabyasanena vā phuṭṭhassa 財産などを損失やそのようなことに会う人、
Rogabyasanena vā phuṭṭhassa 病気の不幸やそのようなことに会う人、
Sīlabyasanena vā phuṭṭhassa 戒律の破戒やそのようなことに会う人、
Diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa 見の破壊やそのようなことに会う人、
Aññataraññatarena byasanena samannāgatassa 意図的ではなく意識せずに行ってしまい破壊されてしまったこと、そのようなことに満ちた人、
Aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa 意図的ではなく意識せずに行ってしまい苦法に出会ってしまった人、
そのような Soka 愁い、Socanā 憂愁、Socitatta 深い憂愁、Antosoka 内の愁い、Antoparisoka 全内の憂愁、Cetaso parijjhāyanā 心が遍く愁い、Domanassa 憂いがあり、Sokasalla 心に憂いの矢が刺さったようなこと、などです。
Atthi それらがあります。
これらを"soko"「愁い」と言います。

Tattha katamo paridevo? Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa, bhogabyasanena vā phuṭṭhassa, rogabyasanena vā phuṭṭhassa, sīlabyasanena vā phuṭṭhassa, diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa, aññataraññatarena byasanena samannāgattassa,

aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa ādevo paridevo ādevanā paridevanā ādevitattaṃ paridevitattaṃ vācā palāpo vippalāpo lālappo lālappanā lālappitattaṃ － ayaṃ vuccati "paridevo".

この中で、何が Parideva 悲泣なのでしょうか。

Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa 親族の不幸やそのようなことに会う人、

Bhogabyasanena vā phuṭṭhassa 財産などを損失やそのようなことに会う人、

Rogabyasanena vā phuṭṭhassa 病気の不幸やそのようなことに会う人、

Sīlabyasanena vā phuṭṭhassa 戒律の破戒やそのようなことに会う人、

Diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa 見の破壊やそのようなことに会う人、

Aññataraññatarena byasanena samannāgatassa 意図的ではなく意識せずに行ってしまい破壊されてしまったこと、そのようなことに満ちた人、

Aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa 意図的ではなく意識せずに行ってしまい苦法に出会ってしまった人、

それらは Ādeva 泣き、Parideva 繰り返し泣き、Ādevanā 泣くこと、Paridevanā 繰り返し泣く、Ādevitatta 泣き性、 Paridevitatta 繰り返す泣き性、Vācā 話ながら泣き、Palāpa 話ながら繰り返し泣き、Vippalāpa 色々なことを言いながらの泣き、Lālappa 色々なことを言いながら泣き、Lālappanā 何度も繰り返して泣き、Lālappitatta 何度も繰り返す泣き性です。

Atthi それらがあります。これらを悲泣と言います。

Tattha katamaṃ dukkhaṃ? Yaṃ kāyikaṃ asātaṃ kāyikaṃ dukkhaṃ kāyasamphassajaṃ
asātaṃ dukkhaṃ vedayitaṃ kāyasamphassajā asātā dukkha vedanā － idaṃ vuccati "dukkhaṃ".

この中で、何が Dukkha 苦なのでしょうかしょうか。

Kāyikaṃ asāta 身体の不快、

Kāyikaṃ dukkha 身体の苦、

Kāyasamphassajaṃ asāta 身体の触で現れた不快、

Dukkhaṃ vedayita 苦を感受すること、

Kāyasamphassajā asātā dukkha vedanā 身体の触による不快を苦と受けること、

Atthi それらがあります。

このような Kāyikaṃ dukkha vedanā 身体の苦受を "dukkhaṃ"「苦」と言います。

Tattha katamaṃ domanassaṃ? Yaṃ cetasikaṃ asātaṃ, cetasikaṃ dukkhaṃ, cetosamphassajaṃ asātaṃ dukkhaṃ vedayitaṃ, cetosamphassajā asātā dukkha vedanā ― idaṃ vuccati "domanassaṃ".

この中で、何が Domanassa 憂いなのでしょうか。
Cetasikaṃ asāta 心の不快、Cetasikaṃ dukkha 心の苦、 Cetosamphassajaṃ asāta 心に触れた不快、Dukkhaṃ vedayita 苦の感受、 Cetosamphassajā asātā dukkha vedanā 心に触れたことを苦と受けること、
Atthi それらがあります。
このような Cetasikaṃ dukkha vedanā 心の苦受を”Domanassa”「憂い」と言います。

Tattha katamo upāyāso? Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa, bhogavyasanena vā phuṭṭhassa, rogavyasanena vā phuṭṭhassa, sīlabyasanena vā phuṭṭhassa, diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa, aññataraññatarena byasanena samannāgatassa, aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa āyāso upāyāso āyāsitattaṃ upāyāsitattaṃ － ayaṃ vuccat “upāyāso”.
この中で、何が upāyāso 絶望なのでしょうか。
Ñātibyasanena vā phuṭṭhassa 親族の不幸やそのようなことに会う人、
Bhogabyasanena vā phuṭṭhassa 財産などを損失やそのようなことに会う人、
Rogabyasanena vā phuṭṭhassa 病気の不幸やそのようなことに会う人、
Sīlabyasanena vā phuṭṭhassa 戒律の破戒やそのようなことに会う人、
Diṭṭhibyasanena vā phuṭṭhassa 見の破壊やそのようなことに会う人、
Aññataraññatarena byasanena samannāgatassa 意図的ではなく意識せずに行ってしまい破壊されてしまったこと、そのようなことに満ちた人、
Aññataraññatarena dukkhadhammena phuṭṭhassa 意図的ではなく意識せずに行ってしまい苦法に出会ってしまった人、
それらは āyāsa 絶望 Upāyāsa 絶望、Āyāsitatta 悩絶望性、 Upāyāsitatta 悩性、
Atthi それらがあります。
このような要素を“upāyāsa”「絶望」と言います。

Evametassa kevalassa dukkhakkhandhassa samudayo hotīti, evametassa kevalassa dukkhakkhandassa saṅgati hoti, samāgamo hoti, samodhānaṃ hoti, pātubhāvo hoti, Tena vuccati “evametassa kevalassa dukkhakkhandassa samudayo hotī’ti.
このようにして全ての苦蘊の集まりがあります。このようにして全ての苦蘊の Saṅgati 集合があります。Samāgama 来集があります。Samodhāna 結合があります。Pātubhāva 出現があります。
それゆえに“Evametassa kevalassa dukkhakkhandassa samudayo hotī’「このようにして全ての苦蘊の集まりがあります。」と言います。

Suttantabhājanīya niṭṭhitaṃ これで経分別を終わります。

Pa-Auk 大長老は上記縁起についてのお釈迦様の説示であるアビダンマ経分別を縁起の修習の前には必ず暗記をして意味も理解してから縁起第一方法で実践するように、と教えています。

大長老は 30 ページほど縁起の修習についての説明をされています。なぜそれほどのページを割いて説明しているのかと言えば、一部のミャンマーの指導者は例えば Avijjāpaccaya saṅkhāra とは Avijjā の一つのみを観るだけでよいと解釈して教えていますが、そのような修習では大変に深くて難しい縁起を理解することはできない、ということを修行者の皆によく理解して欲しいからなのです。日本の皆さんに大長老の説明の一部を紹介します。

V Paṭiccasamuppāda 縁起とは何でしょうか。

1. Paṭiccasamuppāda dhamma 縁起の法とは何でしょうか

Paṭiccasamuppāda dhamma 縁起の法とは何でしょうか。この法はお釈迦様が作られた法ではありません。お釈迦様が現れていても現れていなくてもこの Dhamma の要素はこの世界に元々有るものなのです。お釈迦様はそのように Saṁyutta nikāya Paccaya sutta（相応部経 縁経）において述べられています。この縁起の法は世界に自然にあるものなのです。しかし、一般の人々はその法を理解することはできません。この自然の道理は Sabbaññutaññāṇa 一切知智の Buddha が現れて開示されたからこそ私たちも知ることができるのです。

もしも、この世の中にお釈迦様が現れず、あるいは現れたとしてもこの法を聞いたことが無い、あるいは聞いたとしても他の Sassata diṭṭhi（常見）や Uccheda diṭṭhi（断見）などの Micchā diṭṭhi（邪見）を正しいと信じてしまったなら、この Paṭiccasamuppāda の要素を理解することはできません。Paṭiccasamuppāda dhamma は深くて深い、難しくて難しい Dhamma です。ですから冒頭に書いたように Ānanda 大長老がお釈迦様に縁起の修習を簡単にできたことを伝えた時にお釈迦様は Ānanda 大長老を諭されたのです。「Mā hevaṃ, Ānanda, avaca, mā hevaṃ Ānanda avaca,」「アーナンダよ、そのように言ってはいけません、アーナンダよ、そのように言ってはいけません。」と。

このように縁起の法は大変深くて難しいのです。 過去に現れた Buddha たち、現在現れた Buddha、将来現れるであろう Buddha たちがいます。すべての Buddha たちは縁起の法をご自身の智慧ではっきりと理解して Buddha になります。

さらにお釈迦様はこの縁起の要素をよく理解しなければ、Samaṇa でもなければ Brāhmaṇa でもない、とおっしゃいました。ここでの Samaṇa、Brāhmaṇa とは涅槃を証するために心を静かに落ち着けて熱心に修行をしている修行者を指します。

お釈迦様は苦しみの輪廻から逃れたいと思うのならば、縁起の修習をして自分の智

慧ではっきりと縁起の要素を知らなければならならない、ということを何度も何度もご教示くださっているのです。Dīgha nikāya Mahānidāna sutta（長部経典大因縁経）や Saṁyutta nikāya Mm1-318（相応部経）においてはっきりとお教えてくださっています。

Anubodha ñāṇa（了悟智）と、Paṭivedha ñāṇa（通達智）という智慧によりはっきりと自分の智慧で知ることができない限り Saṁsāra（輪廻）から逃れることはできません。

Paṭiccasamuppāda を正確に修習したい Yogī は、つまり Anubodha ñāṇa（了悟智）と、Paṭivedha ñāṇa（通達智）という智慧を得たい Yogī は修習の前に Paṭiccasamuppāda vibhaṅgo Suttantabhājanīyaṃ（縁行相分別経分別）をしっかりと暗記して意味も理解してください。

2. Majjhima paṭipadā（中道）とは

1）Jarāmaraṇa という Paccupanna dhamma が現れるように支えている Sabhāva lakkhaṇa（自性相）があります。
2）原因と結果の繋がりの継続になるという Pavatti dukkha（転起苦）になる Kicca rasa（所作作用）があります。
3）Saṁsāra（輪廻）はうんざりする旅のように修行者の智慧に現れてきます。涅槃に向かう Majjima paṭipadā から外れた道として修行者の智慧に現れてきます。〔Visuddhimagga2-149〕

Yogī が Nāmarūpa pariccheda ñāṇa（名色限定智）、Paccaya pariggaha ñāṇa（縁摂受智）を得られた時、それぞれの Avijjā などの原因が一緒に集合して現れることでそれぞれの Saṅkhāra の結果の dhamma などが継続して繋がって現れていることを Sammādiṭṭhi ñāṇa（正見智）で良く知るようになります。自分の智慧でそのように観ることができた Yogī は Sassata diṭṭhi（常見）、Uccheda diṭṭhi（断滅見）という 2 つの外れた邪道に向かわずに原因と結果をよく知る涅槃に向かう Majjhima paṭipadā（中道）という道を歩むことになります。

この Majjhima paṭipadā とは何でしょうか。
1） Avijjā という原因の Dhamma、
2） Saṅkhāra という結果の Dhamma、
3） Avijjā という原因と Saṅkhā という結果の繋がりの要素、
それらの原因の Dhamma と結果の Dhamma を Anicca（無常）、Dukkha（苦）、Anatta（無我）の三相で良く Vipassanā で洞察すること。
それを Majjhima paṭipadā と言います。

Vipassanā 修習をしなければ、原因の Dhamma と結果の Dhamma が継続して繋がり

何度も何度も輪廻に巻き込まれることから逃れることはできません。何度も輪廻に巻き込まれることを Pavatti dukkha（転起苦）と言います。Pavatti dukkha を継続して努力していることは Kummagga（邪道）という涅槃に向かう Majjhima paṭipadā と逆方向に進むz道を歩むことになり輪廻の中に囲まれることになります。

Yogī が過去世、現世、来世、この 3 つの期間にある Avijjā と Saṅkhāra という原因の Dhamma と結果の Dhamma を三相で Vipassanā をすることができれば、「私だ。」「私のものだ。」という Taṇhā、Māna、Diṭṭhi で執着をしていることを滅することができます。しっかりと Sati（念）を備えて Vipassanā 修習をして Majjhima paṭipadā を歩んでいることになります。そのように継続して修習している Yogī は Indriya（知覚等の能力）が満ちた時に必ず自分の望む涅槃を証悟することができます。以上が Majjhima paṭipadā についての説明です。［Visuddhimagga2-149,Mahā ṭīkā2-236］

3. Paṭiccasamuppāda の詳細な説明

Yogī が原因の Dhamma の集合した力で現れた結果の Dhamma の集合という Paṭiccasamuppāda の Dhamma を自分の Ñāṇa gati（智慧の道）でよく知るように努力し実際にも知ることは涅槃へ向かうことになります。つまり Ñāṇa gati により知る Paṭiccasamuppāda dhamma とは Lokkutara（出世間）の利益を得るため、Magga ñāṇa、Phala ñāṇa を得るため、涅槃に向かうための Dhamma です。

Paṭiccasamuppāda という結果の Paccupanna dhamma を正しく自分の智慧で知ることによりその Paccupanna dhamma などを Paṭicca（理由により）と言います。

さらに Paccupanna dhamma samūha（現在法の集合）つまり結果の Dhamma の集合という Paṭiccasamuppāda の要素が現れることは 1 つずつ現れる訳ではなく、集合体として同時に生起します。ですからその Paccupanna dhamma samūha は Samuppāda（集合生起）とも言います。

Visuddhimagga2-151,152 には、智慧で原因の集合している Dhamma と結果が集合している Dhamma を知ることを Paṭiccasamuppāda という、と書かれています。

Visuddhimagga2-152,Mahāṭīkā2-234 では Paccupanna dhamma samūha という結果の Dhamma は集合して同時に生起します、と書かれています。

つまり原因の結果として現れた Rūpa dhamma には Pathavī（地）、Āpo（水）、Tejo（火）、Vāyo（風）、Vaṇṇa（色）、Gandha（香）、Rasa（味）、Ojā（食素）という最低 8 種類の Paramattha dhamma が含まれています。Paramattha の要素がこのように同時に集合して Rūpa kalāpa として現れています。Nāma dhamma は Phassa（触）、Vedanā（受）、Saññā（想）、Cetanā（思）、Ekggatā（一境性）、Jivitindriya（命根）、Manasikā（作意）、viññāṇa（識）という最低 8 種類の Paramattha の要素が同時に集合して Nāma kalāpa として現れています。

結果の Dhamma が現れるためには原因の Dhamma がある訳ですが、その原因の Dhamma も 1 つのみであるのではなく同時に集合して現れた Dhamma です。Paccupanna dhamma samūha という結果の集まりの Dhamma が現れるためには原因の集まりの Dhamma もある訳です。その原因の Dhamma が集合して現れていることにより Paṭicca（縁によりあるいは理由により）と言います。集合して同時に現れることにより Samupāda（集合生起）と言います。この 2 つを合わせて Paṭiccasamuppāda と言います。原因の Dhamma も結果の Dhamma も同時に集合して現れているので Paṭiccasamuppāda と言います。

Visuddhimagga2-152,Mahāṭīkā2-235 には次のように書かれています。

お釈迦様は 1 つの原因を主として説明されています。しかしそれは Avijjā 1 つのみではなく原因の Dhamma は Sampayutta dhamma（相応法）という集合して現れた Dhamma です。さらに Saṅkhāra という結果も 1 つを主として説明されていますが、その結果の Dhamma も Samūha dhamma として集合して現れています。

Avijjā という 1 つの原因は他の Dhamma を頼らずに Saṅkhāra という結果を現すことはできません。Avijjā と共に以下の Dhamma が現れます。

1） 頼る Vatthu rūpa（基色）
2） Ārammaṇa（所縁）
3） Phassa、Vedanā、Saññā、Cetanā、viññāṇa という Sahajāta dhamma（倶生法）
4） Ayonisomanasikāra（非理作意）

このように原因の Dhamma に一つの Dhamma が欠如していれば Saṅkhāra という結果の Dhamma が現れることはありません。欠如していなければ Saṅkhāra という結果が現れます。Avijjā という原因の集まりの Dhamma は以下のように現れます。

1） お互いに頼っています。
2） 欠如することはありません。
3） 同時に現れます。

これらの 3 つが揃えば Saṅkhāra dhamma が現れます。このように結果が現れる時は一部のみの結果が現れる訳ではありません。前後して一つ一つ順番に現れることでもありません。以上の理由により Paramattha dhamm をよく知る Sabbaññutā Sammāsambudddha（一切知性正等覚者）であるお釈迦様は原因と結果の Dhamma を Paṭiccasamuppāda と説明されているのです。

さらに、原因の Dhamma と結果の Dhamma に含まれている Paramattha rūpa dhamma、Paramattha nāma dhamma は Rūpa kalāpa、Nāma kalāpa の集まりとして現われています、と Mahātīkā2-235 に記載されています。

Rūpa kalāpa は現代物理学で言う物質の最小単位のクォーク（素粒子）よりも小さく、その kalāpa 1 つの中には 8 種類、9 種類、10 種類の要素が含まれます。その Rūpa kalāpa と同時に現れた Citta（心）と Cetasika（心所）の集まりを Nāma kalāpa と言います。

ここで、Pa-Auk 大長老は何故 Paṭiccasamuppāda とはどういうことかという説明を何度も繰り返すのか、修行者が納得するように次のように説明をしています。
「お釈迦様は Paṭiccasamuppāda という原因と結果の Dhamma を Avijjāpaccaya saṅkhāra と Avijjā や Saṅkhāra 1 つずつを説明しているのになぜ他の心と心所も観る必要があるのですか。」という質問をよく受けます。その質問の答えは、「お釈迦様は Avijjā 1 つを主に説明されています。しかし Vatthu rūpa、Ārammaṇa、Passa……なども同時に現れなければ原因の Dhamma は現れることはありません。Saṅkhāra 1 つを主に説明されていますが同時に他の Sampayutta dhamma も結果として現れます。それらをすべて自分の智慧で観て理解できなければ Vipassanā の修習をしていることにはならず、お釈迦様の教えから外れてしまうことになるのです。お釈迦様の説明された意味を間違って解釈して実践してしまうとお釈迦様の教えから外れて修行していることになってしまいます。ですから何度も何度も原因と結果の繋がりの Paṭiccasamuppāda とは何かを説明をしているのです。」

4. Paṭiccasamuppāda を正確に修習することの利益

1） Paṭicca（理由により）： Sassata vāda（常見論）を無くすことができます。
2） Samuppāda（集合生起）： Uccheda vāda（断見論）を無くすことができます。
3） Paṭiccasamuppāda（縁起）： Sassata vāda と Uccheda vāda という 2 つの邪道から離れることができ Majjhima paṭipadā（中道）を歩むことができます。それは八正道の Magga（道）です。

1） Paṭicca（理由により）の意味

Paṭicca とは原因の Dhamma が集合して現れることです。

Paṭccasamuppāda には Kilesa vaṭṭa（煩悩輪転）、Kamma vaṭṭa（業輪転）、Vipāka vaṭṭa（異熟輪転）という 3 種類の Vaṭṭa（輪転）があります。

Avijjā、Taṇhā、Upādāna などは Kilesa vaṭṭa です。

Saṅkhāra、Kamma は Kamma vaṭṭa です。

Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā などは Vipāka vaṭṭa です。

Kilesa vaṭṭa を頼って Kamma vaṭṭa が現れます。Kamma vaṭṭa を頼って Vipāka vaṭṭa が現れます。Vipāka vaṭṭa である Pañcupādānakkhanda（五取蘊）を自分自身の智慧により Vipasanā 修習しなければ Vipāka vaṭṭa を頼って Kilesa vaṭṭa が現れてしまいます。

Kilesa vaṭṭa という Kusala saṅkhāra、Akusala saṅkhāra を作ってしまい、それを頼って Kamma vaṭṭa が現れます。その Kamma vaṭṭa の原因により Anāgata bhava（来世有）の Vipāka vaṭṭa という Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā などの Pañcupādā-nakkhanda（五取蘊）が更に現れてしまうことになります。

Anāgata khandha などを Jāti、Jarā、Maraṇa などという名前でお釈迦様は説かれまし

た。そのような 3 種類の Vaṭṭa は
車の車輪のようにぐるぐると輪転してしまうのです。

Paṭicca という集合した原因があることにより、3 種類の Vaṭṭa はぐるぐると回り続けています。Kilesa vaṭṭa、Kamma vaṭṭa、Vipāka vaṭṭa が継続して繋がることを理解出来たら下記の Vāda（論）は無いことが解ります。

① Sassata vāda（常見論）
② Ahetu vāda（無因論）
③ Visamahetu vāda（異因論）
④ Vasavatti vāda（自在天論）

Sassata vāda とは原因は無いと信じる Vāda です。ですから原因で現れた結果の Dhamma も無いということになります。Paṭiccasamuppāda は原因と結果の繋がりの要素を自分の智慧で観ることですからこれらの 4 つの Vāda は意味のない論になります。［Visuddhimagga2-153, Mahāṭīkā2-235 に記載］

① Sassata vāda（常見論）とは

Atta（我）や Loka（世間）は常に永遠にある、という Vāda です。Atta は永遠にあり、その Atta は一つの Bhava から次の Bhava に移り住み、身体のみ新しくなり Atta は無くならず新しい身体に続いていると話している、信じている、考えている Vāda です。［Dīganikāya1.12 長部経典梵網経記載］

② Ahetu vāda（無因論）とは

Sattva（有情）の汚れ、清らかさなどに直接関わる原因の Janaka kamma（令生業）という原因の Dhamma は無い、と原因を信じないことです。また Paccaya の Upatthambhaka kamma（支持業）という原因の Dhamma は無い、と原因を信じないことです。Sattva には汚れや清らかさなどに関わる原因の Dhamma は無いと話している、信じている、考えている Vāda を Ahetu vāda と言います。さらに原因は無いと避けているので結果も無いことになります。Kamma の原因と結果は無いという Vāda です。［Dīganikāya1.50 長部経典記載］

③ Visamahetu vāda（異因論）とは

Visamahetu vāda とは Pakati（自然）、Aṇu（順）、Kāla（時）という力で世界は現れていると考える Vāda です。この世界は元々あり、それぞれの期間があり、生き物たちはここまでは人間、ここまでは天、ここまでは梵天などと期間により決まって現れる、などとそのように、話している、信じている、考えている Vāda です。［Mahātīkā2-235 記載］

④ Vasavatti vāda（自在天論）とは

Issara vāda（自在天論）、Purisa vāda（我神論）、Pajāpati vāda（造物論）などは Vasavatti vāda です。これらの 3 つの Vāda は名前が違いますが意味はすべて同じです。この生き物の世界は永遠の神様がいてその神様の思い通りに世の中は作られていると信じていることです。Kamma の原因と結果を全く信じていない Vāda です。

［Anuṭīkā3-65 に記載］ この世と生き物を作る創造者という Issara の思い通り Loka（世間）と Sattva（有情）は現れてきます。そのように話している、信じている、考えている Vāda を Vasavatti vāda と言います。この Vāda を信じる人々は作られた Atta（我）を Jīva atta（霊魂我）や、作る Issara（自在者）を Parama atta（最高我）と思ってしまいます。Kamma の原因と結果を信じていない Vāda です。［Mahātīkā2-235 記載］

Yogī が原因と結果という Paṭiccasamuppāda の要素を自分の Sammādiṭṭhi の智慧ではっきりと知った場合にはこれらの間違った Sassata vāda（常見論）、Ahetu vāda（無因論）、Visamahetu vāda（異因論）、Vasavatti vāda（自在天論）という 4 つの Vāda を無くすことができるのです。邪見を完全に無くすことができます。

2） Samuppāda（集合生起）の意味

Samuppāda（集合生起）により原因の Dhamma が同時に集合して現れているということは、Paccaya sāmaggi（縁和合）があれば Saṅkhāra という Paccupanna dhamma は集合して同時に現れます。そのことにより下記の Vāda が無くなります。

① Uccheda vāda（断見論）

② Natthika vāda（非有論）

③ Akiriya vāda（無作論）

Samūpāda により Uccheda vāda という間違った Vāda を無くすことができます。{Visudhimagga2-153 に記載}

①Uccheda vāda（断見論） とは

Atta、Sattva は死んでしまったら無くなり次の生に生まれ変わることは無く現世と来世は繋がりが無く関係ない、と信じていることです。

②Natthika vāda（非有論）とは

Dāna などのお布施をしてもその結果は何も無いと信じていること、また善い行い、悪い行いの結果などは無いと信じていること、このように結果の Dhamma が現れることを信じないことです。結果を信じていないので結果を現す原因も信じていないことになります。結果の Dhamma を無いと信じることにより結果を現す原因の Dhamma が無いということと同じ意味になります。Natthika vāda は Kamma の原因と結果を信じないことです。

③Akiriya vāda（無作論）とは

自分で作ること、他人に作ってもらうこと、自分で切ること、他人に切ってもらうこと、どのような悪いことをしても悪いことをしたことにならない、善いことをしても、悪いことをしても、それをしたことにはならない、善い Kusala も悪い Akusala も無い、つまり、善い Kamma も悪い Kamma も無いといっていることです。そのように原因の Kamma は無いと言っていることを Akiriya vāda と言います。［Dīganikāya Aṭṭakathā1-150 に記載］

原因の Kamma を避けることにより結果の Vipāka も避けることになります。結果の

Vipāka を避けることにより原因の Kamma を避けることになります。Uccheda vāda（断見論）、Natthika vāda（非有論）、Akiriya vāda（無作論）は Kamma の原因と結果を信じない論です。

Yogī は原因が同時に現れることで Saṅkhāra などの結果が同時に現れることを Passaka ñāṇa（正見智）により自分自身ではっきりと知った場合に Uccheda vāda（断見論）、Natthika vāda（非有論）、Akiriya vāda（無作論）から離れることができます。Micchā diṭṭhi（邪見）が現れることはありません。［Dīganiāya1-150 長部経典］

3）Paṭicca ＋ Samuppāda の意味

Paṭicca と Samuppāda を合わせて Paṭiccasamuppāda になります。Avijjā などが集合している原因の Dhamma と Saṅkhāra などが集合している結果の Dhamma が何度も何度も原因と結果として継続して Paccupanna dhamma が現れることは Paṭiccasamuppāda です。Paṭiccasamuppāda を修習するということは、

① Majjima paṭipada という八正道です。

② その人が作る、その人が受ける、誰々が作る、誰々が受ける、という邪見を避けることができます。

③ Rūpa と Nāma の Paramattha、Rūpa と Nāma の原因と結果の繋がる要素などを知らない一般の社会で使っている男性、女性、など Vohāra paññatti（俗事概念）は間違いであると理解します。つまり Taṇhā、Diṭṭhi によりそのように間違って使っていることを知ります。

④ 一般の社会で使っている Loka samuṭṭhi sacca（世間等起諦）を超えることはありません。

このように Paṭiccasamuppāda を知ることは涅槃に向かう Ñāya（正理）という Ariya magga（聖道）を歩んでいることです。

〔Visuddhimagga2-153 に記載〕

5. 更なる Majjhima paṭipadā についての説明

Majjhima paṭipadā 言い換えれば八正道とは Paṭiccasamuppāda の修習をすることに他なりません。Yogī は Nāmarūpa paricceda ñāṇa と Paccaya pariggaha ñāṇa を得るように努力しなければなりません。つまり Atīta（過去）、Paccupanna（現在）、Anāgata（未来）のすべての原因と結果の Paramattha dhamma を自分の Passaka ñāṇa で理解して Sammādiṭṭhi ñāṇa を得るよう努力しなければなりません。八正道とは以下のとおりです。

①Sammādiṭṭhi（正見）

Rūpa と Nāma つまり Pañcupādānakkhandha（五取蘊）を自分の智慧で知ることを Sammādiṭṭhi（正見）と言います。

Majjhimanikāya1-82 中部経典念処経には次のように書かれています。

Saṃkhittena pañcupādānakkhandhā dukkha.
簡潔に言えば五取蘊を苦と言います。

五取蘊は Dukkha sacca（苦諦）の Dhamma の集まりです。Dukkha sacca を自分の智慧ではっきりと知ることを Sammādiṭṭi と言います。［Majjhimanikāya1-88 中部経典］
Dukkha sacca dhamma と Samudaya sacca dhamma の原因と結果の繋がる Paṭiccasamuppāda dhamma を知る智慧は Samudaya sacca を知る Sammādiṭṭi と言います。［Aṅguttaranikāya1-178Titthāyatanā sutta 増支部経三法集記載］

② Sammāsaṃkappa（正思惟）

Dukkha sacca dhamma、Samudaya sacca dhamma を Saṅkhāra dhamma と言います。その Saṅkhāra dhamma をはっきりと知る Sammādiṭṭhi ñāṇa とその Nāma、Rūpa、原因、結果、という Saṅkhāra dhamma を対象として心を向けさせ、深く思惟することは Sammāsaṃkappa と言います。

③ Sammāvāyāma（正精進）

その Sammādiṭṭhi ñāṇa と Nāma、Rūpa 、原因、結果の繋がる Dhamma を知るように努力していることを Sammāvāyāma と言います。

④ Sammāsati（正念）

その Nāma、Rūpa、原因、結果という Saṅkhāra dhamma を何度も何度も修習し、その Saṅkhāra dhamma を対象として心を集中させることを Sammāsati と言います。

⑤ Sammāsamādhi（正定）

その Sammādiṭṭhi ñāṇa と Nāma、Rūpa、原因、結果という Saṅkhāra dhamma を対象に心をじっと留めていることを Sammāsamādhi と言います。（これは Vipassanā の Sammāsamādhi です。）もし Yogī は Samatha yānika であれば Jhāna samādhi（禅定）を Vipassanā の基本の Samādhi として修習した場合はその Jhāna samādhi も Sammāsamādhi です。〔Majjimanikāya1-89 大念処経に説明されています。〕

⑥ Sammāvāca（正語）、⑦ Sammākammanta（正業）、 ⑧ Sammājīva（正命）

Yogī が瞑想修習の以前に守って置かなければならない戒律などです。

Lokiya（世間）の時にはこの Sīla magginga の⑥⑦⑧の 3 つとRūpanāma の原因と結果という Saṅkhāra dhamma などを対象としている①から⑤の 5 つの Magginga は 1 つの Cittakkhaṇa としては現れません。

Rūpa と Nāma の Saṅkhāra dhamma の原因と結果という Paṭiccasamuppāda の要素をはっきりと自分の智慧で知る Yogī は八正道という涅槃へと向かう Ariya magga（聖道）を歩んでいるのです。 Ñāya（正理）という Ariya magga（聖道）です。
それは Sassata diṭṭhi や Uccheda diṭṭhi などの邪道に逸れず Majjhima paṭipadā という中道を歩んでいることになるのです。［Mahāṭīkā2-236 に記載］

Kusala dhamma、Akusala dhamma の Kamma vaṭṭa とそれらの結果の Dhamma の

Vipāka vaṭṭa は異なる Sabhāva lakkhaṇa（自性相）という自然の特相があります。（第四巻にて説明する Lakkanādi catuka 参照。）さらに Kamma vaṭṭa という原因の Dhamma と Vipāka vaṭṭa という結果の Dhamma の現れる時期も違いがあります。

Vīthimutta citta という Paṭisandhi citta（結生心）、Bhavaṅga citta（有分心）、Cuti citta（死心）という Nāma dhamma や Vīthi citta という Pañcaviññāṇa（五識）、Sampaṭiccana（領受心）、Santīrana（推度心）、Tadārammaṇa（被所縁）など、Paṭisandhi の時から現在の Bhava までに現れている Kammaja rūpa などは Vipāka vaṭṭa です。それらの Vipāka vaṭṭa を現す原因の Kamma はほぼ過去世で作られています。Kamma には稀に現世で作って現世で現れる Kamma もあります。それを Diṭṭhadhammavedanīya kamma（現法所受業）と言います。稀にこのように現世で結果を出す Kamma もあるので原因の Kamma が作られるのはすべてが過去世ではなく、ほぼ過去世で作られている、と説明しています。Diṭṭhadhammavedanīya kamma は Paṭisandhi（結生）の時には現れず、Pavatti（転起）の時に現れます。

現世の Paṭisandhi（結生）時の Nāmarūpa という Vipāka vaṭṭa を現す過去世の Kamma は第一過去世の場合もあれば、第二過去世、第三過去世、さらにこの地球ではない以前の地球の過去世で作った Kamma の原因の可能性もあります。［Abhidhamma Aṭṭhakathā3-374 に記載］

Paṭisandhi の前の過去世で作った Kamma には Paṭisandhi という結果を出す可能性があります。しかし Kamma vaṭṭa という原因の Kamma が Vipāka vaṭṭa という結果の Nāmarūpa を現す時期には相違があるということです。来世に関しても同じことが言えます。原因を現す Kamma と結果の Nāmarūpa が現れる時期は同じではなく、違いがあるということです。

現世で作り現世で結果を現す Diṭṭhadhammavedanīya kamma であっても、Kamma を作った後にすぐに結果が現れるのではなく、時間の差があり少し期間が離れて現れます。多くの Cittakkhaṇa の時間の差が生じます。

Kamma vaṭṭa と Vipāka vaṭṭa には違う Sabhāva lakkhaṇa（自性相）があり、現れる時間も違うのです。

原因と結果の繋がりの Dhamma を自分の Sammādiṭṭhi ñāṇa により知ることができた Yogī は間違った Vāda を信じることが無くなります。

Sammādiṭṭhi ñāṇa を得た Yogī は原因という Kamma vaṭṭa の Rūpa と Nāma と結果の Rūpa と Nāma の Saṅkhāra dhamma の集まりのみがあるということを知ります。そして原因の Rūpa と Nāma は滅してしまう Anicca（無常）であると知ります。結果の Vipāka vaṭṭa の Rūpa と Nāma も同じように滅してしまう Anicca であると知ります。さらにそれらは Dukkha（苦）であると知ります。Anatta（無我）であると知ります。

Sammādiṭṭhi ñāṇa に満たされた Yogī は Saṅkhāra dhamma のすべてを自分の智慧で知り、それらを作っている人、受けている人など Puggala（人）や Atta（我）などというも

のは無い、ということを理解してきます。

原因の Dhamma と結果の Dhamma の繋がりの継続していることを Anicca（無常）、Dukkha（苦）、Anatta（無我）として継続していることを自分の智慧ではっきりと知ることができた Yogī は Sassata vāda（常見）が無くなります。［Mahāṭīkā2-236 記載］

Khandha（蘊）、Āyatana（処）、Dhātu（界）として Rūpa dhamma と Nāma dhamma の Santati（相続）を Kamma vaṭṭa Vipāka vaṭṭa という原因と結果の Dhamma として Passaka ñāṇa によりよく理解できた Yogī は Sammādiṭṭhi ñāṇa を得ることができて Sassata vāda から離れることができます。［Abhidhamma Aṭṭhakathā2-142 記載］

作った Kamma は自動的に現れる訳でもなく、また勝手に消えて行くこともありません。作った Kamma は必ず結果を出してから消えて行きます。結果を出さずに消えて行く Kamma は無いということです。Diṭṭhadhammavedanīya kamma であれ、Upapajja – vedanīya kamma であれ Parinibbāna（般涅槃）の時まで消えずにあります。［Mahāṭīkā2-236 記載］

Kusala saṅkhāra kamma があった場合、その Kamma の結果の Vipāka を必ず得ることができます。比丘になりますように、法を広められますように、と過去世で作った Kusala saṅkhāra kamma はその願った人の Rūpa と Nāma に Kamma satti を埋めます。そして比丘として生まれ変わった Vipāka vaṭṭa の Rūpa と Nāma としての結果が現れます。

過去世の Kamma の原因で現世の Vipāka である Rūpa と Nāma の Santati は Nicca（常）、Sukha（楽）、Atta（我）として現れているのではなく、Anicca、Dukkha、Anatta の Santati として現れています。

Kamma という Kamma vaṭṭa で作られた Rūpa と Nāma は常に現れては滅しています。常に Vipāka vaṭṭa という新しい Nāma と Rūpa も現れては滅しています。

過去世で作った Kamma vaṭṭa の Nāma と Rūpa と現世で現れている Vipāka vaṭṭa の Nāma と Rūpa は一本の糸のように繋がって継続していますが、その Santati は現れては滅していることをはっきりと自分の Sammādiṭṭhi の智慧で観ることができた Yogī はそれらを作っている人、受ける人がいるという邪見を無くすことができます。

Rūpa と Nāma の Paramattha の智慧を得ていない Paṭiccasamuppāda を智慧で知らない智慧の無い人はお互いに Taṇhā、Māna、Diṭṭhi などで「これは私だ。」「これは私のものだ。」「これは人だ。」「これは梵天だ。」などの Janapadanirutti（国土の言語）という間違った話し方をしてしまいます。しかし、Paṭiccasamuppāda の要素を Paramattha で観ることができ自分の Sammādiṭṭhi の智慧ではっきりと知ることができた Yogī はそれらを「これは私だ。」「これは私のものだ。」というのは便宜上、そのように話しているだけであり、実際には原因と結果の Dhamma である Nāma と Rūpa しかないということをはっきりと知ることができます。

Paramattha rūpanāma を Sammādiṭṭhi の智慧で観えた Yogī であっても、もし「その五

蘊を連れて来てください。」「その Nāmarūpa 来てください。」などと話をしたならば Paramattha の智慧が無い一般世間では通用せずに混乱してしまいます。ですから Paramattha の智慧を得ていたとしても便宜上は男性、女性、人間、など概念で付けた名前で話をしているのです。Sammādiṭṭhi の智慧を得ていたとしても Taṇhā、Māna、Diṭṭhi などに固執している一般社会で通用するため Janapadanirutti（国土の言語）として受け止めているのです。［Mahāṭīkā2-236 記載］

Sammādiṭṭhi の智慧を得られた Yogī は自分の智慧の中では実際には Nāma と Rūpa しか無いことを理解しています。しかし、Samaññāya anatidhāvanaṃ（通称不超越）と言う一般社会の言葉を超えずに一般社会で通用する言葉を使って話をしているのです。［Mahāṭīkā2-236 記載］

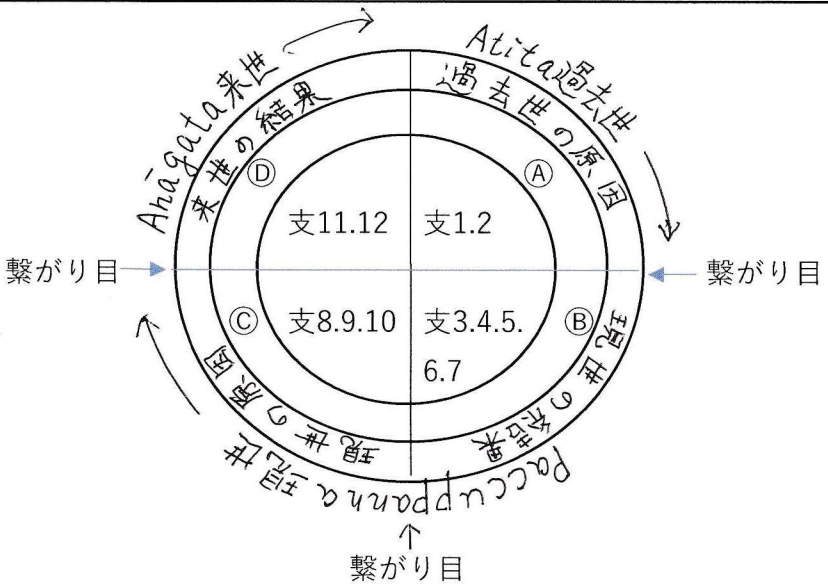
Sammādiṭṭhi の智慧ではっきりと Paramattha の要素を知ることができた Yogī は以下の 4 種類の結果を得ることができます。

1） Majjhima paṭipadā（中道）という道を歩むことができる。
2） それぞれの Vāda（邪見論）を避けることができる。
3） 真理は Janapadanirutti（国土の言語）という世間の言葉通りではないことを智慧で理解する。
4） Loka sammuti sacca（世間超諦）を越えない。

このような 4 種類の利益があります。

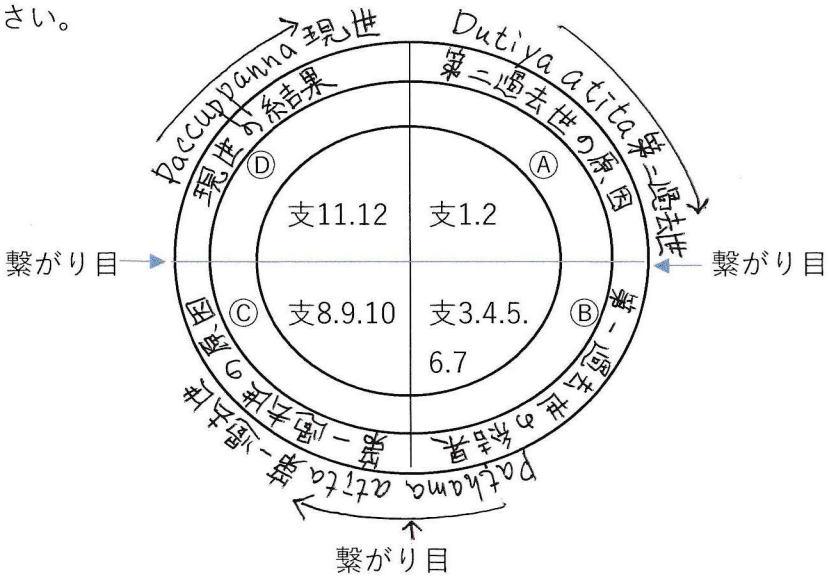
［Visuddhimagga2-153,Mahāṭīkā2-235 記載］

Paccuppanna bhava（現世）を中心にしたPaṭiccasamuppāda（縁起）の輪転　1				
Sandhi（繋がり目）3	Aṅga（全支）12	Ākāra（行相）２０	saṅkhepa（層）4	Kāla（期間）3
繋がり目　→	1 Avijjā 無明	Avijjā + Taṇhā + Upādāna	= Atīta過去世の原因 １つ	Atīta過去世の Dhamma group
	2 Saṅkhāra 形成力	Saṅkhāra + Kamma Ⓐ		
	3 Viññāṇa 意識	1 Viññāṇa	= Paccuppanna現世の結果１つ	Paccupanna現世の Dhamma group
	4 Nāmarūpa　名色	2 Nāmarūpa		
	5 Saḷāyatana 六処	3 Saḷāyatana Ⓑ		
	6 Phassa 接触	4 Phassa		
繋がり目　→	7 Vedanā 感受	5 Vedanā		
	8 Taṇhā 渇愛	Avijjā + Taṇhā + Upādāna	= Paccuppanna現世の原因１つ	
	9 Upādāna 執着	Kamma bhava = Saṇkhāra + Kamma Ⓒ		
繋がり目　→	10 Bhava 存在			
	11 Jāti 誕生	Upapatti bhava 起有 =Viññāṇa+Nāmarūpa+	= Anāgata来世の結果１つ	Anāgata来世の Dhamma group
	12 Jarāmaraṇa 老死	Saḷāyatana+Phassa+Vedanā Ⓓ		



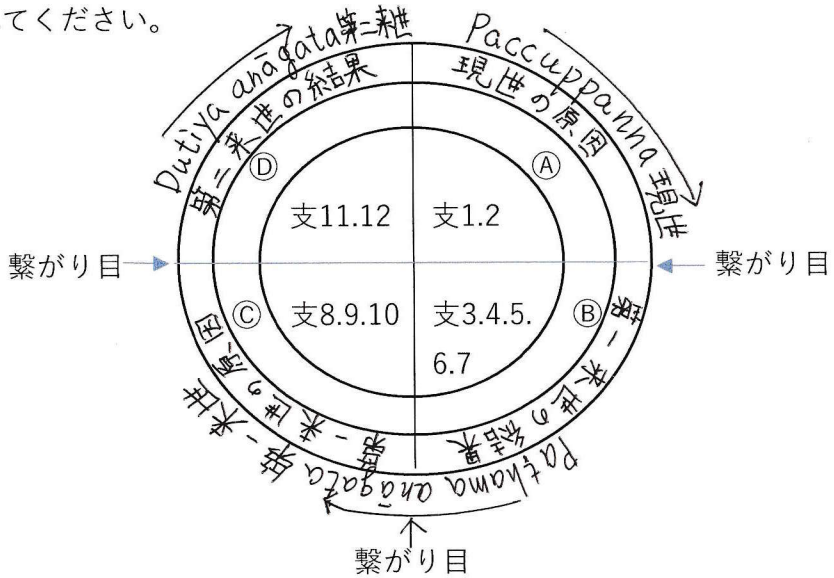
Paṭhama atīta bhava（第一過去世）を中心にしたPaṭiccasamuppāda（縁起）の輪転　2				
Sandhi (繋がり目)3	Aṅga (全支) 12	Ākāra（行相）２０	Saṅkhepa (層)　4	Kāla（期間）3
繋がり目　→	1 Avijjā 無明	Avijjā + Taṇhā + Upādāna	= Dutiya atīta第二過去世の原因 1つ	Dutiya atīta第二過去世のDhamma group
	2 Saṅkhāra 形成力	Saṅkhāra + Kamma Ⓐ		
	3 Viññāṇa 意識	1 Viññāṇa	= Paṭhama atīta第一過去世の結果１つ	Paṭhama atīta 第一過去世の Dhamma group
	4 Nāmarūpa　名色	2 Nāmarūpa		
	5 Saḷāyatana 六処	3 Saḷāyatana Ⓑ		
	6 Phassa 接触	4 Phassa		
繋がり目　→	7 Vedanā　感受	5 Vedanā		
	8 Taṇhā 渇愛	Avijjā + Taṇhā + Upādāna	= Paṭhama atīta第一過去世の原因 1つ	
	9 Upādāna 執着	Kamma bhava = Saṅkhāra + Kamma Ⓒ		
	10 Bhava 存在			
繋がり目　→	11 Jāti 誕生	Upapatti bhava 起有 =Viññāṇa+Nāmarūpa+	= Paccuppanna 現世の結果１つ	Paccupanna現世の Dhamma group
	12 Jarāmaraṇa 老死	Saḷāyatana+Phassa+Vedanā Ⓓ		

＊＊＊前々の過去についても同じように理解してください。



Paṭhama anāgata bhava（第一来世）を中心にしたPaṭiccasamuppāda（縁起）の輪転　3				
Sandhi(繋がり目) 3	Aṅga (全支) 12	Ākāra（行相）20	Saṅkhepa (層)　4	Kāla（期間）　3
繋がり目　→	1 Avijjā 無明	Avijjā + Taṇhā + Upādāna Ⓐ =	Paccuppanna　現世の原因 1つ	Paccuppanna現世の Dhamma group
	2 Saṅkhāra 形成力	Saṅkhāra + Kamma		
	3 Viññāṇa 意識	1 Viññāṇa Ⓑ =	Paṭhama anāgata 第一来世の結果 1 つ	Paṭhama anāgata 第一来世の Dhamma group
	4 Nāmarūpa　名色	2 Nāmarūpa		
	5 Saḷāyatana 六処	3 Saḷāyatana		
	6 Phassa 接触	4 Phassa		
	7 Vedanā 感受	5 Vedanā		
繋がり目　→	8 Taṇhā 渇愛	Avijjā + Taṇhā + Upādāna Ⓒ =	Paṭhama anāgata 第一来世の原因1つ	
	9 Upādāna 執着	Kamma bhava = Saṅkhāra + Kamma		
	10 Bhava 存在			
繋がり目　→	11 Jāti 誕生	Upapatti bhava 起有 =Viññāṇa+Nāmarūpa+ Saḷāyatana+Phassa+Vedanā Ⓓ =	Dutiya anāgata　第二来世の結果 1 つ	Dutiya anāgata第二来世のDhamma group
	12 Jarāmaraṇa 老死			

＊＊＊後々の来世の縁起の繋がりも同じように理解してください。



VI　Anuloma paṭiccasamuppāda 随順縁起（第一方法）について

1. 縁起の輪転の表についての説明

表1は Paccupanna（現世）を中心とした場合、過去世、現世、来世の原因と結果がどのように廻るかを理解するように表しています。

〇上部の表

*繋がり目：縁起の輪転には繋がり目が 3 つあります。

*Aṅga（全支）：Paṭiccasamuppāda に含まれている支は全部で 12 支あります。

*Aṅga（部分支）：過去、現在、未来の部分に分けると支は 20 支になります。

*層：過去、現在、未来の原因と結果は4層になります。

*Kāla（期間）：過去、現在、未来は3期になります。

〇下部の表　上部の表を円で表したものです。

*Aṅga（全支）12支

Paṭiccasamuppāda の回転には Avijjā（無明）、Saṅkhāra（形成力）、viññāṇa（意識）、Nāmarūpa（名色）、Saḷāyatana（六処）、Phassa（接触）、Vedanā（感受）、Taṇhā（渇愛）、Upādāna（執着）、Bhava（存在）、Jāti（誕生）、Jarāmaraṇa（老死）の12支が含まれています。

*Aṅga（部分支）20支

支を過去世の原因、現世の結果、現世の原因、来世の結果の部分でみると下記のようになります。

過去世では Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma という原因を作ります。Ⓐ

現世で Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā が結果として現れます。Ⓑ

現世で Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma が原因を作ります。Ⓒ

来世で Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā が結果として現れます。Ⓓ

*Kāla（期間）は 3 つあります。

（表１）現世を中心として輪転を観る場合

（１）Avijjā、Saṅkāra は過去世の Kāla（期間）にあります。

（２）Viññāṇa、Nāmārūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Taṇhā、Upādāna、Kamma bhava は現世の Kāla（期間））にあります。

（３）Jāti、Jarāmaraṇa は来世の Kāla（期間）にあります。

（表２）第一過去世を中心として輪転を観る場合

（１）Avijjā、Saṅkāra は第二過去世の Kāla（期間）にあります。

（２） Viññāṇa、Nāmārūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Taṇhā、Upādāna、Kamma

bhava は第一過去世の Kāla（期間）にあります。
（３）Jāti、Jarāmaraṇa は現世の Kāla（期間）にあります。
自分の観える範囲で何世も前まで遡り観ていきます。
（表３）第一来世を中心として輪転を観る場合
（１）Avijjā、Saṅkāra は現世の Kāla（期間）にあります。
（２） Viññāṇa、Nāmārūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Taṇhā、Upādāna、Kamma bhava は第一来世の Kāla（期間）にあります。
（３）Jāti、Jarāmaraṇa は第二来世の Kāla（期間）にあります。

*Sandhi（繋がり目）は 3 つあります。
（表１）現世を中心として輪転を観る場合
（１）過去世の Saṅkhāra と現世の Viññāṇa の間に繋ぎ目があります。
（２）現世の Vedanā と Taṇhā の間に繋ぎ目があります。
（３）現世の Kamma bhava と来世の Jāti の間に繋ぎ目があります。
｛第一過去世を中心とした場合、第一来世を中心とした場合については表２，３を参照してください。｝

*Saṅkhepa（層）は 4 つあります。
（１）過去世の Kāla の Avijjā を修習するときはその Avijjā と同じ Kilesa vaṭṭa である Taṇhā、Upādāna も修習しなければなりません。Saṅkhāra を修習するときはその Saṅkhāra と同じ Kamma vaṭṭa に含まれている Kamma も修習しなければなりません。ですから Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma（Kamma bhava）として過去の原因は 5 つです。（過去の原因一層。）
（２）Viññāṇa、Nāmārūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā などは過去の原因 5 つで現れた Paccupanna の結果の Dhamma 5 つです。（現世の結果一層。）
（３）Paccupanna 原因 Dhamma に Taṇhā、Upādāna を修習するときは Avijjā も同じ Kilesa vaṭṭa なので修習しなければなりません。Kamma （Kamma bhava）を修習するときは Saṅkhāra も同じ Kamma vaṭṭa なので修習しなければなりません。ですから Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma などは Paccupanna 原因 Dhamma5 つです。（現世の原因一層。）
（４）Jāti は Paccupanna 原因 Dhamma 5 つで来世に現れる Paṭsandhi rūpa dhamma と nāma dhamma です。つまり Vipāka vaṭṭa rūpa dhamma、nāma dhamma です。Viññāṇa、Nāmārūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā です。（来世の結果

過去、過去に遡りこのように修習し、来世についても悟りを開くまでの世についても同じように理解してください。

2. 修習の前に知っておくべきこと

Anuloma paṭiccasamuppāda の修習の前には縁起の輪転表をよく理解してください。この第一法は全支 12 個を中心として原因と結果の繋がりを観ていきます。Anicca（無常）、Dukkha（苦）、Anatta（無我）を洞察していく若い Vipassanā の修習も始まります。

Anuloma paṭiccasamuppāda の修習の前に前ページの表をよく観てください。

<Paccaya pariggaha ñāṇa について>

前記の第五方法では原因と結果の繋がりを理解する Paccaya pariggaha ñāṇa を得るために、Avijjā が現れたことにより Saṅkhāra が現れることを観て「Avijjā が原因で Saṅkhāra が結果です。」と観る修習をしました。この第一方法でも Paccaya pariggaha ñāṇa を得るために同じように原因と結果の繋がりを観る修習をします。

Avijjā が現れた原因により Saṅkhāra が現れます。

Avijjā が原因で Saṅkhāra が結果です。

このように原因の Dhamma と結果の Damma を修習します。

<Sammasana ñāṇa（思惟智）と若い Udayabbaya ñāṇa（生滅智）について>

この修習においては、それに加えて Sammasana ñāṇa（思惟智）と若い Udayabbaya ñāṇa（生滅智）を得るための修習もしなければなりません。そのためには Paṭiccasamuppāda 全 12 支が現れては滅することを対象として無常、苦、無我の三相により観ていきます。

Sammasana ñāṇa（思惟智）と若い Udayabbaya ñāṇa（生滅智）の修習では、Avijjā が現れて Saṅkhāra が現れたことを観て下記の様に修習します。

Avijjā が現れて滅して Anicca（無常）。{Dukkha（苦）、Anatta（無我）}

Saṅkhāra が現れて滅して Anicca（無常）。{Dukkha（苦）、Anatta（無我）}

このように修習します。

Udayabbaya ñāṇa は若い智慧と熟した智慧の上下 2 つに分かれています。上記は若い Udayabbaya の智慧の修習です。次に熟した Udayabbaya の智慧の修習をします。

熟した Udayabbaya ñāṇa（生滅智）を得るための修習

1） Paccayato udayadassana（縁生見）

原因が現れたことにより結果が現れたことを観る修習です。

Avijjā が現れたことにより Saṅkhāra が現れます。

Saṅkhāra が現れたことにより Viññāṇa が現れます。

このように現れたことを観る修習です。

2） Paccayato vayadassana（縁滅見）

原因が滅したことにより結果が滅したことを観る修習です。
Avijjā が滅したことにより Saṅkhāra が滅します。
Saṅkhāra が滅したことにより Viññāṇa が滅します。
3） Khaṇato udayadassana（刹那生見）
Khaṇa（刹那）に瞬時に現れた Paṭiccasamuppāda の Aṅga（支）の現れたことのみを観る修習です。
Avijjā が現れたことを観ます。
Saṅkhāra が現れたことを観ます。
4） Khaṇato vayadassana（刹那滅見智）
Khaṇa（刹那）に瞬時に滅していく Paṭiccasamuppāda の Aṅga（支）の滅していくことのみを観る修習です。
Avijjā が滅していくことを観ます。
Saṅkhāra が滅していくことを観ます。
5） Paccayato udayadassana（縁生見）+ Khaṇato udayabbaya（刹那生滅）
Avijjā が現れた原因により Saṅkhāra が現れます。
Avijjā が滅することにより Saṅkhāra が滅します。
Avijjā（現れて滅して）Anicca（無常）。{Dukkha（苦）Anatta（無我）}
Saṅkhāra（現れて滅して）Anicca（無常）。{Dukkha（苦）Anatta（無我）}
このように修習します。この修習は Udayabbaya の熟した智慧の修習になります。

<Bhaṅga ñāṇa（壊智）について>

上記の修習の後、Bhaṅga ñāṇa（壊智）の修習をします。
Bhaṅga ñāṇa（壊智）の修習は Paṭiccasamuppāda の Aṅga が滅していることのみをよく観て三相で Anicca（無常）、Dukkha（苦）、Anatta（無我）と洞察することです。
さらに Bhavaṅga ñāṇa より上位の Vipassanā の智慧などは Upādiṇṇakapavatta（己取転起）という原因の Dhamma が現れたことにより結果の Dammma が現れることを修習せず、、、
Avijjā（滅して滅して）Anicca（無常）。{Dukkha（苦）、Anatta（無我）}
Saṅkhāra（滅して滅して）Anicca（無常）。{Dukkha（苦）、Anatta（無我）}
このように Paṭiccasamuppāda の Aṅga が滅していることのみを対象として三相で Anicca（無常）、Dukkha（苦）、Anatta（無我）と洞察します。
Yogī が Paṭiccasamuppāda の Aṅga の滅していることのみを対象として無常、苦、無我という三相を洞察する修習をして Vipassanā の智慧が上昇してくると Aṅga が早く滅していることのみが観えるようになってきます。
まだ Vipassanā の智慧が若い時は Saṅkhāra dhamma の現れて滅していることは早すぎてよく観えないのですが、よく修習をして智慧が発達してくると滅していることのみが

観えるようになってくるのです。
　そのように滅していることのみが観えるようになり Aṅga の早く滅していることを洞察して「Avijjā が滅して滅して Anicca（無常）」と三相で洞察する修習をよくしたら、その修習している智慧をもう一つ別の智慧で観る修習をします。
Avijjā（滅して滅して）Anicca（無常）。{Dukkha（苦）Anatta（無我）}
観ている智慧は（滅して滅して）Anicca（無常）。{Dukkha（苦）Anatta（無我）}
Saṅkhāra（滅して滅して Anicca（無常）。{Dukkha（苦）Anatta（無我）
観ている智慧は（滅して滅して）Anicca（無常）。{Dukkha（苦）Anatta（無我）}
このように修習します。

「無常、苦、無我の洞察に関して第一巻の P20 Vipassanā とは何かの説明を参照してください。}

Avijjā と Saṅkhāra の原因と結果の Dhamma が現れてきたすべての Vīthi citta の現れた通りに Vīthi に含まれている Sampayutta dhamma のすべての原因と結果の Dhamma や原因と結果の Dhamma を洞察しているすべての智慧も観ます。そこに含まれている Ghana をすべて破壊して Paramattha dhamma が観えるまで修習しなければなりません。

3. 人それぞれ

　生きとし生ける物たち、今は人間を中心に話をしますが、皆それぞれです。
私たち人間にはそれぞれの Avijjā があります。それぞれの Saṅkhāra があります。
一人ひとり、Avijjā も Saṅkhāra も違います。ある人は「男性になりたい。」という Avijjā、Taṇhā、Upādāna を含んだ Saṅkhāra kamma を作りました。ある人は「女性になりたい。」という Avijjā、Taṇhā、Upādāna を含んだ Saṅkhāra kamma を作りました。Avijjā も違いますし、ある人には Dāna kamma が結果として現れていることもありますし、Sīla kamma が結果として現れていることもありますし、Bhāvanā kamma が結果として現れていることもあります。さらに Dāna kamma の中でも、ある人は食事のお布施の Kamma が結果として現れていることもありますし、花や袈裟のお布施の Kamma が現れていることもあります。このように一人ひとりの Avijjā は違います。そのことと同じように Saṅkhāra も一人ひとり違います。人それぞれの Avijjā や人それぞれの Saṅkhāra がある訳です。自分の Santati の継続を観ると過去過去の一世一世にも違いがあります。ですから自分の Rūpa と Nāma の Santati の過去に現れた、現在現れている Avijjā や Saṅkhāra を自分の智慧で良く観えるように修習しなければなりません。
　Paṭiccasamuppāda 第五方法で Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma などの調

べ方は説明しました。ですから第一法では実践修習について省略して説明します。

VII Anuloma Paṭiccasamuppāda（随順縁起）（第一法）実践修習

1. Avijjāpaccayā saṅkhāra

Avijjā（無明）が現れた原因により Saṅkhāra（形成力）が現れます。
Avijjā が原因で Saṅkhāra が結果です。

過去世で作った Avijjā、Taṇhā、Upādāna の Avijjā を中心に観ていきます。この Kilesa vaṭṭa の原因で Saṅkhāra、Kamma という過去世の Kamma vaṭṭa が現れたことを智慧で良く観ます。

過去世の Avijjā、Saṅkhāra を修習する時 Vīthi citta のプロセスは以下のように現れます。下記の1表1Manodvāra vīthi を参照してください。

表1　Manodvāra vīthi（意門路）			
	Manodvāravajjana 意門引転心	Javana 7 回 速行心	Tadārammaṇa 2 回 被所縁
Avijjā 無明	12	20	12/34---
Saṅkhāra 形成力	12	34	34/12/---

Avijjā を観ると Manodvāravajjna には 12 個の心と心所が含まれています。Javana 7 回には 20 個の心と心所が含まれています。Tadārammaṇa 2 回には 12/34---（Pīti、ñāṇa の有無により変化します。）

Saṅkhāra を観ると Manodvārāvajjana には 12 個の心と心所。Javana 7 回には 34 個、Tadārammaṇa 2 回には 34/12 です。

過去の Avijjā、Saṅkhāra が現れた時はこのような心と心所が含まれていることを観てください。

Avijjā は Lobha diṭṭhi group の場合が多いです。Lobha diṭṭhi group にはほぼ 20 個の心と心所が含まれています。Pīti が無く Upekkhā の時は 19 個になります。Thīna、Middha があれば 22 個になります。あるいは Pīti も無く 21 個の場合もあります。これは Lobha mūla diṭṭhigata sampayuttaṃ citta 4 種類です。Lobha māna group で現れる時もあります。その時は Diṭṭigata vipayuttaṃ citta 4 種類で現れます。時には Tadārammaṇa に落ちる場合もあれば落ちない場合もあります。Tadārammaṇa に落ちた場合 Javana に

は Pīti があれば Tadārammaṇa にも Pīti があります。Javana に Pīti が無ければ Tadārammaṇa にも Pīti はありません。時には Sahetuka tadārammaṇa に、時には Ahetuka tadārammaṇa に落ちる場合もあります。

Saṅkhāra も同じように観ていきます。表には人間の Saṅkhāra の心と心所を書いてあります。Nāma 瞑想修習した時のように Javana の 34、33, 32 個を観て修習してください。Tadārammaṇa に落ちた場合、落ちていない場合もよく観てください。

さらに Vipassanā の修習ですから原因と結果の両方の Vīthi citta の現れて滅していることをよく観て無常、苦、無我の三相で洞察しなければなりません。

Vipassanā の修習の時は必ず Nāma ghana と Rūpa ghana を完全に壊していかなければなりません。つまり Paramattha dhamma を自分の智慧ではっきりと観なければならないということです。

さらに Pañcadvāra vīthi の場合、Paṭisandhi という結果を現すことはありません。Pavatti の結果だけがあります。

本では Manodvāra vīthi のみ表にしてありますが、Yogī は上記のこともよく理解した上で修習してください。

2. Saṅkhārapaccayā viññāṇaṃ

Saṅkhāra（形成力）が現れたことにより Viññāṇa（識）が現れます。［Abhidhamma1-116］

Avijjā が原因で Saṅkhāra が現れます。Saṅkhāra が原因で Viññāṇa が現れます。

この Avijjā、Saṅkhāra などの Sabhāva satti（自性効力）があることを Atthi（有）と言います。Avijjā、Saṅkhāra などは多くの Cittakkhaṇa vīthi に含まれています。Avijjā は時には Akuksala saṅkhāra を現します。Akusala saṅkhāra の Cittakkhaṇa1つ 1 つは同時に現れる場合もあります。しかし人間の場合 Paṭisandhi vipāka viññāṇa という Kusala vipāka viññāṇa などを現す力のある Kusala saṅkhāra には多くの Vīthi は離れたところにあります。それと同じように Saṅkhāra の原因で Vipāka viññāṇa などが現れる時にも Saṅkhāra と Vipāka viññāṇa などは前々の違う世にあります。

Vipāka viññāṇa が現れている時その Saṅkhāra は遠い前の過去世の場合もあります。結果の Dhamma が Uppāda（生）、Ṭhiti（住）、Bhaṅga（滅）として現れた時には原因の Dhamma はすでにありません。Avijjā、Saṅkhāra などの生住滅が無い時に Viññāṇa が現れてきます。しかし Avijjā、Saṅkhāra などは関係のある結果の Dhamma を現す Sabhāva satti が実際には Atthi bhāva ということです。この Sabhāva satti は Avijjā、Taṇhā、Upādāna が含まれている Kusala saṅkhāra dhamma などの Kamma satti（業効力）です。（これは人間のみのことです。） Sabhāva satti の力は Kamma を作る時、作り終わった時が重要であり生住滅して現れている時は重要ではありません。

Abhidhamma1-104 にも Kāmāvacara kusala kamma（欲界善業）を作った時、その原

因により Kusala vipāka cakkhuviññāṇa（善異熟眼識）が現れます、と書かれています。

<Vipāka について>

現世で作った Saṁsāra（輪廻）と過去世で作った Saṅkhāra dhamma があるからこそ、Cakkhuviññāṇa 、Sotaviññāṇa 、Ghānaviññāṇa 、Jivhāviññāṇa 、Kāyaviññāṇa 、Mano-viññāṇa など 6 種類の Vipāka viññāṇa が現れます。この Vipāka viññāṇa は Pañcaviññāṇa です。Viññāṇa には Vipāka viññāṇa と Vipāka manoviññāṇa と 2 種類あります。

Vipāka manoviññāṇa とは Paṭisandhi viññāṇa、Bhavaṅga viññāṇa、Cuti viññāṇa という Vīthi ではない Vīthimutta citta に含まれている Viññāṇa のことです。

Vipākaviññāṇa とは Vīthi citta に含まれている Viññāṇa のことです。

Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadārammaṇa などは Vipāka viññāṇa という Vīthi citta に含まれています。

Pañcaviññāṇa 、Sampaṭicchana 、Santīraṇa 、Ahetuka tadārammaṇa などは Kusala vipāka、Akusala vipāka として 2 種類ずつあります。Mahā vipāka tadārammaṇa は Kusala vipāka のみです。 これらは Cittaniyāma により Vīthi citta のプロセスに現れては滅していきます。

この Vīthi citta のプロセスで現れた原因と結果が繋がっていることをよく観ます。そして Vipassanā で洞察します。

このように Vīthi のプロセスで観ると Pañcadvārāvajjana 、Voṭṭhapana 、Manodvārāvajjana という Kiriya citta と Javana という Kusala citta、Akusala citta などの Vipāka viññāṇa citta が Vīthi citta 1 つの中に同じように現れる場合もあります。それらを Vipassanā の智慧で洞察する時は Vīthi citta に含まれている Paramattha dhamma をすべて残さずに修習しても罪にはなりません。

Saṅkhāra の原因の Dhamma として Viññāṇa を観る時はその Viññāṇa に含まれている原因と結果の繋がりを自分の智慧で良く観て修習してください。

Nāma 瞑想修習の時の Rūpārammaṇa line から Dammārammaṇa line の 6 つの Line の Vipāka viññāṇa と Saṅkhāra の原因と結果の繋がりを自分の智慧で良く観て修習してください。

Pañcaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadārammaṇa という Vipāka viññāṇa などは Paṭisandhi viññāṇa を現す Kamma の原因で現れることもあります。現れない場合もあります。このこともよく注意して修習してください。

1 つ 1 つの Line に含まれているすべての Kusala javana vīthi、Akusala javana vīthi に含まれている Vipāka viññāṇa を修習しなければなりません。

●Vīthimutta citta を観る実践修習

1） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Paṭisandhi viññāṇa が現れます。
Saṅkhāra 34 個が原因で Paṭisandhi viññāṇa は結果です。

2） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Bhavaṅga viññāṇa が現れます。
Saṅkhāra 34 個が原因で Bhavaṅga viññāṇa は結果です。
3） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Cuti viññāṇa が現れます。
Saṅkhāra 34 個が原因で Cuti viññāṇa は結果です。
このように修習して下さい。

●Cakkhuviññāṇa vīthi vipāka viññāṇa を観る実践修習

1） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Cakkhuviññāṇa が現れます。
Saṅkhāra 34 個が原因で Cakkhuviññāṇa は結果です。
2） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Sampaṭicchana viññāṇa が現れます。
Saṅkhāra 34 個が原因で Sampaṭicchana viññāṇa は結果です。
3） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Santīraṇa viññāṇa が現れます。
Saṅkhāra 34 個が原因で Santīraṇa viññāṇa は結果です。
4） Saṅkhāra 34 個が現れたことにより Tadārammaṇa viññāṇa が現れます。
Saṅkhāra 34 個が原因で Tadārammaṇa viññāṇa は結果です。

このように Tadārammaṇa を修習するときには Cakkhudvāra vīthi には 2 回、同じ Rūpārammaṇa を対象とする Manodvāra vīthi に 2 回ずつを観なければなりません。

Cakkhudvāra vīthi は Nāma 瞑想の表を参照にしてすべての Line に含まれているすべての Vipāka viññāṇa を修習してください。Kusala javana vīthi、Akusala javana vīthi などもすべて修習してください。

Saddārammaṇa line には Sotaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadāmmaṇa という Vipāka viññāṇa があります。

Gandhārammaṇa line には Ghānaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadāmmaṇa という Vipāka viññāṇa があります。

Rasārammaṇa line には Jivhāviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadāmmaṇa という Vipāka viññāṇa があります。

Phoṭṭhabbārammaṇa line には Kāyaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadāmmaṇa という Vipāka viññāṇa があります。

Dhammārammaṇa line には Tadārammaṇa vipāka viññāṇa があります。

原因と結果の繋がりを観る修習においてこれらをすべて修習しなければなりません。

Vipassanā の修習において Vipāka viññāṇa に含まれている Vīthi のプロセスの最初の Pañcadvāra vīthi の Pañcadvārāvajjana、Manodvāra vīthi の Manodvārāvajjana など、その中間にある Voṭṭhapana や Javana などそれぞれの Paramattha dhamma を修習してもかまいません。罪にはなりません。

つまり原因と結果の繋がりを観る修習では、例えば Pañcadvāra vīthi を観る場合には、Paccaya pariggaha ñāṇa で、Pañcadvārāvajjana Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadāmmaṇa

の原因と結果を観ればいい訳です。Vipassanā の智慧を得るための修習では Voṭṭhapana や Javana もすべて観て修習しなければなりません。

3. Viññāṇapaccayā nāmarūpaṃ

Viññāṇa（識）が現れたことにより Nāmarūpa（精神性物質性）が現れます。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā2-163,Visuddhimagga2-194〕

Nāmarūpa を現す Viññāṇa の原因は以下の 2 種類あります。

（1）Vipāka viññāṇa（異熟識）

（2）Avipāka viññāṇa（非異熟識）

Paṭisandhi 、Bhavaṅga 、Cuti 、Pañcaviññāṇa 、Sampaṭicchana 、Santīraṇa 、Tadārammaṇa、Viññāṇa は Vipāka viññāṇa です。

Kusala viññāṇa、Akusala viññāṇa、Kiriya viññāṇa は Avipāka viññāṇa です。Kusala viññāṇa、Akusala viññāṇa は新しい生を生むので Abhisaṅkhāra viññāṇa とも言います。Kamma viññāṇa とも言います。〔Abhidhamma Aṭṭhakatha 2-163, Visudd himagga2-195,Mahāṭīkā2-319〕

Vipāka viññāṇa、Avipāka viññāṇa は Kamma viññāṇa、Sahajata viññāṇa、Paccājāta viññāṇa とも言います。〔Mūla tīkā2-115〕

過去の Saṁsāra（輪廻）で作った Puññābhisaṅkhāra（福行）、Apuññābhisaṅkhāra（不福行）、Āneñjābhisaṅkhāra（不動行）という Kusala viññāṇa、Akusala viññāṇa は Kamma viññāṇa です。

Paṭisandhi から生きている間に現れた Cetasika nāma、Cittaja rūpa、などの Nāmarūpa と一緒に現れた Kusala viññāṇa、Akusala viññāṇa、Vipākaviññāṇa、Kiriya viññāṇa などは原因の Dhamma と結果の Dhamma の両方に現れるので Sahājata viññāṇa（俱生識）と言います。

Dvi pañcaviññāṇa に含まれる Cetasika nāma を現す Cittajarūpa、Pañcaviññāṇa は Cetasika という Nāma のみ現し Cittajarūpa を現せない Sahājata viññāṇa です。

前々の Citta と同時に現れた Rūpa dhamma の寿命が無くなるまで Paccājāta satti（縁力）で支える Viññāṇa は Pacajata viññāṇa と言います。

Kamma viññāṇa と Paccājāta viññāṇa の原因の Dhamma は同時に現れることはありません。それを Asahājata viññāṇa（非俱生識）と言います。

Kamma viññāṇa の修習は Saṅkhāra と繋がりがあるので Kamma viññāṇa の修習を先に説明します。

Kamma viññāṇa あるいは Abhisaṅkhāra viññāṇa について説明します。過去世で作った Saṅkhāra、Kamma と同時に現れた Kusala viññāṇa、Akusala viññāṇa は Kamma viññāṇa です。Saṅkhārapaccaya viññāṇa の原因の Saṅkhāra dhamma には 34 個の心と心所が含まれていますが Citta という viññāṇa も Kamma viññāṇa です。その Kamma

viññāṇa は Abhisaṅkhāra viññāṇa とも言います。

この修習においてはこの Kamma viññāṇa という Abhisaṅkhāra viññāṇa を主として修習することになります。

来世のことを思い作った現世の Saṅkhāra など Cittakkhaṇa 1 つの中に同時に現れた Kusala viññāṇa、Akusala viññāṇa なども Kamma viññāṇa という Abhisaṅkhāra viññāṇa です。

過去世の Kamma viññāṇa で現世の Paṭisandhi nāmarūpa という Vipāka nāmarūpa、Vipāka citta、Cetasika、Kammaja rūpa などが現れ、現世の Kamma viññāṇa の Jāti という Paṭisandhi に現れる Vipāka nāmarūpa あるいは Citta、Cetasika、Kammaja rūpa などが現れることの原因と結果を自分の Paccakkha ñāṇa（現見智）によりよく観なければなりません。それをさらに Vipassanā しなければなりません。

過去世の Kamma viññāṇa で現世の Nāmarūpa が現れることをよく観る修習をします。

<Nāmarūpa（精神性物質性）>

原因の Dhamma では Kamma viññāṇa のみ Viññāṇa といいます。しかし結果の中の Nāmarūpa の Nāma dhamma として現れた Cetasika nāma dhamma など、そこに含まれている Vipāka viññāṇa なども修習しなければなりません。

原因の Viññāṇa は過去世の Kamma viññāṇa ですから Vipāka viññāṇa は過去の Kamma viññāṇa により現れた、ということになります。

Rūpa dhamma は Kammaja rūpa を直接修習します。

Avinābhāva の方法で Kammaja rūpa を修習する時は Cittaja rūpa、Utuja rūpa、Āhāraja rūpa などすべて含めて Vipasanā 修習しても罪にはなりません。

原因と結果を観る修習の時には Kammaja rūpa と原因の Dhamma の繋がりのみを観ます。

以下は過去世の原因による現世の結果を観る実践修習の例です。

1） 過去世の Kamma viññāṇa が現れたことにより Paṭisandhi nāmarūpa が現れます。
　過去世の Kamma viññāṇa が原因で Paṭisandhi nāmarūpa は結果です。

2） 過去世の Kamma viññgāṇa が現れたことにより Bhavaṅga nāmarūpa が現れます。
　過去世の Kamma viññāṇa が原因で Bhavaṅga nāmarūpa は結果です。

3） 過去世の Kamma viññāṇa が現れたことにより Cuti nāmarūpa が現れます。
　過去世の Kamma viññāṇa が原因で Cuti nāmarūpa は結果です。

次に過去世の Cakkhudvāravīthi から Vipāka nāmarūpa が現れたことを観る修習です。

1） 過去世の Kamma viññāṇa が現れたことで Cakkhuviññāṇa nāmarūpa が現れます。
　過去世の Kamma viññāṇa が原因で Cakkhuviññāṇa nāmarū は結果です。

2） 過去世の Kamma viññāṇa が現れたことで Sampaṭicchana nāmarūpa が現れます。

過去世の Kamma viññāṇa が原因で Sampaṭicchana nāmarūpa は結果です。

3） 過去世の Kamma viññāṇa が現れたことで Santīraṇa nāmarūpa が現れます。
過去世の Kamma viññāṇa が原因で Santīraṇa nāmarūpa は結果です。

4） 過去世の Kamma viññāṇa が現れたことで Tadārammaṇa nāmarūpa が現れます。
過去世の Kamma viññāṇa が原因で Tadārammaṇa nāmarūpa は結果です。

Sotaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadārammaṇa、Vipāka nāmarūpa も Cakkhu-dvāravīthi の時と同じように観てください。

以上は原因と結果の繋がりを観る Paccaya pariggaha ñāṇa の修習ですが Vipassanā 修習の時はここに含まれていない Āvajjana、Voṭṭhapana、Javana なども一緒に観ても罪にはなりません。原因と結果の修習をする時は過去世の Kamma viññāṇa と現世の Vipāka nāma- rūpa の原因と結果の繋がりをよく観てください。Cakkhudvāra vīthi のみではなく六門のすべてを観てください。すべての Vipāka nāmarūpa を観る修習をしてください。

<Saṅkhāra（形成力）と Kamma bhava（業有））>

Paṭiccasamuppāda の第五法では Avijjā、Taṇhā、Upādāna に含まれている Nānākhaṇika kamma satti（異刹那業効力）という Kamma satti により Vipāka nāma dhamma や Kammaja rūpa が現れることを観る修習を説明しました。この第一法も同じことを観る修習です。ただし、Vipassanā をする時には Kamma satti を三相により Vipassanā することはできません。ですから Vipassanā をする時には Saṅkhāra と Kamma bhava という Kamma を直接 Vipassanā してください。Kamma を作る前には Āyūhana saṅkhāra（遂行形成力）という Purima cetanā（前思）、あるいは Pubba cetanā（先思）があります。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā2-182,183 に記載〕

例えば Dāna をする場合、その Dāna をする以前（一日前、一週間前、一か月前など）にその Dāna を実行するために、どこで袈裟を買おうか、どのような袈裟を買おうか、などと準備をすることを Purima cetanā（前思）、Pubba cetanā（先思）と言います。それを Āyūhana saṅkhāra と言います。そのように用意をした Dāna の品（袈裟など）を受ける人の手の中に渡したことを Patiṭṭhāpaka cetanā（令確立思）と言います。それを Kāma bhava と言います。それは Āyūhana saṅkhāra です。別の説明をすると、善いことや悪いことをすると Kusala javana vīthi や Akusala javana vīthi が多量に現れます。その Javana vīthi の中に Āvajjana 1 種類ずつ含まれてきます。その 7 回の Javana vīthi の前の 6 回の Javana に含まれている Cetanā は Saṅkhāra と言います。7 番目の Javana に含まれている Cetanā は Kamma bhava と言います。もう一つ別の説明は、すべての Javana に含まれているすべての Cittakkhaṇa にある Kusala cetanā、Akusala cetanā とそれと同時に現れたすべての心所を Saṅkhāra と言います。Kusala cetanā、Akusala cetanā を Kamma bhava と言います。Avijjā、Taṇhā、Upādāna などが率いて現れた Manodvāra

vīthi の Nāma dhamma や Saṅkhāra、kamma という Manodvāra vīthi の Nāma dhamma のすべての Cittakkhaṇa の Paramattha dhamma をよく観て Vipassanā しなければなりません。Saṅkhāra と Kamma bhava の両方を Vipassanā しなければなりません。Saṅkhāra と Kamma bhava を観て無常、苦、無我と三相で洞察する Vipassanā をすることができます。Nānākaṇika kamma satti（異刹那業効力）の場合は Vipassanā することはできません。この Kamma satti が現れる元の Saṅkhāra と Kamma bhava のみ Vipassanā することができるということです。そのように覚えておいてください。

<Sahajāta viññāṇa（俱生識）と Sahajāta nāmarūpa（俱生名色）>

1） Paṭisandhi viññāṇa が現れたことにより Paṭisandhi nāmarūpa が現れます。
Paṭisandhi viññāṇa が原因で Paṭisandhi nāmarūpa は結果です。
（この場合の Nāma は Paṭisandhi viññāṇa と同時に現れた 33 個の心所、
Rūpa とは Kammaja rūpa 30 個です。）

2） Bhavaṅga viññāṇa が現れたことにより Bhavaṅga nāmarūpa が現れます。
Bhavaṅga viññāṇa が原因で Bhavaṅga nāmarūpa は結果です。
（Nāma dhamma という Bhavaṅga viññāṇa と Cittakkhaṇa 1 つに同時に現れた心所です。Rūpa dhamma は Bhavaṅga viññāṇa が原因で現れた Cittaja rūpa を主として修習してください。しかし、Vipassanā する時はこの Cittaja rūpa と同時に現れた Kammaja rūpa、Utuja rūpa、Āhāraja rūpa も一緒に観て修習しても構いません。）

原因と結果の繋がりを観る修習をする時にはそれぞれの Viññāṇa で現れた Cittaja rūpa などの原因と結果の繋がりの要素を自分の智慧でよく観えるように修習しなければなりません。他の Vīthi citta の時も同じことです。Vipāka viññāṇa であれば Pañcaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadārammaṇa の Vipāka viññāṇa のことを指しています。

Sahajata viññāṇa とは Vipāka viññāṇa のみではなく Pañcadvārāvajjana、Voṭṭhapana、Javana、Manodvārāvajjana、Javana、さらに Kiriya viññāṇa、Javana viññāṇa なども Sahajata viññāṇa に含まれています。

Paṭiccasamuppāda の Aṅga の Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa,Vedanā などは Suttanta（経典）の方法では Vipāka dhamma である、と Mahā tīkā2-322,323 に書かれています。しかし Vipāka dhamma には Pañcaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa なども Pañcadvāra が無く Tadārammaṇa、Javana が現れる力はありません。Paramattha dhamma をすべて修習するなら Pañcadvārāvajjana、Voṭṭhapana、Javana、Manodvāra-vajjana、Javana なども含めて原因と結果の修習をしても構いません。それらが Vipāka vaṭṭa の中に含まれていないことを自分で理解していれば罪にはなりません。Cuti citta が Cittaja rūpa を現すか否か、それぞれの説があり論争になっています。

3） Cuti viññāṇa が現れたことにより Cuti nāma（+ Rūpa）が現れます。

Cuti viññāṇa が原因で Cuti nāma（+ Rūpa）は結果です。
（Cuti citta が原因で Cuti の Nāma は現れますが Cuti の Rūpa が現れるか否かについては修行者が自分でよく観なければなりません。）
Pañcadvārāvajjana viññāṇa が現れたことにより Pañcadvārāvajjana nāmarūpa が現れます。
Pañcadvārāvajjana viññāṇa が原因で Pañcadvārāvajjana nāmarūpa は結果です。

4） Cakkhuviññāṇa が現れたことにより Cakkhuviññāṇa nāma が現れます。
Cakkhuviññāṇa が原因で Cakkhuviññāṇa nāma は結果です。
（Cakkhuviññāṇa nāma とは心所 7 個のことです。）
もう 1 つの観方
Cakkhuviññāṇa が現れたことにより Cakkhuviññāṇa nāmarūpa が現れます。
Cakkhuviññāṇa が原因で Cakkhuviññāṇa nāmarūpa は結果です。
さらに Sotaviññāṇa、Ghānaviññāṇa、Givhaviññāṇa、Kāyaviññāṇa なども同じように修習してください。
Nāma は心所 7 個です。Rūpa については、Cakkhuviññāṇa という Pañcaviññāṇa などは Cittaja rūpa を現さないので Kammaja rūpa を観てください。Kammaja rūpa の Uppāda（生）の時に同時に現れた Kammaja rūpa、Utuja rūpa、Āhāraja rūpa や前々の Citta の Ṭhiti（住）の時に現れた Cittaja rūpa なども一緒に Vipassanā しても構いません。Sotaviññāṇa、Ghānaviññāṇa、Jivhaviññāṇa、Kāyaviññāṇa なども同じように修習してください。

5） Sampaṭicchana viññāṇa が現れたことにより Sampaṭicchana nāmarūpa が現れます。
Sampaṭicchana viññāṇa が原因で Sampaṭicchana nāmarūpa は結果です。
（Nāma は Sampaṭicchana citta に含まれる心所 10 個です。Rūpa は Sampaṭicchana cittaja rūpa です。Citta の生住滅の時に現れた Kammaja rūpa、Utuja rūpa、Āhāraja rūpa も Vipassanā する時は一緒に修習しても構いません。）
（以降 Santīraṇa の Vīthi citta の時も Nāma とは Citta に含まれる心所のことであると理解してください。）

6） Santīraṇa viññāṇa が現れたことにより Santīraṇa nāmarūpa が現れます。
Santīraṇa viññāṇa が原因で Santīraṇa nāmarūpa は結果です。
Voṭṭhapana viññāṇa が現れたことにより Voṭṭhapana nāmarūpa が現れます。
Voṭṭhapana viññāṇa が原因で Voṭṭhapana nāmarūpa は結果です。
Javana viññāṇa が現れたことにより Javana nāmarūpa が現れます。
Javana viññāṇa が原因で Javana nāmarūpa は結果で
（Voṭṭhapana と Javana については原因と結果の修習ではなく Vipassanā をします。）

7） Tadārammaṇa viññāṇa が現れたことにより Tadārammaṇa nāmarūpa が現れます。
Tadārammaṇa viññāṇa が原因で Tadārammaṇa nāmarūpa は結果です。

{Manodvārāvajjana viññāṇa が現れたことにより Manodvārāvajjana nāmarūpa が現れます。

Manodvārāvajjana viññāṇa が原因で Manodvārāvajjana nāmarūpa は結果です。

この修習は Vipassanā の時に一緒に修習しても構いません。}

Javana や Tadārammaṇa を観る時も同じであると理解してください。

Nāma 瞑想修習の時と同じようにすべての Cittakkhaṇa を修習しなければなりません。

なぜこのように修習しなければならないのでしょうか。Abhidhamma Aṭṭakathā2-163,Mūlaṭīkā2-115,Anuṭīkā2-128 などにはすべての Cittakkhaṇa を修習しなければなりません、と解説されているからなのです。

4. Nāmarūpapaccayā saḷāyatanaṃ

Nāmarūpa（精神性物質性）が現れたことにより Saḷāyatana（六処）が現れます。

Nāmarūpa が原因で Saḷāyatana は結果です。

【1】 Nāma が現れた原因により Manāyatana が現れます。

【2】 Nāma が現れた原因により Rūpāyatana が現れます。

【3】 Rūpa が現れた原因により Rūpāyatana が現れます。

【4】 Rūpa が現れた原因により Manāyatana が現れます。

【5】 Nāma と Rūpa が現れた原因により Manāyatana が現れます。

このように 5 つの方法で修習しなければなりません。

【1】 Nāma が現れた原因により Manāyatana が現れます。

この Nāma とは Manāyatana と一緒に現れた Cetasika nāma（心所）を言います。それは一緒に現れた Citta の Manāyatana を支えています。

1） Paṭisandhi nāma 33 個が現れたことにより Paṭisandhi manāyatana が現れます。

Paṭisandhi nāma 33 個が原因で Paṭisandhi manāyatana は結果です。

2） Bhavaṅga nāma dhamma 33 個が現れたことにより Bhavaṅga manāyatana が現れます。

Bhavaṅga nāma dhamma 33 個が原因で Bhavaṅga manāyatana は結果です。

3） Cuti nāma dhamma 33 個が現れたことにより Cuti manāyatana が現れます。

Cuti nāma dhamma 33 個が原因で Cuti manāyatana は結果です。

以上は Tihetuka、Soamanassa、Paṭisandhi、Bhavaṅga、Cuti などを参考としたものであると理解しておいてください。

{Pañcadvārāvajjana nāma dhamma 10 個が現れたことで Pañcadvārāvajjana manāyatana が現れます。

Pañcadvārāvajjana nāma dhamma 10 個が原因で Pañcadvārāvajjana manāyatana は結果です。{これは Vipassanā の時に修習してください。}

4）Cakkhuviññāṇa nāma dhamma 7 個が現れたことで Cakkhuviññāṇa manāyatana が現れます。

Cakkhuviññāṇa nāma dhamm 7 個が原因、Cakkhuviññāṇa manāyatana は結果です。

5）Sampaṭicchana nāma dhamma 10 個が現れたことで Sampaṭicchana manāyatana が現れます。

Sampaṭicchana nāma dhamma 10 個が原因、Sampaṭicchana manāyatana は結果。

6） Santīraṇa nāma dhamma 11 個が現れたことで Santīraṇa manāyatana が現れます。

Santīraṇa nāma dhamma 11 個が原因で Santīraṇa manāyatana は結果です。

{Voṭṭhapana nāma dhamma 11 個が現れたことで Voṭṭhapana manāyatana が現れます。

Voṭṭhapana nāma dhamma 11 個が原因で Voṭṭhapana manāyatana は結果です。}

Javan nāma dhamma～個が現れたことで Javana manāyatana が現れます。

Javana nāma dhamma～個が原因で Javana manāyatana は結果です。

（Javana の場合は Kusala か Akusala により数が変わります。）

7） Tadārammaṇa nāma dhamma～個が現れたことで Tadārammaṇa manāyatana が現れます。

Tadārammaṇa nāma dhamma～個が原因で Tadārammaṇa manāyatana は結果です。

（Tadārammaṇa の場合も Kusala か Akusala により数が変わります。）

{Manodvārāvajjana nāma dhamma 11 個が現れたことにより Manodvārāvajjana manāyatana が現れます。

Manodvārāvajjana nāma dhamma 11 個が原因で Manodvārāvajjana manāyatana は結果です。これは Vipassanā 修習の時に観てください。}

Santīraṇa、Javana、Tadārammaṇa などに含まれている心所は Nāma 瞑想の表に書かれた数の通りに修習してください。

Kusala javana の時は Kusala group、Akusala javana の時は Akusala group のすべてを修習してください。六門すべても修習してください。Pañcadvārāvajjana、Voṭṭhapana、Javana、Manodvāravajja などは Vipāka vaṭṭa に含まれていませんから原因と結果を観る修習の時はそれらを除いて修習しても構いません。しかし、Paramattha dhamma をすべて観て修習したいのであればそれらも一緒に観ても構いません。それらが Vipāka vaṭṭa に含まれていないことを理解していればよい訳です。Sotadvāra vīthi なども同じように修習してください。五蘊のある Pañcavokārabhūmi（五蘊地）では Hadayavatthu を頼って心所、Manāyatana などの Nāma dhamma が現れることをよく理解してください。

【2】 Nāma が現れたことにより Rūpāyatana が現れます。

過去過去で現れた Arūpa vipāka 4 個以外に Citta 85 個、Cetasika 52 個の Nāma dhamma は前の Cittakkhaṇa に現れた Catusamuṭṭānika rūpakāya を Paccājāta satti

（再生効力）で支えています。〔Paṭṭhāna1-7 に記載〕

つまり Citta や Cetasika など Nāma dhamma は Rūpāyatana を支えている時には Rūpa dhamma が先に現れて原因の Nāma dhamma は後から現れたことを理解しなければなりません。それを Paccājāta satti と言います。このように結果の Rūpa dhamma は Paṭisandhi 以外おおよそ前々の Cittakkhaṇa と同時に現れます。原因の Nāma dhamma は後々の Cittakkhaṇa と同時に現れます。このことを省略して説明します。

1） Paṭisandhi nāmakkhandha と同時に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla（住の時）にある Kammaja rūpa という Ekajakaya あるいは Kammaja rūpa、Utuja rūpa という Dvija-kāya を Paṭhama bhavaṅga nāmakkhandha は Paccājāta paccaya satti（再生縁効力）で支えています。

2） Paṭhama bhavaṅga という前々の Bhavaṅga nāmakkhanda と同時に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla にある Kammaja rūpa、Cittaja rūpa、Utuja rūpa という Tijakāya を Dutiya bhavaṅga という後々から現れた Nāmakkhanda が Paccājāta paccaya satti で支えています。（Ekajakāya、Dvijakāya、Tijakāya とは Rūpa が1種類、2 種類、3 種類という意味です。）

3） Āhāraja rūpa が Uppāda kāla（生の時）に Citta と同時に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla（住の時）に Kammaja rūpa、Cittaja rūpa、Utuja rūpa、Āhāraja rūpa という 4 種類の Catujakāya を後々から現れた Citta と Cetasika の Nāmakkhandha が Paccājāta paccaya satti で支えています。

4） Kāmavacara sattva（欲界有情）は Paṭisandhi の後 15 個目の Bhavaṅga citta と同時に現れた Rūpa の Ṭhitikāla の時に Kammaja rūpa、Cittaja rūpa、Utuja rūpa、Āhāraja rūpa という Catujakāya を後々から現れた Āvajjana nāmakkhandha が Paccājāta paccaya satti で支えています。

Rūpavacara sattva（色界有情）は Kammaja、Cittaja、Utuja という Tijakāya を後々から現れた Āvajjana nāmakkhandha が Paccājāta paccaya satti で支えています。

5） Pañcadvārāvajjana と同時に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla の時に現れた（Tijakāya）Catujakāya などを後々から現れた Pañcaviññāṇa nāmakkhandha が Paccājāta paccaya satti で支えています。

6） Pañcaviññāṇa と同時に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla の時に｛Rūpavacara bhūmi（色界地）にある Kammaja rūpa、Utuja rūpa という Dvija kaya｝、Kāmavacara bhūmi（欲界地）にある Kammaja rūpa、Utuja rūpa、Āhāraja rūpa という Tijakāya などを後々の Sampaṭicchana nāmakkhandha が Paccājāta paccaya satti で支えています。

7） Sampaṭicchana nāmakkhandha と同時に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla の時に｛Rūpavacara bhūmi にある Kammaja rūpa、Cittaja rūpa、Utuja rūpa という Tijakāya｝、 Kāmavacara bhūmi にある Kammaja rūpa、Cittaja rūpa、Utuja rūpa、

Āhāraja rūpa という Catujakāya を後々の Santīraṇa nāmakkhandha が Paccājāta paccaya satti で支えています。

このように前々の Citta に現れた Catuja rūpa、Tija rūpa などを後々から現れた Citta と Cetasika という Nāmakkhandha が Pacajata paccaya satti で支えているということです。

<Upatthambhaka（支持）の意味>

Visuddhimagga2-169 には次のような説明があります。

ハゲワシの雛は親鳥が巣から離れた時、「親鳥は自分のために餌を持って帰ってくれるだろう。」という願望で巣の中で待っています。その雛鳥の願望のことを Āsātanhā chanda（願望愛欲）と言います。その Chanda と一緒に現れた Cetanā は Manosañcetanāhāra（意思食）です。この Manosañcetanāhāra は雛鳥の身体を支えています。Āhārasacetanā（食思）は先に出来ている身体を後から支えています。つまり Āhārasacetanā はそれ自体が現れる前に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla（住）の時に現れたすべての Catu samuṭṭhānika rūpa（四等起色）を Paccājāta paccaya satti（再生縁効力）により支えているからこそ雛鳥の身体は生存しているのです。

このハゲワシのように Kāmavacara sattva（欲界有情）、Rūpavacara sattva（色界有情）の原因の Dhamma になる Cittakkhaṇa nāma dhamma から見ると前々の Cittakkhaṇa と同時に現れた Rūpa の Ṭhiti kāla（住の時）の Catu samutthānika rūpakāya（四等起色身）あるいは Ti samutthānika rūpakāya（三等起色身）を後々の Cittakkhaṇa nāma dhamma がその Rūpa の Bhaṅga kāla（滅の時）まで Upatthambhaka satti（支持効力）で支えています。その Upatthambhaka satti で支えている Nāma dhamma を Paccājāta paccaya dhamma（再生縁法）と言います。

簡潔に言えば Paccājāta satti で支えているということは前々の Nāma dhamma に現れた Rūpa を後々から現れた Nāma dhamma が支えているということです。

Nāma の原因により Rūpāyatana が現れた、とは原因の Dhamma になる後々の Cittakkhaṇa に関係のある Citta と Cetasia の両方を言います。結果の Dhamma にある Rūpāyatana は前々の Cittakkhaṇa と同時に現れた Uppāda kāla（生の時）に現れて、後々に現れた Cittakkhaṇa の Ṭhiti kāla（住の時）の Cakkhāyatana（眼処）、Sotāyatana（耳処）、Ghānāyatana（鼻処）、Jivhāyatana（舌処）、Kāyāyatana（身処）などを言います。
その Rūpāyatana 5 種類はすべての Cittakkhaṇa の Uppāda kāla（生の時）から Ṭhiti kāla（住の時）、Bhaṅga kāla（滅の時）まで Kamma の力がある限り支えています。

実践修習では 2 種類の方法を説明します。1 つは Āyatana（処）をまとめて修習する方法です。もう 1 つは Āyatana を分けて修習する方法です。

●Rūpāyatana（処）を分けて修習する実践方法

1） Bhavaṅgacalana nāma dhamma（有分動揺名法）が現れたことにより Cakkhāyatana（眼処）が現れます。

Bhavaṅgacalana nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。

{Atīta bhavaṅga（過去の有分）と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

Cakkhāyatana は結果の Rūpa です。Bhavaṅgacalana の前に Atīta bhavaṅga という Citta があります。この Atīta bhavaṅga と同時に現れた Cakkhāyatana を後から現れた Bhavaṅgacalana nāma dhamma が支えているということです。つまり Rūpa dhamma が先に現れて支える Nāma dhamma は後から現れるということです。それを Paccājāta satti と言います。

2） Bhavaṅgupaccheda nāma dhamma（有分断壊）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Bhavaṅgupaccheda nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。

{Bhavaṅgacalana と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

3） Pañcadvārāvajjana nāma dhamma（五門引転心名法）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Pañcadvārāvajjana nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。

{Bhavaṅgupaccheda と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

4） Cakkhuviññāṇa nāma dhamma（眼識名法）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Cakkhuviññāṇa nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。

{ Pañcadvārāvajjana と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

Sotāviññāṇa、ghānaviññāṇa なども同じであると理解しておいてください。

5） Sampaṭicchana nāma dhamma（受領心名法）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Sampaṭicchana nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。

{ Cakkhuviññāṇa（Pañcaviññāṇa）と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

6） Santīraṇa nāma dhamma（推度心名法）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Santīraṇa nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。

{Sampaṭicchana と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

7） Voṭṭhapana nāma dhamma（確定心名法）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Voṭṭhapana nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。

{Santīraṇa と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

8） Paṭhama javana nāma dhamma（第一速行心名法）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Paṭhama javana nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。
{Voṭṭhapana と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

9） Dutiya javana nāma dhamma（第二速行心名法）が現れたことにより Cakkhāyatana が現れます。

Dutiya javana nāma dhamma が原因で Cakkhāyatana は結果です。
{ Paṭhama javana と同時に現れた Cakkhāyatana です。}

以上のように前々の Cittakkhaṇa と同時に現れた Cakkhāyatana を後々から現れた Nāma dhamma が支えていることを理解してください。第二巻 Nāma 瞑想修習の表にあるように Cakkhudvāra vīthi など 6 種類すべての Vīthi に含まれている Cittakhaṇa を頼って現れていることを観て修習してください。Sotāyatana なども同じように修習してください。

●Rūpāyatana（処）5 種類をまとめて修習する実践方法

1） Bhavaṅgacalana nāma dhamma が現れたことにより Rūpāyatana5 種類が現れます。

Bhavaṅgacalana nāma dhamma が原因で Rūpāyatana5 種類は結果です。
{Atīta bhavaṅga と同時に現れた Cakkhāyatana、Sotāyatana、Ghānāyatana、Jivhā-yatana、Kāyāyatana です。}

2） Bhavaṅgupaccheda nama dhamma が現れたことにより Rūpāyatana5 種類が現れます。

Bhavaṅgupaccheda nama dhamma が原因で Rūpāyatana 5 種類は結果です。
{Bhavaṅgacalana と同時に現れた Rūpāyatana 5 種類です。}

3） Pañcadvāra nāma dhamma が現れたことにより Rūpāyatana 5 種類が現れます。

Pañcadvāra nāma dhamma が原因で Rūpāyatana 5 種類は結果です。
{ Bhavaṅgupaccheda と同時に現れた Rūpāyatana 5 種類です。}

4） Cakkhuviññāṇa nāma dhamma が現れたことにより Rūpāyatana 5 種類が現れます。

Cakkhuviññāṇa nāma dhamma が原因で Rūpāyatana 5 種類は結果です。
{Pañcadvārāvajjana と同時に現れた Rūpāyatana です。}

このように前々の Cittakkhaṇa と同時に現れた Rūpāyatana5 種類を後々から現れた心と心所という Nāma dhamma が Paccājāta satti で支えていることを理解してください。六門すべてにある Cittakkhaṇa もすべてこのように修習してください。

【3】 Rūpa が現れた原因により Rūpāyatana が現れます。

Nāmarūpa paccaya に含まれている Rūpa dhamma が Saḷāyatana に含まれている Rūpāyatana を支えています。

●実践修習

1-1） Cakkhu dasaka kalāpa（眼十法聚）に含まれる同じ Kalāpa の Mahābhūta（大種）4 種類が現れたことにより同じ Kalāpa の Cakkhāyatana が現れます。

同じ Kalāpa の Mahābhūta 4 種類が原因で同じ Kalāpa の Cakkhāyatana は結果

です。

1-2） 同じ Kalāpa の Jīvita（命根）が現れたことにより同じ Kalāpa の Cakkhāyatana が現れます。

同じ Kalāpa の Jīvita が原因で同じ Kalāpa の Cakkhāyatana は結果です。

1-3） 同じ Kalāpa の Ojā（食素）が現れたことにより同じ Kalāpa の Cakkhāyatana が現れます。

同じ Kalāpa の Ojā が原因で同じ Kalāpa の Cakkhāyatana は結果です。

同じように Sotāyatana、Ghānāyatana、Jivhāyatana、Kāyāyatana もそれぞれの関係のある Kalāpa の支えによりそれぞれの Āyatana が現れることを観て修習してください。このように同じ Kalāpa にある Rūpāyatana を同じ Kalāpa にある Mahābhūta が支えているのは Upatthambhaka satti（支持効力）により支えているのです。

同じ Kalāpa にある Rūpāyatana を同じ Kalāpa にある Jīvhita が生き続けるように守っているということは Anupālaka Satti（保護効力）で支えています。

同じ Kalāpa にある Rūpāyatana を同じ Kalāpa にある Ojā が支えているのは Upatthambhaka satti で支えています。Ojā の場合は他の原因も必要です。Pācaka tejo（消化液）、Āhāraja ojā（食生食素）などもあることにより支えられています。Rūpa 瞑想修習で説明しましたが、Kabaliṅkāra āhāra（摂取した食事）に含まれている Utujaojaṭṭhamaka rūpa kalāpa（食素八法色聚）の中の Pācaka tejo（消化液）、Āhāraja ojā（食生食素）などの支えにより新しい Ojaṭṭhamaka rūpakalāpa を現すということです。その Rūpa dhamma は Ojā により現れた Āhāraja rūpa です。その Āhāraja rūpa に含まれている Āhāraja ojā は Pācaka tejo の支えによりさらに Kammaja ojā、Cittaja ojā、Utuja ojā など違う Kalāpa の Āhāraja ojā などを生んでいます。これらの支えにより Cakkhāyatana という Rūpāyatana が健康になるということです。Cakkhu dasaka kalāpa の Kammajarūpa kalāpa にも Ojā があることをよく観てください。Rūpa 瞑想の修習を参照して他の Sotāyatana などもすべて修習して原因と結果の繋がりがよく観えるようにしてください。

【4】 Rūpa が現れた原因により Manāyatana が現れます。

私たち人間を含む五蘊のある生き物の地の Pañcavokāra bhūmi（五蘊地）では頼る Vatthu（基）があれば Nāma dhamma が現れます。Vatthu が無ければ Nāma dhamma は現れません。それらのことを自分の智慧で良く観えるように復習をしなければなりません。Manāyatana には Citta という Viññāṅa と同時に現れた心所も含まれています。その Manāyatana は頼る Vatthu があり現れました。ですから Manāyatana の修習では同時に現れた心所を修習しても罪にはなりません。Pañcaviññāṇa は Cakkhu vatthu などそれぞれの Vatthu rūpa を頼って現れた Mnāyatana です。

Paṭisandhi citta という Manāyatana は同時に現れた Hadayavatthu を頼って現れます。Cuti citta という Manāyatana は Cuti citta から前の 17 回目の Citta の時に同時

に現れた Hadayavatthu を頼って現れます。通常は後々の Bhavaṅga citta は前々の Citta と同時に現れた Hadayavatthu を頼って現れます。Pañcaviññāṅa 以外の Manoviññāṇa dhātu という Manāyatana は前の Cittakkhaṇa と同時に現れた Hadayavatthu を頼って現れます。ですから Vipassanā 修習の時には Avinābhāva の方法により Cakkhu vatthu、Hadayavatthu など頼る Vatthu rūpa と同時に現れた Catuja rūpa 63 種類（54 種類）すべてを含めて修習しても構いません。

●実践修習

1） Paṭisandhi の頼る Hadayavatthu が現れたことにより Paṭisandhi manāyatana が現れます。

Paṭisandhi の頼る Hadayavatthu が原因で Paṭisandhi manāyatana は結果です。

2） Bhavaṅga の頼る Hadayavatthu が現れたことにより Bhavaṅga manāyatana が現れます。

Bhavaṅga の頼る Hadayavatthu が原因で Bhavaṅga manāyatana は結果です。

{前々の Cittakkhaṇa に同時に現れた Hadayavatthu です。}

3） Cuti の頼る Hadayavatthu が現れたことにより Cuti manāyatana が現れます。

Cuti の頼る Hadayavatthu が原因で Cuti manāyatana は結果です。

{Cuti citta から前の 17 回目に現れた Hadayavatthu です。}

4） Hadayavatthu が現れたことにより Pañcadvāra manāyatana が現れます。

Hadayavatthu が原因で Pañcadvāra manāyatana は結果です。

{Bhavaṅgupaccheda と同時に現れた Hadayavatthu です。}

5） Cakkhuvatthu が現れたことにより Cakkhuviññāṇa manāyatana が現れます。

Cakkhuvatthu が原因で Cakkhuviññāṇa manāyatana は結果です。

{Atīta bhavaṅga と同時に現れた Majjimayuka です。}

6） Hadayavatthu が現れたことにより Sampaṭicchana manāyatana が現れます。

Hadayavatthu が原因で Sampaṭicchana manāyatana は結果です。

{Cakkhuviññāṇa（Pañcaviññāṇa）と同時に現れた Hadayavatthu です。}

7） Hadayavatthu が現れたことにより Santīraṇa manāyatana が現れます。

Hadayavatthu が原因で Santīraṇa manāyatana は結果です。

{Sampaṭicchana と同時に現れた Hadayavatthu です。}

8） Hadayavatthu rūpa が現れたことにより Voṭṭhapana manāyatana が現れます。

Hadayavatthu rūpa が原因で Voṭṭhapana manāyatana は結果です。

{ Santīraṇa と同時に現れた Hadayavatthu です。}

9） Hadayavatthu rūpa が現れたことにより Paṭhamajavana manāyatana が現れます。

Hadayavatthu rūpa が原因で Paṭhamajavana manāyatana は結果です。

{ Voṭṭhapana と同時に現れた Hadayavatthu です。}

10） Hadayavatthu rūpa が現れたことにより Dutiyajavana manāyatana が現れます。

Hadayavatthu rūpa が原因で Dutiyajavana manāyatana は結果です。
{ Paṭhamajavana と同時に現れた Hadayavatthu です。}

11） Hadayavatthu rūpa が現れたことにより Paṭhamatadārammaṇa manāyatana が現れます。
Hadayavatthu rūpa が原因で Paṭhamatadārammaṇa manāyatana は結果です。
{Sattamajavana と同時に現れた Hadayavatthu です。}

12） Hadayavatthu rūpa が現れたことにより Dutiyatadārammaṇa manāyatana が現れます。
Hadayavatthu rūpa が原因で Dutiyatadārammaṇa manāyatana は結果です。
{ Paṭhamatadārammaṇa と同時に現れた Hadayavatthu です。}

13） Hadayavatthu rūpa が現れたことにより Manodvārāvajjana manāyatana が現れます。
Hadayavatthu rūpa が原因で Manodvārāvajjana manāyatana は結果です。
{前の Bhavaṅga あるいは Bhavaṅgupaccheda と同時に現れた Hadayavatthu です。}

このようにすべての六門にある Vīthi に含まれている Cittakkhaṇa を修習してください。一つ一つの門には Kusala javana vīthi（善速行心路）もあれば Akusala javana vīthi（不善速行心路）もあります。それらのすべてを修習してください。

【5】 Nāma と Rūpa が現れた原因により Manāyatana が現れます。

この Nāma は心と同時に現れたすべての心所に関連しています。Rūpa は前々の Cittakkhaṇa の時に現れた Rūpa dhamma を主としています。頼る Vatthu rūpa は Āyatana 1 つではなく 63 種類あるいは 54 種類のすべての Rūpa が含まれています。それらをすべて観る修習をしてください。Nāmarūpa はそれぞれの Citta つまり Manāyatana を支えていることを自分の智慧で良く観えるように修習してください。

このような原因の Cetasika dhamma や結果の Manāyatana は Cittakkhaṇa 1 つの中に同時に現れた sampayutta dhamma です。頼る Vatthu rūpa はおよそ上記の説明通り結果の Manāyatana が現れる前に先に現れている Purejāta dhamma（前生法）です。Paṭisandhi の時には Sahajāta dhamma（俱生法）になります。

●実践修習

1） Paṭisandhi nāmarūpa が現れたことにより Paṭisandhi manāyatana が現れます。
Paṭisandhi nāmarūpa が原因で Paṭisandhi manāyatana は結果です。

2） Bhavaṅga nāmarūpa が現れたことにより Bhavaṅga manāyatana が現れます。
Bhavaṅga nāmarūpa が原因で Bhavaṅga manāyatana は結果です。
{Cuti も同じです。}

3） Pañcadvārāvajjana nāmarūpa が現れたことにより Pañcadvārāvajjana manāyatana が

現れます。

Pañcadvārāvajjana nāmarūpa が原因で Pañcadvārāvajjana manāyatana は結果です。

4） Cakkhuviññāṇa nāmarūpa が現れたことにより Cakkhuviññāṇa manāyatana が現れます。

Cakkhuviññāṇa nāmarūpa が原因で Cakkhuviññāṇa manāyatana は結果です。

5） Sampaṭicchana nāmarūpa が現れたことにより Sampaṭicchana manāyatana が現れます。

Sampaṭicchana nāmarūpa が原因で Sampaṭicchana manāyatana は結果です。

6） Santīraṇa nāmarūpa が現れたことにより Santīraṇa manāyatana が現れます。

Santīraṇa nāmarūpa が原因で Santīraṇa manāyatana は結果です。

7） Voṭṭhapana nāmarūpa が現れたことにより Voṭṭhapana manāyatana が現れます。

Voṭṭhapana nāmarūpa が原因で Voṭṭhapana manāyatana は結果です。

8） Paṭhamajavana nāmarūpa が現れたことにより Paṭhamajavana manāyatana が現れます。

Paṭhamajavana nāmarūpa が原因で Paṭhamajavana manāyatana は結果です。

残りの Dutiya javana、Tatiyajavana なども同じように修習してください。

9） Paṭhamatadārammaṇa nāmarūpa が現れたことにより Paṭhamatadārammaṇa manāyatana が現れます。

Paṭhamatadārammaṇa nāmarūpa が原因で Paṭhamatadārammaṇa manāyatana は結果です。

Dutiyatadārammaṇa も同じように修習してください。

10） Manodvārāvajjana nāmarūpa が現れたことにより Manodvārāvajjana manāyatana が現れます。

Manodvārāvajjana nāmarūpa が原因で Manodvārāvajjana manāyatana は結果です。

同じように Rūpārammaṇa を対象として Cakkhudvāra vīthi や Manodvāra vīthi も現れます。第二巻 Nāma 瞑想修習の表を参照してすべての Cittakkhaṇa を観て修習してください。Saddārammaṇa を対象とした Sotadvāra vīthi や残りの六門の Vīthi に含まれている Kusala javana vīthi、Akusala javana vīthi のすべてを観て修習してください。なぜならば Paramattha dhamma をすべて理解しなければならないからです。

5. **Saḷāyatanapaccyā phasso**

Saḷāyatana（六処）の原因により Phassa（触）が現れます。

Phassa とは Cakkhusamphassa（眼触）、Sotasamphassa（耳触）、Ghānāsamphassa（鼻触）、Jivhāsamphassa（舌触）、Kāyasamphassa（身触）、Manosamphassa（意触）の 6 種類あり

ます。

Paṭisandhi、Bhavaṅga、Cuti などと同時に現れた Phassa、さらに Pañcadvārāvajjana、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Voṭṭhapana、Javana、Tadārammaṇa、Manodvārāvajjana などと同時に現れた Phassa、そのすべての Phassa は Manosamphassa です。

Abhidhamma Aṭṭhakathā2-168,Visuddhimagga2-199 では次のように説明されています。

Paṭiccasamuppāda suttantabhājanīyaṃ desanā（縁起経分別説示）は Avijjā、Taṇhā、Upādāna に囲まれた過去の Kamma の原因で結果の Vipāka vaṭṭa が現れることをよく理解するようにと書かれた Upādiṇṇaka pavattikathā desanā（己取転起の説示）です。

つまり Rūpanāma の Santati（相続）に含まれているすべての原因と結果の Dhamma を修習しなければならないということです。

Abhidhamma vibhaṅgapāḷi（論蔵分別論）2-145,187 では Chaḷāyatanapaccaya phasso（第 6 番目の Āyatana の原因で Phassa が現れる）と書かれています。

つまり 6 番目の Āyatana は Manāyatana です。その Āyatana により現れた Phassa を Manosamphassa と言います。この Pāḷi の意味は Arūpa bhūmi（無色界）では Manāyatana の原因で現れる Phassa は Manosamphassa である、という意味です。Pañcavokāra bhūmi（五蘊地）の Saḷāyatana と Arūpa bhūmi（無色界）の Chalāyatana は同じことであると理解してください。ですから Arūpa bhūmi の 6 番目の Manāyatana の原因で Manosamphassa が現れたことを説明するために Chaḷāyatanapaccaya phasso と書かれているのです。五蘊のある人間界では 6 つの Āyatana があるので Saḷāyatana と言います。Arūpa bhūmi の Chalāyatana と同じことであると理解してください。

ここでは人間界のことを話しているので Saḷāyatana についての説明を続けます。Saḷāyatana とは Cakkhāyatana（眼処）、Sotāyatana（耳処）、Ghānāyatana（鼻処）、Jivhāyatana（舌処）、Kāyāyatana（身処）、Manāyatana（意処）という Ajjhatikāyāyatana（内身処）6 種類です。さらに Rūpāyatana（色処）、Saddāyatana（声処）、Gandhāyatana（香処）、Rasāyatana（味処）、Phoṭṭhabbāyatana（触処）、Dhammāyatana（法処）という Bāhirāyatana（外処）が 6 種類あります。これらを合わせて Āyatana は 12 種類あります。

この 12 種類を Saḷāyatana と理解してください。

この内と外にある十二処は心と心所を広げる道具になると理解してください。

例えば、Cakkhupasāda dhatu（眼浄要素）と Rūpārammaṇa（色所縁）が会った時にその Rūpārammaṇa が好ましい Iṭṭhārammaṇa であれば喜んで欲しい、という心と心所が現れます。好ましくない Aniṭṭhārammaṇa であれば欲しくないなどと怒りなどの心と心所が拡大して現れます。Cakkhāyatana と Rūpāyatana などは Cakkhudvāra vīthi や Manodvāra vīthi という心と心所をこのように拡大する道具になりうると理解してください。

Dhammāyatana には心所が 52 種類と Sukhuma rūpa（微細色）16 種類が含まれています。それぞれ関係のある Citta と Cetasika も Dhammāyatana です。Sukhuma rūpa に

は Hadayavatthu が含まれています。ですから Hadayavatthu も Dhammāyatana と言います。

Citta（心）と Cetasika（心所）、特に Phassa と同時に現れた Cetasika を Sampayutta dhammāyatana（相応法処）と言います。

Citta という Viññāṅa のことを Manāyatana と言います。

●Paṭisandhi manosamphassa（結生意触）を観る実践修習

1） Hadayavatthu という Dhammāyatana が現れたことにより Paṭisandhi manosamphassa が現れます。

Hadayavatthu、Dhammāyatana が原因で Paṭisandhi manosamphassa は結果です。

2） {Kamma（業）、Kamma nimitta（業相）、Gati nimitta（趣相）のいずれか 1 種類}の Bahiddhāyatana（外処）が現れたことにより Paṭisandhi manosamphassa が現れます。

Bahiddhāyatana が原因で Paṭisandhi manosamphassa は結果です。

3） Paṭisandhi viññāṅa という Manāyatana が現れたことにより Paṭisandhi manosamphassa が現れます。

Paṭisandhi viññāṅa、Manāyatana が原因で Paṭisandhi manosamphassa は結果です。

4） Sampayutta dhammāyatana 32 個が現れたことにより Paṭisandhi manosamphassa が現れます。

Sampayutta dhammāyatana 32 個が原因で Paṭisandhi manosamphassa は結果です。

Paṭisandhi manosamphassa も Nāma dhamma です。Nāma dhamma の場合は頼る Vatthu があるからこそ現れます（Pañcavokāra bhūmi の場合）。

Phassa は Ārammaṇa という対象に接触する要素です。Ārammaṇa という対象が無ければ Phassa は現れません。

Paṭisandhi nāma dhamma の対象は Kamma、Kamma nimitta、Gati nimitt 3 種類の内のいずれか1つです。その 1 つは Ārammaṇa 6 種類のいずれかになります。

もし Kammārammaṇa であれば人間の場合は Kusala cetanā になります。その Kusala cetanā は Dhammāyatana ということです。その Dhammāyatana を実践修習する時は上記の 2 番目の実践をする時は Kamma を観るということです。つまり Kammārammaṇa という Dhammāyatana が現れたことにより Paṭisandhimanosamphassa が現れたことを観て Kammārammaṇa という Dhammāyatana が原因で Paṭisandhi manosamphassa は結果である、と修習します。

<Sampayutta dhammāyatana（相応法処）>

Tihetuka（三因者）であれば Paṭisandhi viññāṇa と同時に現れた Cetasika は 33 個です。Phassa もこの中に含まれます。ですから Paṭisandhi manosamphassa と言います。Paṭisandhi viññāṇa は Manāyatana です。この 33 個の Cetasika から結果の Phassa を除

くと 32 個の Cetasika です。それらの心所すべては Dhammāyatana に含まれます。その Dhammāyatana を Sampayutta dhammāyatana と言います。Bhavaṅga manosamphassa、Cuti manosamphassa を観る修習の時も同じであると理解して修習してください。

●Pañcadvārāvajjana manosamphassa を観る実践修習

1） Hadayavatthu という Dhammāyatana が現れたことにより Pañcadvārāvajjana manosamphassa が現れます。
Hadayavatthu、Dhammāyatana が原因で Pañcadvārāvajjana manosamphassa は結果です。

2） Rūpāyatana という Rūpārammaṇa が現れたことにより Pañcadvārāvajjana manosamphassa が現れます。
Rūpāyatana、Rūpārammaṇa が原因で Pañcadvārāvajjana manosamphassa は結果です。

3） Pañcadvārāvajjana manāyatana が現れたことにより Pañcadvārāvajjana manosamphassa が現れます。
Pañcadvārāvajjana manāyatana が原因で Pañcadvārāvajjana manosamphassa は結果です。

4） Sampayutta dhammāyatana 9 個が現れたことにより Pañcadvārāvajjana manosamphassa が現れます。
Sampayutta dhammāyatana 9 個が原因で Pañcadvārāvajjana manosamphassa は結果です。

次に省略した形で書きます。上記を参考にして修習してください。

●Pañcadvārāvajjana manosamphassa（Rūpārammaṇa line）の実践　省略した説明

1） Hadayavatthu = Dhammāyatana・・・
2） Rūpāyatana （= Rūpārammaṇa）・・・
3） Pañcadvārāvajjana manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 9 個）・・・

●Cakkhusamphassa = Cakkhuviññāṇa と同時に現れた Phassa

1） Cakāyatana = （Cakkhu vatthu）・・・
2） Rūpāyatana （= Rūpārammaṇa）・・・
3） Cakkhuviññā manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 6 個）・・・

●Sampaṭicchana manosamphassa（Rūpārammaṇa line）

1） Hadayavatthu = Dhammāyatana・・・
2） Rūpāyatana・・・

3） Sampaṭicchana manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 9 個）・・・

●manosamphassa（Rūpārammaṇa line）
1） Hadayavatthu = Dhammāyatana・・・
2） Rūpāyatana・・・
3） Santīraṇa manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 9/10 個）・・・

●Voṭṭhapana manosamphassa（Rūpārammaṇa line）
1） Hadayavatthu = Dhammāyatana・・・
2） Rūpāyatana・・・
3） Voṭṭhapana manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 10 個）・・・

●Paṭhamajavana manosamphassa（Rūpārammaṇa line/Kusala javana）
1） Hadayavatthu = Dhammāyatana・・・
2） Rūpāyatana・・・
3） Paṭhamajavana manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 32 個）・・・
Dutiyajavana（第二）から Sattamajavana（第七）まですべて修習してください。さらに残りの Kusalajavana vīthi、Akusalajavana vīthi も修習しください。

●Paṭhamatadārammaṇa manosamphassa（Rūpārammaṇa line）
1） Hadayavatthu = Dhammāyatana・・・
2） Rūpāyatana・・・
3） Tadārammaṇa manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 32 個）・・・
残りの Mahāvipāka tadārammaṇa、Ahetuka kusala vipāka tadārammaṇa、Akusala vipāka tadārammaṇa それぞれ落ちることにより修習してください。Sampayutta dhammāyatana の心所の数は変わります。
●Manodvārāvajjana manosamphassa（Rūpārammaṇa line）
1） Hadayavatthu = Dhammāyatana・・・
2） Rūpāyatana・・・
3） Manodvārāvajjana manāyatana・・・
4） Sampayutta dhammāyatana（= 10 個）・・・

このように表を基に Nāma 瞑想の修習と同じようにすべてを修習してください。

Kusala javana vīthi、Akusala javana vīthi すべてを修習してください。そのように修習する時には Santīraṇa、Javana、Tadārammaṇa の Citta も含まれています。すべての Sampayutta dhammāyatana の Phassa を除いたすべての心と心所を取ってください。Saddhārammaṇa を対象とする時には Rūpāyatana のところは Saddāyatana に置き換えて修習してください。

Pañcadvārāvajjana、Manodvārāvajjana という Āvajjana と Voṭṭhapana、Javana などは Vipāka vaṭṭa には含まれていません。しかし Paramattha dhamma をすべて残さずに修習するということです。Pañcaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa という Pañcadvāra vīthi にある Tadārammaṇa vipāka nāmakkhanda などは前々の Pañcadvāra が無ければ現れることはありません。Manodvāra vīthi にある Tadārammaṇa は Manodvārāvajjana が無ければ現れません。Tadārammaṇa は Javana の後から現れることは当然の Dhammatā（法性）です。Javana が無くても Tadārammaṇa は現れません。この Javana も Voṭṭhapana が無ければ現れることはありません。

Pañcaviññāṇa、Sampaṭicchana、Santīraṇa、Tadārammaṇa などの Vipāka nāmadhamma が現れる時は Āvajjana、Voṭṭhapana、Javana などそれぞれ含まれて現れます。それは当然なことです。Vipāka nāma dhamma を修習する時には Paramattha dhamma をすべ修習しなければならないので Āvajjana、Voṭṭhapana、Javana も含めて Vipassanā をする時に修習しても罪にはなりません。

Vipassanā をする時には Ghana という集まりを壊して Paramattha dhamma が観える智慧が得られるまで修習しなければなりません。そのように Ghana を壊して Paramattha dhamma を観る修習がとても重要なことなのです。

6. Phassapaccayā vedanā

Phassa（触）の原因により Vedanā（受）が現れます。

1） Cakkhusamphassajā vedanā.　Cakkhusamphassa が原因で Vedanā が現れます。

2） Sotasamphassajā vedanā.　Sotasamphassa が原因で Vedanā が現れます。

3） Ghānasamphassajā vedanā.　Ghānasamphassa が原因で Vedanā が現れます。

4） Jivhāsamphassajā vedanā.　Jivhāsamphassa が原因で Vedanā が現れます。

5） Kāyasamphassajā vedanā.　Kāyasamphassa が原因で Vedanā が現れます。

6） Manosamphassajā vedanā.　Manosamphassa が原因で Vedanā が現れます。

このように Phassa と Vedanā は 6 種類ずつあります。〔Abhidhamma2-143 に記載〕

Cakkhusamphassajā vedanā は Cakkhusamphassapaccaya vedanā とも言います。

Cakkhuviññāṇa と同時に現れた Cakkhusamphassa を原因として現れた

（1） Pañcadvārāvajjana（五門引転心）

（2） Cakkhuviññāṇa（眼識）
（3） Sampaṭicchana（領受心）
（4） Santīraṇa（推度心）
（5） Voṭṭhapana（確定心）
（6-1） Kāmāvacara kusala javana（欲界善速行心）
（6-2） Kāmāvacara akusala javana（欲界不善速行心）
（6-3） Kāmāvacara kiriya javana（欲界唯作心）
（7） Tadārammaṇa（被所縁）
上記 7 種の Kusala、Akusala、Avyākata（無記）という Vipāka kiriya（異熟唯作）に含まれるすべての Vedanā は Cakkhusamphassajā vedanā + Cakkhusamphassapaccaya vedanā と言います。同じように Sotasamphassajā vedanā + Sotasamphassapaccaya vedanā であると理解してください。このように Abhidhamma Aṭṭhakathā2-16,2-25,Majjimanikāya Aṭṭhakatha1-225,Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-15 など多くの経典の注釈書に書かれています。

Pañcadvārāvajjana と同時に現れた Vedanā は Cakkhusamphassa が原因です。Pañcadvārāvajjana にある Vedanā は先に現れて Pañcadvārāvajjana nāma dhamma が滅した後に Cakkhuviññāṇa と同時に Cakkhusamphassa が現れます。この場合は結果が先に現れて原因が後から現れます。前に Pañcadvārāvajjana に現れた Vedanā を後から現れた Cakkhuviññāṇa に含まれている Cakkhusamphassa が支えています。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā2-36 に記載〕

Nāmarūpapaccaya saḷāyatana の場合は前に現れた Rūpa を後に現れた Nāma が支えていることでした。それが Paccājāta satti の力です。しかし、この Phassapaccaya vedanā は両方とも Nāma です。Nāma の場合は後から現れた Nāma が前に現れている Nāma を支えることはできますが Paccājāta satti にはなりません。理解するための手段としてこのように説明しているのです。

例えば観るための要素の Cakkhupasāda があるからこそ Cakkhusamphassa が現れます。人間では Cakkhsamphassa があるからこそ Rūpārammaṇa を確認する Cakkhudvārāvajjana が現れるのです。もし Cakkhupasāda がなければ接触する Cakkhusamphassa は現れません。Cakkhupasāda という観える要素が無い人であれば Cakkhudvāra vīthi に含まれるすべての心と心所も現れません。Cakkhusamphassa が先に現れて Vedanā が後から現れると言っていますが Pañcadvārāvajjana の Citta の時から Vedanā はすでに現れています。Cakkhusamphassa は後から現れています。Phassa により Cakkhudvāra vīthi にある Vīthi citta が現れる訳ですから Pañcadvāra の場合 Vedanā は先に現れて後から Cakkhusamphassa が現れます。

Cakkhusampphassa の原因で Vedanā が現れるということは Cakkhudvāra vīthi という一つの Vīthi に含まれるすべての Vedanā のことを指していることを理解してください。

Cakkhudvāra vīthi が終わった後に同じ Rūpārammaṇa を対象として Manodvāra vīthi も現れます。その Vīthi に含まれている Vedanā も Cakkhusamphassajā vedanā であると理解してください。このように Cakkhusamphassa の原因でそれぞれの Vedanā が現れることを Nāma 瞑想修習

の表に書いてある通りに自分の智慧で良く観て修習してください。一つ一つの Vīthi の Vedanā をよく観て修習してください。同じように Sotasamphassa の原因で Sotasamphassajā vedanā が現れることも理解してください。

●実践修習

1） Cakkhusamphassa が現れたことにより Cakkhusamphassajā vedanā が現れます。
Cakkhusamphassa が原因で Cakkhusamphassajā vedanā は結果です。

2） Sotasamphassa が現れたことにより Sotasamphassajā vedanā が現れます。
Sotasamphassa が原因で Sotasamphassajā vedanā は結果です。

3） Ghānasamphassa が現れたことにより Ghānasamphassajā vedanā が現れます。
Ghānasamphassa が原因で Ghānasamphassajā vedanā は結果です。

4） Jivhāsamphassa が現れたことにより Jivhāsamphassajā vedanā が現れます。
Jivhāsamphassa が原因で Jivhāsamphassajā vedanā は結果です。

5） Kāyasamphassa が現れたことにより Kāyasamphassajā vedanā が現れます。
Kāyasamphassa が原因で Kāyasamphassajā vedanā は結果です。

6） Manosamphasssa が現れたことにより Manosamphassajā vedanā が現れます。
Manosamphasssa が原因で Manosamphassajā vedanā は結果です。

このように修習してください。

Manosamphassa について Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā3-5 には次のように説明されています。Manodvāra vīthi の前にある Bhavaṅga に含まれる Phassa を Manosamphassa と言います。その Manodvāra vīthi の中にある Manodvārāvajjana、Javana、Tadārammaṇa に含まれる Vedanā を Manosamphassajā vedanā と言います。Bhavaṅga に含まれている Vedanā も Manosamphassajā vedanā と言います。前々の Bhavaṅga manosamphassa の原因で後々の Manosamphassajā vedanā が現れます。さらに Sahajātamanosamphassa の原因で Sahajātamanosamphassajā vedanā が現れることも覚えてください。Manodvāra vīthi の場合は Ārammaṇa 6 種類が適当に対象になることがあるのでよく観て修習してください。Manodvārāvajjana と Bhavaṅga に含まれている Phassa を Manosamphassa という場合もあります。その Manosamphassa が原因で Javana、(Tadārammaṇa)に含まれる Manosamphassajā vedanā も現れます。自分の智慧で良く観て修習してください。

7. **Vedanāpaccayā taṇhā**

Vedanā(受)が現れたことにより Taṇhā(渇愛)が現れます。

Vedanā は 6 種類ありますから Taṇhā も 6 種類あります。

Taṇhā 6 種類は下記の通りです。[Abhidhamma 2-143 記載]

1） Rūpa taṇhā(色愛） 2） Sadda taṇhā(声愛） 3） Gandha taṇhā(香愛)

4） Rasa taṇhā(味愛） 5） Phoṭṭhabba taṇhā(触愛） 6） Dhamma taṇhā(法愛)

これらは Taṇhā の現れることにより Kāma taṇhā(欲愛)、Bhava taṇhā(有愛)、Vibhava taṇhā

（無有愛）として 3 種類ずつあります。

Rūpa taṇhā は Cakkudvāra に現れた Vatthu kāma（物欲）あるいは Rūpārammña を Kāmassāda（愛味欲）という非常に好ましく思う執着が現れてきます。その執着を Kāma taṇhā（欲愛）と言います。

ある時はその Rūpārammaṇa は永遠にある、という Sassata diṭthi（常見）と共に現れます。その Rūpa taṇhā、Rāga（貪欲）は Bhava taṇhā（有愛）と言います。

ある時はその Rūpārammaṇa は死後には滅してしまう、という Ucchedadtiṭṭhi（断見）と共に現れます。その Rūpa taṇhā、Rāga は Vibhava taṇhā（無有愛）と言います。

残りの Sadda taṇhā、Gandha taṇhā、Rasa taṇhā、Phoṭṭhabba taṇhā、Dhamma taṇhā も同じであると覚えてください。〔Abhidhamma Aṭṭhakathā1-170,171,Visuddhimagga2-202 記載〕

生きとし生けるものは Kamma の結果を Patthanā（希求）することにより Kamma を作ってしまいます。

Cakkhudvāra vīthi などそれぞれの Vīthi の中の Pañcaviññāṇa、Sampaṭicchana、santīraṇa、Tadārammaṇa などと同時に現れた Vipāka vedanā などは Lobha mūla cittuppāda（貪根心生起）に含まれている Lobha あるいは Taṇhā を強力な Upanissaya satti（近依効力）で支えています。Āvajjana、Voṭṭhapana、Javana に含まれる Vedanā は通常の Upanissaya satti で支えています。〔Mūlaṭīkā2-120,Anuṭīkā2-132 に記載〕

原因の Vedanā と結果の Taṇhā は一つの Vīthi citta に現れることもあれば別々の Vīthi citta に現れることもあります。Cakkhusamphassajā vedanā という Cakkhudvāra vīthi の中のそれぞれの Cittakkhaṇa に含まれている Vedanā と、同じ Rūpārammaṇa を対象とする Manodvāra vīthi に含まれているそれぞれの Cittakkhaṇa と同時に現れている Vedanā は同じ Ārammaṇa を執着して現れた Rūpa taṇhā の原因の Dhamma です。Sotasamphassajā vedanā なども同じです。原因側では Vipāka vedanā を Padhāna（初因）として主として観るので原因の Vedanā と結果の Taṇhā は通常は Cittakhaṇa 1 つの中では同時ではありません。原因と結果は最低限、1 つあるいは多くの Cittakkhaṇa あるいは多くの Vīthi が間に入り離れています。

<Anāgata vaṭṭakathā（未来輪転論）>

Vaṭṭakathā とは輪廻の輪転についての論です。Yogī が将来 1 つの Bhava（生存）を得ようと思って作ったことを観る修習になります。ですから将来の 1 つの Bhava のために作った時に現れて受けた Vedanā で Anāgata bhavakkhandha の対象に執着している Taṇhā を Padhāna として観てください。

この Taṇhā と後に説明する Upādāna、kamma bhava（取業有）などは涅槃証悟までの間で欲する新しい1つの Bhava のために作っている Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma という原因の Dhammma です。

Yogī は Anāgata bhava（来世）を意識して現世で作った Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、

Kamma などを Padhāna として主として観て修習します。

●実践修習

1） Cakkhusamphassajā vedanā が現れたことにより Rūpa taṇhā が現れます。
Cakkhusamphassajā vedanā が原因で Rūpa taṇhā は結果です。

2） Sotasamphassajā vedanā が現れたことにより Saddā taṇhā が現れます。
Sotasamphassajā vedanā が原因で Saddā taṇhā は結果です。

3） Ghānasamphassajā vedanā が現れたことにより Gandha taṇhā が現れます。
Ghānasamphassajā vedanā が原因で Gandha taṇhā は結果です。

4） Jivhāsamphassajā vedanā が現れたことにより Rasa taṇhā が現れます。
Jivhāsamphassajā vedanā が原因で Rasa taṇhā は結果です。

5） Kāyasamphassajā vedanā が現れたことにより Phoṭṭhabba taṇhā が現れます。
Kāyasamphassajā vedanā が原因で Phoṭṭhabba taṇhā は結果です。

6） Manosamphassajā vedanā が現れたことにより Dhamma taṇhā が現れます。
Manosamphassajā vedanā が原因で Dhamma taṇhā は結果です。

Dhamma taṇhā とは色、声、香、味、触という 5 つの Ārammaṇa を除いた残りの Citta、Cetasika、Rūpa dhamma とすべての Paññatti（概念）を対象として執着している Taṇhā です。

Yogī は Nāma kammaṭṭhāna（ナーマ瞑想修習）の表のとおりに六門すべての一つ一つを修習してください。

< Arahant（阿羅漢）についてのアビダンマの記述 >

Vedanāpaccayā taṇhā（受を原因として渇愛が生起する。）と説かれているがそれはすべての人に当てはまるのか、という質問に対して、Abhidhamma Aṭṭhakathā2-171,Visuddhimagga2-203 には次の様な説明があります。

その生き物に Anusaya taṇhā（煩悩愛）があれば Uppāda（生）、Ṭhiti（住）、Bhaṅga（滅）という荒々しい Pariyuṭṭhāna Taṇhā（纏（煩悩）愛）が現れます。その Anusaya taṇhā を無くすように Ariya magga bhāvanā（聖道修行）を終了した阿羅漢の Rūpa と Nāma の Santati（相続）には Vedanā の原因で Taṇhā が現れることはありません。

Anusaya、Kilesa という煩悩がある普通の人には Taṇhā が現れますが阿羅漢には Anusaya taṇhā は無いので Vedanā の原因で Taṇhā は現れません。ですから Vedanāpaccaya taṇhā は阿羅漢には当てはまりません。

8. Taṇhāpaccayā upādānaṃ

Taṇhā（渇愛）の原因により Upādāna（執着）が現れます。

Upādāna（執着）には以下の 4 種類あります。

1） Kāmupādāna（欲取）： Ārammaṇa 5 種類の Kāma vatthu（欲の事物）に執着する Taṇhā です。執着する Taṇhā は Kāma taṇhā です。前々の Kāma taṇhā が Upanissaya satti（近依効

力）で支えていることにより後々の Kāma taṇhā は強くなり Kāmupādāna になります。

2） Diṭṭhupādāna（見取）： Sīlabbatupādāna（戒禁取）と Attavādupādāna（我語取）を除いた Natthikadiṭṭhi（非有見）、Ahetukadiṭṭhi（無因見）、Akiriyadiṭṭhi（無作見）など Kamma の原因と結果は無いという間違った見解の Micchā diṭṭhi（邪見）を強く思い、話し、執着をしている Diṭṭhi は Diṭṭhupādāna です。

3） Sīlabbatupādāna（戒禁取）： 牛や犬のような動物と同じような生き方をすれば Kilesa（煩悩）が消え心が清らかになり Saṁsāra（輪廻）から逃れられると間違って何度も強く思い、話し、執着している Micchā diṭṭhi は Sīlabbatupādāna です。

4） Attavādupādāna（我語取）： 身体の中には Atta（我）という魂が存在しているという間違った Micchā vāda（邪論）に執着していることを言います。これらの執着の元は Micchā diṭṭhi cetasika（邪見心所）が原因です。Parama atta （最高我）、Jīvātta（霊魂我）がいると執着している Vāda（論）です。Pañcakkhandha（五蘊）あるいはその中の 1 つの蘊に Atta が永遠に存在すると思っていることです。それは Sakkāya diṭṭhi（有身見）あるいは Atta diṭṭhi（我見）でもあります。

Yogī は Anāgata bhava に執着する現世の Kilesa vaṭṭa に含まれる Taṇhā の原因で Upādāna が現れることをよく観て修習してください。

例えば Yogī が来世に天人になりたいと望み Kilesa vaṭṭa、Kamma vaṭṭa を作るとしたら、Kāmataṇhā を原因として天人に執着している Kāmupādāna を自分の智慧で良く観えるように修習するということになります。

●天人になりたいと望んだ場合の実践修習（Kāmupādāna（欲取）を観る）

1） Kāma taṇhā が現れたことにより Kāmupādāna が現れます。

Kāma taṇhā が原因で Kāmupādāna は結果です。

●もう 1 つの実践方法（Attavādupādāna（我語取）を観る）

天人は永遠に存在するという一つの Sakkāya diṭṭhi（有身見）を別の言い方で Lokasamaññā atta（世間的名称我）とも言います。Lokavohāra（世間慣用語）で使われている Atta diṭṭhi です。この天人は永遠に存在するという Sakkāya diṭṭhi あるいは Atta diṭṭhi に執着していることによる Bhava taṇhā が原因で Attavādupādāna（我語取）が現れます。あるいは Diṭṭhupādāna が現れます。

1） Bhava taṇhā が現れたことにより Attavādupādāna が現れます。

Bhava taṇhā が原因で Attavādupādāna は結果です。

あるいは

1） Bhava taṇhā が現れたことにより Diṭṭhupādāna が現れます。

Bhava taṇhā が原因で Diṭṭhupādāna は結果です。

●もう 1 つ別の修習法―天人が得られる Rūpārammaṇa を執着していることを観る実践

以下のように Rūpa taṇhā は Kāma taṇhā、Bhava taṇhā、Vibhava taṇhā という 3 種類あります。

（1） 天に生まれた時に得られる Rūpārammaṇa を好ましいと思い執着している Rūpa taṇhā は

Kāma taṇhā です。

（2） その Rūpārammaṇa は永遠に存在すると思っている Sassata diṭṭhi（常見）と共に現れた Rūpa taṇhā は Bhava taṇhā です。

（3） その Rūpārammaṇa は死後に滅すると思っている Uccheda diṭṭhi（断見）と共に現れた Rūpa taṇhā は Vibhava taṇhā（非有取）です。

Sadda taṇhā、Gandha taṇhā、Rasa taṇhā、Phoṭṭhabba taṇhā、Dhamma taṇhā にも同じように 3 種類の Taṇhā があります。

●実践修習

1） Rūpa（Kāma） taṇhā が現れたことにより Kāmupādāna が現れます。
Rūpa（Kāma） taṇhā が原因で Kāmupādāna は結果です。

2） Rūpa（Bhava） taṇhā が現れたことにより Diṭṭhupādāna が現れます。（Sassata diṭṭhi）
Rūpa（Bhava） taṇhā が原因で Diṭṭhupādāna は結果です。

3） Rūpa（Vibhava） taṇhā が現れたことにより Diṭṭhupādāna が現れます。（Uccheda diṭṭhi）
Rūpa（Vibhava） taṇhā が原因で Diṭṭhupādāna は結果です。

●Atta を基に観る実践修習

Sassata vāda と共に現れた Bhava taṇhā、Uccheda vāda と共に現れた Vibhava taṇhā などは Atta vāda を基として、あるいはその Rūpārammaṇa を Atta と執着している Taṇhā を基として観る実践です。

1） Rūpa（bhava） taṇhā が現れたことにより Atta vādupādāna が現れます。
Rūpa（bhava） taṇhā が原因で Atta vādupādāna は結果です。

2） Rūpa（vibhava） taṇhā が現れたことにより Atta vādupādāna が現れます。
Rūpa（vibhava） taṇhā が原因で Atta vādupādāna は結果です。

Sadda taṇhā、Gandha taṇhā、Rasa taṇhā、Phoṭṭhabba taṇhā、Dhamma taṇhā も同じように修習してください。

もしも Yogī が来世で比丘になりたいと願った場合も天人になりたいと願った方法と同じように修習してください。

Sīlabbatupādāna については、仏陀の教えを正しく信じている Buddha sāvaka（仏陀の弟子）であれば Sīlabbatupādāna になることはありません。

実践は次ページの表 2 を見て心と心所の数を確認して修習してください。

時には Pīti が入らない場合もあり、その時には Javana や Tadārammaṇa の心と心所の数は変わりますから注意してください。Anāgata の修習をしているので Kilesa vaṭṭa group をよく観て修習してください。

表2　Taṇhā（渇愛）と Upādāna（執着）の Vīthi（路）			
	Manodvāravajjana 意門引転心	Javana 7 回 速行心	Tadārammaṇa 2 回 被所縁
Rūpa（Kāma）Taṇhā 色（欲）渇愛	12	20	12/11/34/33
Upādāna 執着	12	20	同上

注意点として Nāmarūpa pariccheda ñāṇa と Paccaya pariggaha ñāṇa を得ている Yogī の場合 Diṭṭhupādāna、Sīlabbatupādāna、Attavādupādāna などにはなかなかなりませんので Kāmupādāna のみ修習すれば十分です。しかし、生きとし生けるものは計り知れないほどの過去世があるので一人の生きものの Rūpa と Nāma の Santati にならない Kilesa、ならない Upādāna などありません。過去世の原因で過去世に結果を得たことを観る修習の場合は Taṇhā の原因で色々な Diṭṭhi が現れます。色々な Upādāna も現れます。過去世を観る場合はそれらも修習してください。

9. Upādānapaccayā bhavo

Upādāna（執着）が現れたことにより Bhava（存在）が現れます。
Bhava には Kamma bhava と Upapatti bhava の 2 種類があります。
Kamma bhava は原因の Dhamma です。Upapatti bhava は結果の Dhamma です。
現世で来世のために作っている Kusala kamma、Akusala kamma を Kamma bhava と言います。
この Kusala kamma、Akusala kamma の原因により Vipāka nāmakkhanda 4 種類と Kammaja rūpa が現れます。それを Upapatti bhava と言います。
この Upapatti bhava を得るために現世で作っている Puññābhisaṅkhāra（福行）、Apuññābhisaṅkhāra（非福行）、Āneñjābhisaṅkhāra（不動行）などそれぞれの Saṅkhāra と Kamma を Kamma bhava と言います。
Avijjā、Taṇhā、Upādāna を原因として現れた結果が Upapatti bhava です。
Kamma bhava として来世のために作っている Kusala cetanā を主として修習してください。ときには Akusala cetanā もあります。Ducarita（悪行）によりそれに執着する Upādāna が現れます。その Upādāna を原因として Akusala kamma を作る場合もあります。その Akusala kamma により来世は Apāya（悪趣）に現れる Upapatti bhava の五蘊が現れることもあるならばそれも観て修習してください。

Abhidhamma Aṭṭhakathā2-242,Visuddhimagga2-240 には次のような説明があります。
Paccaya pariggaha ñāṇa まで修習でき Rūpa と Nāma の原因と結果の繋がりをよく知る Yogī であれば強い信があり仏陀の教えから離れることは決してありません。Kaṅkhā vitaraṇa visuddhi

（度疑清浄）になり根が生えたように仏陀の教えから離れません。仏陀の教えが支えとなり死後は Sugati bhava（善趣有）に生まれ変わります。Cūḷa sotāpanna（小預流者）になっています。Cūḷa sotāpanna になると Anāgata vaṭṭakathā（未来輪転論）で Apāya（悪趣）を修習することは難しいので Kusala saṅkhāra のみを修習すれば十分です。

Paṭiccasamuppāda の修習までできた Yogī の場合は Diṭṭhupādāna（見取）、Sīlabbatupādāna（戒禁取）、Attavādupādāna（我語取）などになることはありません。ですから Kāmupādāna（欲取）の修習をしてください。

< 省略した修習法 >

来世の新しい Bhava のために現世ではたくさんの Kamma を作っています。その中の熱望した 1 つの Kamma を選んで作られた Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma を対象として修習します。例えば、

1） Anāgata（来世）で比丘になりたい、天人になりたいと間違って知ることは Avijjā です。
2） Anāgata（来世）で比丘、天人の生を渇愛していることは Taṇhā です。
3） その Taṇhā でその Bhava を何度も何度も執着している Upādāna は Kāmupādāna です。
4） その Kāmupādāna により作られた Dāna、Sīla、Bhāvanā などは Saṅkhāra です。
5） Kamma は Kamma bhava（Kamma satti）です。

その Kamma bhava で得られる比丘、天人など来世の Bhava の五蘊は Upapatti bhava です。それを Anāgata jāti と言います。

Yogī が禅定を得ている Samatha yānika puggala であれば Paritta jhāna（小禅定）、Majjhima jhāna（中禅定）、Paṇīta jhāna（妙勝禅定）など、修習したそれぞれで得られる梵天の身体を願い作られた Avijjā、Taṇhā、Upādāna（Jhāna）、Saṅkhāra、Kamma などで得られる梵天の Khandha をよく観て修習します。その Yogī にまだ来世があるならば、梵天という Brahmā bhava（梵天有）の Upapatti bhava が観えます。

このように Yogī 一人ひとり Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma はそれぞれ違います。 ですから Yogī は自分の願っていることやその願いで得られた Bhava に心を集中してよく観て修習してください。

●実践修習

1） Kāmupādāna が現れたことにより Kamma bhava が現れます。
　　Kāmupādāna が原因で Kamma bhava は結果です。
2） Kamma bhava が現れたことにより Upapatti bhava が現れます。
　　Kamma bhava が原因で Upapatti bhava は結果です。

このように次のページの表 3 の心と心所の数を参照して修習してください。

表3　Manodvārika javana vīthi（意門速行路）			
	Manodvāravajjana 意門引転心	Javana 7 回 速行心	Tadārammaṇa 2 回 被所縁
1）Kāmupādāna 欲取	12	20	12/34---
2）Kamma bhava(kusala) 業有(善)	12	34	34/12/---
3）Upapatti bhava 起有	その Kamma bhava(業有）で現れた Anāgata khandha（未来の蘊）		

Atīta（過去）、Paccuppanna（現在）、Anāgata（未来）の 3 つの Kāla（期間）において自分の身体にある Rūpa と Nāma の Santati（相続）の Kusala kamma bhava あるいは Akusala kamma bhava のいずれかを観て修習します。例えば Yogī が Jhāna kamma bhava を得ていた場合、Paṭhama jhana kamma bhava の心と心所は 34 個になります。Dutiya Jhāna kamma bhava は 32 個、Tatiya jhana kamma bhava は 31個、Catuttha jhana kamma bhava は 31 個、Arūpa jhana kamma bhava は 31 個になります。

過去に得た Kusala kamma bhava、Akusala kamma bhava、Jhāna kamma bhava などをよく観て修習してください。

10. Bhavapaccayā jāti

Kamma bhava（業有）の原因により Jāti（誕生）が現れます。

Bhavapaccayā jāti という Jāti を現す力のある Kamma bhava のことを言います。Kamma bhava のみが Jāti を現します。Upapatti bhava からは Jāti は現れません。［Abhidhamma Aṭṭhakathā1-178,Visuddhimagga2.210 に記載］

Upapatti bhava とは Jāti の原因ではありません。［Mahāṭīkā2-334 記載］

Jāti とは Anāgata khandha（来世の蘊）の始まりであり Paṭisandhikkhandha（結生蘊）の五蘊のことを言います。

もしも Yogī は Catuttha jhana kamma bhava の原因で Anāgata brahma bhava jāti を得られたことを智慧で観たとしたら、つまり原因と結果の Dhamma を智慧で修習できたなら、その Brahma bhava jāti の五蘊には Ghāna pasāda、Jivha pasāda、Kāya pasāsda という Pasāda rūpa（浄心色）と Bhava rūpa などは含まれていません。Ghāna dasaka kalāpa、Jivha dasaka kalāpa、Kāya dasaka kalāpa、Bhāva dasaka kalāpa などは無いということを

智慧で良く観て修習するように注意してください。

●実践修習

1） Kamma bhava が現れたことにより Jāti が現れます。
Kamma bhava が原因で Jāti は結果です。

Kamma bhava が Jāti の原因であることはどのように知られるのでしょうか？この質問に対しての答えは以下の通りです。

生きとし生けるものは同じ条件の基で生まれても異なった形に生まれます。例えば双子や三つ子などは同じ両親の基で生まれ、同じように育ち顔や容姿はよく似ている場合もあります。しかし実際には一人は聡明でもう一人は愚鈍の場合もあります。あるいは一人は美人、もう一人は不美人、などと違いがあります。そのように異なって生まれるのはなぜかといえば、その生き物が過去世で作った Kamma つまり Kamma bhava により異なって生まれるからです。それ以外の原因はありません。

Kamma（業）についてお釈迦様は Majjimanikāya Mm.3-244 Cūlakamma vibhanga sutta（中部経典、小業分別経）に次のように説示されています。

Kammaṃ satte vibhajati yadidaṃ hīnappaṇītatāyāti.

Kamma（業）が生きものたちを優れたもの、劣ったものなどに分別します。

11. **Jātipaccayā jarāmaraṇaṃ sokaparidevadukkhadomanassupāyasa**

11-1. **Jātipaccayā jarāmaraṇaṃ**

Jāti（誕生）が現れたことにより Jārāmaraṇa（老死）が現れます。

Samuti sacca で観る方法と Paramattha sacca で観る方法の 2 種類があります。

●Samuti sacca

Samuti sacca で観る場合は一世に一度の Paṭisandhi、Jāti の原因で Jarā(老化)、maraṇa（死）になったこと（将来の Jātijāramarana）などを智慧でよく観て修習します。

●Paramattha sacca で観る場合は将来の

1） Rūpa dhamma。

2-1） Āyatana dvāra に現れた Nāma dhamma。

2-2） Vīthimutta という Paṭisandhi、Bhavaṅga、Cuti の Nāma dhamma。

その Rūpa dhamma、Nāma dhamma などの、、、

1） 現れる Uppāda は jāti。

2） Ṭhiti（住）は jāra。

3） Bhaṅga（滅）は Maraṇa。

このように Anāgata bhava に現れた Rūpa と Nāma の Uppāda（生）、Ṭhiti（住）、Bhahaṅga（滅）を智慧で良く観ます。

●実践修習
Jātī が現れたことにより Jārāmaraṇa が現れます。
Jātī が原因で Jārāmaraṇa は結果です。
この場合 Vipāka vaṭṭa を Padhāna として主として観ます。

11-2. Jāti paccayā sokaparidevadukkhadomanassupāyasa

jāti があるので Ñātibyasanena という親族などの不幸に会い悲しみや苦しみが生まれる時に Soka、Parideva、Dukkha、Domanassa、Upāyasa などが現れます。しかし必ず現れる訳ではありません。Kilesa の無くなった阿羅漢には Jāti はありますが Soka などはありません。（ただし Kāyika dukkha という身体の苦しみのみはある場合もあります。）Sokaparidevadukkhadomanassupāyasa という悲しみ苦しみはすべての Jāti がある人の結果として現れる訳ではありません。Jāti の原因でこれらが現れた人のみ修習してください。

●実践修習
1） Jāti が現れたことにより Soka が現れます。
　　Jāti が原因で Soka は結果です。
2） Jāti が現れたことにより Upāyasa が現れます。
　　Jāti が原因で Upāyasa は結果です。
残りの Parideva、Dukkha、Domanassa、も同じように修習してください。
下記の表4を参照して修習してください。

表 4 Soka（愁い）-parideva（悲泣）-domanassa（憂い）-upāyasa（絶望）Manodvārika vīthi			
	Manodvāravajjana 意門引転心	Javana 7 回 速行心	Tadārammaṇa 2 回 被所縁
Soka から Uāyasa 愁いから絶望	12	18(Dosa 瞋恚 group)	11/33/32

Akusala group の心と心所になります。
Javana の時は Dosa group の 18 個の心と心所です。
Dukkha の場合は Ahetuka kusala vipāka、Dukkhasahagata、 kāyaviññāṇa に含まれている Dukkha vedanā ですから Vīthi として Kāya dvārikajavana vīthi になります。
Yonisomanasikāra あるいは Ayonisomanasikāra により Kusala javana か Akusala javana のいずれかになります。
Soka、Parideva、Domanassa、Upāyasa は Dosa group です。
　表には Manodvāra vīthi1 種類のみ書かれていますが、Pañcadvāra vīthi に適当になります。強い Soka の場合は Manodvāra のみになります。Tadārammaṇa に落ちる場

合もあれば落ちない場合もあります。Dosa javana の後にもし Tadārammaṇa に落ちた場合は Upekkhā tadārammaṇa になります。あるいは時 Āgantuka bhavaṅga（客来有分）に落ちる場合もあります。

以上が Paṭiccasamuppāda の第一方法で Paccuppanna（現世）を中心として観る修習方法です。

この方法を例として過去世の1つの Bhava を中心として過去、過去を続けて観ます。来世の 1 つの Bhava を中心として来世、再来世を続けて Bhava 3 つを繋げて原因と結果を観る修習をしてください。

以上で Anuroma paṭiccasamuppāda 第一方法の修習は終わりです。

VIII Paṭiccasamuppāda 第二法、第三法、第四法の修習方法

Paṭiccasamuppāda の修習法は 5 種類あります。

Anuloma paṭiccasamuppāda は以下の 2 種類です。

第一法 Anuloma paṭiccasamuppāda 随順の縁起: Avijjā から Jarāmaraṇaṃ まで。

第二法 Anuloma paṭiccasamuppāda 随順の縁起: 途中から最後まで。

第三法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起: Jarāmaraṇaṃ から Avijjā まで。（Paṭiloma 第一法）

第四法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起: 途中から最初まで、Āhāra 4 種類で観る。（Paṭiloma 第二法）

第五法 Pañcakkhandha（五蘊）で観る（Paṭisambhidāmagga の方法）

ここまで Paṭisambhidāmagga（無礙解道）に書かれている第五法と Abhidhamma vibhaṅga（論蔵分別論）に書かれている第一法を説明してきました。

残りの第二法、第三法、第四法を説明します。

1. 第二法 Anuloma paṭiccasamuppāda 随順の縁起

Majjimanikāya Mm.1-333Mahātaṇhāsaṅkhaya sutta（中部経典大愛尽経）にてお釈迦様は次のように説かれました。

比丘たちよ、子供は成長し諸感官が成熟すると好ましく愛しい Kāmarāga（欲貪）により Cakkhuviññāṇa により識られる色、Sotaviññāṇa により識られる音、Ghānaviññāṇa により識られる香、Jivhāviññāṇa により識られる味、Kāyaviññāṇa により識られる接触のそれぞれ 5 種類の Kāmaguṇa（欲愛）に満ちて喜びます。眼の対象 Rūpārammaṇa を見て好ましく思い執着します。あるいは好ましくない Rūpārammaṇa を見て怒りの心を起こします。その子供には Kāyagatā sati（身至念）は現れず諸々な悪い心が起きてしまいま

す。Akusala dhamma（不善法）が滅する Cetovimutti（心解脱）、Paññāvimutti（慧解脱）を知ることはありません。Rāga（貪）と Dosa（瞋恚）に心を向かわせます。時には喜び、時には苦しみ、時には喜びも無く苦しみも無く 1 つの Vedanā を受けます。その受けた Vedanā を好ましく思い執着します。Vedanā に対する執着を渇愛により喜びます。渇愛によって語り喜びます。そして Nandī raga（喜貪）という渇愛が現れます。この Vedanā に対する Nandī rāga が何度も現れ Upādāna（執着）になります。Upādāna の原因で Bhava（生存）が現れます。Bhava の原因で Jāti（誕生）が現れます。Jāti の原因で Jarāmaraṇaṃsokaparidevadukkhadomanassupāyāsā（老死、悲しみ、嘆き、苦痛、悲嘆、絶望）が現れます。このように Dukkha（苦）の集まりが現れます。

他の Sotadvāra、Ghānadvāra、Jivhādvāra、Kāyadvāra についても同様です。
実践は Saḷāyatana（六つの感覚器官）からでも Vedanā（受）からでも始めることができます。Anuloma 第一法と同じように Jarāmaraṇa までの修習ですから第一法をよく修習していれば容易にできます。

●実践修習

1） Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Bhava（Kamma bhava）、Saṅkhāra は Paccuppanna bhava（現世）にあります。
2） Jāti、Jarāmaraṇa は第一 Anāgata bhava（来世）にあります。
さらに先の来世があるならば、
1） Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Bhava（Kamma bhava）、Saṅkhāra は第一 Anāgata bhava にあります。
2） Jāti、Jarāmaraṇa は第二 Anāgata bhava にあります。

さらにさらに涅槃に至る最後の世までをこのように観て修習してください。
過去世を観る修習の時には、
1） Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Bhava（Kamma bhava）、Saṅkhāra は第一過去世にあります。
2） Jāti、Jarāmaraṇa は現世にあります。

さらに過去世を観ます。
1） Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Bhava（Kamma bhava）、Saṅkhāra は第二過去世にあります。
2） Jāti、Jarāmaraṇa は第一過去世にあります。

さらに過去世をたどります。
1） Saḷāyatana、Phassa、Vedanā、Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Bhava（Kamma bhava）、Saṅkhāra は第三過去世にあります。
2） Jāti、Jarāmaraṇa は第二過去世にあります。

このように 2 つの Bhava を繋げて観て修習する方法です。自分の智慧が届く範囲の過

去世から現世、そして将来の世が終わるまで 2 つの Bhava を繋げて観て修習してください。観る方法は Anuloma paṭiccasamuppāda と同じ方法です。

2. 第三法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起（Paṭiloma 第一法）

縁起の12Aṅga（支）を最後の Jarāmaraṇa から最初の Avijjā まで逆に観て修習します。

●来世、現世、過去世の 3 つの Kāla を繋げて観る修習

1） Jarāmaraṇa、Jāti は来世にあります。

2） Bhava、Upādāna、Taṇhā、Vedanā、Phassa、Saḷāyatana、Nāmarūpa、Viññāṇa は現世にあります。

3） Saṅkhāra、Avijjā は過去世にあります。

●第二来世、第一来世、現世の 3 つの Kāla を繋げて観る修習

1） Jarāmaraṇa、Jāti は第二来世にあります。

2） Bhava、Upādāna、Taṇhā、Vedanā、Phassa、Saḷāyatana、Nāmarūpa、Viññāṇa は第一来世にあります。

3） Saṅkhāra、Avijjā は現世にあります。

涅槃証悟して自分の世が終わるまで 3 つの Kāla を繋げて観て修習します。

●現世、第一過去世、第二過去世の 3 つの Kāla を繋げて観る修習

1） Jarāmaraṇa、Jāti は現世にあります。

2） Bhava、Upādāna、Taṇhā、Vedanā、Phassa、Saḷāyatana、Nāmarūpa、Viññāṇa は第一過去世にあります。

3） Saṅkhāra、Avijjā は第二過去世にあります。

このように逆順に 3 つの Kāla を繋げて観ていきます。第一法、第二法の修習をよく終えた Yogī にはそれほど難しくありません。

●実践修習

Jarāmaraṇa は Jāti が原因で現れたことを観ていきます。

1） Jāti が現れたことにより Jarāmaraṇa が現れます。
Jāti が原因で Jarāmaraṇa は結果です。

2） Kamma bhava が現れたことにより Jāti が現れます。
Kamma bhava が原因で Jāti は結果です。

このように逆順に最後から最初まで戻り観る修習をします。

3. 第四法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda 逆の縁起（Paṭiloma 第二法）途中から最初まで Āhāra 4 種類で観る

Sayuṃuttanikāya Nidānavagga Āhāra sutta では Āhāra 4 種類を中央から Avijjā まで逆順で Paṭiloma paṭiccasamuppāda を説明されています。

Āhāra 4 種類とは下記の 4 種類です。

1) Kabaliṅkāra āhāra（段食）: 一口サイズの食物に含まれている Āhāra です。

2） Phassa āhāra（触食）: 対象を接触する Āhāra です。

3） Manosañcetanā āhāra（意思食）: Citta を動かす Āhāra です。

4） Viññāṇa āhāra（識食）: 特別に識る Āhāra です。

さらに Mūla ṭīkā2-85,Mahā tīkā2-243 では Āhāra を次のように説明しています。

Vipāka vaṭṭa（異熟輪転）である Paṭisandhi（受胎）つまり Pavatti（転起）の時に現れた Āhāra は下記の 4 種類です。

1） Phassa āhāra（触食）: Vipāka viññāṇa に含まれている Phassa です。

2） Manosañcetanā āhāra（意思食）: Vipāka viññāṇa に含まれている Cetanā です。

3） Viññāṇa āhāra（識食）: Vipāka viññāṇa です。

4） Kabaliṅkāra āhāra（段食）: Kamma samuṭṭāna rūpa kalāpa（業等起色聚）に含まれている Kammaja ojā（業食素）です。

この Āhāra 4 種類を Cataro āhāra taṇhā nidānā（この 4 種類の Āhāra などは Taṇhā という原因の始まりです。）そのようにお釈迦様は Desanā（説示）されました。 そのように Vipāka vaṭṭa である Āhāra 4 種類などを直接知らせる意味で Nitattha の方法で話をされましたが、Kilesa vaṭṭa、Kamma vaṭṭa、Vipāka vaṭṭa などの Saṁsāra vaṭṭa の継続するため Upanissaya satti で支えている他の Akammaja āhāra も Taṇhā という原因が無ければ現れません。Taṇhā という原因は Nidāna（序）であるということです。

<Akammaja āhāra（非業生食）= Anupādiṇṇaka āhāra（非己取食）>

Anupādiṇṇaka āhāra つまり Akammaja āhāra について Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-23,24,ṭīkā2.27 には次のように説明されています。

Vipāka vaṭṭa に含まれている上記 Āhāra 4 種類は Upādiṇṇaka āhāra 4 種類です。

Anupādiṇṇaka āhāra つまり Akammaja āhāra 4 種類とは以下の 4 種類です。

1） Kusal citta、Akusala citta、kiriya citta に含まれている Phaasa は Phassa āhāra。

2） Kusala cetanā、Akusala cetanā、Kiriya cetanā に含まれている Manosañcetanā āhāra。

3） Kusala viññāṇa、Akusala viññāṇa、Kiriya viññāṇa に含まれている Viññāṇa āhāra。

4） Cittaja ojā、Utuja ojā、Āhāraja ojā という Kabaliṅkāra āhāra。

これら 4 種類の Āhāra も Saṁsāra vaṭṭa dukkha（輪廻輪転苦）を支えている Āhāra です。これらも Taṇhā という原因が無ければ現れません。Taṇhā という原因があるからこそ Āhāra は現れます。Taṇhā という原因は始まりです。

<Kabaliṅkāra āhāra（段食-一口サイズの食べ物）>

1） Kammaja ojā の原因により現れた Āhāra ojā です。

2） Cittaja ojā の原因により現れた Āhāraja ojā です。
3） Utuja ojā の原因により現れた Āhāraja ojā です。
4） Āhāraja ojā の原因により現れた Āhāra です。

第二巻 Rūpa 瞑想の時に説明しましたが、胃の中に入った Kabaliṅkāra āhāra という一口サイズの口から食べた Āhāra を Utuja ojaṭṭhamaka rūpa kalāpa（時節生食素色八法聚）と言います。その中の Upatthambhaka ojā（支持食素）という要素と Jīvhita navaka kalāpa（命根九法聚）の中の Pācaka tejo（料理火）という消化する要素の支えにより新しい Ojaṭṭhamaka rūpa kalāpa が現れます。すべての Rūpa kalāpa に含まれている Ojā は Āhāraja ojā（食生食素）です。

この Āhāraja ojā から Pācaka tejo の支えにより Kammaja ojā（業生食素）、Cittaja ojā（心生食素）、Utuja ojā（時節生食素）など別の種類の Āhāraja ojā もさらに現れます。Āhāraja rūpa に含まれているすべての Ojā を Āhāraja ojā と言います。すべての Rūpa kalāpa を支えている Āhāra は Kabaliṅkāra āhāra です。

<Āhāra 4 種類の力について>

1） Kabaliṅkāra āhāra は Ojaṭṭhamaka rūpa kalāpa を現す力を持っています。現します。
2） Phassa āhāra は 3 つの Vedanā を現わす力を持っています。現します。
3） Manosañcetanā　āhāra は 3 つの Bhava を現す力を持っています。現します。
Kamma bhava とそこに生まれる Kamma を現わします。
Rūpa bhava、Arūpa bhava に現れる Kamma はそれぞれの Bhava を現す力を持っています。
4） Viññāṇa āhāra は Paṭisandhi nāmarūpa を現す力を持っています。現します。

更なる説明

1） Kabaliṅkāra āhāra は上記の説明通り 8 番目の Ojā である Ojaṭṭhamaka rūpa などを現します。
2） Phassa āhāra は Sukha vedanā になる力のある Phassa が現れたら Phassa āhāra は Sukha vedanā を現します。Dukkha vedanā になる力のある Phassa が現れたらその Phassa āhāra は Dukkha vedanā を現します。Upekkhā vedanā になる力のある Phassa が現れたらその Phassa āhāra は Upekkhā vedanā を現します。
〔Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-24〕
3） Manosaṇcetanā āhāra は Kamma bhava を現す Kamma は Kamma bhava を現します。Rūpa bhava、Arūpa bhava を現す Kamma はそれぞれの関係のある Bhava を現します。そのように manosañcetanā āhāra は 3 つの Bhava を現します。
〔Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-24〕
4） Viṇṇāṇa āhāra は Paṭisandhi の時に同時に現れた sampayutta nāma khandha など、Kammaja rūpa などを Sahajata paccaya satti で現します。

〔Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-24〕
Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-25 ではさらに次のように説明しています。

1） Kabaliṅkāra āhāra:　Catu samuṭṭhhānika ojā は上記の説明通り 8 番目の Ojā である新しい Ojaṭṭhamaka rūpa kalāpa を現すことで Catu samuṭṭhānika rūpa kalāpa を支える Āhāra kicca（食作用）をします。

2） Phassa āhāra:　Ārammaṇa を対象として接触する Kicca（作用）をして対象を接触することで Āhāra kicca（= vedanā）を現します。

3） Manosañcetanā āhāra:　Citta を向かわせて原因と結果が現れるように作用している Āhāra kicca を 3 つの Bhava に現します。

4） Viññāṇa āhāra: Paṭisandhi viññāṇa は Khandha を現す力で Ārammaṇa をはっきり知る Sampayutta dhamma と Kammaja rūpa あるいは Cittaja rūpa などを現す Āhāra kicca をします。

<Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-25 の更に詳細な説明>

1） Kabaliṅkāra āhāra：Ojjatamaka rūpa kalāpa を現すことで Catusamutanika rūpa などを支えていることで Rūpakāya santati を途切れないように支えている原因の Dhamma です。Rūpakāya のもともとの原因は Kamma ですが継続するために Rūpakāya のもともとの原因は Kamma ですがその Rūpa が継続するように Kabaliṅkāra āhāra の力により支えられています。Kabaliṅkāra āhāra の支えにより生きものは 10 年、20 年、30 年あるいは 100 年まで継続して生き続けることができるのです。このように Kabaliṅkāra āhāra は生き物の生を支える力を持っています。

2） Phassa āhāra：Sukha vedanā など Vedanā を現す Vatthu　ārammaṇa を接触することにより Sukha vedanā などの Vedanā を現して生き物たちが生き続けるように支えている原因 Dhamma です。

3） manosañcetanā āhāra：Kusala kamma、Akusala kamma の力で Bhava の Mūla を現すことで生き物たちが生き続けるように支えている原因 Dhamma です。

4） Viññāṇa āhāra: Ārammaṇa をはっきり知りながら Nāmarūpa を現すことにより生き物たちが生き続けるように支えている原因 Dhamma です。

さらに Saṃyuttanikāya ṭīkā2-29 では次のように説明されています。
上記 Aṭṭhakathā には Kabaliṅkāra āhāra は Kammaja rūpa という Upādiṇṇaka rūpa などを Anupāraka satti で、Āhāra samuṭṭhāna rūpa（食等起色）を Janaka satti で支えていると書かれています。

Upādiṇṇaka rūpa=Kammaja rūpa santati を支えていることは同時に現れた Utuja rūpa、Cittaja rūpa santati なども支えることも同時に終わらせることです。ですから Upādiṇṇaka rūpa=Kammaja rūpa と Āhāraja rūpa などの Rūpa santati 2 種類などを Āhāra paccaya

satti で支えていることを書かれています。支えている Upatthambhana の要素のことを Anupāraka satti で支えていると表現しています。

Rūpakāya 全てが生き続ける原因であることと支え得ることを Anupāranā と言います。

<主になる実践>

1） Vipāka vaṭṭa である Āhāra 4 種類

2） Kamma vaṭṭa である Āhāra 4 種類

Āhāra として上記 2 種類があります。

Vipāka vaṭṭa である Āhāra 4 種類の修習は Āhāra sutta aṭṭhakathā（Saṃyutanikāya Aṭṭhakathā2-27）に書かれています。

Kamma vaṭṭa である Āhāra 4 種類の修習は（Saṃyuttanikāya Aṭṭhakathā2-24,Mūla ṭīkā2-86,Mahā tīkā2-245）に書かれています。

Yogī が Vipāka vaṭṭa の Āhāra 4 種類から先に修習したければ下記の Paṭisandhi の時の Vipāka vaṭṭa 4 種類から始めてください。

●Vipāka vaṭṭa āhāra 4 種類から始まる実践

例えば Yogī が Tihetuka somanassa paṭisandhi（三因喜受胎）であれば、その Paṭisandhi の Nāma dhamma は 34 個、Kammaja rūpa は 30 個になります。Āhāra 4 種類は以下の様になります。

1） Kabaliṅkāra āhāra: Kammaja rūpa30 個とそこに含まれる Kammaja ojā。

2） Phassa āhāra： Paṭisandhi viññāṇa と共に現れた Phassa。

3） Manosañcetanā āhāra: Paṭisandhi viññāṇa と共に現れた Cetanā。

4） Viññāṇa āhāra: Paṭisandhi viññāṇa。

以上のように Āhāra4 種類を観て修習します。さらに paṭiccasamuppāda の Kāla（期間）で観る修習をします。

1） Āhāra 4 種類（Vipāka vaṭṭa 4 種類）は Paccuppanna kāla（現世）です。

2） Bhava、Upādāna、Taṇhā、Vedanā、Phassa、Saḷāyatana、Nāmarūpa、Viññāṇa などは Paṭhama atīta kāla（第一過去世）です。

3） Saṅkhāra、Avijjā などは Dutiya atīta kāla（第二過去世）です。

このように過去過去を繋げて観て修習します。来世についても涅槃を証悟する最後の世まで 3 つの Kāla を繋げて観て修習してください。

このように Vipāka vaṭṭa 4 種類を観る修習をしてください。

●Kamma vaṭṭa 4 種類を観る実践

Yogī は Anāgata bhava（来世）のために作っている Kamma vaṭṭa を観ます。例えば、阿羅漢になり悟りを開く比丘になりたいと思い Kusala kamma を作ったとしたらその多くの Kusala kamma の中の一番強い思いで作った Kusala kamma 1 つを選びます。その Kusala kamma に含まれている Āhāra 4 種類を観る修習をします。

1） Kamma を作った時の Hadayavatthu にある 63 種類の Catusamuṭhānika rūpa に含まれている Catusamuṭhānika ojā あるいは身体のすべてにあるそれぞれの Catusamuṭhānika ojā の Kabaliṅkāra āhāra を観ます。
2） その Kusala nāma dhamma に含まれている Phassa は Phassa āhāra です。
3） その Kusala kamma を作っている Cetanā は Manosañcetanā āhāra です。
4） その時の Citta つまり Kusala viññāṇa は Viññāṇa āhāra です。（Kamma viññāṇa とも言います。）

このように 4 種類の Āhāra を修習します。Phassa、Cetanā、Viññāṇa などは Kamma vaṭṭa に含まれる Kamma bhava という Kusala saṅkhāra dhamma（前輪廻法）などです。

1） Kamma bhava という Āhāra 4 種類、Upādāna、Taṇhā、（Avijjā）、Vedanā、Phassa、Saḷāyatana、Nāmarūpa、Viññāṇa（Vipāka viññāṇa）などは Paccuppanna dhamma（現世法）です。
2） Saṅkhāra、Avijjā などは Paṭhama atīta dhamma（第一過去世法）です。

このように Paṭiccasamuppāda に含まれている Aṅga を繋げて観る修習をします。

自分の智慧で観える範囲の過去世、過去世を繋げて観て修習してください。さらに来世も同じように繋げて観る修習をしてください。

また Mūla ṭīkā2-86,Mahā ṭīkā2-244,245 には別の修習法が書かれています。

現世で作った Taṇhā という Avijjā、Taṇhā、Upādāna に囲まれている Kamma により現れる来世の Paṭisandhi の時の Āhāra 4 種類を Āhāra sutta にある Cataro āhāra の通りに観る修習です。もしもその Paṭisandhi が Somanassa であれば Paṭisandhi nāma dhamma は 34 個の心と心所です。

●実践修習（Yogī が来世に悟りを開く比丘になりたいと望んだ場合）
1） Kammaja rūpa に含まれている Kammaja ojā は Kabaliṅkāra āhāra です。
2） Paṭisandhi viññāṇa と共に現れた Phassa は Phassa āhāra です。
3） Paṭisandhi viññāṇa と共に現れた Cetanā は Manosañcetanā āhāra です。
4） Paṭisandhi viññāṇa は Viññāṇa āhāra です。

このように 4 種類の Āhāra で観る修習をします。さらに Kāla で観る修習をします。
1） この Āhāra4 種類は Anāgata kāla（来世）の Dhamma になります。
2） この Anāgata āhāra 4 種類の原因である Taṇhā（Kamma bhava、Upādāna、Taṇhā、Vedanā、Phassa、Saḷāyatana、Nāmarūpa、Viññāṇa）などは Paccupanna kāla（現世）の Dhamma です。
3） Saṅkhāra、Avijjā は Atīta kāla(過去世)の Dhamma です。

この方法は Anāgata kāla、Paccuppanna kāla、Atīta kāla の 3 つの Kāla が含まれています。

このように Anāgata paṭisandhi の Āhāra 4 種類から始めて Atīta kāla の Avijjā までを逆順で原因と結果の繋がる要素を観る修習をします。
以上が第四法の修習の説明です。

IX Paṭiccasamuppāda 縁起の修習 総括

1. なぜお釈迦様は Paṭiccasamuppāda を 4 つの方法で説明されたのでしょうか

Visuddhimagga2-155,Abhidhamma Aṭṭhakathā2-125 には次のように答えがあります。
1） Paṭiccasamuppāda dhamma はすべてにおいて大変優れています。
2） お釈迦様は特別に優れている Sabbaññutā ñāṇa（一切知智）という智慧を備えておられ、Paṭiccasamuppāda desanā を教える言葉をご存じでした。ですから深淵で難解な Paṭiccasamuppāda の修習法を 4 つに分けて説示することができました。

Yogī がこの 4 種類の方法の中の 1 種類でも完璧に修習することができたならば、その Yogī は Ñāya（正理）、あるいは Magga dhamma（道法）を得たことになります。

お釈迦様には Vesārajja ñāṇa（無畏智）と 4 種類の Paṭisambhidā ñāṇa（無碍解智）が備わっておられたからこそ Paṭiccasamuppāda を 4 種類の方法で説明されることができました。深淵で難解な Paṭiccasamuppāda を下記の要領にて説明されました。
1） Dhamma gambhīra（法甚深）： Pāḷi dhamma についての深い法。
2） Attha gambhīra（意味甚深）： Pāḷi dhamma についての深い意味。
3） Desanā gambhīra（説示甚深）： Pāḷi dhamma についてそれぞれ Vohāra（言説）を使い分ける深さ。
4） Paṭivedha gambhīra（通達甚深）： 原因と結果の Dhamma をよく理解している深い智慧。
以上の 4 つの甚深なる智慧を備えた Sabbaññutā ñāṇa であられる Buddha のみが Paṭiccasamuppāda を 4 種類の方法で説明することができるのです。

2. 4 種類の方法の省略した解説

1） 第一法 Anuloma paṭiccasamuppāda desanā paṭhama:
お釈迦様はこの Paṭiccasamuppāda desanā を Avijjā から始めて Jarāmaraṇa まで Anuloma paṭiccasamuppāda の方法で説示されました。
① Anuloma paṭiccasamuppāda により Avijjā という原因の Dhamma と Saṅkhāra という結果の Dhamma の繋がりが何度も現れる Saṁsāra vaṭṭa dukkha（輪廻輪転苦）

という Pavatti dukkha（転起苦）が現れることを知らせたい。

② Kilesa vaṭṭa、Kamma vaṭṭa、Vipāka vaṭṭa という 3 つの Vaṭṭa が継続していることを知らせたい。

〔Visuddhimagga2-155,Abhidhamma Aṭṭhakathā2-125〕

2） 第二法 Anuloma paṭiccasamuppāda desana dutiya:

中央の Vedanā の原因で Taṇhā が現れることから始まり最後の Jarāmaraṇa まで Anuloma paṭiccasamuppāda desanā で説示されました。

この Desanā は Paccupanna kāla（現世）に含まれている Viññāṇa、Nāmarūpa、Saḷāyatana、Phassa、Vedanā dhamma の原因で Avijjā、Taṇhā、Upādāna、Saṅkhāra、Kamma bhava dhamma が始まる Anāgata kāla （来世）に含まれている Dhamma を Sammādiṭṭi の智慧により自分自身で解らない人のために知らせるために説示されました。現世の原因の Dhamma と来世の結果の Dhamma の繋がりを知らせるため、特に Anāgata kāla（来世）をよく理解するための説示です。

〔Visuddhimagga2-156,Abhidhamma Aṭṭhakathā2-125〕

3） 第三法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda desanā paṭhama:

最後の Jarāmaraṇa から始め最初の Avijjā まで逆順で説示された Paṭiloma paṭiccasamuppāda で説示されました。

逆の縁起を観ることより生きとし生けるものは Paṭisandhi から Jarāmaraṇa までを何度も繰り返し苦しんでいることを知らせるため。

お釈迦様は阿羅漢の悟りを得て Buddha になられる前夜に何度も Mahākaruṇā samāpatti（大悲心定）に入られ生きとし生けるものの苦しみをご覧になられました。生きとし生けるものの苦しみを Buddha のみが備える Mahāvajira vipassana ñāṇa（大金剛観智）により確認されました。 菩薩の時から現れた Paṭivedha vipassanā ñāṇa（通達観智）により Jarāmaraṇa というそれぞれの Vaṭṭa dukkha は Jāti という原因であることをよく知らせるため。この Desanā を説示されました。

〔Visuddhimagga2-155,156,Abhidhamma Aṭṭhakathā2-125〕

Mahavajira vipassanā ñāṇa とは Buddha になる前夜に 1 万兆の地球すべてをご覧になり1つ1つの地球にある Avijjā のみを集めて 1 つのグループとし、Saṅkhāra のみを集めて 1 つのグループ、Viññāṇa のみを集めて 1 つのグループなどと Paṭiccasamuppāda の12支すべてについて一種類ずつをグループにまとめてそのすべてを Anicca、Dukkha、Anatta と洞察する Vipassanā の智慧のことです。1万兆の地球において 1 つ 1 つの地球のすべての Paṭiccasamuppāda の 12 支を洞察することができる Buddha のみが備えておられる智慧のことです。生きとし生けるものの Jarāmaraṇa の Jarā dukkha、Maraṇa dukkha という自分の智慧で知ったことを弟子たちにも知って欲しいので逆の縁起の法を説かれました。

お釈迦様の Mahāvajira vipassanā ñāṇa については Majjimanikāya ṭīkā3-275 に記載されています。

4） 第四法 Paṭiloma paṭiccasamuppāda desanā dutiya:
中央にある Āhāra 4 種類から、あるいは Taṇhā から始め Avijjā までの Paṭiloma paṭiccasamuppāda 第二法を Āhāra sutta において説示されました。 過去の Kāla をはっきりと知らせるための説示です。〔Visuddhimagga2-156,Abhidhamma Aṭṭhakathā2-125〕

3. Pa-Auk 大長老からの大事な伝言

最後に Pa-Auk 大長老からの Uyyojana（刺戟）の大事なお話しをお伝えします。これは Visuddhimagga2-156,Abhidhamma Aṭṭhakathā2-125 からの引用になります。

Saṁsāra に囲まれている Paṭiccasamuppāda という原因と結果の繋がりは深淵で難解な法です。この法を知らずに生きているということは真っ暗な暗闇の中をいつ光が見えるか解らずに歩いていることと同じことです。Samādhi という砥石でよく研がれた智慧という包丁でその継続されていることを切り離すことができず、Anubodha ñāṇa、Paṭivedha ñāṇa により自分の智慧でよく知ることができなければ、Saṁsāra vaṭṭa dukkha（輪廻輪転苦）を乗り越えることは夢の中でもできません。

Yogī は他のすべてのことを置いてでも Paṭiccasamuppāda の修習を怠らないようにするべきです。原因と結果の繋がりの Dhamma の深淵で難解な意味を自分の智慧で知るために Yogī は努力を怠らず常に Sati sampajañña（念正知）により何度も何度も修習するべきです。

以上で Paṭiccasamuppāda 縁起の修習の説明を終わります。

Samādhiṃ bhikkhave, bhāvetha. Samādhito, bhikkhave,
bhikkhu yathābhūtaṃ pajānāti.

比丘たちよ、近行定か安止定のどちらか 1 つの定をしっかりと作ってください。しっかりと定を作った比丘はすべてのことをありのままに正しく見分けて知ることができます。（相応部経大篇定経）

Tasmātiha, bhikkhave, yaṃ kiñci rūpaṃ atītānāgatapaccuppannaṃ ajjhattaṃ vā bahiddhā vā oḷārikaṃ vā sukhumaṃ vā hīnaṃ vā paṇītaṃ vā yaṃ dūre santike vā, sabbaṃ rūpaṃ – 'netaṃ mama, nesohamasami, na me so attā'ti evam etaṃ yathābhūtaṃ sammappaññāya daṭṭhabbaṃ.

比丘たちよ、それゆえ、色であるものは何であれ、過去のものでも、未来のものでも、現在のものでも、内のものでも、外のものでも、粗いものでも、細かいものでも、劣ったものでも、優れたものでも、遠いものでも、近いものでも、そのすべての色を『これは私のものではない、これは私ではない、これは私の我ではない』とこのようにあるがままに正しい智慧によって観るべきである。
（相応部経典蘊遍無我相経）

Sabbadānaṃ dhammadānaṃ jināti.
Sabbarasaṃ dhammāraso jināti.
Sabbaratiṃ dhammārati jināti.
Taṇhākkhayo sabbadukkaṃ jināti.

法施はすべての布施に勝ります。
法味はすべての味に勝ります。
法喜楽はすべての喜楽に勝ります。
渇愛滅尽はすべての苦に打ち勝ちます。

11 か所にある Rūpakkhanda,Nāmakkhanda4 種類の五蘊すべてを Vipassanā するために Samādhi の力が必要です。（スマナ）

編集あとがき

「涅槃へと導く道」第一巻の修行の概要と主な Samatha 瞑想、第二巻の Rūpa 瞑想と Nāma 瞑想に続いて第三巻の Paṭiccasamuppāda 縁起の瞑想を出版いたします。

「アーナンダよ、縁起は深遠であり、深遠に見えるものです。」このようにお釈迦様が Ānanda 大長老におっしゃったように縁起の法は深くて難解な法です。このお釈迦様の深い教えを現代に生きる私たちに正確に伝えてくださっているのが最も尊敬する Pa-Auk 大長老です。頭をかかえるほど難しい教え故にスマナ比丘に何度も何度も繰り返し確認して日本の皆様に間違ってお伝えしないように細心の注意を払って書き上げました。しかし編集者としての未熟さによる間違いがあるかもしれません。どうぞご容赦ください。

ローマ字でパーリ語を多く記載しているので読みにくい点もあるかと思いますがお釈迦様の生きた言葉であるパーリ語を身近に感じていただければと思いローマ字表記にしています。パーリ語の綴りはミャンマー綴りを教えて頂いたものもあり、日本のパーリ辞書とは若干違う綴りのものも含まれておりますことをご了承ください。

出版およびスマナ比丘への四資具として下記の方々からお布施がありました。

葛尾智様より 1 万円、星澤康孝様より 3 万円、長谷川明弘様より 1 万円、武田英敬様より 1 千円、上田霊宣様より 2 万円、藤田和彦様より 2 千円、藤倉健雄様より 3 千円、枝澤正仁様より 3 千円、和合谷登志雄様より 5 千円、本橋伸二様より 8 千円、榧本まゆみ様より 1 万円、S.O 様より 1 万円、S.T 様より 1 千 3 百円、工藤圭史様より 5 千円、長田明桂様より4万円、篠田功一様より 5 千円、浅井一芳様より 1 万円、匿名希望 6 名様より 12 万 3 千円。

このお布施の功徳が大きな波羅蜜となりますように。

出版配布等のご協力をいただいておりますはらみつ法友会の岩倉裕範様、伴久仁彦様、常日頃から心の支えになってくださっている法友の皆様、そしてたくさんの時間を割いて教えてくださっているスマナ比丘に感謝申し上げます。

皆様の願いが叶いますように、皆様が健康で幸せでありますようにご祈念いたします。

どうぞ皆様も涅槃への道を外れることなく歩まれますように！

Buddhasāsanaṃ ciraṃ tiṭṭhatu!

Sādhu! Sādhu! Sādhu!

涅槃へと導く道編集会

発行者　北川美幸

miyukikitagawa117@gmail.com

2023 年 4 月 21 日

この本は無償にて配布いたします